

佐倉市健康増進計画

「健康さくら21」

市民健康意識調査報告書

平成24年3月

佐 倉 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査対象	3
3. 調査時期	3
4. 調査方法	3
5. 回収結果	4
6. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 調査結果の詳細	5
I 一般市民調査結果	7
1. 基本属性	7
2. 健康についての考え方	10
3. 栄養・食生活	19
4. 身体活動・運動	27
5. 休養・こころの健康づくり	35
6. たばこ	44
7. アルコール	49
8. 歯の健康	54
9. 生活習慣病	57
10. 子育て	68
11. あなたの健康	75
12. 生きがいづくり、まちづくり	79
I I 妊娠・出産・育児調査結果	87
1. 基本属性	87
2. 家族、地域とのかかわり	88
3. 第1子を妊娠したときの状況	91
4. 第1子を出産したときの状況	107
5. 第1子の育児	114
6. すべての子の育児	118
7. すべての子の健康管理	130
I I I 幼児・小学生調査結果	135
1. 基本属性	135
2. 健康についての考え方	138
3. 栄養・食生活	140
4. 身体活動・運動	148
5. 休養・こころの健康づくり	150
6. たばこ	153
7. アルコール	155

8. 歯の健康	158
9. 子育て	159
10. 生きがいづくり、まちづくり	177
I V 中・高校生調査結果	181
1. 基本属性	181
2. 健康についての考え方	184
3. 栄養・食生活	187
4. 身体活動・運動	195
5. 休養・こころの健康づくり	197
6. たばこ	206
7. アルコール	208
8. 歯の健康	209
9. 薬物や性、子育て	210
10. 人づきあいなど	222

第 1 章 調査の概要

1. 調査の目的

国の「健康日本21」「健やか親子21」を背景として、佐倉市では、市民一人ひとりが健康で、生涯現役でこころ豊かに生活できる「健康なまち」をめざし、その達成に向けて地域の諸特性・資源に立脚した特色ある健康づくり事業を体系的、継続的に推進していくための指針となる「佐倉市健康増進計画『健康さくら21』」を平成16年3月に策定し、また、平成21年1月に計画の見直しを行っている。

そして、「健康さくら21」の計画目標年度は平成24年度までとしていることから、この度、次期計画の策定に向け、平成23年度において「市民健康意識調査」を実施した。

調査は、健康水準の適切な評価を行うために市民の基本的な生活習慣や健康状態、健康意識をベースラインとして把握する必要があることから、①一般市民調査、②幼児・小学生調査、③中・高校生調査、④妊娠・出産・育児調査の4分類とし、その結果を基礎に現行計画の達成状況の評価を行う。

2. 調査対象

分 類	対象者の選定方法及び人数
一 般 市 民 調 査	住民基本台帳から無作為抽出による19歳以上の市内在住者1,985人
幼児・小学生調査	幼 児：1歳6か月児健診、2歳幼児歯科健診、3歳児健診対象の保護者400人 小学生：市内の3つの小学校に通学する2,4,6年生の保護者372人（クラス単位）
中・高校生調査	中学生：市内の3つの中学校に通学する2年生350人（クラス単位） 高校生：市内の2つの高校に通学する1,2年生439人（クラス単位）
妊娠・出産・育児	乳児相談、もぐもぐ教室、1歳6か月児健診、3歳児健診対象の保護者745人

3. 調査時期

平成24年2月

4. 調査方法

- ① 一 般 市 民 調 査・・・郵送配布・郵送回収
- ② 幼児・小学生調査・・・幼児：郵送配布・郵送回収、小学生：学校経由で配布・回収
- ③ 中・高校生調査・・・学校経由で配布・回収
- ④ 妊娠・出産・育児・・・郵送配布・郵送回収

5. 回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
一般市民調査	1,985	1,101	55.5%
幼児・小学生調査	772	601	77.8%
中・高校生調査	789	762	96.6%
妊娠・出産・育児	745	507	68.1%
合 計	4,291	2,971	69.2%

6. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果の詳細

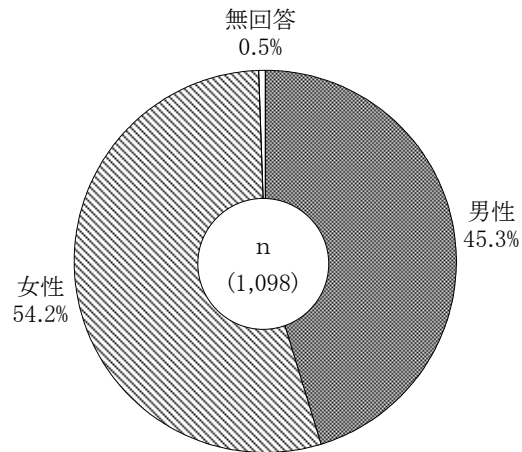
I 一般市民調査結果

1. 基本属性

(1) 性別

F 1 あなたの性別は。(○は1つだけ)

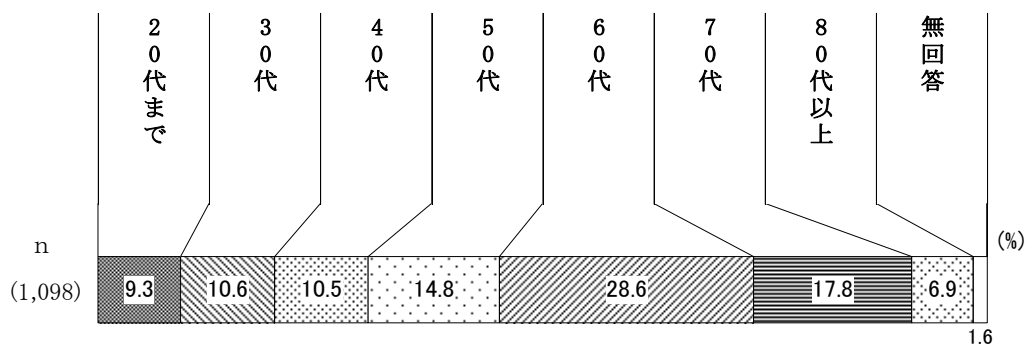
〈 性別 〉



(2) 年齢

F 2 あなたの年齢は。(○は1つだけ)

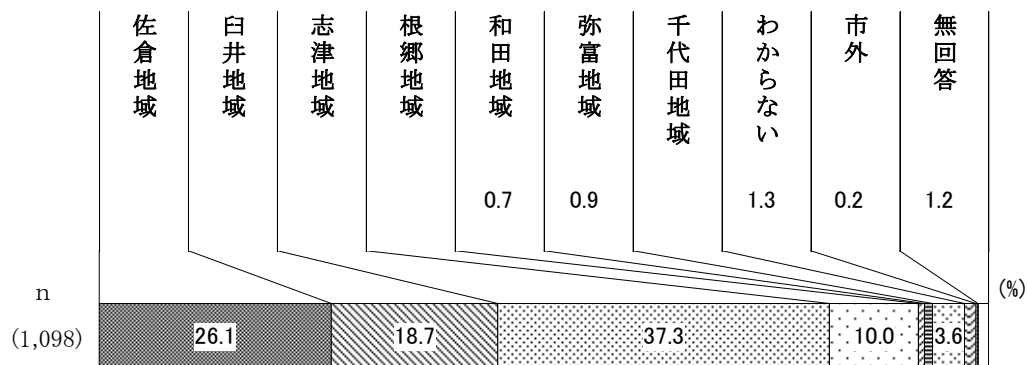
〈 年齢 〉



(3) 居住地

F3 お住まいの居住地は。(〇は1つだけ)

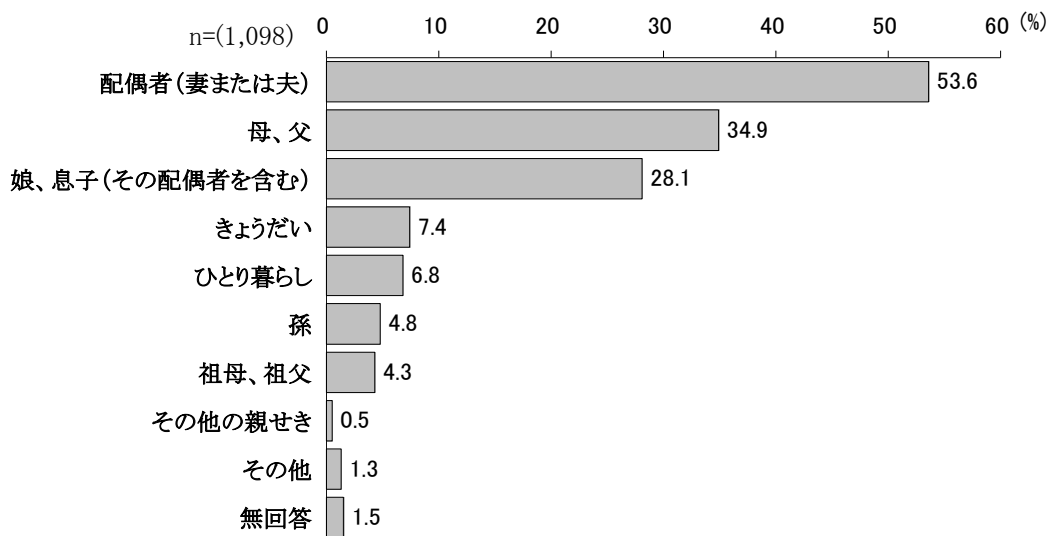
〈居住地〉



(4) 同居者

F4 あなたは現在、誰と暮らしていますか。(〇はいくつでも)

〈年齢／同居者〉

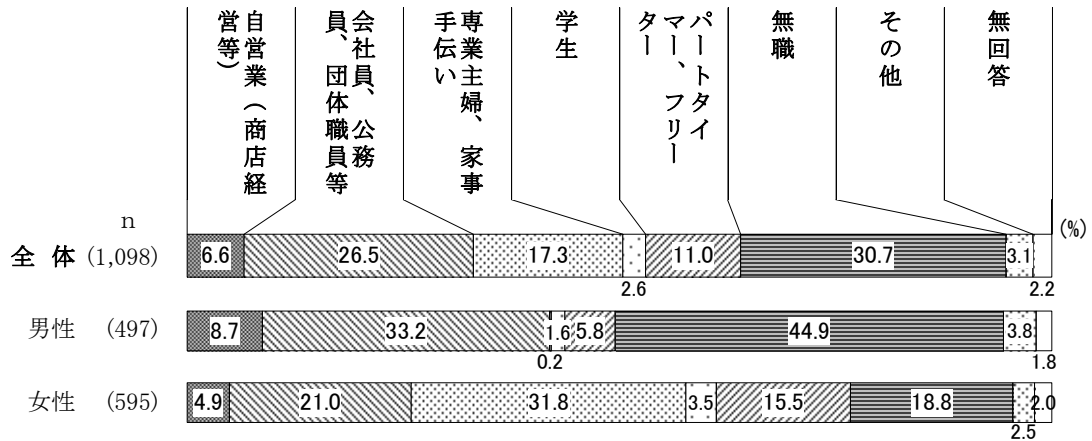


	ひとり暮らし	配偶者(妻または夫)	娘、息子(その配偶者を含む)	母、父	祖母、祖父	きょうだい	孫	その他の親せき	その他	無回答
全 体 (n=1,098)	6.8	53.6	28.1	34.9	4.3	7.4	4.8	0.5	1.3	1.5
20代まで・30代 (n=218)	3.2	8.3	6.4	89.4	15.1	25.7	0.5	1.4	3.2	0.9
40代・50代 (n=277)	3.2	48.0	35.7	58.8	3.2	6.9	2.5	0.4	1.1	0.7
60代・70代以上 (n=585)	9.6	73.7	32.8	3.2	0.9	0.9	7.5	0.2	0.7	1.4

(5) 職業

F 5 あなたの職業は。(〇は1つだけ)

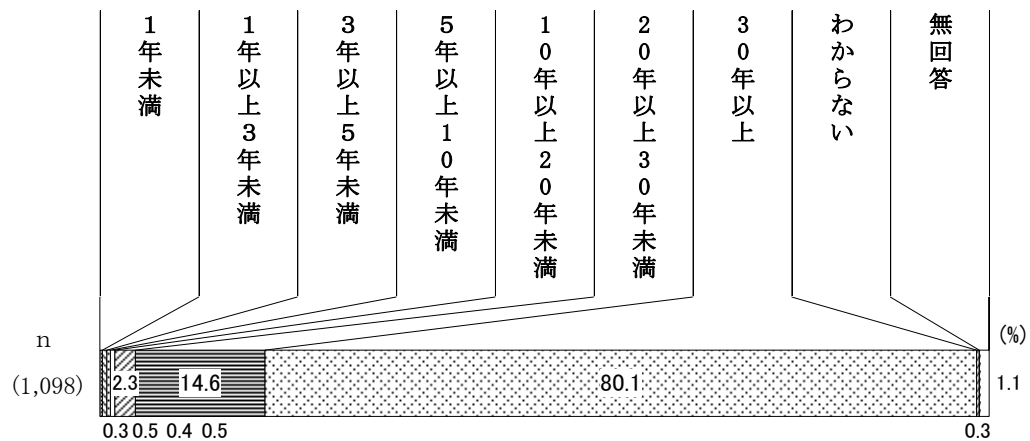
〈性別／職業〉



(6) 居住年数

F 6 あなたは、佐倉市に住んで何年になりますか。(〇は1つだけ)

〈居住年数〉



2. 健康についての考え方

(1) 主観的健康感・充実度

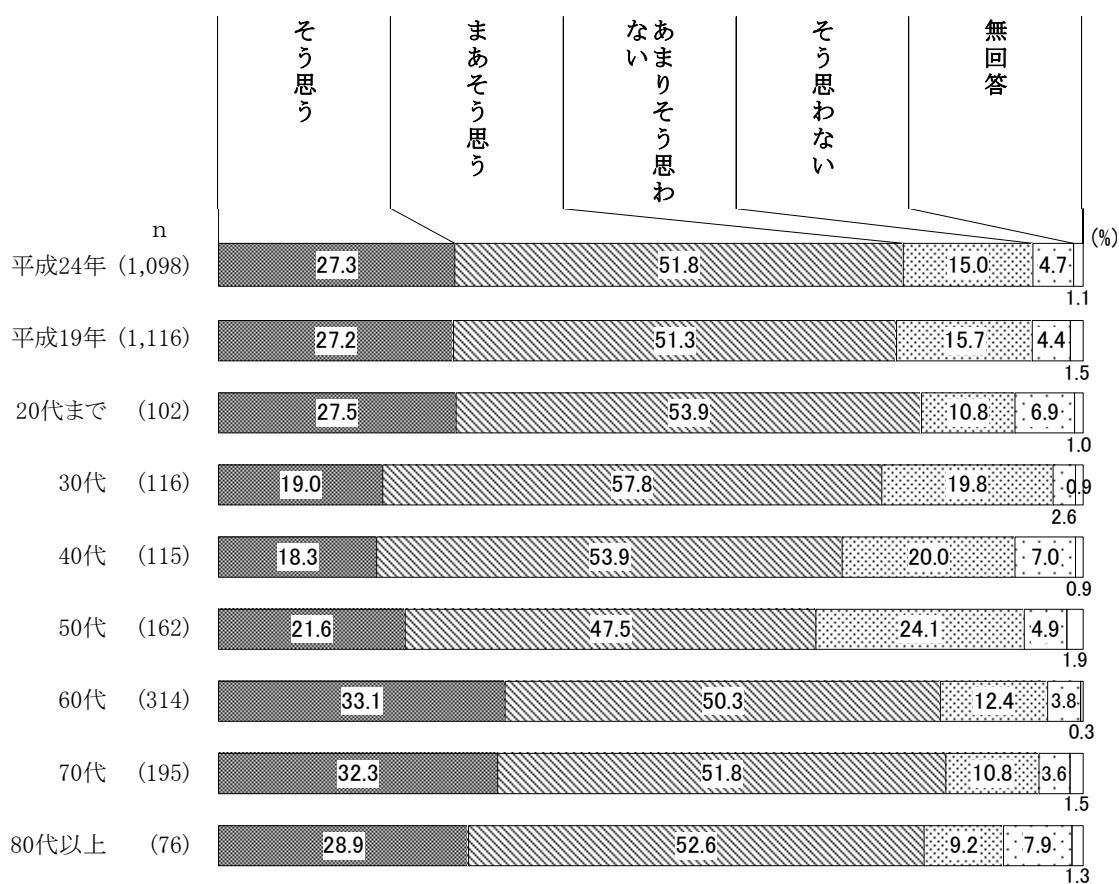
問1 あなたは、毎日を健やかに充実して暮らせていると思いますか。(〇は1つだけ)

毎日を健やかに充実して暮らせているかどうかについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた《思う》は79.1%を占めている。

平成19年の調査結果と比較すると、《思う》は、今回79.1%と、前回の78.5%とほぼ同様となっている。

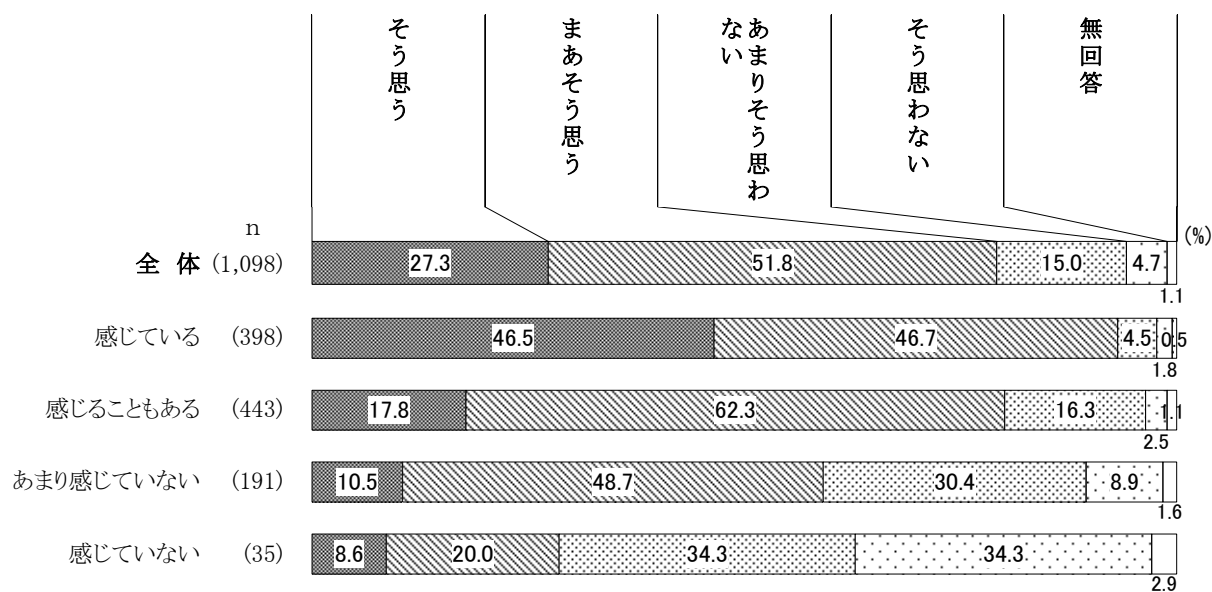
年齢別でみると、「そう思う」は50代までは3割以下に留まっているのに対して、60代以上では3割前後となっている。

〈 前回、年齢／毎日を健やかに充実して暮らせているか 〉



生きがいを感じているかどうか別でみると、「生きがい」を感じている人ほど、毎日を健やかに充実して暮らせている人が多くなっている。

〈 生きがいについて／毎日を健やかに充実して暮らせているか 〉



(2) 健康への関心

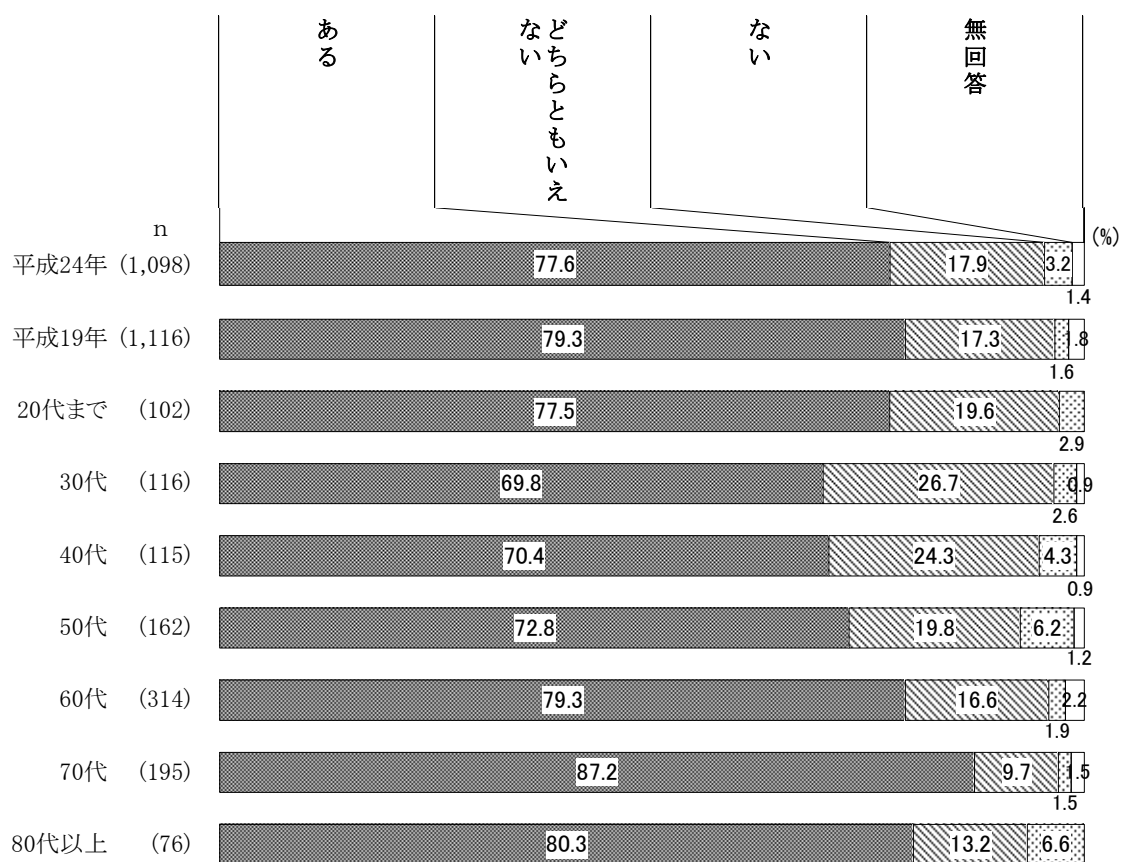
問2 自分の健康に関心がありますか。(〇は1つだけ)

健康に関心が「ある」という人は77.6%を占めている。

平成19年の調査結果と比較すると、「ある」は今回77.6%と、前回の79.3%とほぼ同様の結果となっている。

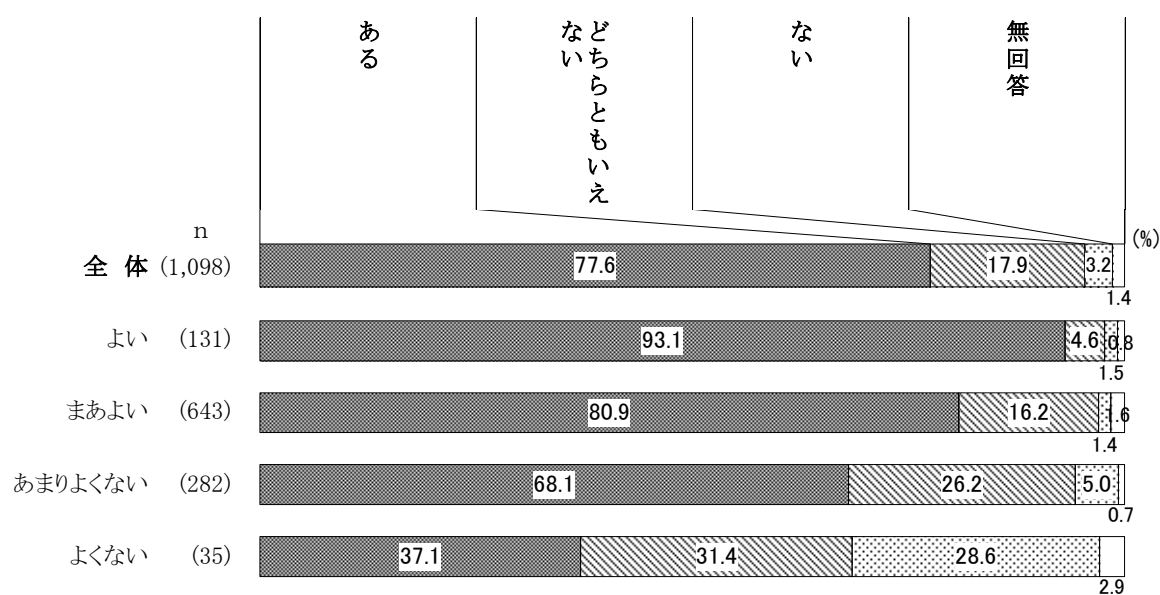
年齢別でみると、「ある」は70代では87.2%と高くなっている。また、30代、40代では「どちらともいえない」が2割台半ばとなっている。

〈 前回、年齢／自分の健康に関心があるか 〉



生活習慣の認識度別でみると、ふだんの「生活習慣」が「よい」と感じている人ほど自分の健康に関心が「ある」人が多くなっている。

〈 自分のふだんの生活習慣についての認識／自分の健康に関心があるか 〉



(3) 健康のとらえ方

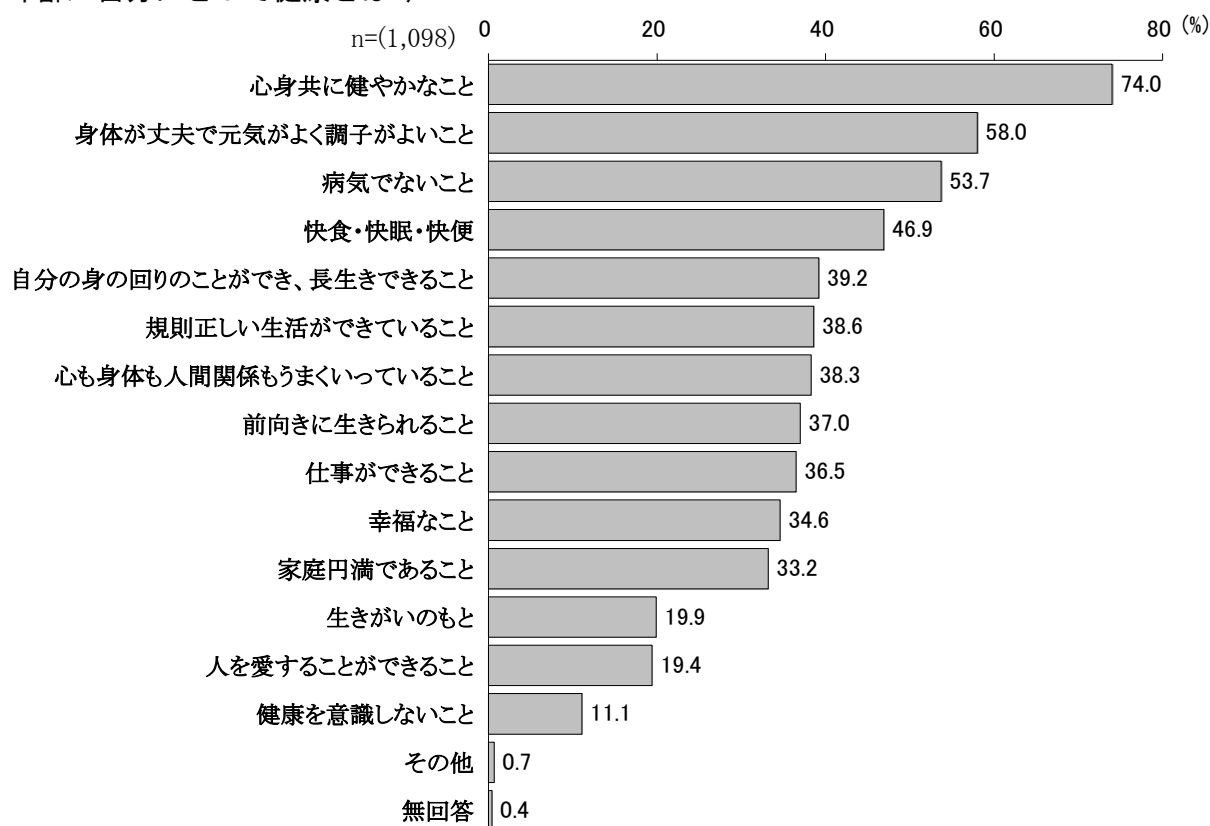
問3 あなたは「健康とはなんですか」と聞かれたらどのように答えますか。あなたのお考えに合うものをいくつでも結構ですから選んで、その番号に○をつけてください。

(○はいくつでも)

健康感については、「心身共に健やかなこと」が74.0%で最も高く、以下「身体が丈夫で元気がよく調子がよいこと」(58.0%)、「病気でないこと」(53.7%)、「快食・快眠・快便」(46.9%)、「自分の身の回りのことができ、長生きできること」(39.2%)の順で続いている。

年齢別でみると、80代以上を除く各年代では「心身共に健やかなこと」が7割を超えている。また、20代まで、30代では「身体が丈夫で元気がよく調子がよいこと」が7割前後と、他の年代より高くなっている。80代以上では「自分の身の回りのことができ、長生きできること」が59.2%と6割近くを占めている。

〈年齢／自分にとって健康とは〉

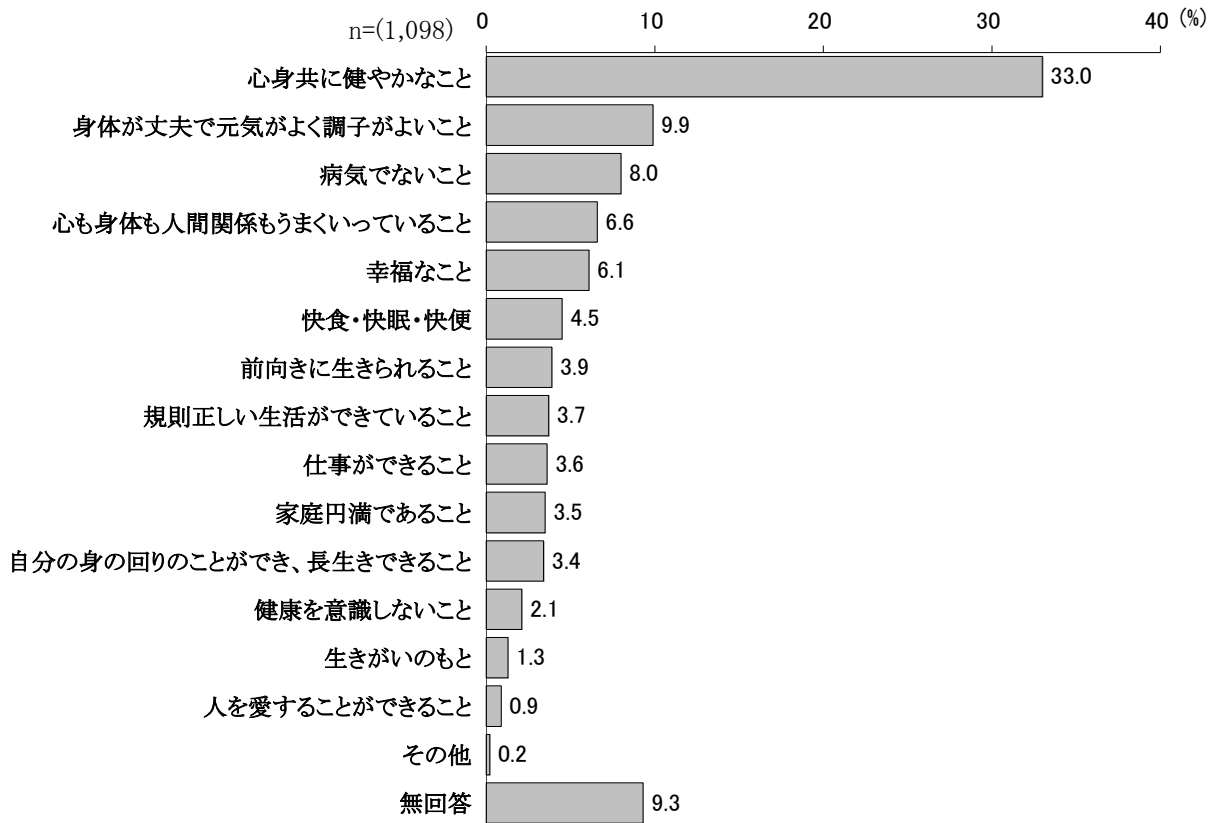


	幸福なこと	心身共に健やかなこと	仕事ができること	生きがいのもと	健康を意識しないこと	病気でないこと	快食・快眠・快便	家庭円満であること	調子がよいこと	身体が丈夫で元気がよく調子がよいこと	心も身体も人間関係もうまくいっていること	規則正しい生活ができていないこと	自分の身の回りのことができ、長生きできること	前向きに生きられること	人を愛することができること	その他	無回答
全 体 (n=1,098)	34.6	74.0	36.5	19.9	11.1	53.7	46.9	33.2	58.0	38.3	38.6	39.2	37.0	19.4	0.7	0.4	
20代まで (n=102)	32.4	81.4	31.4	14.7	9.8	67.6	54.9	15.7	73.5	39.2	44.1	32.4	37.3	14.7	-	-	
30代 (n=116)	28.4	78.4	37.1	15.5	8.6	70.7	46.6	15.5	68.1	31.9	34.5	34.5	29.3	11.2	1.7	-	
40代 (n=115)	32.2	72.2	47.0	11.3	11.3	51.3	43.5	17.4	60.0	37.4	24.3	23.5	30.4	13.0	-	-	
50代 (n=162)	29.6	74.1	35.2	14.8	12.3	48.1	37.0	29.6	61.1	37.0	31.5	35.8	30.9	17.3	1.2	0.6	
60代 (n=314)	37.9	73.9	39.5	23.6	12.7	55.7	46.8	39.2	52.9	38.5	38.2	40.8	41.1	19.7	0.6	0.3	
70代 (n=195)	40.5	72.3	31.8	28.2	11.3	48.2	55.4	51.8	51.8	45.1	50.3	47.7	46.7	29.2	1.0	-	
80代以上 (n=76)	32.9	63.2	34.2	25.0	7.9	36.8	46.1	44.7	52.6	34.2	47.4	59.2	31.6	27.6	-	2.6	

付問3－1 問3で選んだ中からあなたの考えに最も合うものを1つだけ選び、その番号をご記入ください。

最も重視する健康感としては、「心身共に健やかなこと」が33.0%で最も高く、次いで「身体が丈夫で元気がよく調子がよいこと」(9.9%)となっている。

〈 自分にとっての健康とは（最もあてはまるもの） 〉

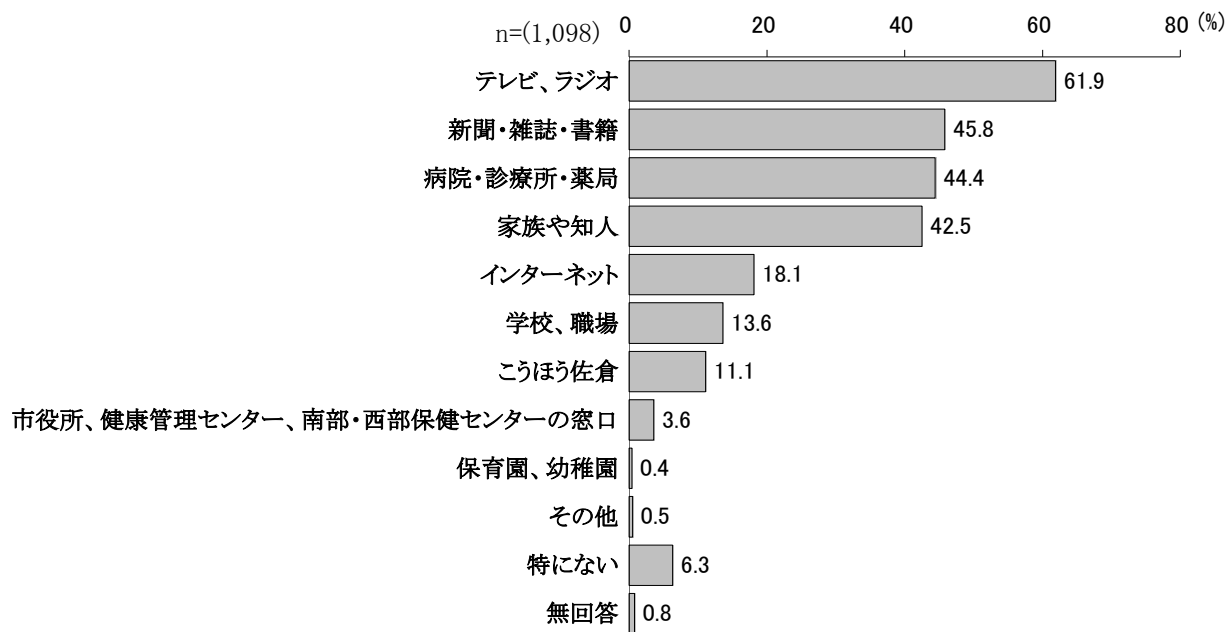


(4) 健康に関する情報源・相談先

問4 ふだん、どこ（だれ）に、健康に関する情報を聞いたり、相談をしたりしていますか。
(○はいくつでも)

健康に関する情報源・相談先としては、「テレビ・ラジオ」が61.9%で最も高く、以下「新聞・雑誌・書籍」(45.8%)、「病院・診療所・薬局」(44.4%)、「家族や知人」(42.5%)の順となっている。

〈健康に関する情報源・相談先〉



(5) 自分のふだんの生活習慣についての認識

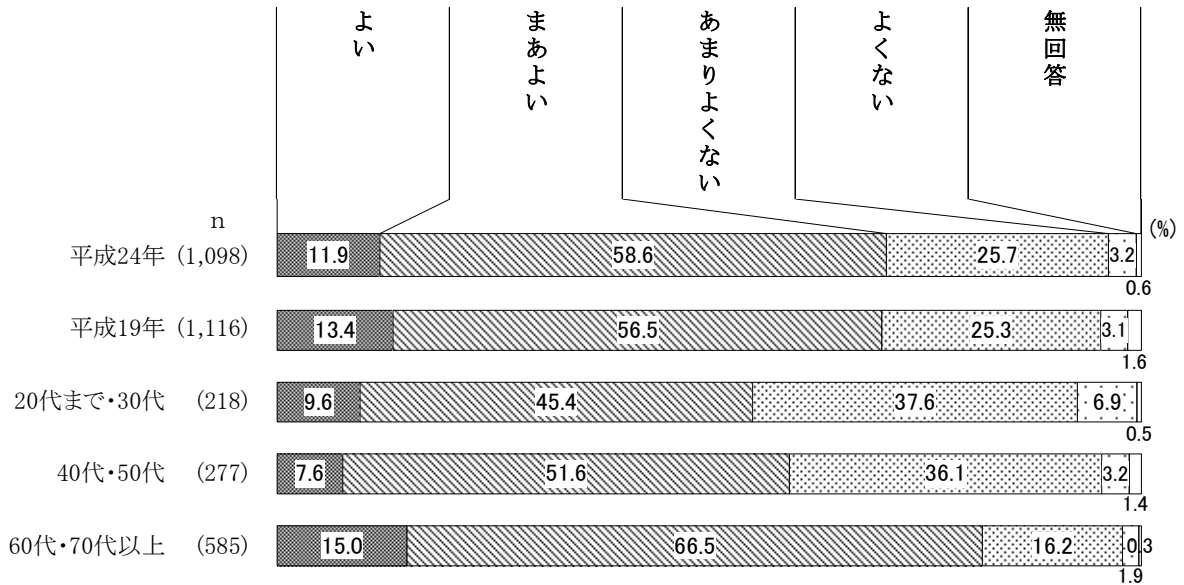
問5 自分のふだんの生活習慣についてどう思いますか。(○は1つだけ)

生活習慣について、「よい」と「まあよい」を合わせた《よいと思う》は70.5%となっている。

平成19年の調査結果と比較すると、前回の69.9%とはほぼ同様となっている。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて、《よいと思う》は上昇し、60代・70代以上では81.5%となっている。

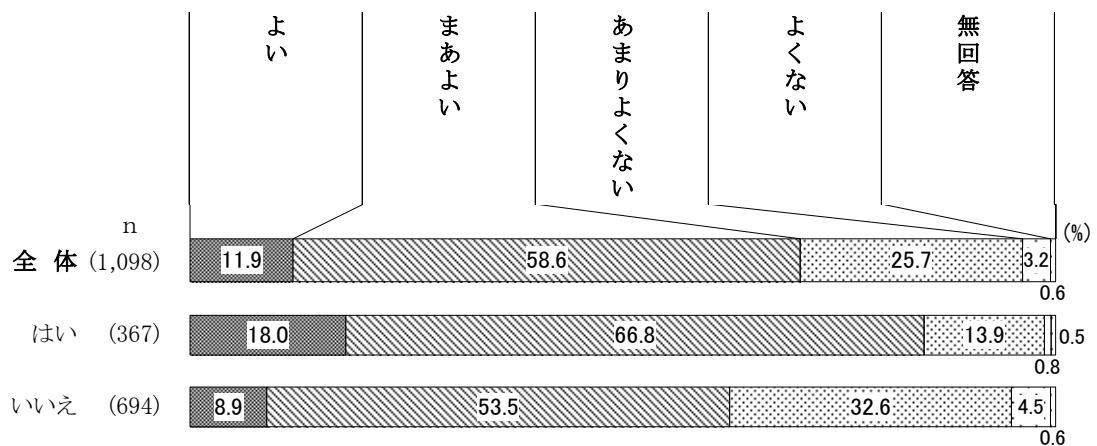
〈 前回、年齢／自分のふだんの生活習慣についての認識 〉



運動習慣との関連

週2回・30分以上息が少しはずむ程度の運動をしている人は、生活習慣が《よいと思う》という人が多くなっている。

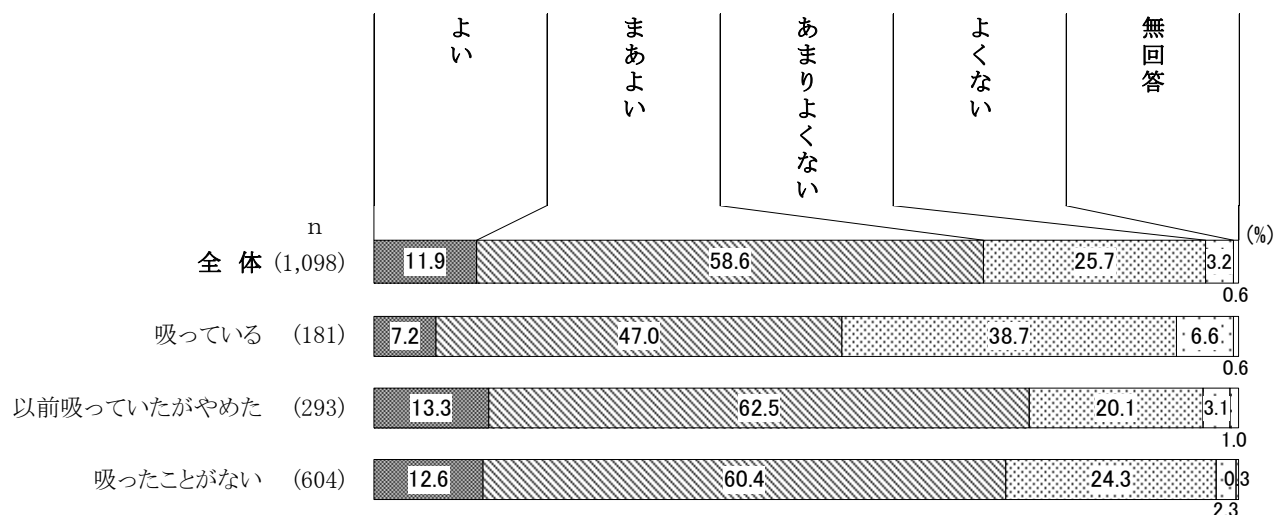
〈 息が少しはずむ程度の運動／自分のふだんの生活習慣についての認識 〉



喫煙習慣との関連

喫煙習慣の有無別でみると、「以前吸っていたがやめた」「吸ったことがない」人では、自分の生活習慣を「よい」という人が、現在、「吸っている」人よりも多くなる傾向がある。タバコを吸っている人では「あまりよくない」と「よくない」を合わせて45.3%となっている。

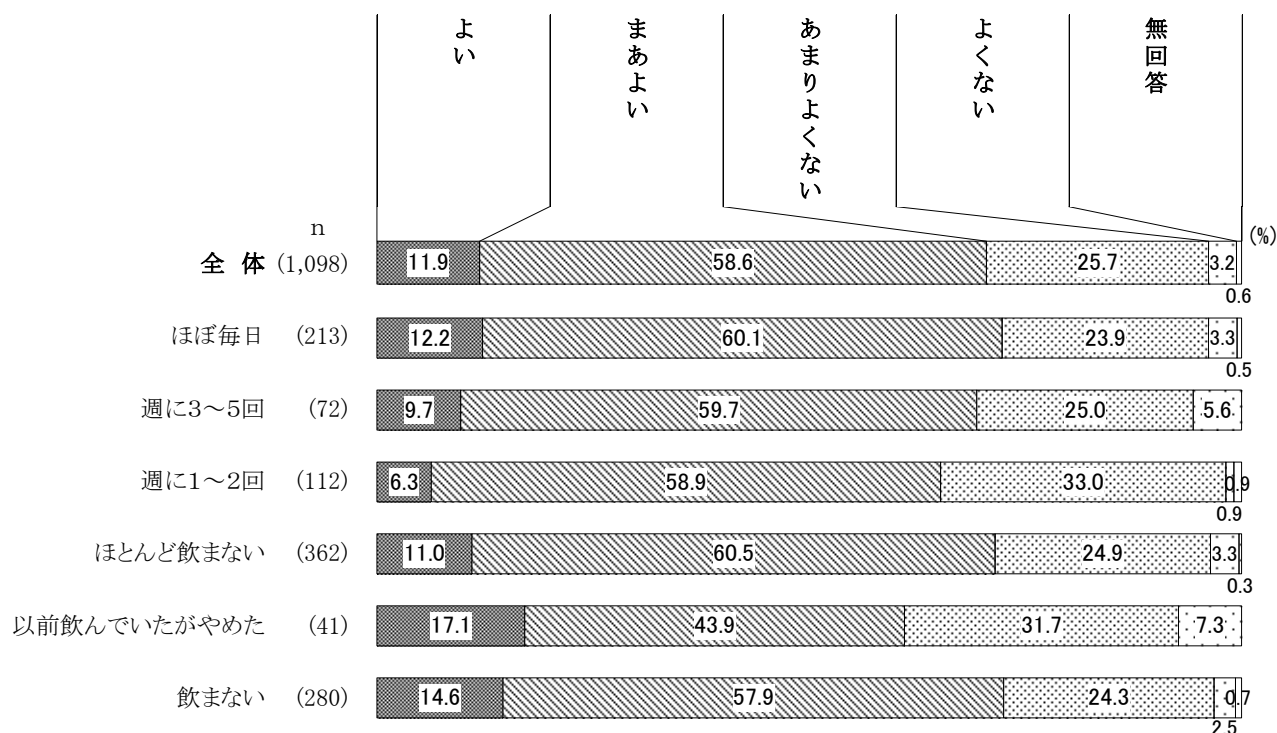
〈 喫煙状況／自分のふだんの生活習慣についての認識 〉



飲酒習慣との関連

飲酒習慣別でみると、「ほぼ毎日」飲酒する人では、生活習慣が「あまりよくない」、「よくない」と思っている人が合わせて27.2%となっている。

〈 飲酒頻度／自分のふだんの生活習慣についての認識 〉



3. 栄養・食生活

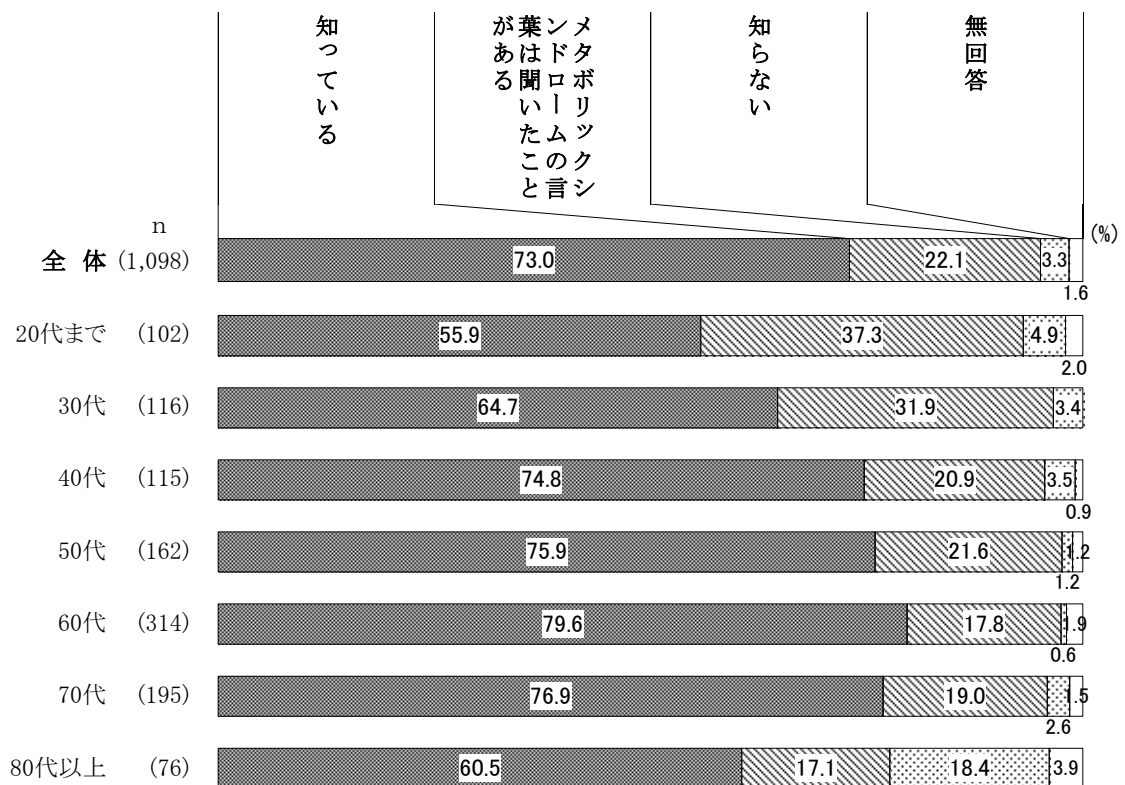
(1) メタボリックシンドローム

問6 メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪型肥満に高血圧・脂質異常・高血糖といった危険因子が加わった状態をいいます。このことを知っていましたか？

メタボリックシンドロームについて、「知っている」は73.0%を占めている。また、「メタボリックシンドロームの言葉は聞いたことがある」は22.1%となっている。

年齢別でみると、40代から70代では「知っている」が7割を超えている。

〈 年齢／メタボリックシンドローム 〉

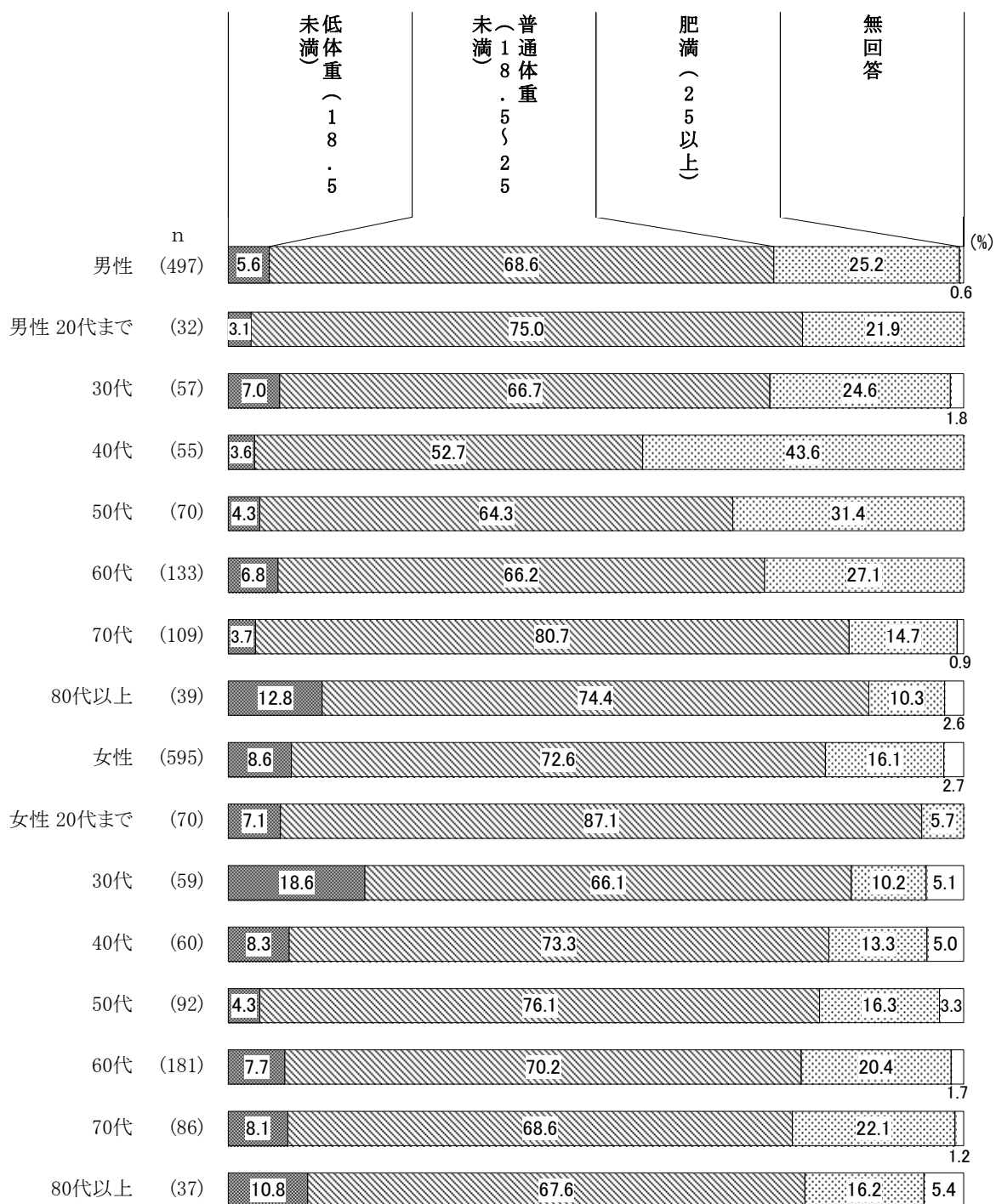


(2) BMI (身長、体重)

問7 あなたのおおよその身長、体重を整数で教えてください。(小数点以下は四捨五入してください)

数値で記入された身体・体重から、BMIを算出した。性・年齢別でみると、男性では、40代で「肥満」が43.6%と他の年代より高くなっている。女性では、30代で「低体重」が18.6%と高くなっている。

〈性別、性・年齢／BMI〉



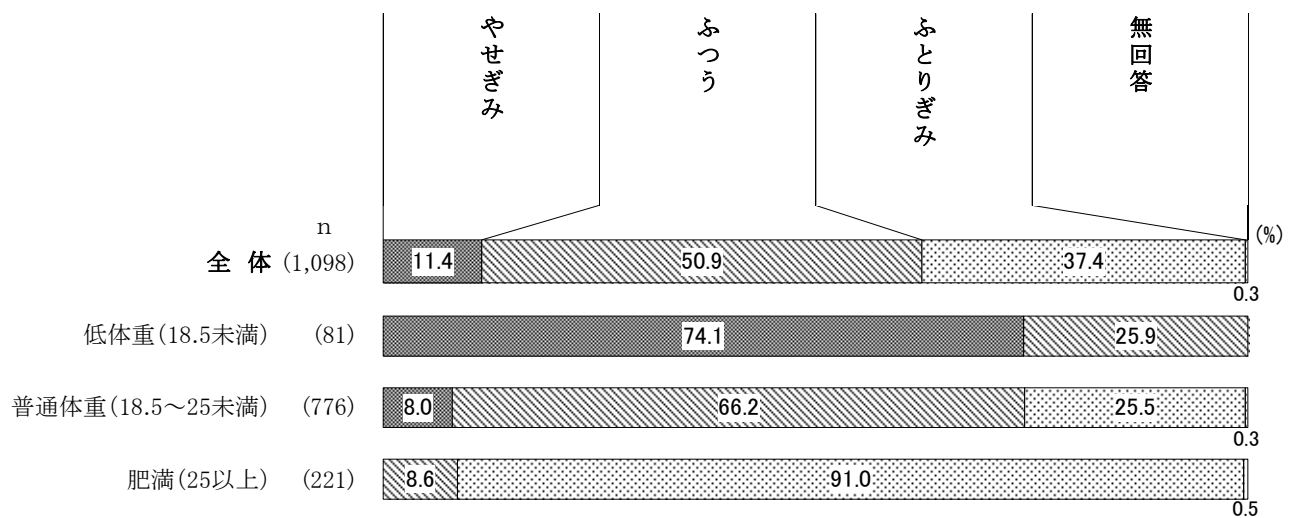
(3) 自分の体型についての認識

問8 自分の体型についてどう思いますか。(○は1つだけ)

自分の体型については、「ふつう」が50.9%で最も高く、次いで「ふとりぎみ」(37.4%)となっている。

BMI別でみると、「18.5未満(低体重)」の人では、「やせぎみ」という認識が74.1%を占めている。一方、「18.5～25未満(普通体重)」の人でも「ふとりぎみ」という認識の人が25.5%いるほか、「25以上(肥満)」の人でも「ふつう」という認識の人が8.6%いる。

〈BMI／自分の体型についての認識〉



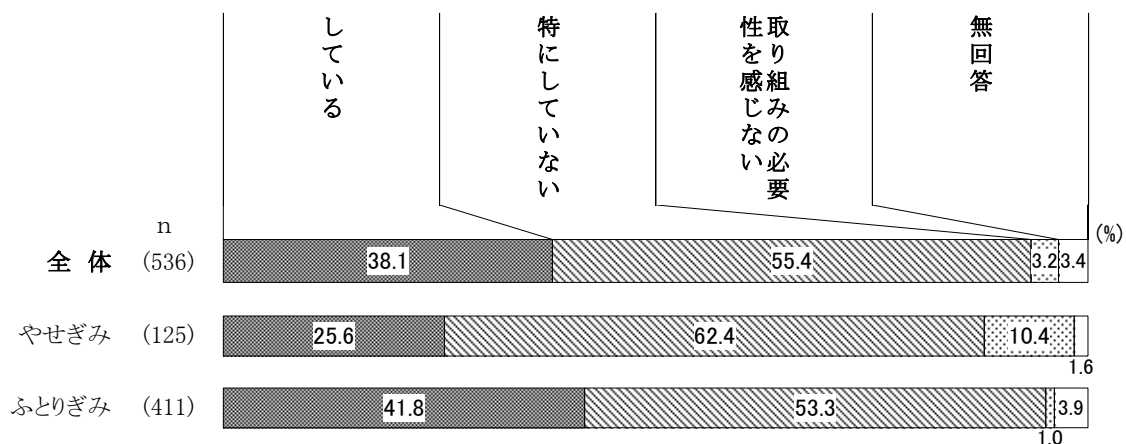
(問8で「やせぎみ」「ふとりぎみ」と回答した人のみ)

付問8-1 現在、体型を改善するための取り組みをしていますか。(○は1つだけ)

「やせぎみ」または「ふとりぎみ」という人に、体型改善の取り組みをしているか聞いたところ、「特にしていない」が55.4%を占めている。一方、「している」は38.1%となっている。

自分の体型についての認識別でみると、「ふとりぎみ」と認識している人では「している」が41.8%と高くなっている。一方、「やせぎみ」と認識している人では「している」25.6%と低く、「取り組みの必要を感じない」が10.4%を占めている。

〈自分の体型についての認識／体型改善のための取り組み〉



(4) 食生活に関するふだんのころがけ

問9 あなたはふだん、次のそれぞれのことをどのくらいしていますか。

(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

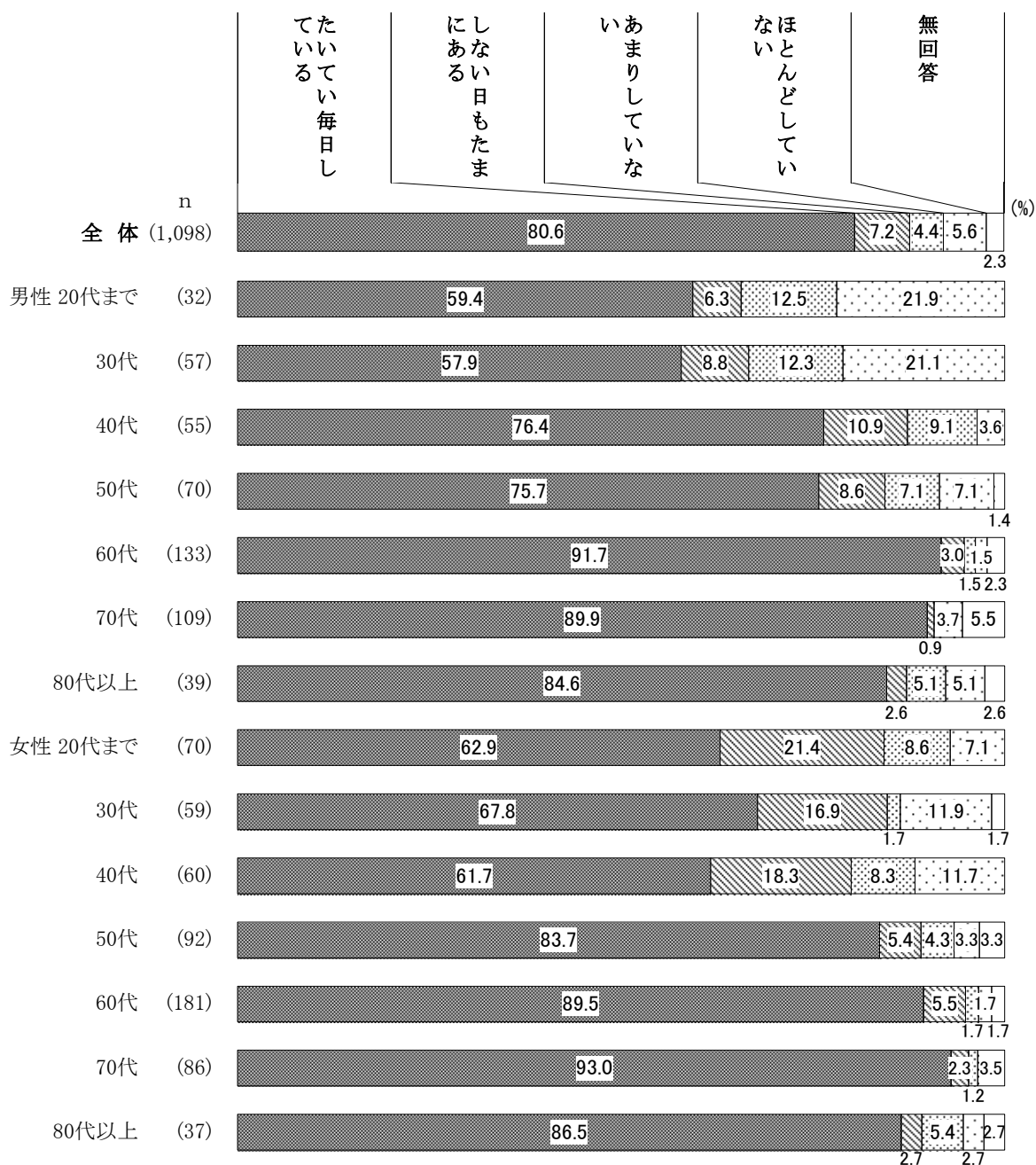
朝食を食べる

朝食を食べることについては「たいてい毎日している」が80.6%を占めている。

性・年齢別でみると、男性では、20代まで、30代で、朝食を食べない人の割合が3割を超えている。一方、60代、70代では「たいてい毎日している」が9割前後と他の年代に比べて高くなっている。

女性は、男性と比べ「たいてい毎日している」割合が高いが、40代の朝食を食べない人の割合が高い。

〈 性・年齢／朝食を食べる 〉

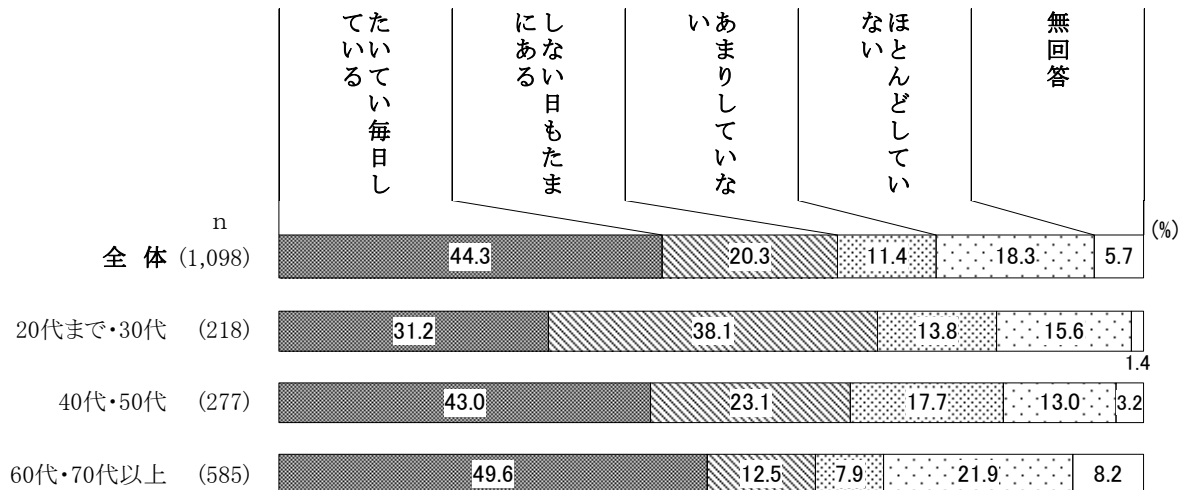


夜遅い時間の食事や飲酒をひかえる

夜遅い時間の食事や飲酒をひかえることについては、「たいてい毎日している」が44.3%を占めている。

年齢別でみると、20代まで・30代では「たいてい毎日している」と「しない日もたまにある」が合わせて69.3%と他の年代に比べて高くなっている。

〈 年齢／夜遅い時間の食事や飲酒をひかえる 〉

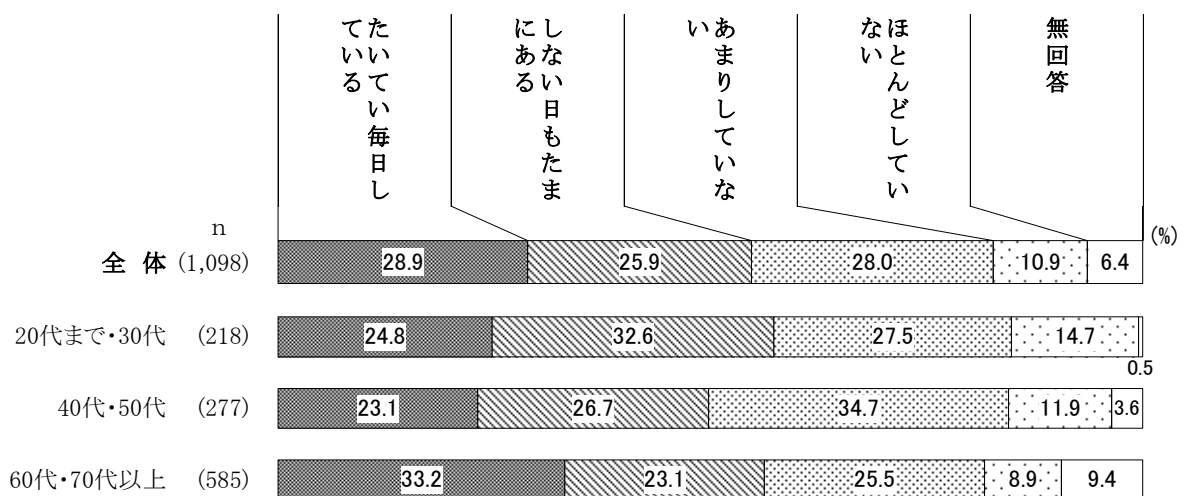


家族や仲間と会話しながら、時間をかけて食事をする

家族や仲間と会話をしながら、時間をかけて食事することについては、「たいてい毎日している」は28.9%となっている。

年齢別でみると、40代・50代では「たいてい毎日している」と「しない日もたまにある」が合わせて49.8%と他の年代より低くなっている。

〈 年齢／家族や仲間と会話しながら、時間をかけて食事をする 〉

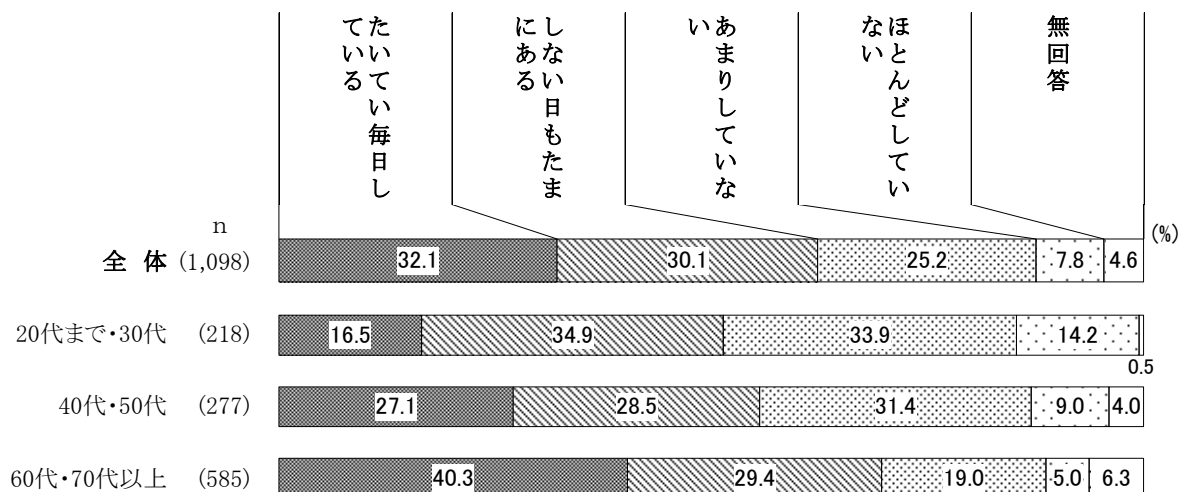


自分の健康づくりのために、栄養や食事について考えて食べる

健康づくりのために、栄養や食事について考えて食べることについては、「たいてい毎日している」が32.1%となっている。

年齢別でみると、60代・70代以上では「たいてい毎日している」が40.3%と他の年代より高くなっている。

〈年齢／自分の健康づくりのために、栄養や食事について考えて食べる〉

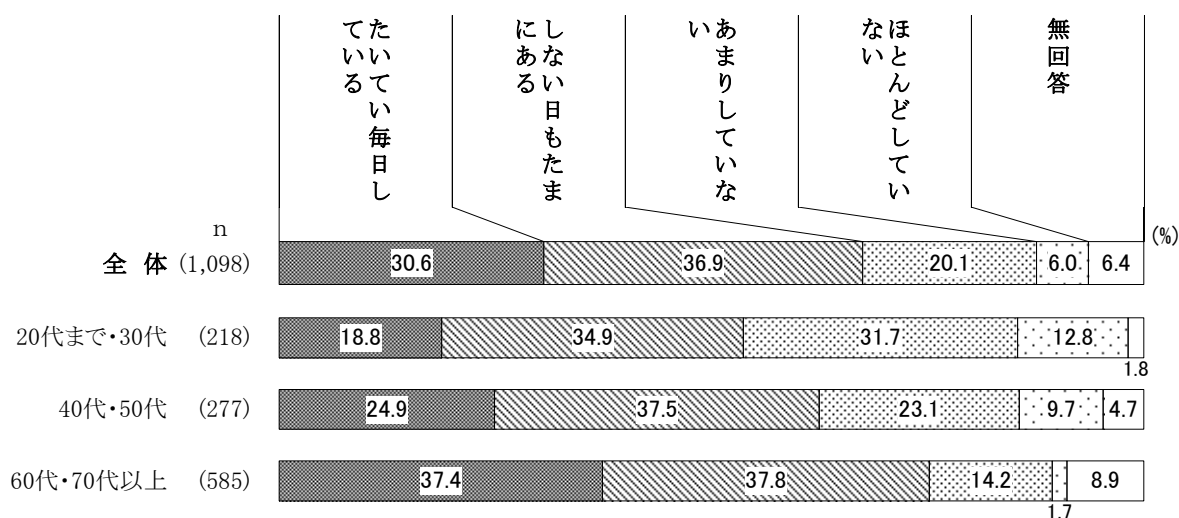


毎食（三食）、野菜料理を食べる

毎食（三食）、野菜料理を食べることについては、「しない日もたまにある」が36.9%を占めている。

年齢別でみると、60代・70代以上では「たいてい毎日している」が37.4%と他の年代より高くなっている。

〈年齢／毎食（三食）、野菜料理を食べる〉

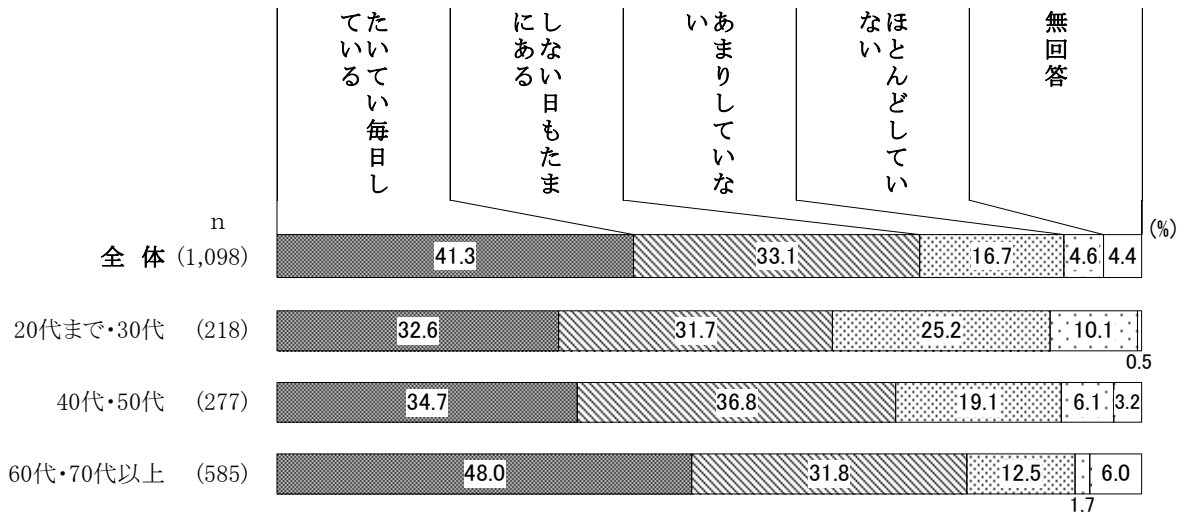


カルシウムを多く含む食品（乳製品・豆類・緑黄色野菜など）を食べている

カルシウムを多く含む食品（乳製品・豆類・緑黄色野菜など）を食べることについては、「たいてい毎日している」が41.3%を占めている。

年齢別でみると、60代・70代以上では「たいてい毎日している」が48.0%を占めている。

〈 年齢／カルシウムを多く含む食品（乳製品・豆類・緑黄色野菜など）を食べている 〉



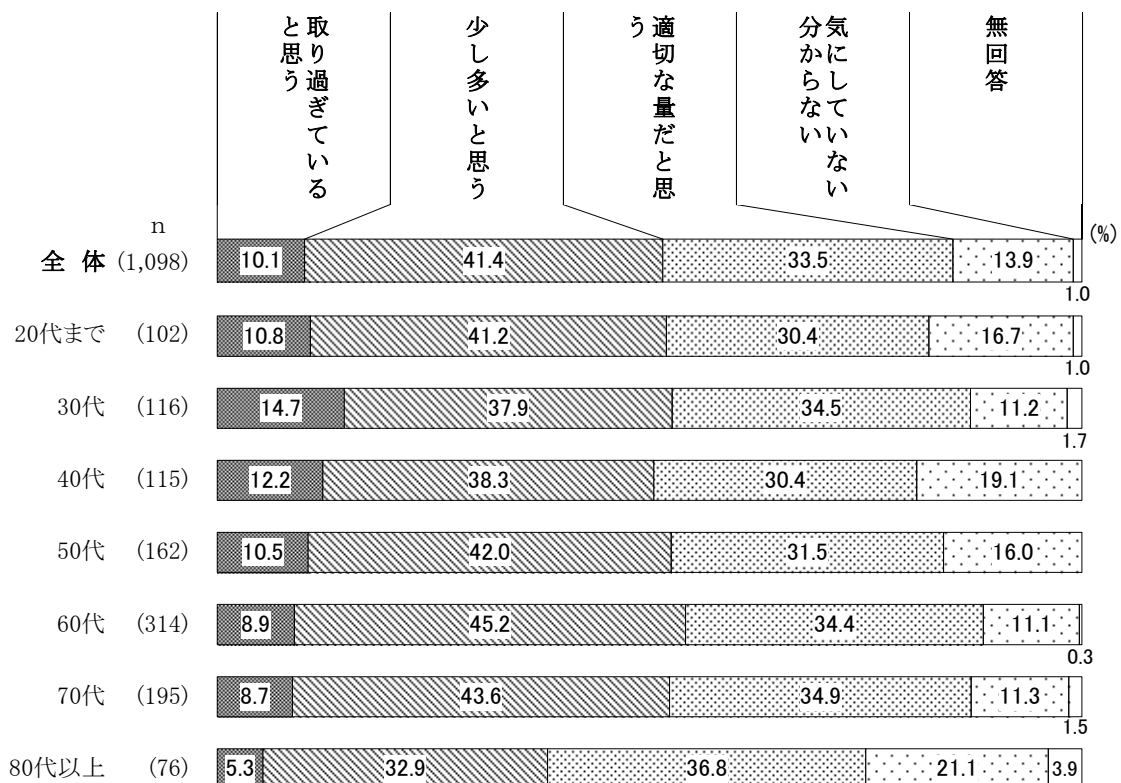
(5) 塩分の摂取状況

問10 あなたの塩分の摂取状況についてどのように思いますか。（日本人の食事摂取基準2010年版で食塩の摂取量は、1日あたり男性9g未満・女性7.5g未満です。）

塩分の摂取状況については、「取り過ぎていると思う」と「少し多いと思う」を合わせた《多い》が51.5%と過半数を占めている。一方、「適切な量だと思う」は33.5%となっている。

年齢別でみると、30代、40代で「取り過ぎていると思う」がやや他の年代より高くなっている。

〈 年齢／塩分の摂取状況 〉



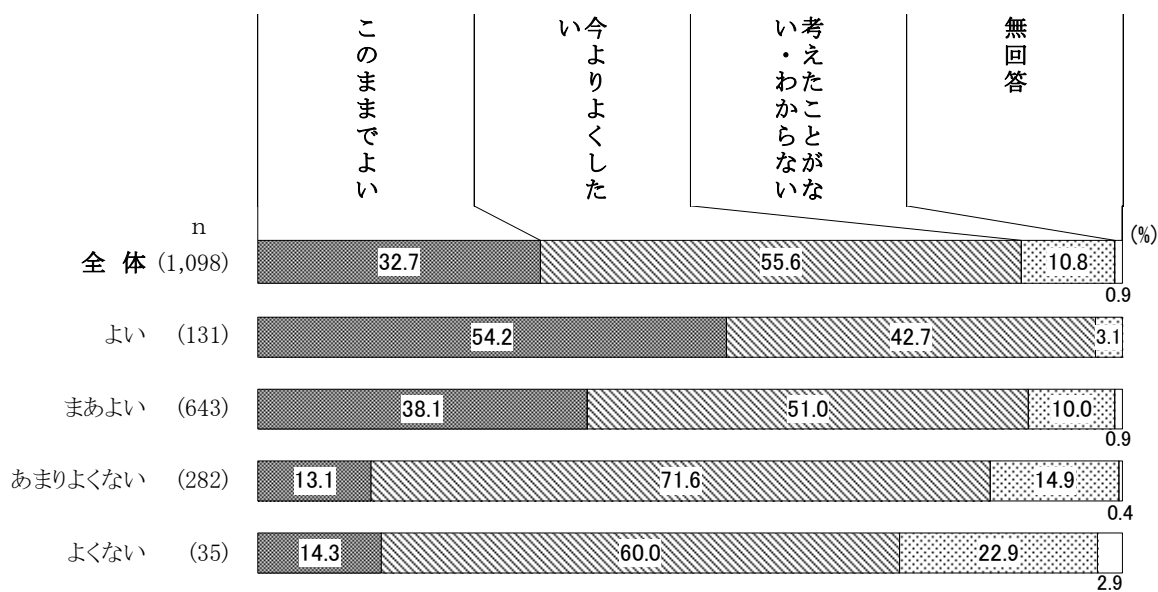
(6) 食生活の改善意向

問11 自分の食生活について、今後どのようにしたいと考えていますか。(○は1つだけ)

自分の食生活については、今後、「今よりよくしたい」という人が55.6%を占めている。

自分の生活習慣についての認識別でみると、自分の現在の生活習慣について「あまりよくない」という人では「今よりよくしたい」が71.6%と高くなっている。

〈自分のふだんの生活習慣についての認識／今後の自分の食生活についての意向〉



4. 身体活動・運動

(1) 身体活動・運動のこころがけ

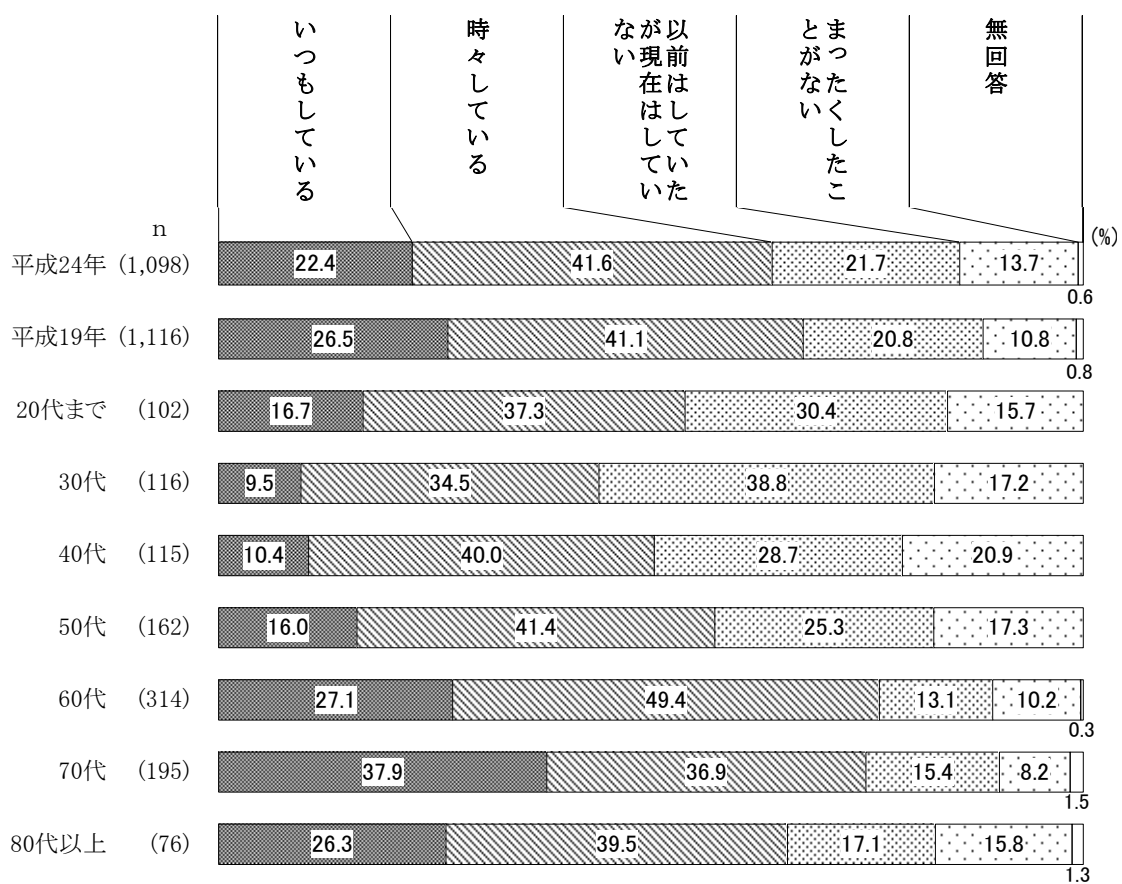
問12 日頃から日常生活の中で、健康の維持・増進のため、意識的に身体を動かすなどの運動をしていますか。(○は1つだけ)

身体活動・運動について、「いつもしている」は22.4%、「時々している」は41.6%となっている。

平成19年の調査結果と比べると、「いつもしている」は今回22.4%と、前回の26.5%からやや減少している。

年齢別でみると、60代から80歳以上で「いつもしている」が2割を超え、特に70代では37.9%となっている。

〈 前回、年齢／身体活動・運動のこころがけ 〉



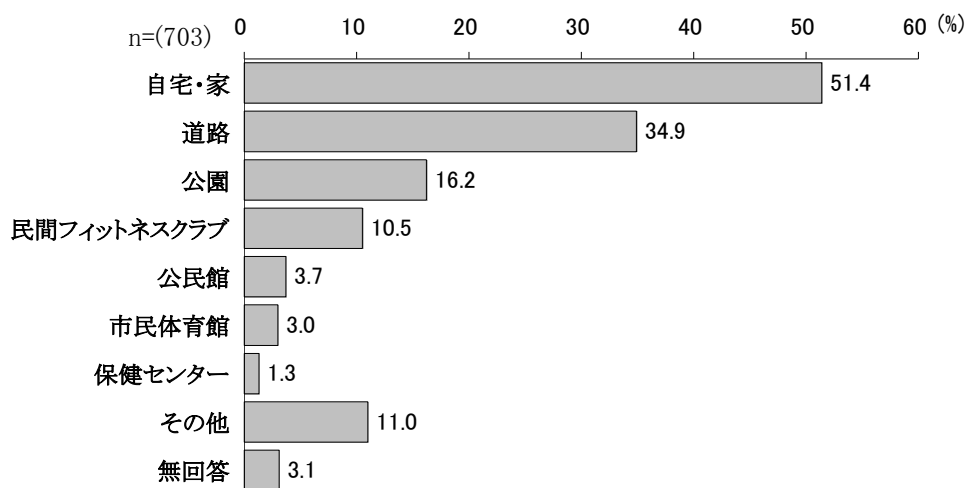
(問12で「いつもしている、時々している」と回答した人のみ)

付問12-1 運動はどこで行っていますか。(〇はいくつでも)

「いつもしている」、「時々している」という人に、運動の実施場所を聞いたところ、「自宅・家」が51.4%で最も高く、次いで「道路」(34.9%)となっている。

年齢別でみると、20代まで、70代、80代以上では「自宅・家」が5割を超えている。

〈年齢／運動の実施場所〉



	保健センター	市民体育館	公民館	公園	道路	民間フィットネスクラブ	自宅・家	その他	無回答
全 体 (n=703)	1.3	3.0	3.7	16.2	34.9	10.5	51.4	11.0	3.1
20代まで (n=55)	-	1.8	-	12.7	23.6	14.5	56.4	12.7	-
30代 (n=51)	-	-	2.0	9.8	45.1	19.6	49.0	11.8	2.0
40代 (n=58)	1.7	6.9	1.7	10.3	34.5	17.2	41.4	13.8	3.4
50代 (n=93)	1.1	2.2	4.3	9.7	28.0	15.1	49.5	10.8	4.3
60代 (n=240)	0.8	5.0	5.8	20.8	38.8	9.6	46.7	7.5	3.3
70代 (n=146)	2.7	1.4	3.4	18.5	33.6	6.2	58.2	17.1	2.7
80代以上 (n=50)	2.0	-	-	14.0	34.0	-	62.0	6.0	6.0

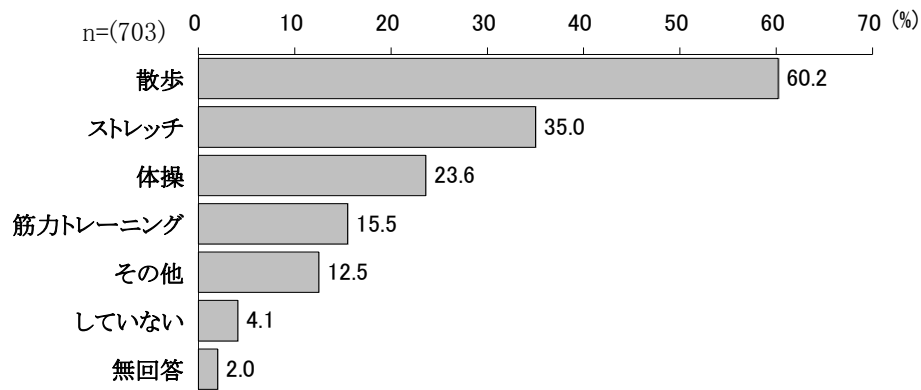
(問12で「いつもしている、時々している」と回答した人のみ)

付問12-2 筋力や柔軟性の維持のためにどのようなことをしていますか。

(○はいくつでも)

「いつもしている」「時々している」という人に、行っている身体活動・運動を聞いたところ「散歩」が60.2%で最も高く、以下「ストレッチ」(35.0%)、「体操」(23.6%)の順で続いている。

〈 筋力や柔軟性の維持のためにしていること 〉



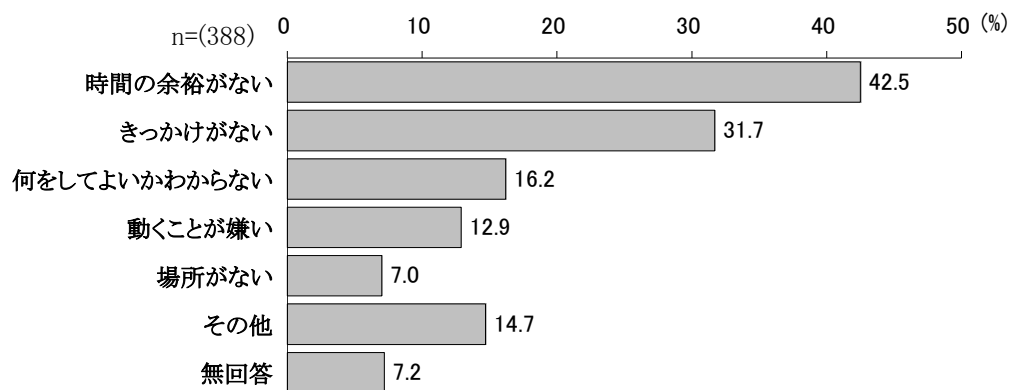
問12で「以前はしていたが現在はしていない、まったくしたことがない」と回答した人のみ

付問12-3 意識的に身体を動かすなどの運動をしていない理由を教えてください。

(○はいくつでも)

「以前はしていたが現在はしていない」「まったくしたことがない」という人に、その理由を聞いたところ、「時間の余裕がない」が42.5%で最も高く、次いで「きっかけがない」(31.7%)となっている。

〈 運動をしていない理由 〉



(2) 運動の実践状況

問13 「息が少しはずむ程度」の運動を週に2日以上、1日30分以上行なっていますか。

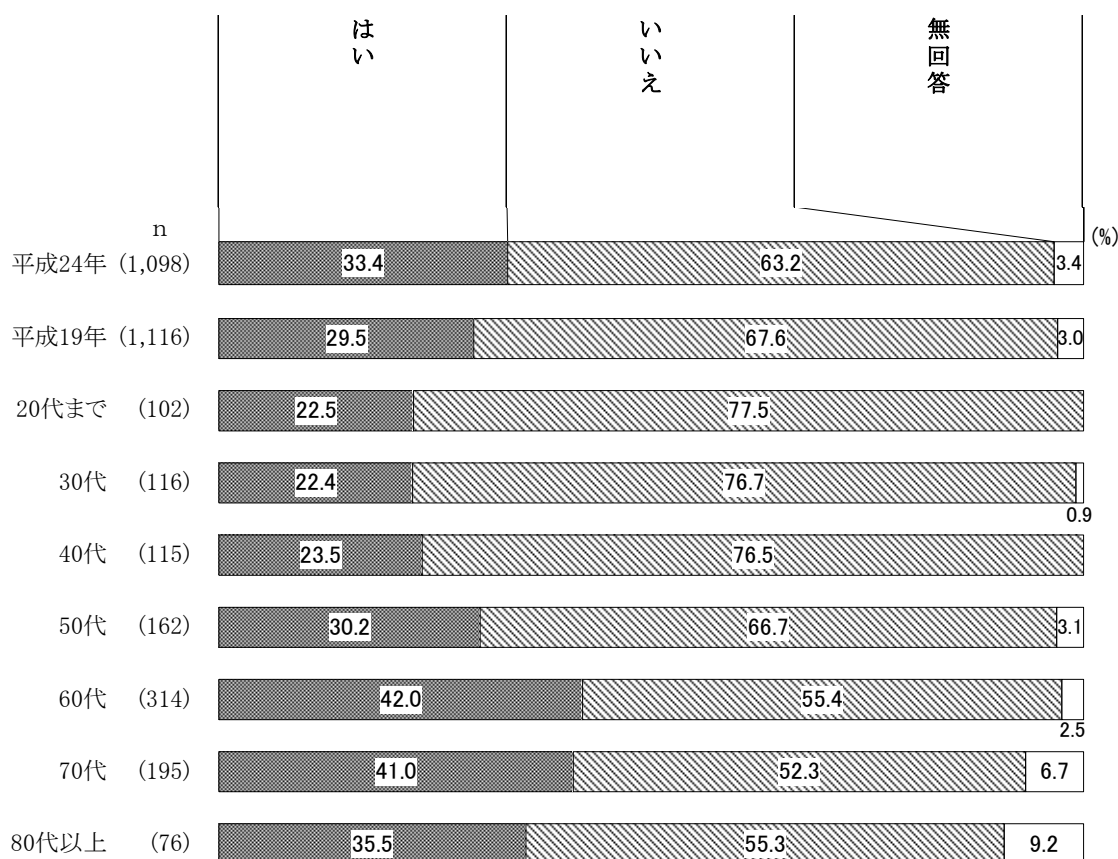
(○は1つだけ)

「息が少しはずむ程度」の運動を週に2日以上、1日30分以上行なっているかについて「はい」は33.4%となっている。

平成19年の調査結果と比較すると、今回33.4%と、前回の29.5%より増加している。

年齢別でみると、60代、70代では「はい」が4割を超えて、他の年代より高くなっている。

〈 前回、年齢／運動の実践状況 〉



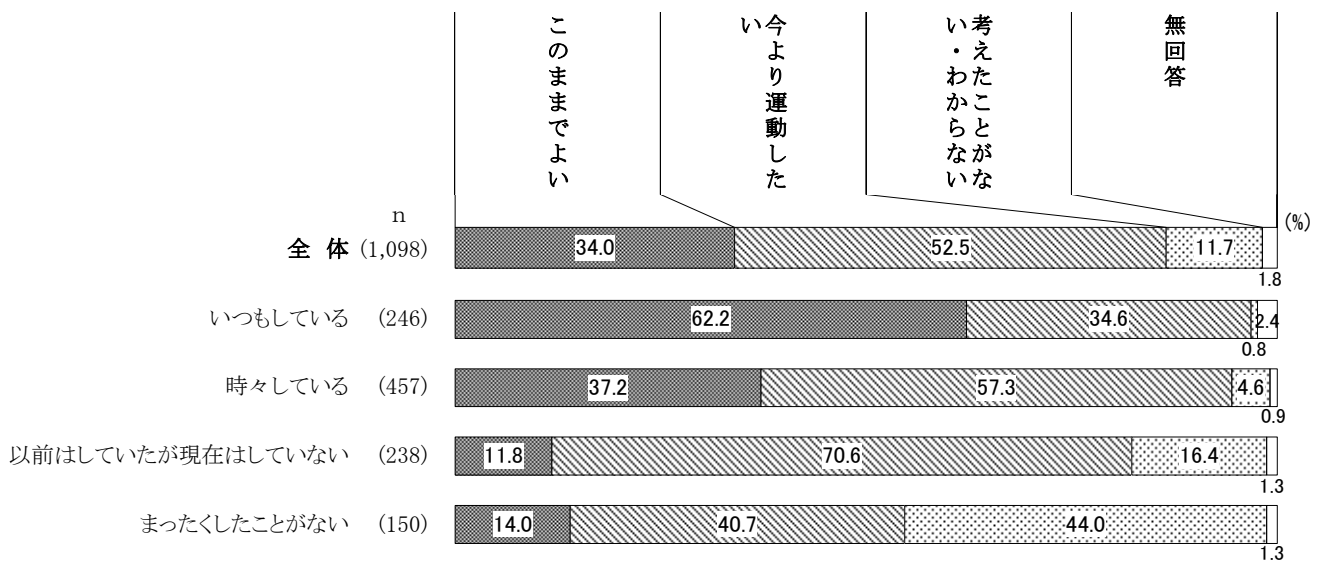
(3) 運動習慣の改善意向

問14 自分の運動習慣について、今後どうしたいと考えていますか。(〇は1つだけ)

運動習慣の改善意向については、「今より運動したい」が52.5%を占めている。一方、「このままでよい」は34.0%となっている。

身体活動・運動へのところがけの有無別でみると、「いつもしている」人では、「このままでよい」が62.2%と高くなっているが、「時々している」「以前はしていたが現在はしていない」という人では、「今より運動したい」が、それぞれ57.3%、70.6%となっている。

〈 身体活動・運動のところがけ／運動習慣の改善意向 〉



問14で「今より運動したい」と回答した人のみ

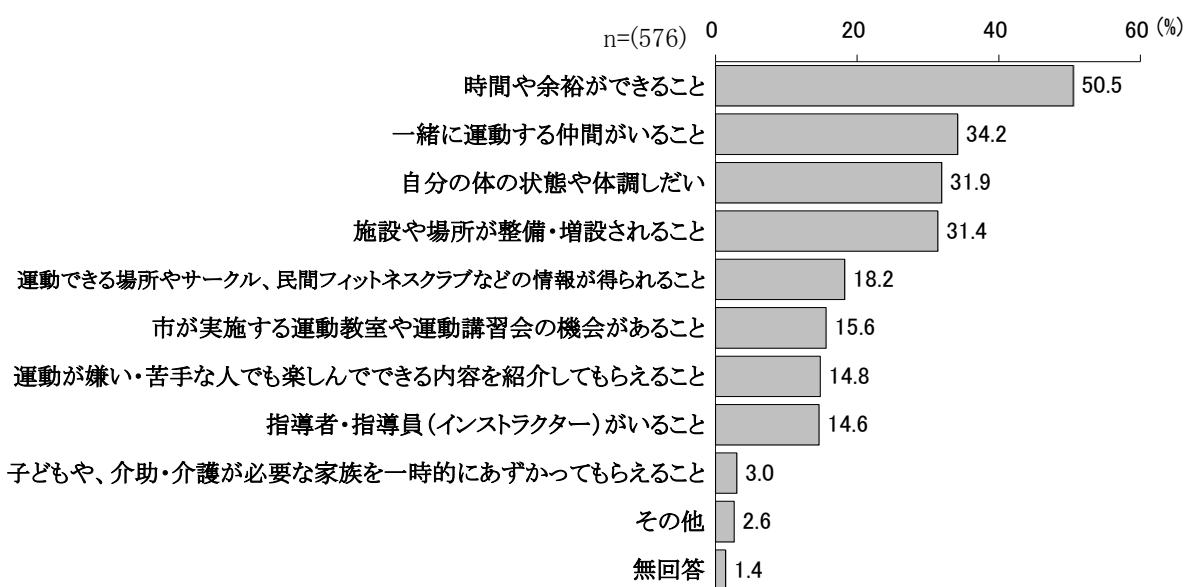
付問14-1 そのためには、どのようなことが必要ですか。(〇はいくつでも)

「今より運動したい」という人に、そのために必要なことを聞いたところ、「時間や余裕ができること」が50.5%で最も高く、以下「一緒に運動する仲間がいること」(34.2%)、「自分の体の状態や体調しだい」(31.9%)の順で続いている。

年齢別でみると、年齢が若くなるにつれて、「時間や余裕ができること」と「施設や場所が整備・増設されること」が高くなっている。

一方、60代・70代以上では「自分の体の状態や体調しだい」が41.5%と他の年代より高くなっているほか、「一緒に運動する仲間がいること」も4割近くを占めている。

〈年齢／運動習慣の改善に必要なこと〉



	施設や場所が整備・増設されること	一緒に運動する仲間がいること	指導者・指導員(インストラクター)がいること	市が実施する運動教室や運動講習会の機会があること	運動が嫌い・苦手な人でも楽しんでもらえる内容を紹介してもらえること	運動できる場所やサークル、民間フィットネスクラブなどの情報が得られること	時間や余裕ができること	子どもや、介助・介護が必要な家族を一時的にあずかってもらえること	自分の体の状態や体調しだい	その他	無回答
全 体 (n=576)	31.4	34.2	14.6	15.6	14.8	18.2	50.5	3.0	31.9	2.6	1.4
20代まで・30代 (n=156)	39.1	32.7	9.6	7.1	14.1	22.4	71.2	5.1	23.1	6.4	-
40代・50代 (n=173)	31.8	32.4	21.4	17.3	16.8	19.7	60.1	4.0	24.9	0.6	1.7
60代・70代以上 (n=236)	27.1	37.3	13.6	20.8	14.0	14.8	30.5	0.8	41.5	1.7	2.1

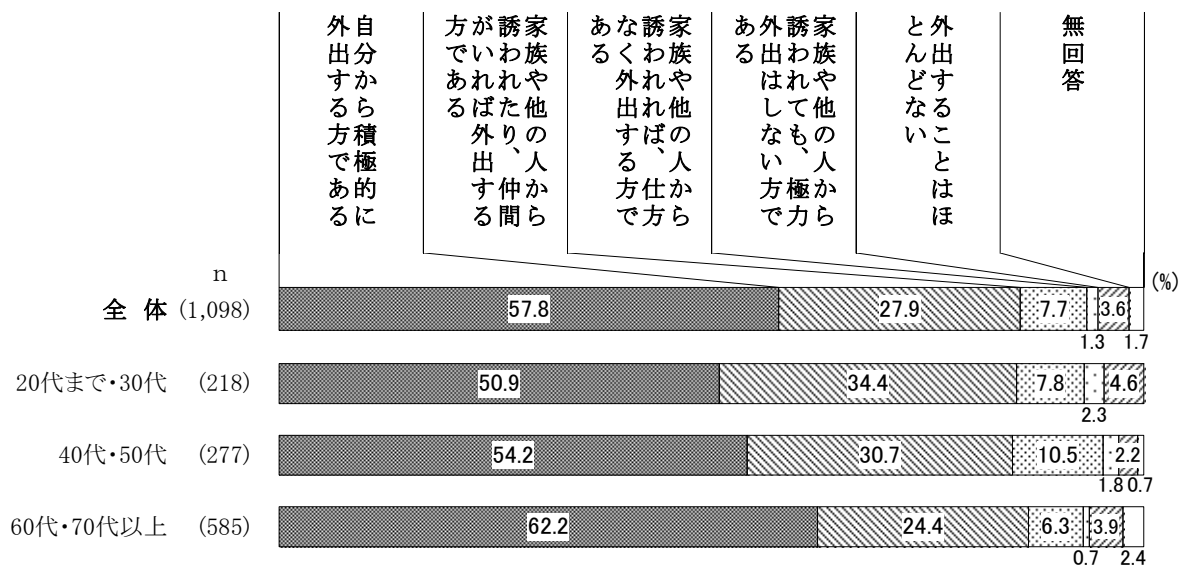
(4) 外出状況

問15 日常生活の中で、買い物や散歩などを含めた外出の状況について、あなたは次のどれにあてはまると思いますか。(〇は1つだけ)

日常生活の外出状況としては、「自分から積極的に外出する方である」が57.8%で最も高く、次いで「家族や他の人から誘われたり、仲間がいれば外出する方である」(27.9%)となっている。

年齢別でみると、60代・70代以上では「自分から積極的に外出する方である」が62.2%と他の年代より高くなっている。

〈年齢／外出状況〉



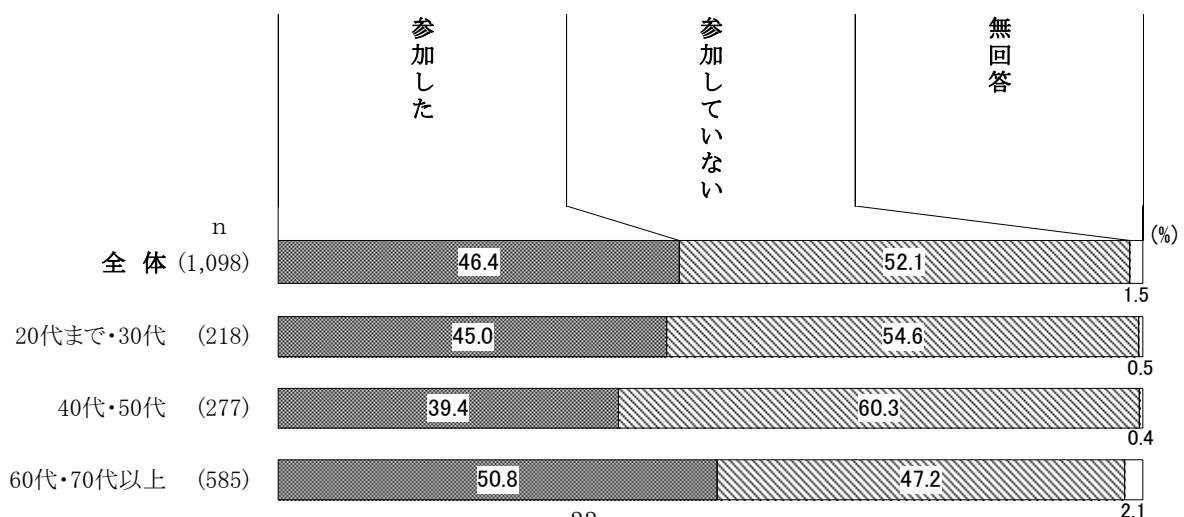
(5) 社会活動の参加状況

問16 この1年間に、個人または友人と、あるいはグループや団体で自主的に行われている活動に参加しましたか。(〇は1つだけ)

過去1年の間に、社会活動に「参加した」は46.4%、「参加していない」は52.1%となっている。

年齢別でみると、60代・70代以上では「参加した」が50.8%と他の年代より高くなっている。

〈年齢／過去1年間の活動参加の有無〉



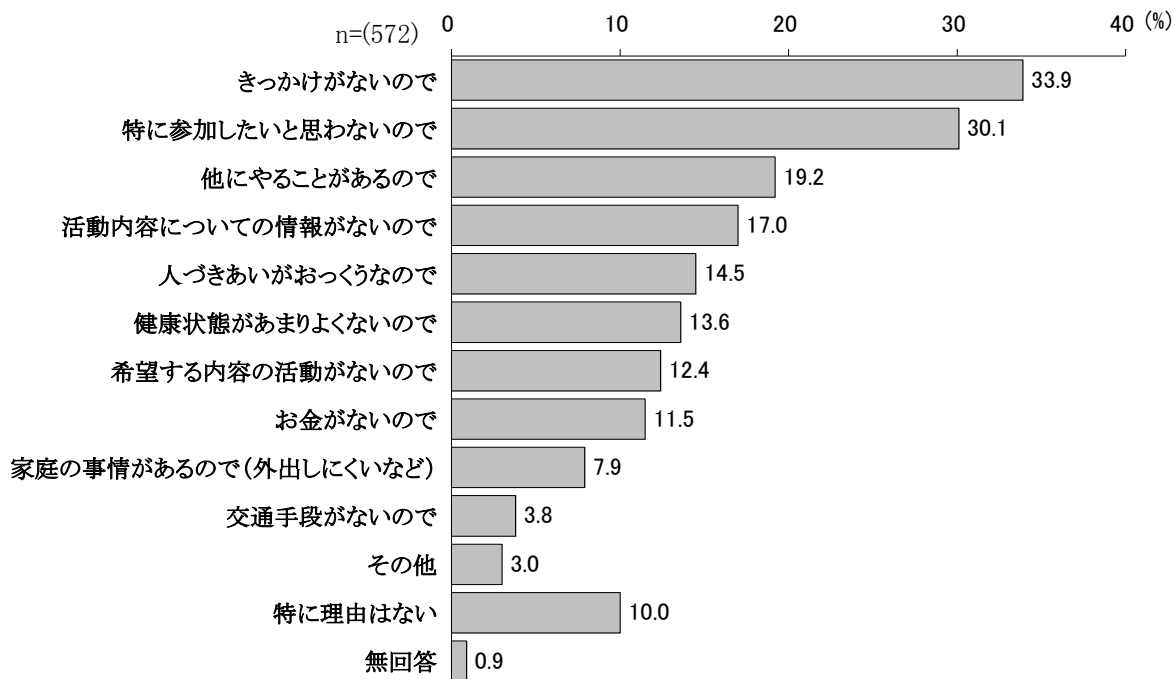
問16で「参加していない」と回答した人のみ

付問16-1 参加していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

「参加していない」という人に、その理由を聞いたところ、「きっかけがないので」(33.9%)と「特に参加したいと思わないので」(30.1%)の2項目が特に高くなっている。

性別でみると、男性では「特に参加したいと思わないので」が33.9%と女性(26.2%)より高くなっている。

〈性別／活動に参加しない理由〉



	家庭の事情があるの (外出しにくいなど)	お金がないので	交通手段がないので	活動内容についての情 報がないので	健康状態があまりよく ないので	希望する内容の活動が ないので	きっかけがないので	人づきあいがおっくう なので	特に参加したいと思わ ないので	他にやることがあるの で	その他	特に理由はない	無回答
全 体 (n=572)	7.9	11.5	3.8	17.0	13.6	12.4	33.9	14.5	30.1	19.2	3.0	10.0	0.9
男性 (n=286)	4.5	12.6	2.8	16.8	12.6	14.0	32.5	15.7	33.9	17.1	2.8	11.9	0.7
女性 (n=282)	11.3	10.3	4.6	17.0	14.5	11.0	35.5	13.5	26.2	21.3	3.2	7.8	0.7

5. 休養・こころの健康づくり

(1) ストレスの状況

問17 あなたは、この1か月間に、不安、悩み、苦勞、ストレスなどがありましたか。

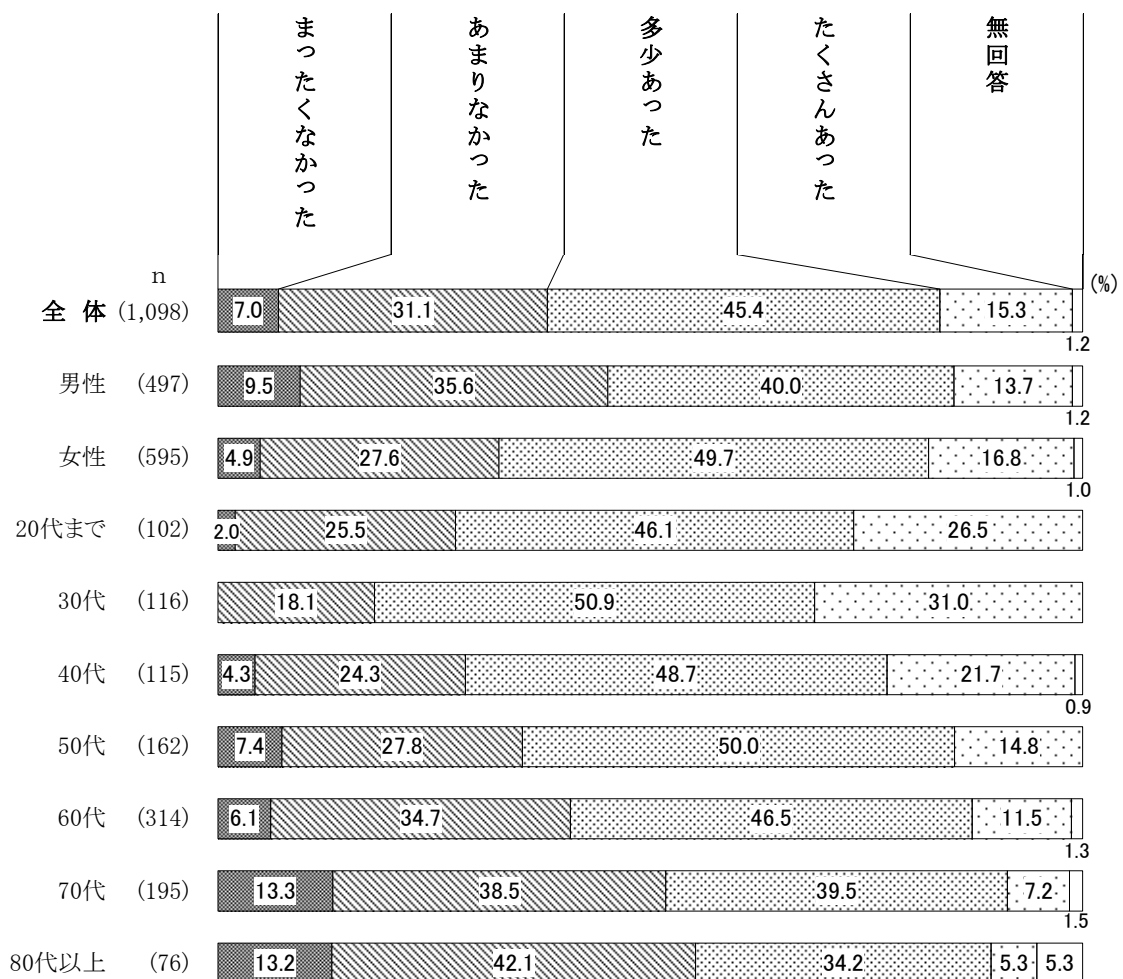
(○は1つだけ)

過去1ヶ月間に、不安、悩み、苦勞、ストレスなどについて、「たくさんあった」と「多少あった」を合わせた《ある》は60.7%となっている。

性別でみると、女性では《ある》が66.5%と男性（53.7%）より高くなっている。

年齢別でみると、20代まで、30代、40代では《ある》が7割を超え、特に30代では81.9%に達している。

〈性別、年齢／過去1ヶ月間の不安・悩み・苦勞・ストレスの有無〉



問17で「多少あった」「たくさんあった」と回答した人のみ

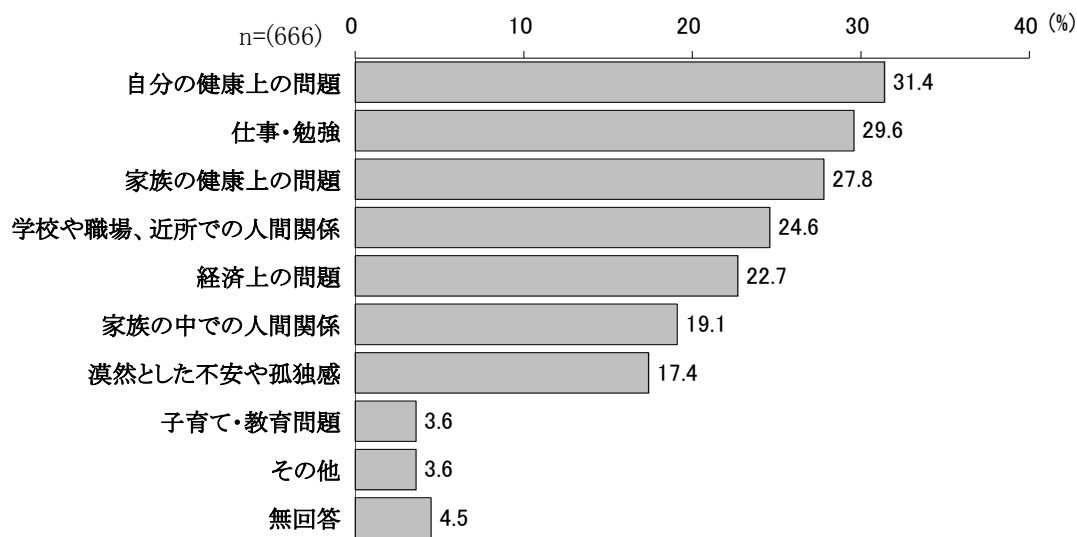
付問17-1 その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

「多少あった」「たくさんあった」という人に、その理由を聞いたところ、「自分の健康上の問題」が31.4%で最も高く、以下「仕事・勉強」(29.6%)、「家族の健康上の問題」(27.8%)、「学校や職場、近所での人間関係」(24.6%)の順で続いている。

性別でみると、男性では「仕事・勉強」が36.0%と女性(25.3%)より高くなっているほか、「自分の健康上の問題」「経済上の問題」も女性を上回っている。

年齢別でみると、20代まで、30代、40代では「仕事・勉強」が5割を超えて、他の年代より高くなっているほか、「学校や職場、近所での人間関係」も4割を超えている。一方、70代、80代以上では「自分の健康上の問題」が4割台半ばを超え、他の年代より高くなっている。

〈 性別、年齢／不安・悩み・苦労・ストレスの理由 〉



	学校や職場、近所での人間関係	家族の中での人間関係	仕事・勉強	子育て・教育問題	自分の健康上の問題	家族の健康上の問題	経済上の問題	漠然とした不安や孤独感	その他	無回答
全 体 (n=666)	24.6	19.1	29.6	3.6	31.4	27.8	22.7	17.4	3.6	4.5
男性 (n=267)	25.8	12.4	36.0	2.6	35.2	26.2	28.5	18.4	3.0	3.4
女性 (n=396)	24.0	23.5	25.3	4.3	29.0	29.0	18.9	16.9	3.8	5.3
20代まで (n=74)	43.2	18.9	55.4	4.1	24.3	10.8	16.2	20.3	5.4	8.1
30代 (n=95)	47.4	14.7	54.7	5.3	18.9	16.8	31.6	24.2	2.1	4.2
40代 (n=81)	40.7	21.0	50.6	8.6	14.8	18.5	24.7	16.0	4.9	4.9
50代 (n=105)	22.9	22.9	30.5	5.7	33.3	35.2	25.7	15.2	1.9	2.9
60代 (n=182)	11.0	18.7	11.0	0.5	36.3	38.5	22.5	15.9	3.8	3.8
70代 (n=91)	6.6	15.4	9.9	2.2	48.4	33.0	18.7	14.3	3.3	4.4
80代以上 (n=30)	-	23.3	-	-	46.7	23.3	10.0	23.3	3.3	6.7

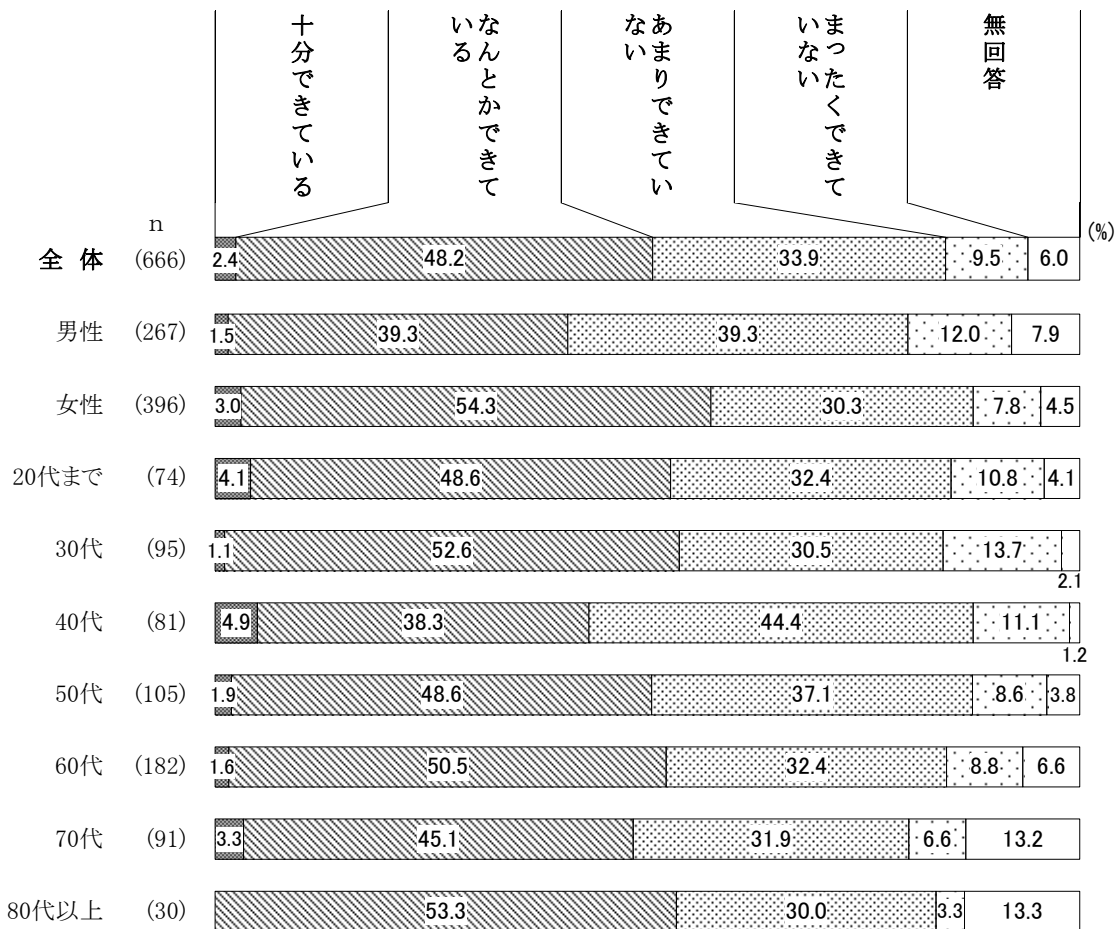
問17で「多少あった」「たくさんあった」と回答した人のみ

付問17-2 この1か月間を振り返り、不安、悩み、苦勞、ストレスなどを解消できていると思いますか。(○は1つだけ)

「多少あった」「たくさんあった」という人に、ストレスなどを解消できているか聞いたところ、「十分できている」と「なんとかできている」を合わせた《できている》は50.6%を占めている。

性別でみると、男性では「あまりできていない」「まったくできていない」とも女性より高くなっている。

〈 性別、年齢／不安・悩み・苦勞・ストレスの解消状況 〉



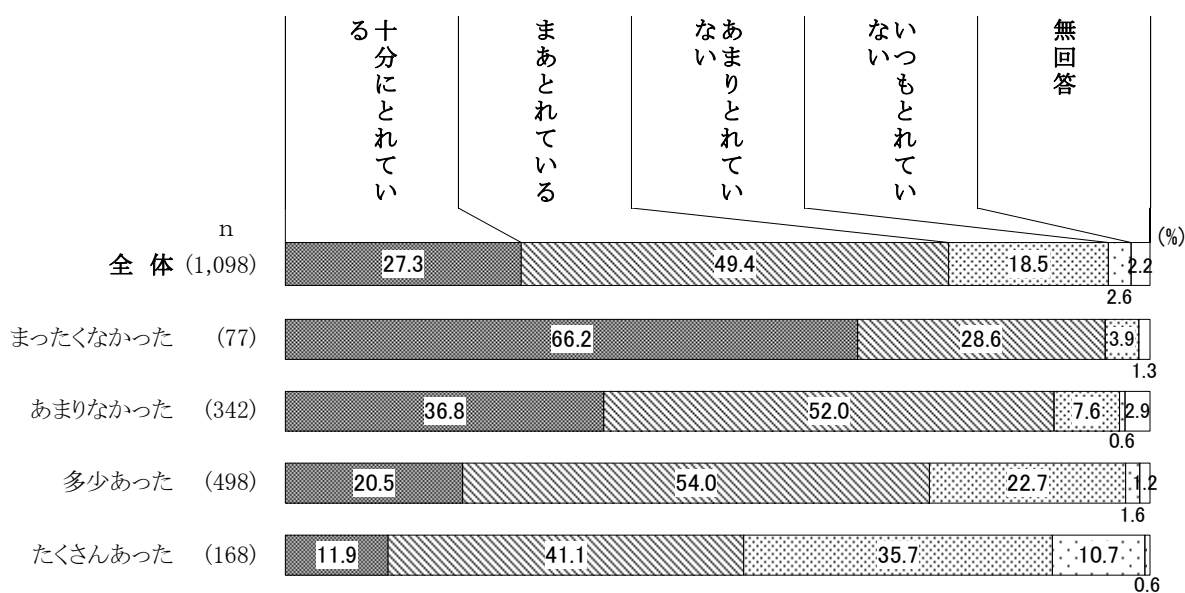
(2) 睡眠による休養の状況

問18 あなたは、睡眠による休養がとれていますか。(○は1つだけ)

睡眠による休養が「十分にとれている」は27.3%となっている。一方、「あまりとれていない」と「いつもとれていない」は合わせて21.1%となっている。

過去1ヶ月間のストレスの有無別でみると、ストレスが低い人ほど睡眠がよくとれる傾向がある。一方、ストレスが「多少あった」「たくさんあった」という人では睡眠不足を感じている人が多くなっている。

〈 過去1ヶ月間の不安・悩み・苦労・ストレスの有無／睡眠による休養の状況 〉

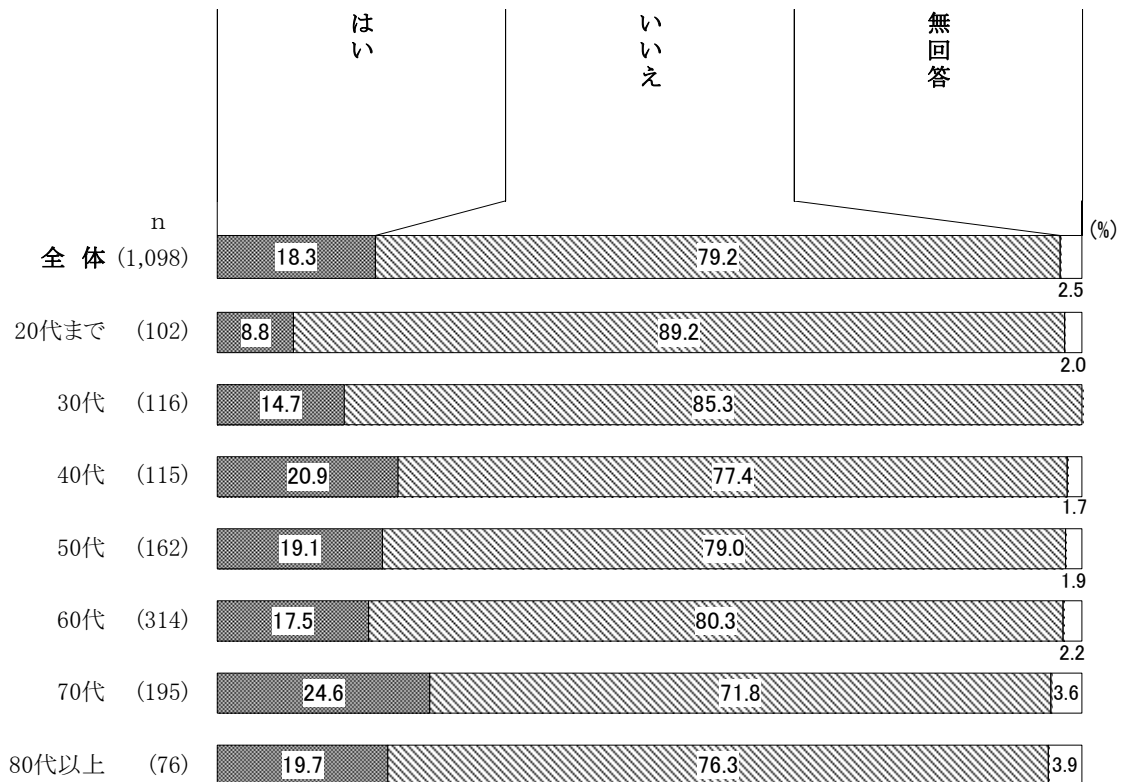


問19 眠りを助けるために薬（睡眠薬、安定剤等）やアルコールを使うことがありますか
（○は1つだけ）

睡眠確保のため、睡眠薬やアルコールを使用しているかについて「はい」は18.3%、「いいえ」は79.2%となっている。

年齢別でみると、70代では「はい」が24.6%と他の年代よりやや高くなっている。

〈 年齢／睡眠確保のための睡眠薬やアルコール使用の有無 〉

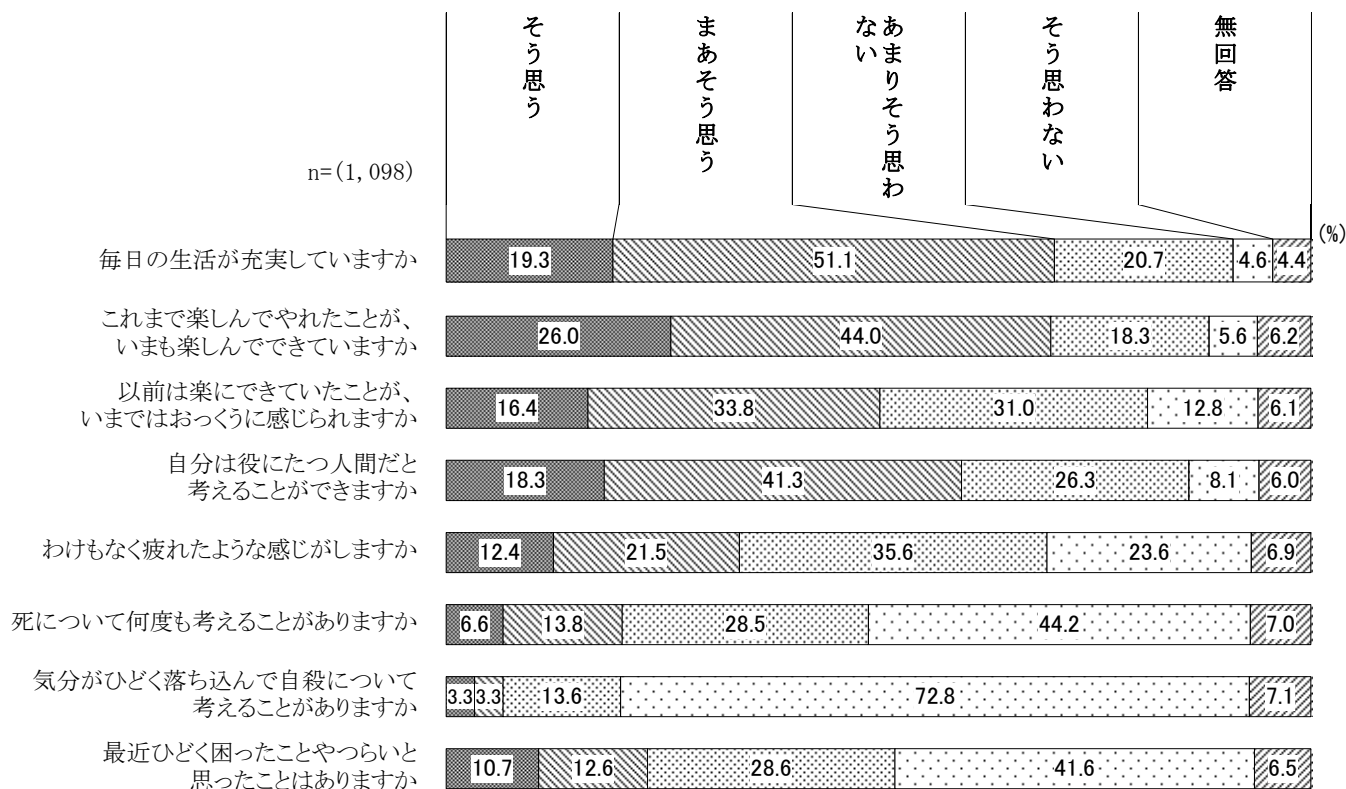


(3) 最近の精神状態

問20 最近のあなたの様子についてお聞きします。あてはまるものをそれぞれ選んでください。
(○は1つだけ)

「そう思う」と「まあ思う」の合計を比率の高い順でみると、「毎日の生活が充実していると思う」(70.4%)、「これまで楽しんでやれたことが、いまでも楽しんでできている」(70.0%)、「自分は役に立つ人間だと考えることができる」(59.6%)となっている。

〈 最近の精神状態 〉



(4) うつ病について

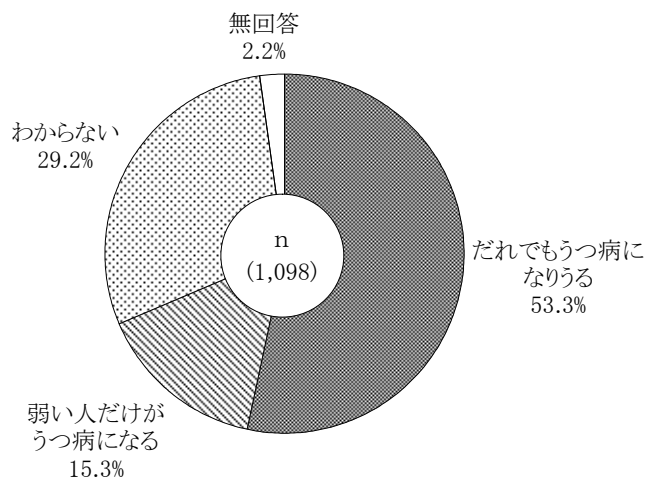
問21 うつ病についてお聞きします。次のア～キについて、あなたが思うことをそれぞれ選んでください。(○は1つだけ)

うつ病の知識についてたずねたところ、ストレスが続くと「だれでもうつ病になりうる」が53.3%を占めている。一方、「弱い人だけがうつ病になる」は15.3%となっている。

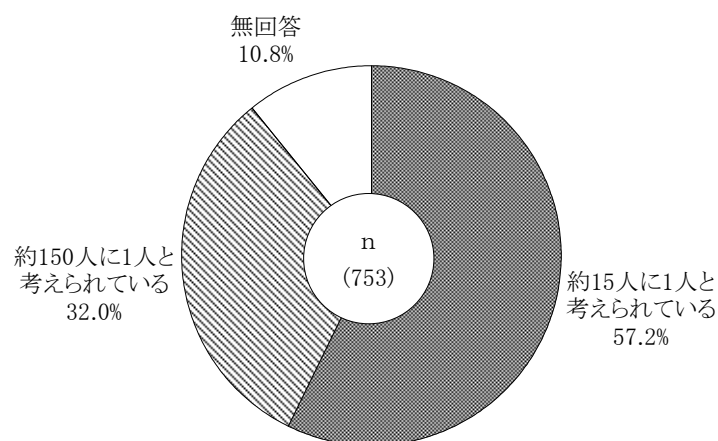
また、一生のうちに、うつ病になる頻度は「約15人に1人と考えられている」と回答した人は57.2%となっている。さらに、うつ病や抑うつ状態になったら、「ゆっくり休み、専門医（精神科医）と相談した方がよい」と回答した人が89.1%を占めており、うつ病になった場合の対処についての認識は高い。

ア ストレスが続くと

〈 ア ストレスが続くと 〉

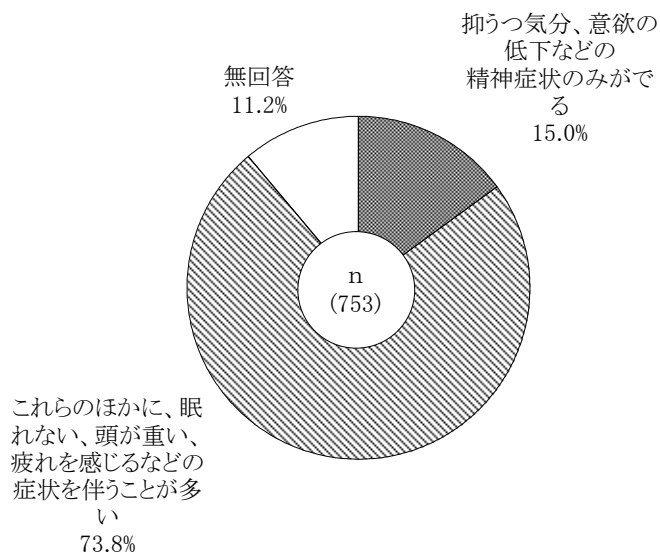
イ 一生のうちに、うつ病になる頻度はわが国では

〈 イ 一生のうちに、うつ病になる頻度はわが国では 〉



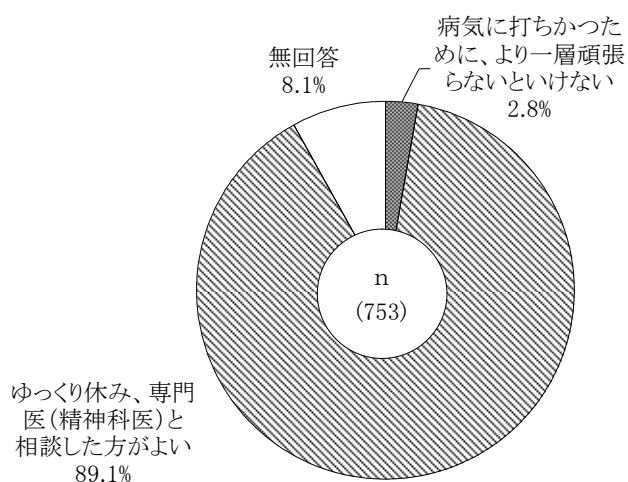
ウ うつ病のときには

〈 ウ うつ病のときには 〉



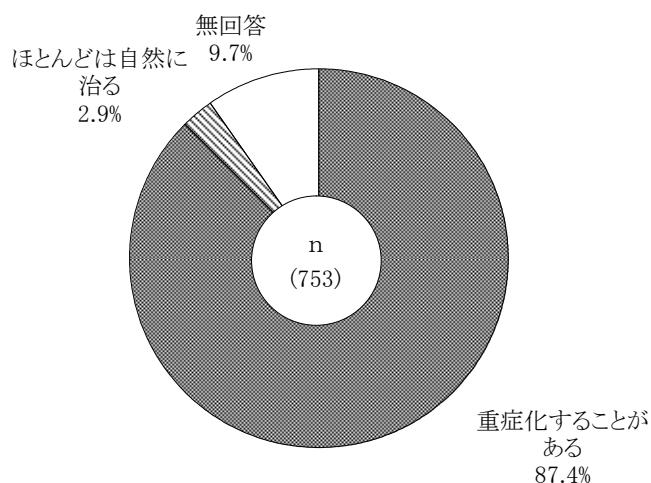
エ うつ病や抑うつ状態になったら

〈 エ うつ病や抑うつ状態になったら 〉



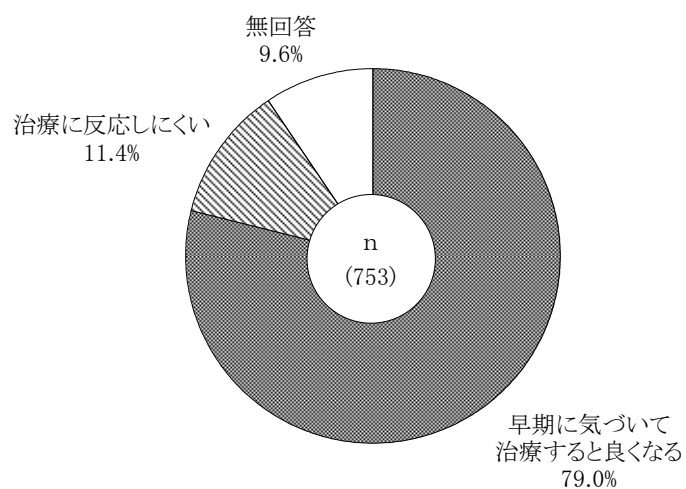
オ うつ病を治療せずに放っておくと

〈 オ うつ病を治療せずに放っておくと 〉



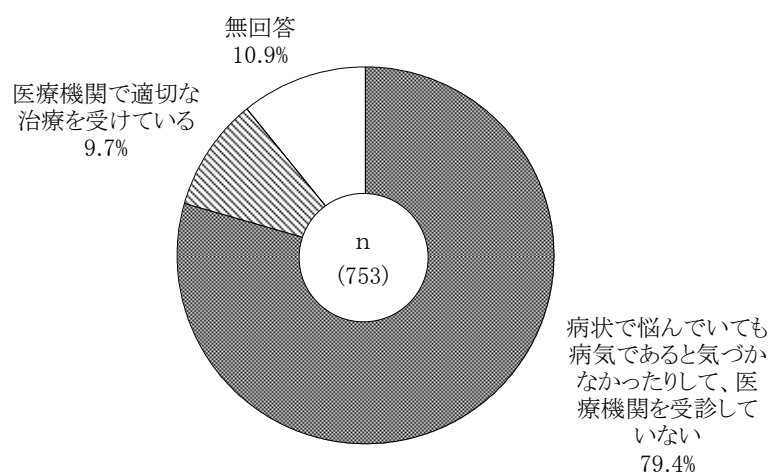
カ うつ病はだれでもかかるもので

〈 カ うつ病はだれでもかかるもので 〉



キ うつ病の多くは

〈 キ うつ病の多くは 〉



6. たばこ

(1) 喫煙状況

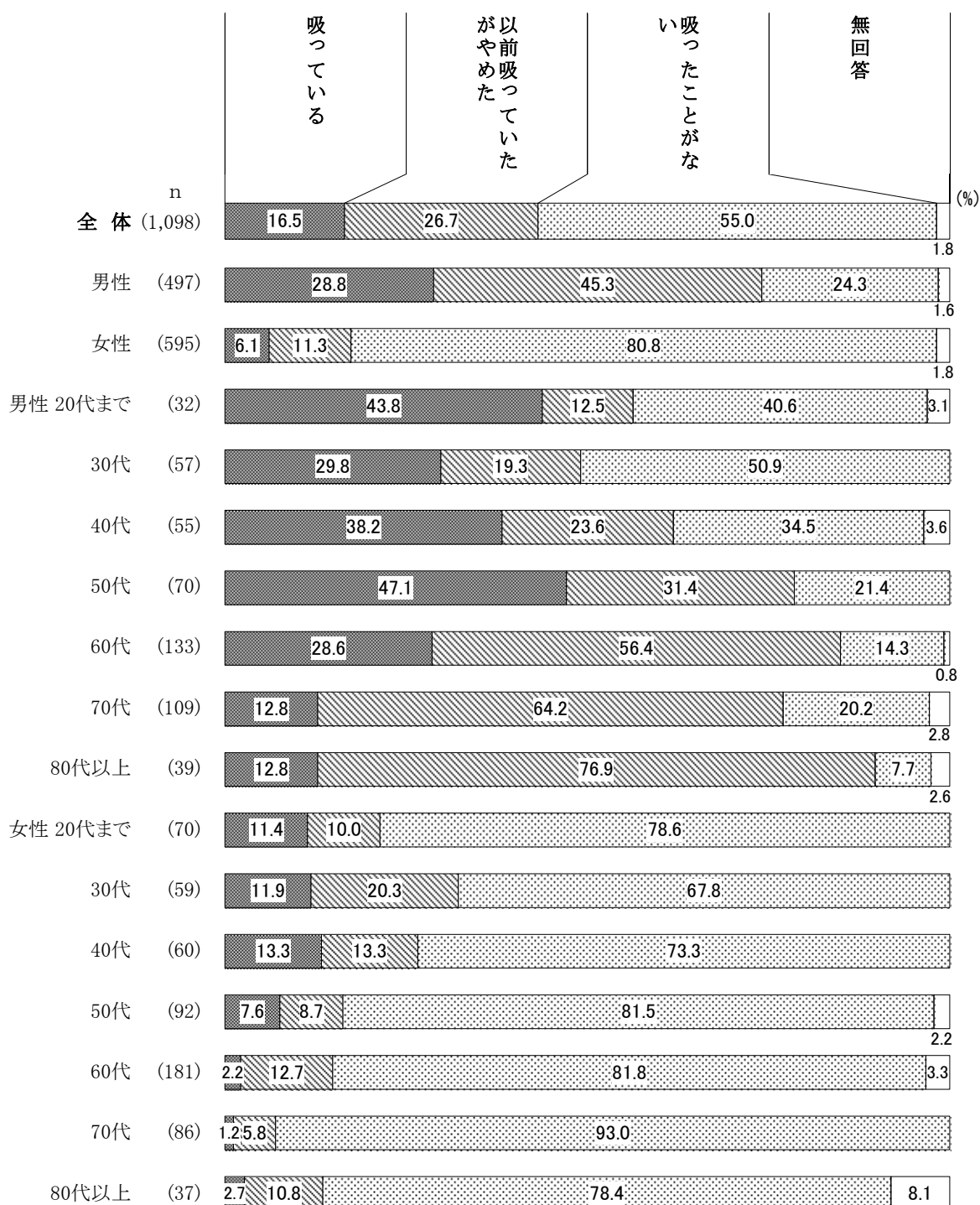
問22 あなたは、たばこを吸いますか。(○は1つだけ)

たばこを「吸っている」は16.5%で、「以前吸っていたがやめた」は26.7%となっている。一方、「吸ったことがない」は55.0%を占めている。

性別でみると、男性では「吸っている」が28.8%と女性（6.1%）より高くなっている。

性・年齢別でみると、男性では、20代まで、50代で「吸っている」が4割を超えて他の年代より高くなっている。女性では、20代まで、30代、40代で、「吸っている」が1割を超えて他の年代よりやや高くなっている。

〈 性別、性・年齢／喫煙経験 〉



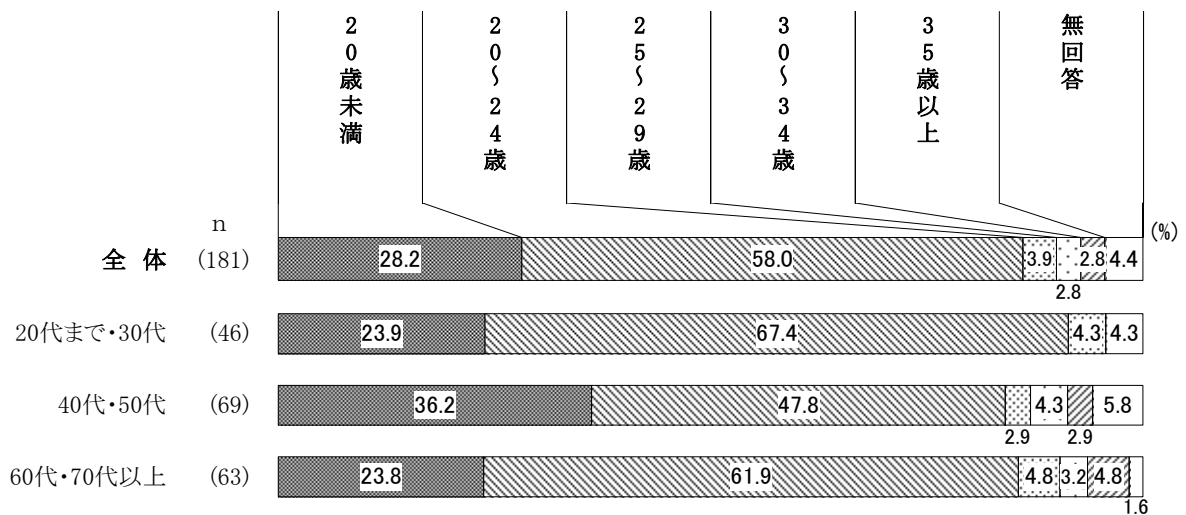
問22で「吸っている」と答えた人のみ

付問22-1 たばこを吸い始めたのは、何歳ですか。

たばこを「吸っている」人に対して、吸い始めた年齢を聞いたところ、「20～24歳」が58.0%で最も高く、次いで「20歳未満」(28.2%)となっている。

年齢別でみると、40代・50代では「20歳未満」が3割台半ばを超えている。

〈 年齢／喫煙開始年齢 〉



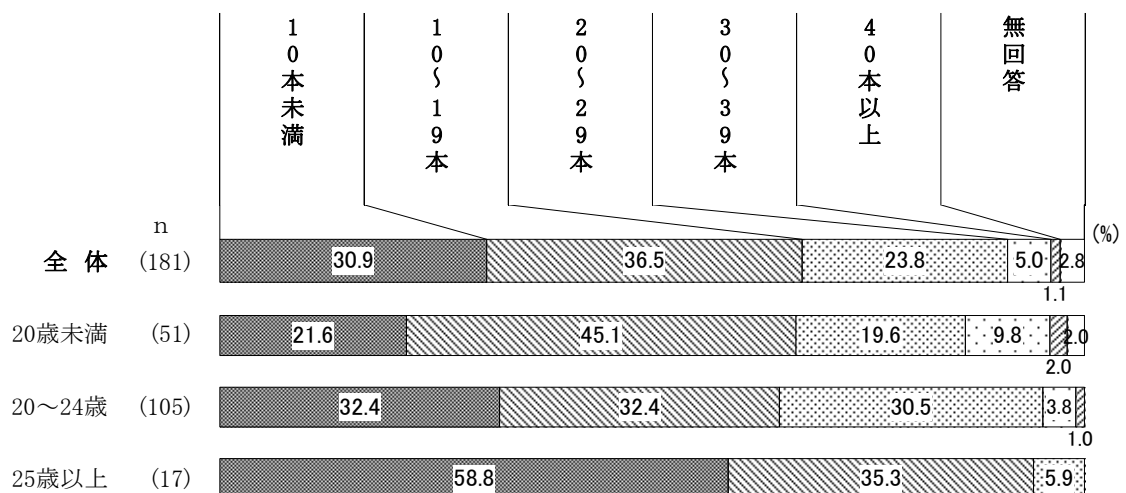
問22で「吸っている」と答えた人のみ

付問22-2 1日の平均本数を教えてください。

たばこを「吸っている」人に、1日の平均喫煙本数を聞いたところ、「10～19本」が36.5%で最も高く、次いで「10本未満」(30.9%)となっている。

喫煙開始年齢別でみると、20歳未満では「10～19本」が高く、また、25歳以上で吸い始めた人ではほとんどが19本までである。

〈 喫煙開始年齢／1日の平均喫煙本数 〉



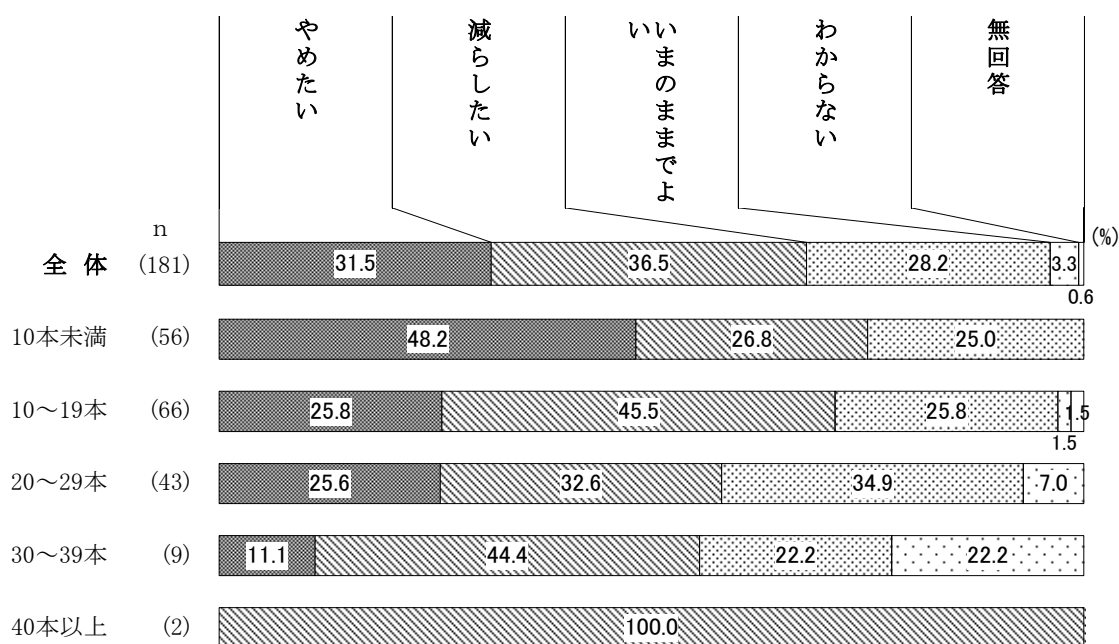
問22で「吸っている」と答えた人のみ

付問22-3 今後、たばこをやめたい・減らしたいと思いますか。(○は1つだけ)

たばこを「吸っている」人に禁煙・節煙の意向を聞くと、「やめたい」と「減らしたい」を合わせて68.0%となっている。一方、「いまのままでよい」は28.2%となっている。

1日の平均喫煙本数別でみると、10本未満の人では「やめたい」が48.2%を占めている。一方、10～19本、30～39本では「減らしたい」が4割を超えている。また、20～29本の人では「いまのままでよい」が34.9%を占めている。

〈 1日の平均喫煙本数／今後の禁煙・節煙の意向 〉



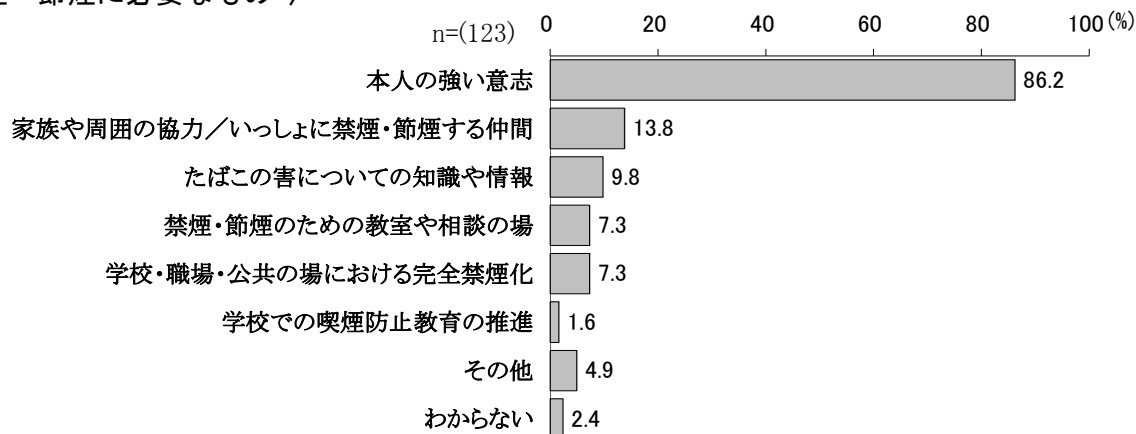
付問22-3で「やめたい」「減らしたい」と答えた人のみ

付問22-3-1 あなたは、禁煙・節煙するとしたら、何が必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

たばこを「やめたい」「減らしたい」という人に、禁煙・節煙に必要なことを聞いたところ、「本人の強い意志」が86.2%で最も高く、以下「家族や周囲の協力／いっしょに禁煙・節煙する仲間」(13.8%)、「たばこの害についての知識や情報」(9.8%)の順で続いている。

〈 禁煙・節煙に必要なもの 〉



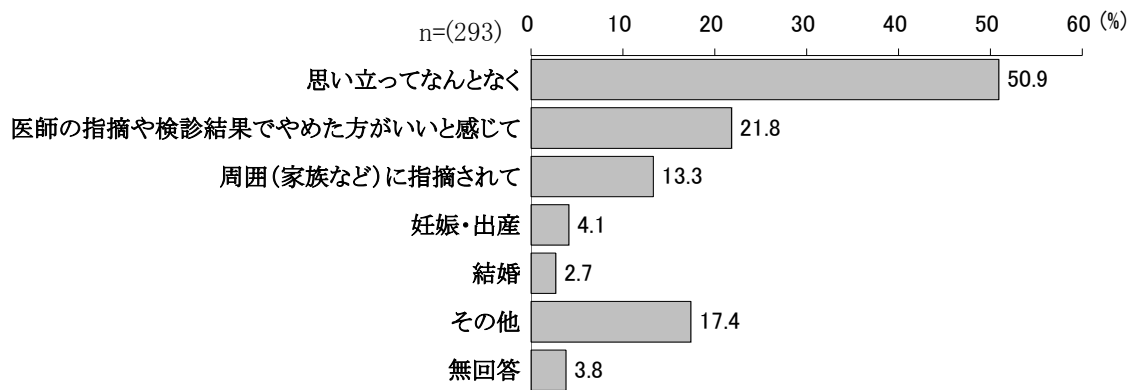
問22で「以前吸っていたがやめた」と答えた人のみ

付問22-4 やめた理由は何ですか。(〇はいくつでも)

たばこを「以前吸っていたがやめた」という人に、その理由を聞いたところ、「思い立ってなんとなく」が50.9%で最も高く、以下「医師の指摘や検診結果でやめた方がいいと感じて」(21.8%)、「周囲(家族など)に指摘されて」(13.3%)の順で続いている。

性別でみると、男性では「医師の指摘や検診結果でやめた方がいいと感じて」が24.4%と女性(13.4%)より高くなっている。また、女性で「妊娠・出産」でやめた人は13.4%となっている。

〈性別／喫煙をやめた理由〉



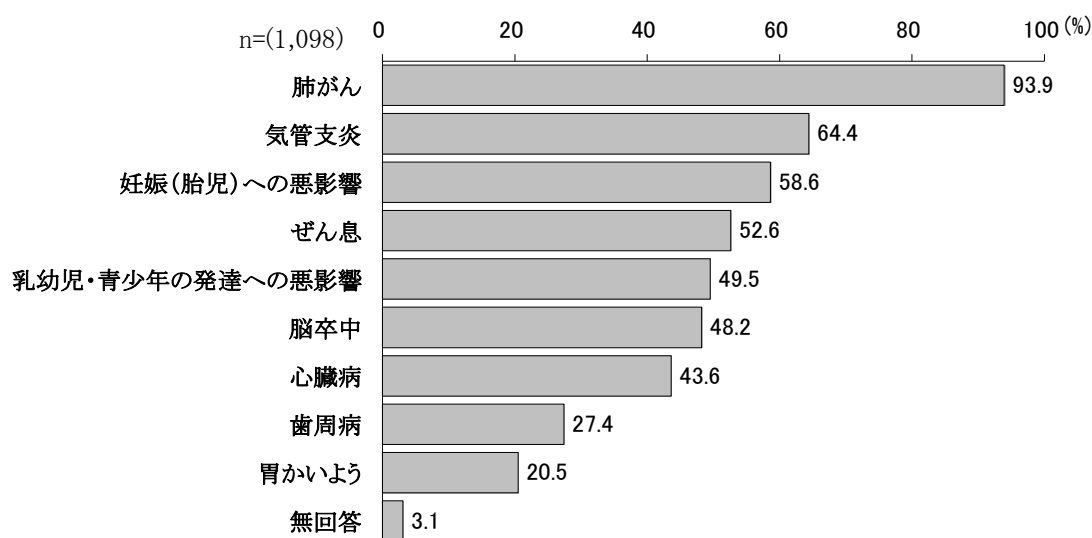
	結婚	妊娠・出産	周囲(家族など)に指摘されて	医師の指摘や検診結果でやめた方がいいと感じて	思い立ってなんとなく	その他	無回答
全 体 (n=293)	2.7	4.1	13.3	21.8	50.9	17.4	3.8
男性 (n=225)	1.8	1.3	12.4	24.4	52.0	19.1	3.1
女性 (n=67)	6.0	13.4	16.4	13.4	47.8	11.9	4.5

(2) 禁煙と疾病と関係

問23 次の病気のうち、たばこを吸うことでかかりやすくなると、あなたが思う病気を選んでください。(〇はいくつでも)

喫煙によってかかりやすくなると思う病気としては、「肺がん」が93.9%で最も高く、以下「気管支炎」(64.4%)、「妊娠(胎児)への悪影響」(58.6%)、「ぜん息」(52.6%)の順で続いている。

〈 たばこを吸うことでかかりやすくなると思う病気 〉

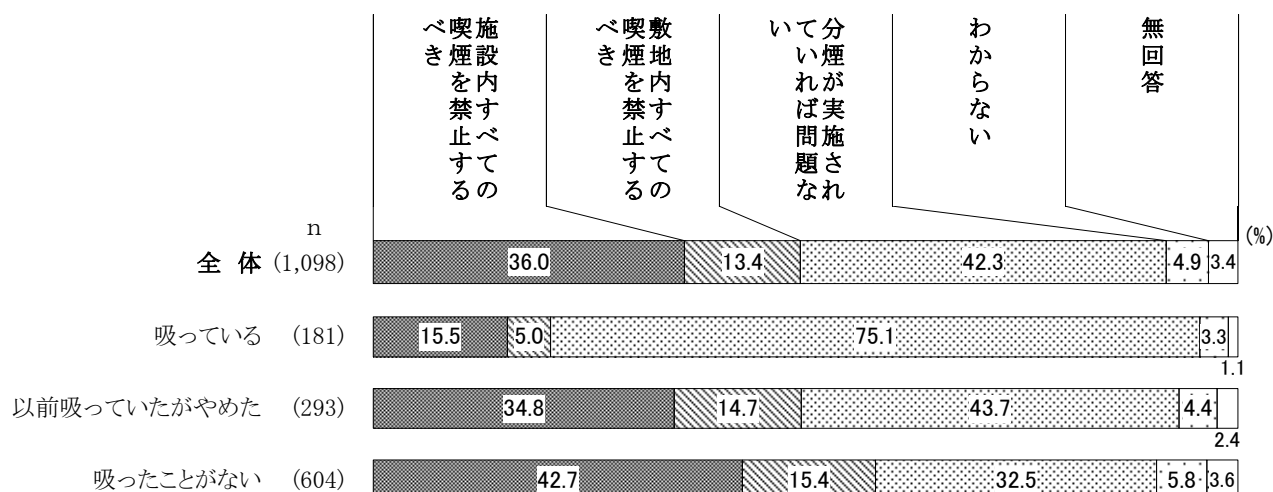


(3) 公共の場での受動喫煙防止義務についての考え

問24 駅、学校、病院、路上といった公共の場での受動喫煙防止義務(室内又はこれに準ずる環境において、他人のたばこの煙を吸わされること)について、あなたの考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください。(〇は1つだけ)

公共の場での受動喫煙防止義務については「分煙が実施されていけば問題ない」が42.3%を占めているが、その一方「施設内すべての喫煙を禁止すべき」が36.0%、「敷地内すべての喫煙を禁止すべき」が13.4%となっている。

〈 喫煙経験／公共の場での受動喫煙防止義務についての考え 〉



7. アルコール

(1) 飲酒状況

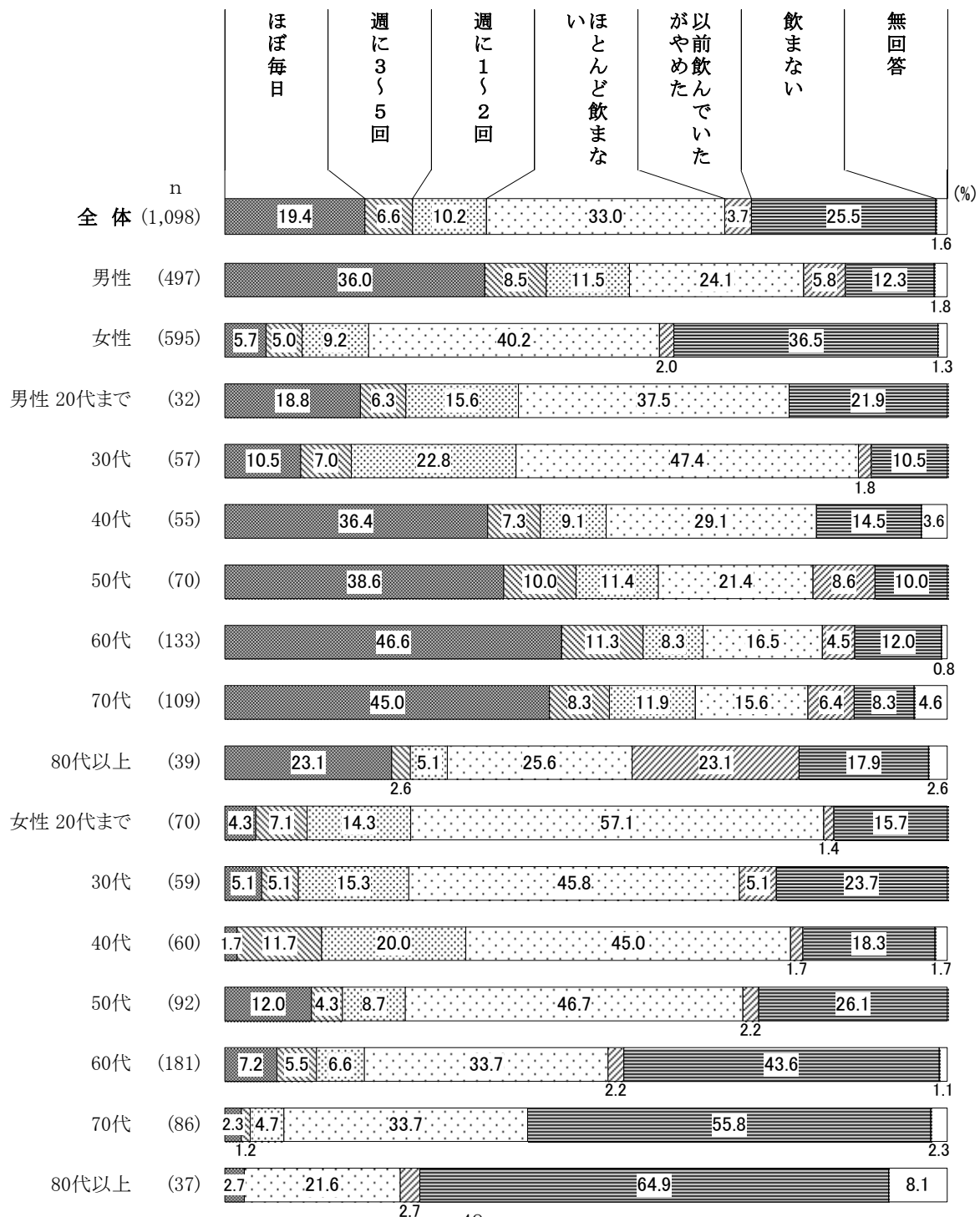
問25 あなたは、アルコールを飲みますか。(○は1つだけ)

アルコールは「ほぼ毎日」飲むが19.4%となっている。一方、「飲まない」は25.5%である。

性別では、男性では「ほぼ毎日」が36.0%と女性(5.7%)より高くなっている。一方、女性では「ほとんど飲まない」(40.2%)、「飲まない」(36.5%)が、男性より高くなっている。

性・年齢別でみると、男性では60代、70代で「ほぼ毎日」が4割台半ばを超え他の年代より高くなっている。女性では、30代から50代では「ほとんど飲まない」が4割を超えて高く、60代以上では「飲まない」が増加し、80代以上では64.9%に達している。

〈性別、性・年齢／飲酒頻度〉



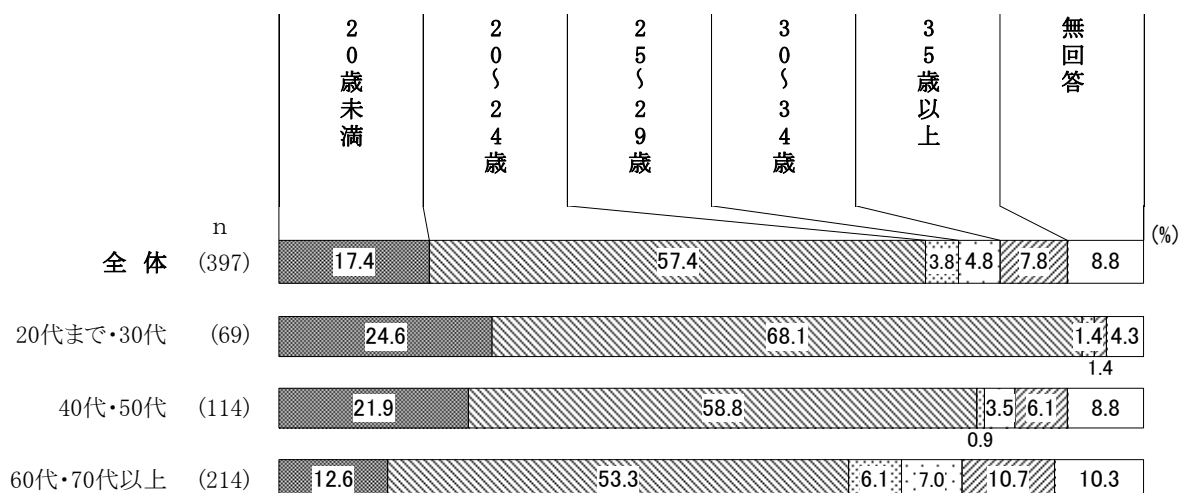
問25で「ほぼ毎日」～「週に1～2回」と回答した人のみ

付問25-1 お酒を飲みはじめたのは、何歳からですか。

飲酒をしている人に、開始年齢を聞くと、「20～24歳」が57.4%と最も高くなっている。

年齢別でみると、50代までで「20歳未満」が20%台と、60代・70代以上より高くなっている。

〈 年齢／飲酒開始年齢 〉



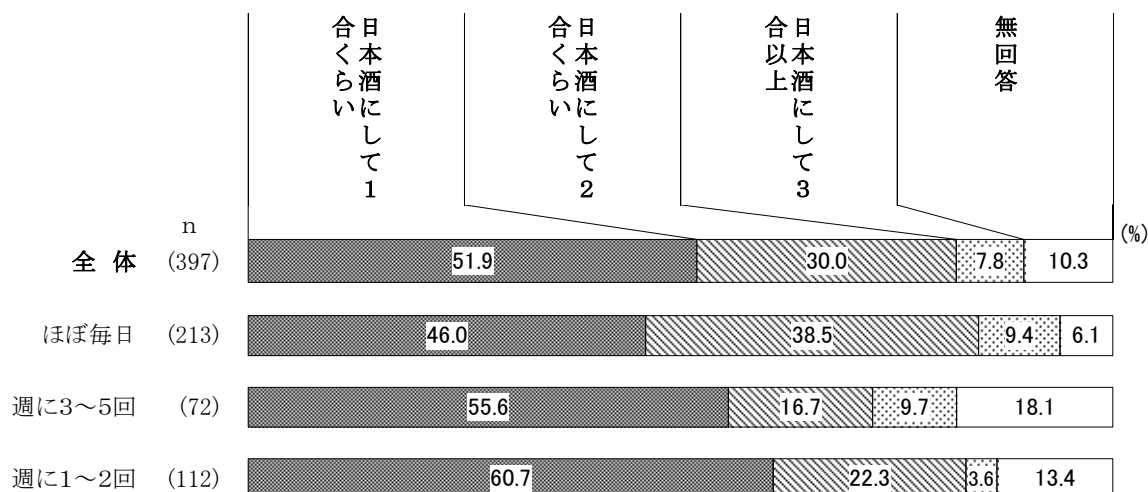
問25で「ほぼ毎日」～「週に1～2回」と回答した人のみ

付問25-2 1日（回）の平均飲酒量を教えてください（〇は1つだけ）

現在飲酒している人に、1日（回）の平均飲酒量を聞くと、「日本酒にして1合くらい」が51.9%で最も高く、次いで「日本酒にして2合くらい」（30.0%）となっている。

飲酒頻度別でみると、ほぼ毎日飲む人では、「日本酒にして2合以上」飲む人が47.9%となっており、飲酒頻度とその量は密接な関係があることがわかる。

〈 飲酒頻度／1日（回）の平均飲酒量 〉



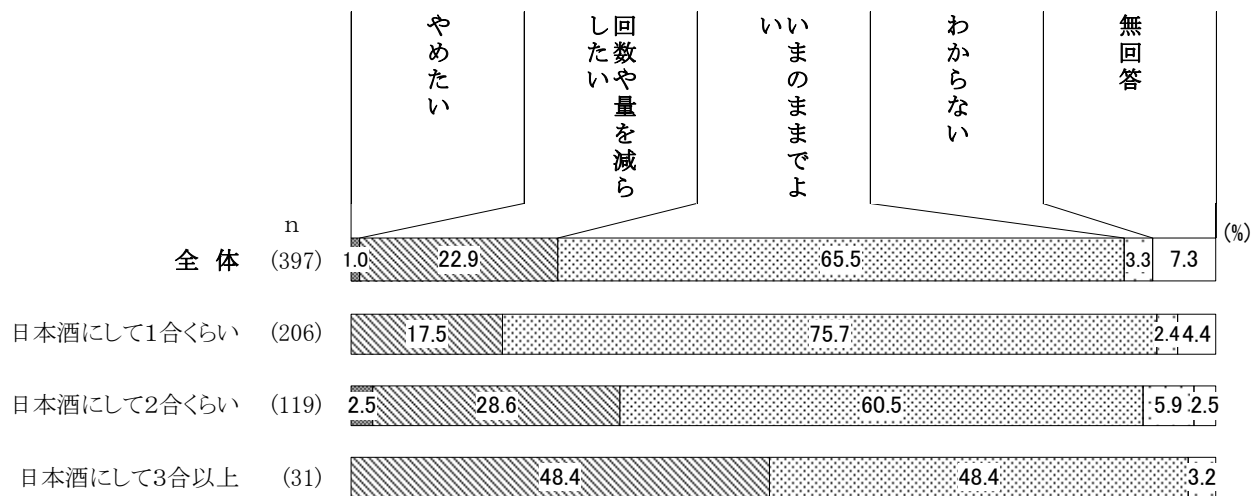
問25で「ほぼ毎日」～「週に1～2回」と回答した人のみ

付問25-3 今後、飲酒をやめたい・回数や量を減らしたいと思いますか。(○は1つだけ)

現在、飲酒している人に、今後の飲酒意向を聞いたところ、「いまのままでよい」が65.5%を占めている。一方、「回数や量を減らしたい」は22.9%、「やめたい」は1.0%となっている。

1日(回)の飲酒量別でみると、飲酒量が「日本酒にして1合くらい」の人は、「いまのままでよい」が75.7%を占めている。また、「日本酒にして3合以上」の人では、「回数や量を減らしたい」と「いまのままでよい」がともに48.4%で二分している。

〈 1日(回)の平均飲酒量／飲酒をやめる・減らす意向 〉



(2) 適度な飲酒についての認識

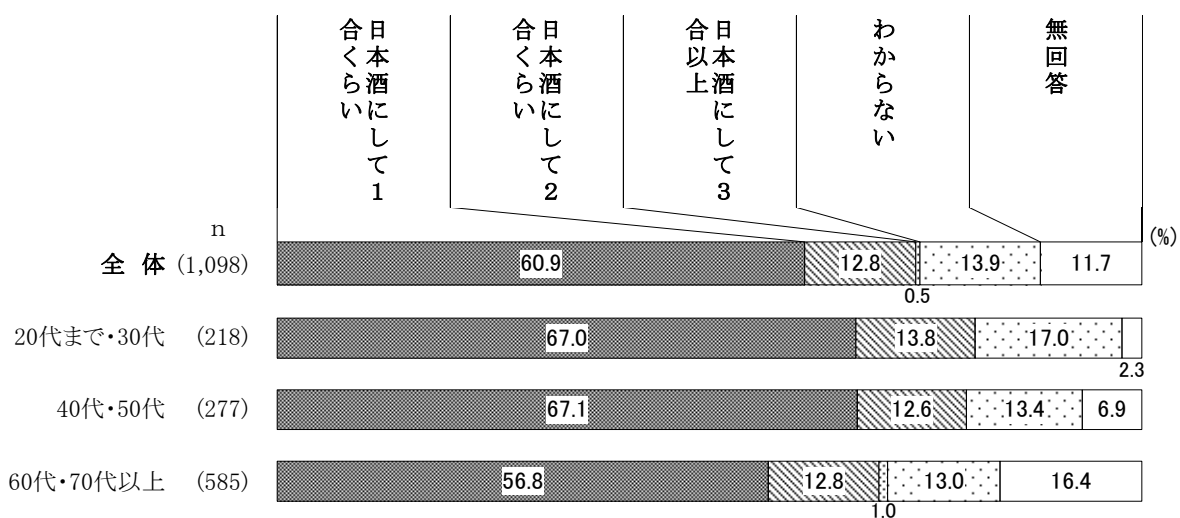
問26 一般的にいわれている「適度な飲酒」とは、1日(回)どれくらいの量だと思いますか。
(〇は1つだけ)

適度な飲酒については「日本酒にして1合くらい」が60.9%を占めている。また、「日本酒にして2合くらい」も12.8%となっている。

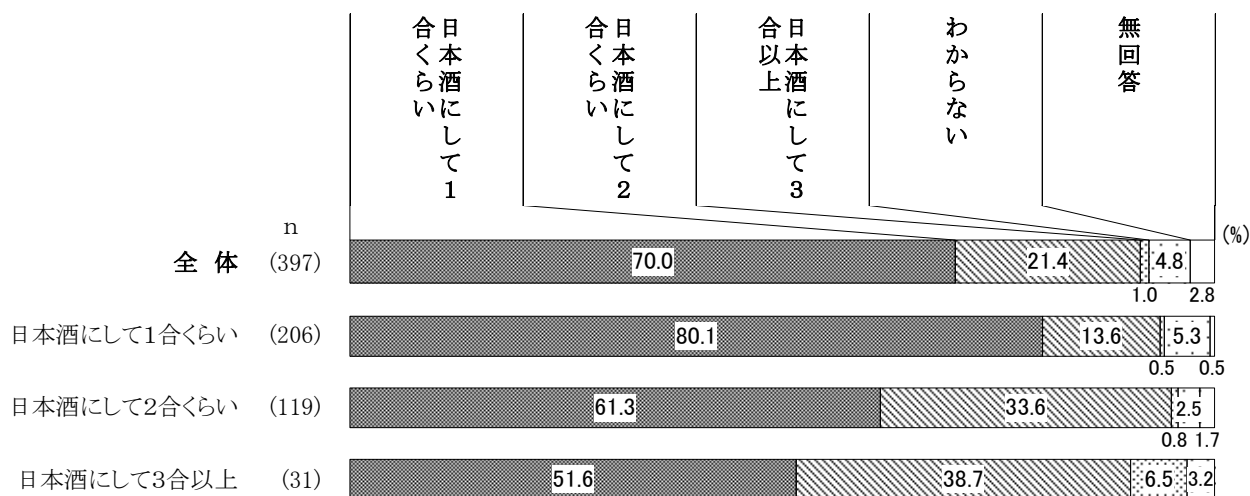
年齢別でみると、20代まで・30代、40代・50代では「日本酒にして1合くらい」が7割近くを占め、他の年代より高くなっている。

1日(回)の飲酒量別でみると、平均飲酒量が多い人ほど『適度な飲酒』の量を多いものとして考えている傾向がみられる。

〈 年齢／適度な飲酒についての認識 〉



〈 1日(回)の平均飲酒量／適度な飲酒についての認識 〉

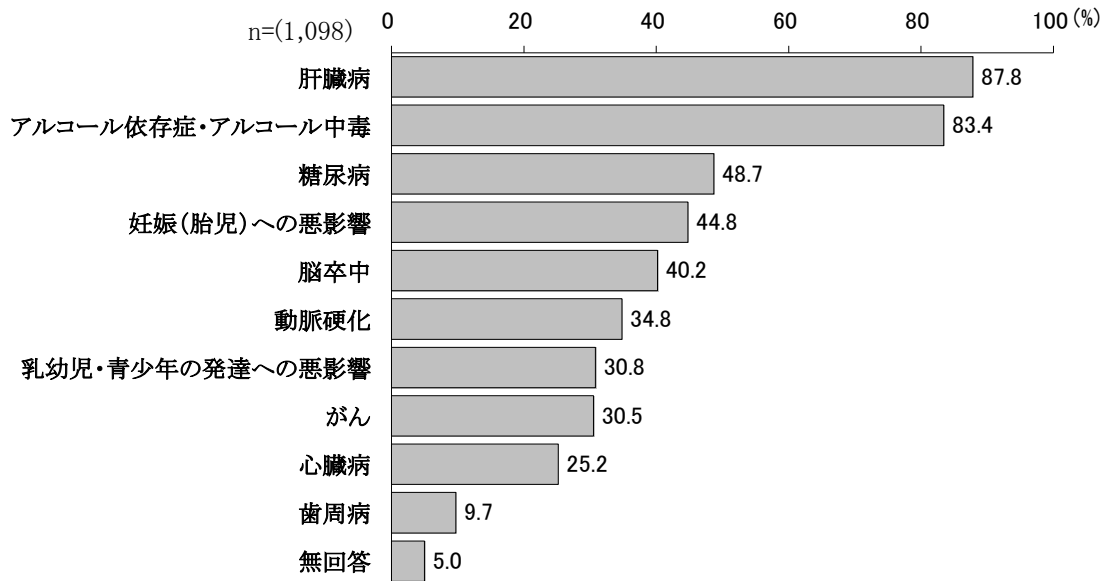


(3) 飲酒と疾病の関係

問27 次の病気のうち、多量の飲酒を長期間することでかかりやすくなると、あなたが思う病気を選んでください。(〇はいくつでも)

長期間の多量飲酒が原因となる病気としては、「肝臓病」(87.8%)と「アルコール依存症・アルコール中毒」(83.4%)の2項目が、いずれも8割を超えて、特に高くなっている。このほか、「糖尿病」(48.7%)、「妊娠(胎児)への悪影響」(44.8%)、「脳卒中」(40.2%)も4割を超えて高くなっている。

〈 長期間の多量飲酒でかかりやすくなると思う病気 〉



8. 歯の健康

(1) 歯の本数

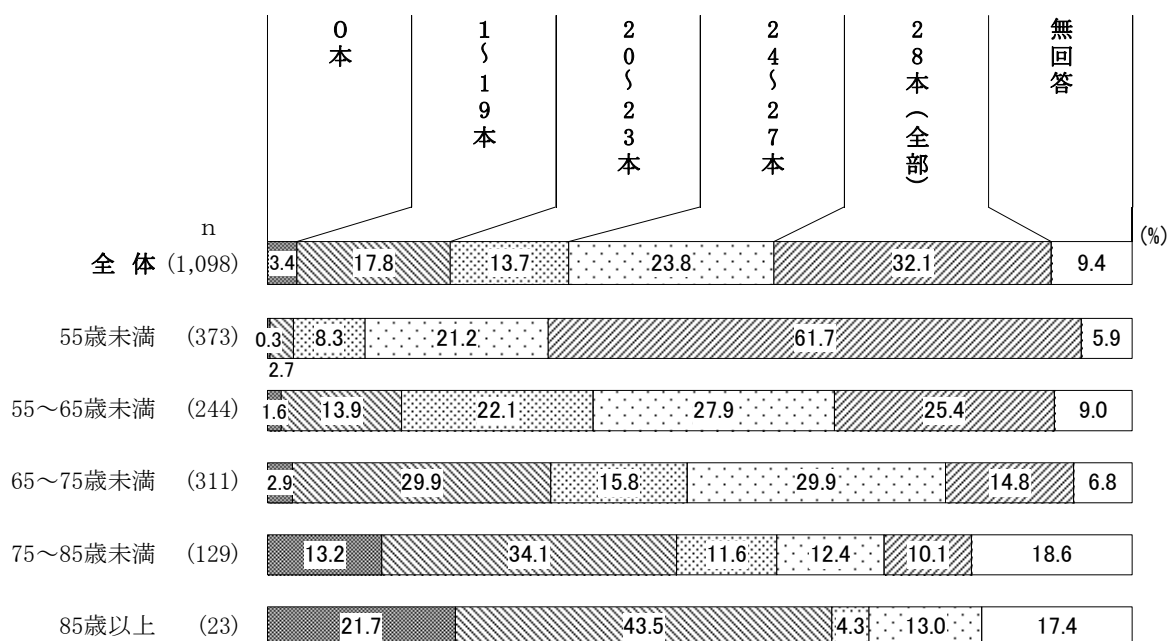
問28 あなたの自分の歯の数は何本ですか。

歯の本数が「28本（全部）」が32.1%と最も高く、以下「24～27本」（23.8%）、「1～19本」（17.8%）の順で続いている。平均本数は22.1本である。

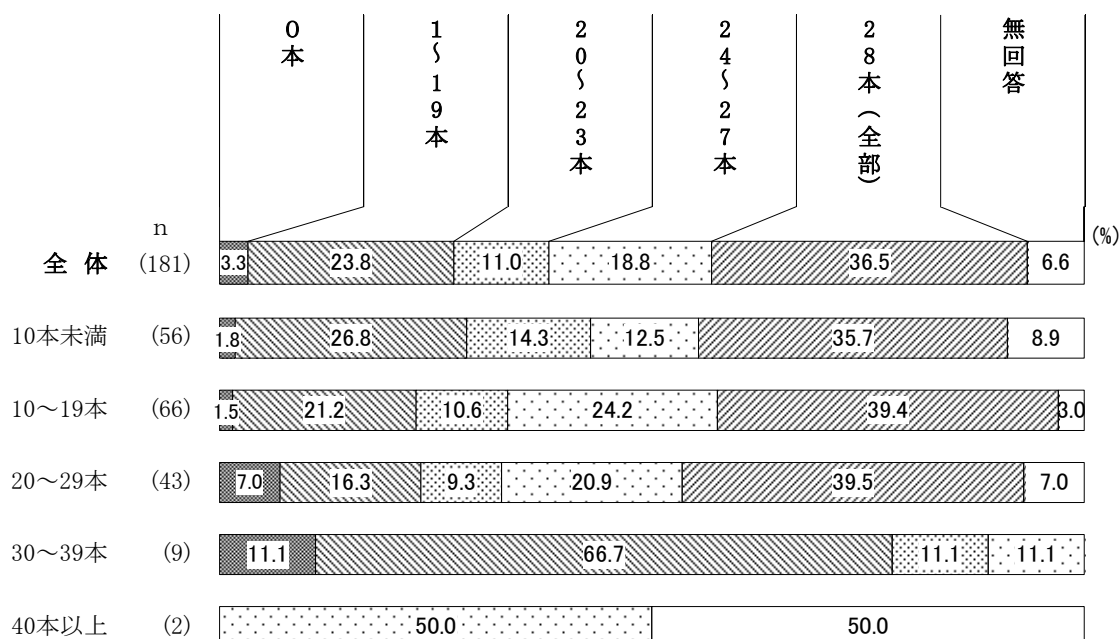
年齢別でみると、55～65歳未満で歯が《24本以上》ある人（6024達成者）は53.3%であり、平成19年の調査結果と比較すると『前回61.7%』から減少している。75～85歳未満で歯が《20本以上》ある人（8020達成者）は34.1%で、19年の調査結果と比較すると『前回31.4%』より増加している。

なお、1日の平均喫煙本数別でみると、今回の結果からは、明確な相関関係はみられなかった。

〈 年齢／歯の本数 〉



〈 1日の平均喫煙本数／歯の本数 〉



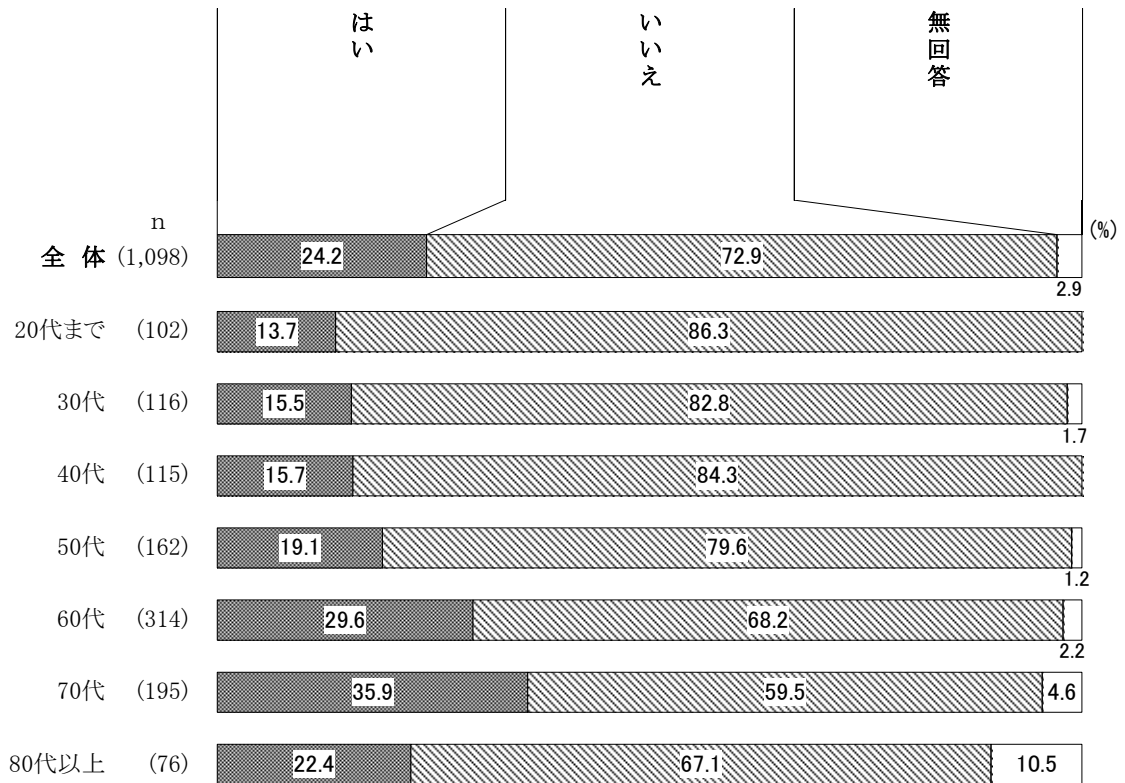
(2) 歯科医院への通院状況

問29 現在、歯科医院に通院していますか。(○は1つだけ)

現在、歯科医院に通院しているかについては、「はい」が24.2%となっている。

年齢別でみると、70代で「はい」が35.9%と他の年代より高くなっている。

〈 年齢／歯科医院への通院状況 〉



(3) 歯や歯ぐきの健康のための取り組み

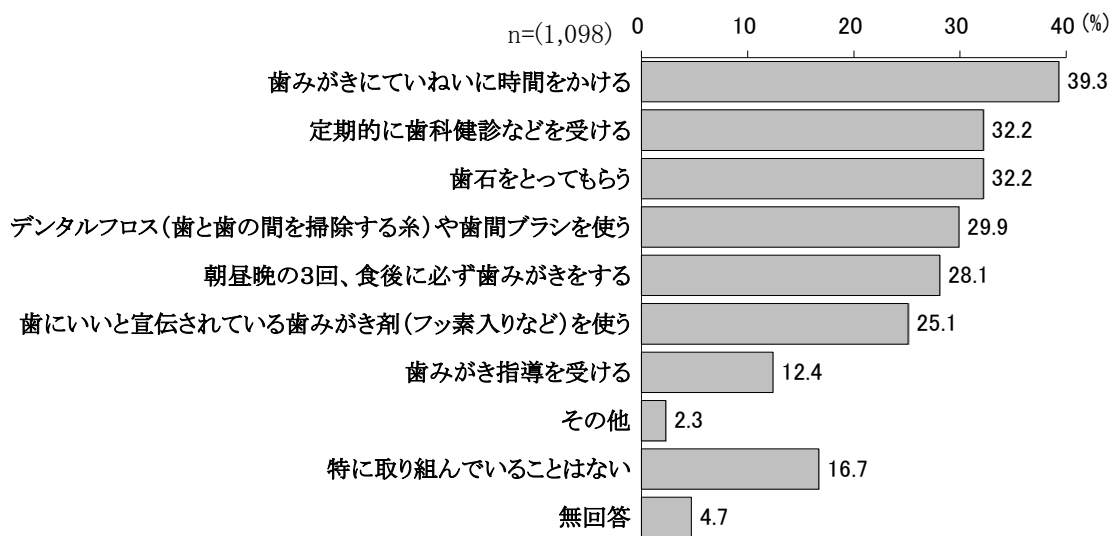
問30 ふだん、歯や歯ぐきの健康のために、どのようなことに取り組んでいますか。

(〇はいくつでも)

歯や歯ぐきの健康のための取り組みとしては、「歯みがきにていねいに時間をかける」が39.3%で最も高く、以下「定期的に歯科健診などを受ける」「歯石をとってもらう」(ともに32.2%)の順で続いている。一方、「特に取り組んでいることはない」は16.7%となっている。

歯の本数別でみると、0本の人では、「特に取り組んでいることはない」が29.7%となっている。

〈 歯の本数／歯や歯ぐきの健康のための取り組み 〉



	定期的に 歯科健診など を受ける	歯石を とってもら う	歯 みがき 指導を受 ける	デンタル フロス(歯 と歯の 間に 掃除する 糸)や 歯間 ブラシを 使う	朝昼晩 の3回、 食後に 必ず 歯みが きをする	歯 みがき にてい ねいに 時間 をかける	歯 にいい と宣伝 されて いる 歯みが き剤(フ ッ素 入りな ど)を使 う	その他	特に 取り組 んでい るこ とは ない	無 回 答
全 体 (n=1,098)	32.2	32.2	12.4	29.9	28.1	39.3	25.1	2.3	16.7	4.7
0本 (n=37)	8.1	-	-	-	10.8	5.4	-	8.1	29.7	37.8
1～19本 (n=195)	32.3	28.2	13.3	23.6	22.6	30.3	21.0	3.1	24.6	5.6
20～23本 (n=150)	40.7	40.7	16.7	36.7	34.7	32.7	30.0	1.3	16.7	0.7
24～27本 (n=261)	39.1	39.8	14.6	39.5	26.4	48.7	31.0	1.9	8.8	-
28本 (全部) (n=352)	29.3	32.1	10.5	29.3	30.7	47.4	25.9	1.7	17.0	1.4

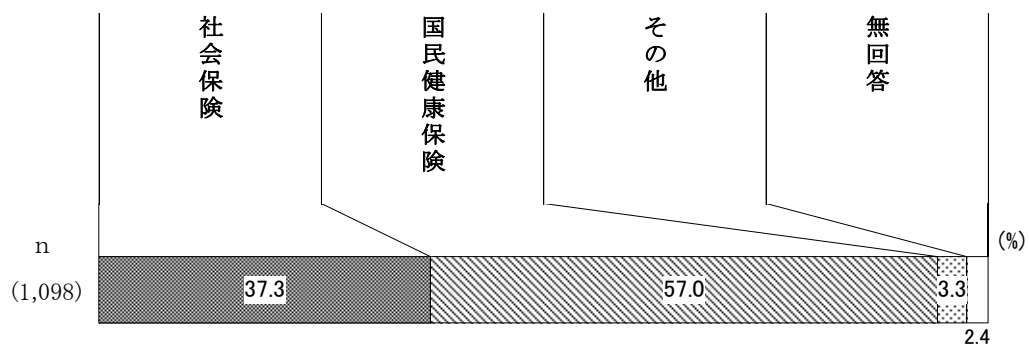
9. 生活習慣病

(1) 保険の種類

問31 あなたの保険の種類を教えてください。

保険の種類は「社会保険」が37.3%、「国民健康保険」が57.0%となっている。

〈 保険の種類 〉



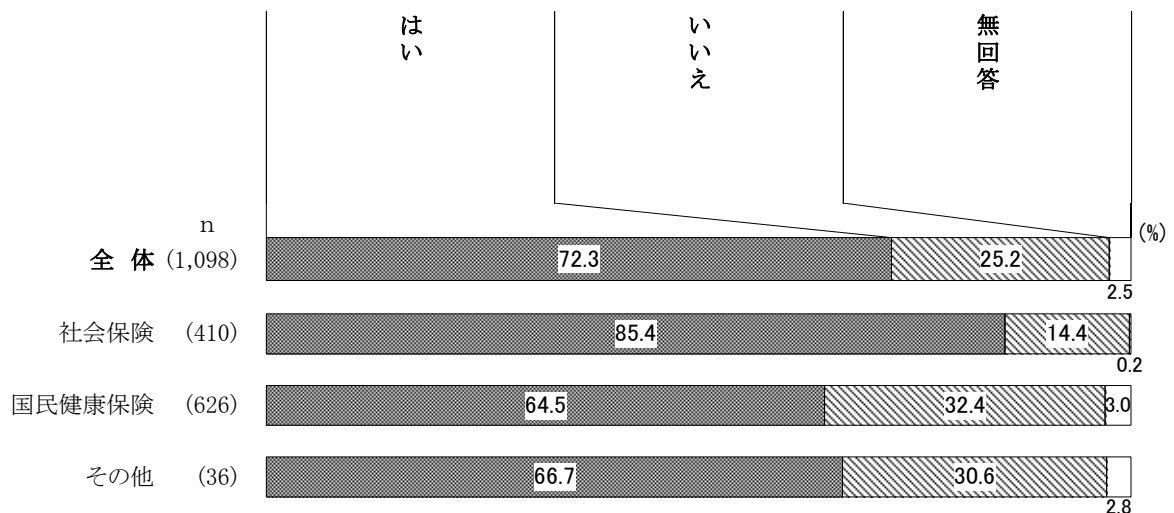
(2) 健康診断や健康診査の受診状況

問32 あなたはこの1年間に健康診断や健康診査を受けましたか。

健康診断・健康診査を受けたかについて「はい」は72.3%となっている。

保険の種類別でみると、社会保険では85.4%、国民健康保険では64.5%となっている。

〈 保険の種類／健康診断・健康診査の受診の有無 〉



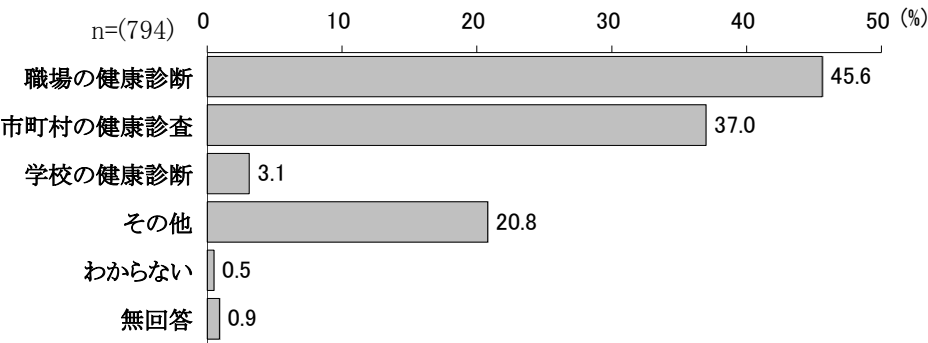
問32で「はい」と回答した人のみ

付問32－1 健康診断や健康診査の種類を教えてください。

受診した健康診断・健康診査の種類としては、「職場の健康診断」が45.6%で最も高く、次いで「市町村の健康診査」(37.0%)となっている。

保険の種類別でみると、社会保険では「職場の健康診断」が80.0%と高く、国民健康保険では、「市町村の健康診査」が58.7%で高くなっている。

＜ 保険の種類／受診した健康診断・診査の種類 ＞



	職場の健康診断	市町村の健康診査	学校の健康診断	その他	わからない	無回答
全 体 (n=794)	45.6	37.0	3.1	20.8	0.5	0.9
社会保険 (n=350)	80.0	10.9	3.1	13.7	0.3	0.6
国民健康保険 (n=404)	17.6	58.7	2.5	26.7	0.7	1.2
その他 (n=24)	29.2	41.7	12.5	29.2	-	-

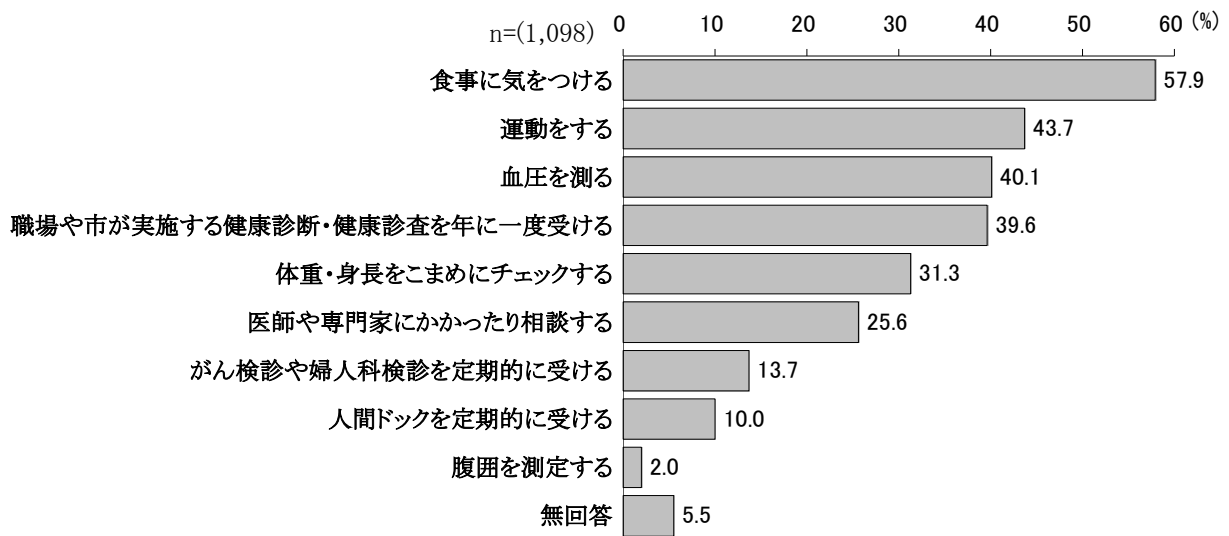
(3) 生活習慣病予防のためのこころがけ

問33 生活習慣病予防のために、心がけていることは何ですか。(〇はいくつでも)

生活習慣病予防のためにこころがけていることとしては、「食事に気をつける」が57.9%で最も高く、以下「運動をする」(43.7%)、「血圧を測る」(40.1%)、「職場や市が実施する健康診断・健康診査を年に一度受ける」(39.6%)の順で続いている。

生活習慣への認識別でみると、よい、まあよい、という人では、予防についてのこころがけをしている人が多くなる傾向がある。

〈 自分のふだんの生活習慣についての認識／生活習慣病予防のためのこころがけ 〉



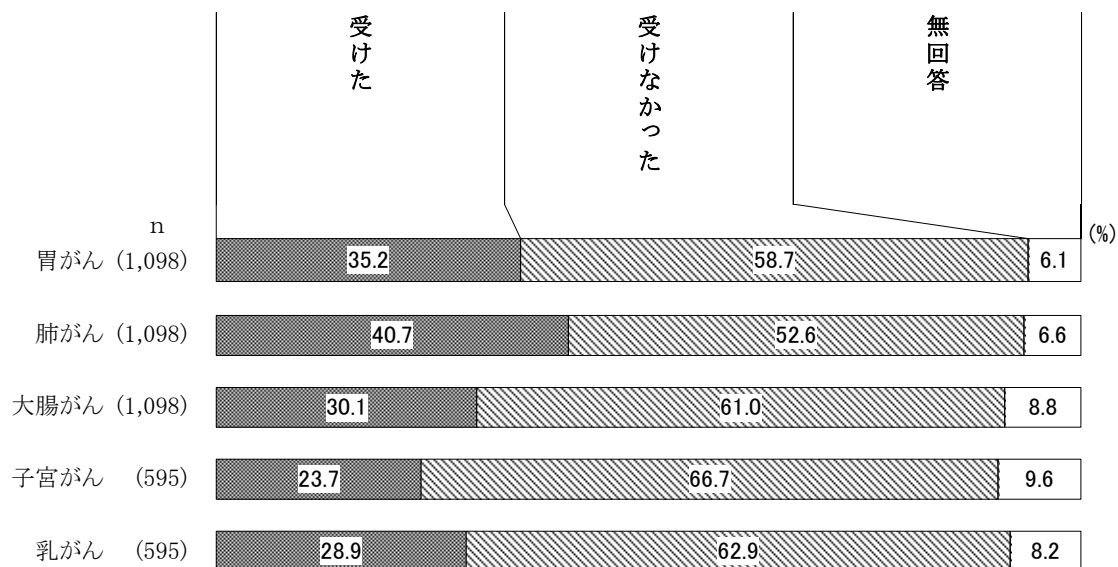
	血圧を測る	体重・身長をこまめにチェックする	職場や市が実施する健康診断・健康診査を年に一度受ける	がん検診や婦人科検診を定期的に受ける	医師や専門家にかかったり相談する	人間ドックを定期的に受ける	腹囲を測定する	食事に気をつける	運動をする	無回答
全 体 (n=1,098)	40.1	31.3	39.6	13.7	25.6	10.0	2.0	57.9	43.7	5.5
よい (n=131)	44.3	33.6	36.6	16.8	26.0	10.7	1.5	67.2	58.8	3.8
まあよい (n=643)	44.6	33.7	40.9	16.0	27.8	10.6	2.0	63.1	47.7	2.5
あまりよくない (n=282)	30.1	26.2	38.7	8.2	21.3	8.5	2.1	44.3	30.5	11.0
よくない (n=35)	22.9	17.1	28.6	5.7	20.0	8.6	-	40.0	22.9	20.0

(4) がん検診の受診状況

問34 あなたはこの1年間にがん検診を受けましたか。(〇はいくつでも)

受診したがん検診の種類をみると、「肺がん」が40.7%で最も高く、以下「胃がん」(35.2%)、「大腸がん」(30.1%)、「乳がん」(28.9%)、「子宮がん」(23.7%)の順で続いている。

〈がん検診の受診状況〉

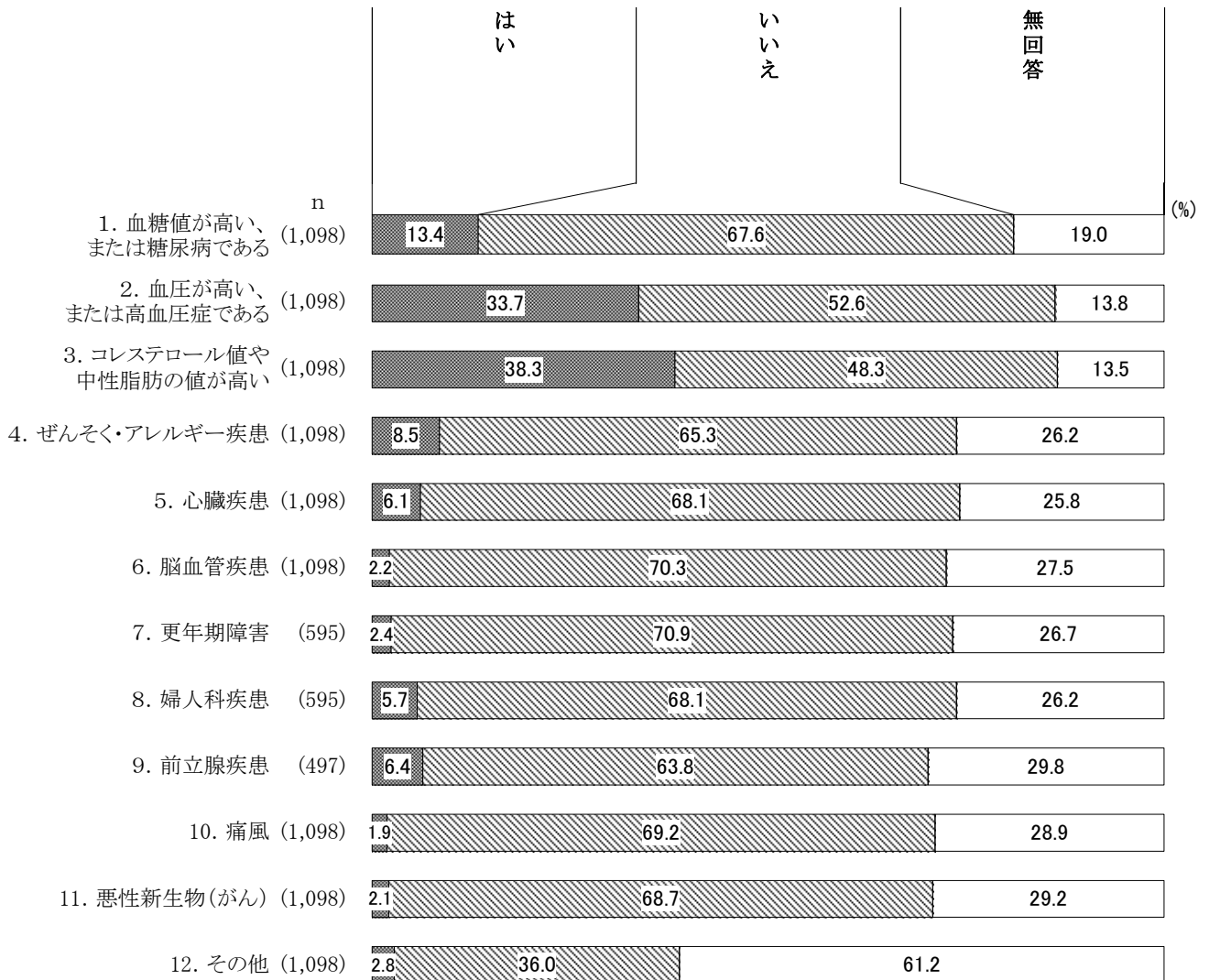


(5) 医師や健康診断の結果による指摘

問35 あなたは、これまでに医師や健康診断の結果などから、次のようなことをいわれたことがありますか。(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

医師や健康診断の結果から指摘を受けたこととしては、「コレステロール値や中性脂肪の値が高い」が38.3%で最も高く、以下「血圧が高い、また高血圧症である」(33.7%)、「血糖値が高い、または糖尿病である」(13.4%)の順で続いている。

〈 医師からの所見・健康診断結果 〉



問35の1～3で「はい」と回答した人のみ

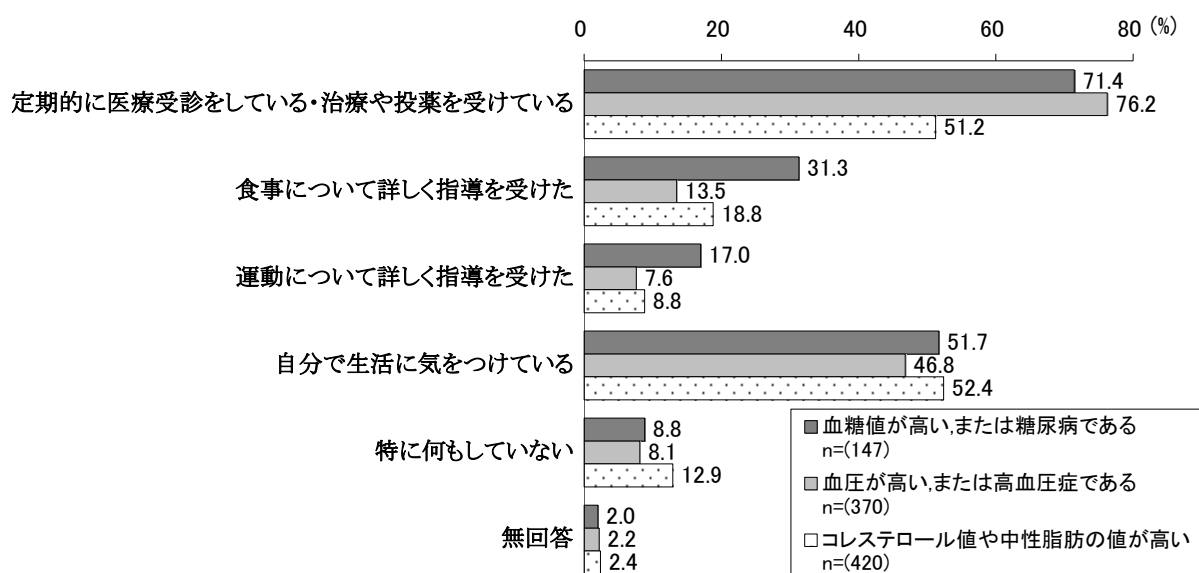
付問35－1 どのような対応をしましたか。(〇はいくつでも)

医師からの所見・健康診断結果への対応としては、「血糖値が高い、または糖尿病である」と言われた人では、「定期的に医療受診をしている・治療や投薬を受けている」が71.4%で最も高く、次いで「自分で生活に気をつけている」(51.7%)となっている。また、「食事について詳しく指導を受けた」という人も31.3%を占めている。

血圧が高い、または高血圧症であると言われた人では、「定期的に医療受診をしている・治療や投薬を受けている」が76.2%で最も高く、次いで「自分で生活に気をつけている」(46.8%)となっている。

「コレステロール値や中性脂肪の値が高い」と言われた人では、「定期的に医療受診をしている・治療や投薬を受けている」(51.2%)と「自分で生活に気をつけている」(52.4%)が高くなっている。

〈 医師からの所見・健康診断結果への対応 〉

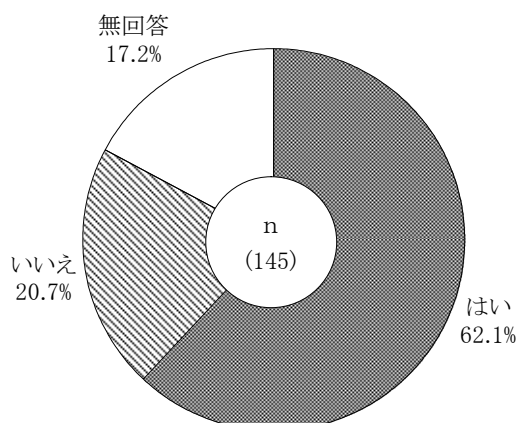


問35－1で2、3と回答した人に

付問35－1－1 指導を受けて生活が改善しましたか。

食事・運動についての指導を受けた人のうち、改善したかについて「はい」という人は62.1%となっている。

〈 指導を受けての生活改善 〉

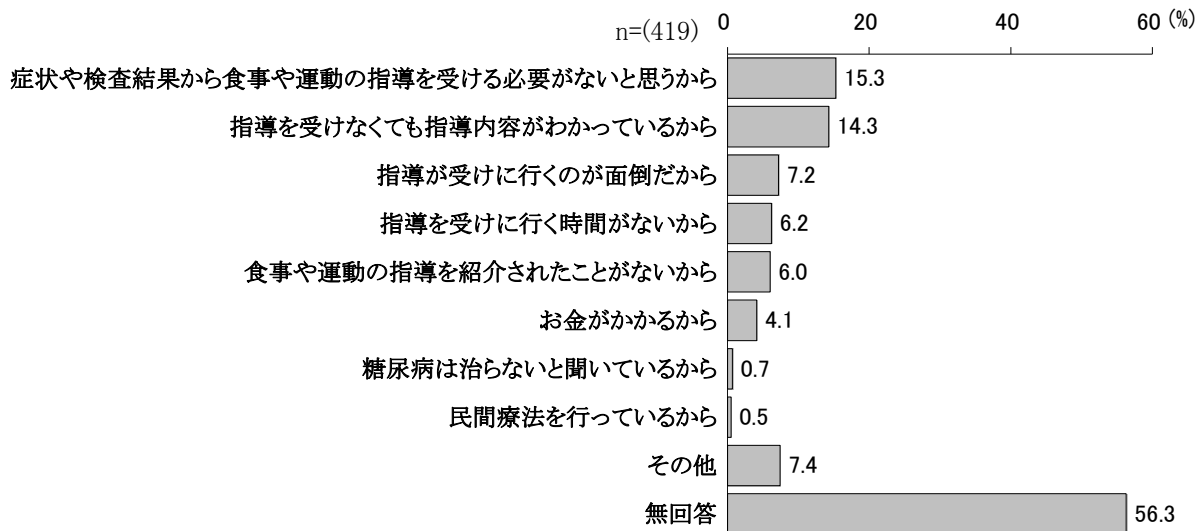


付問35-1で4、5と回答した人に

付問35-1-2 指導を受けていない理由を選んでください。(〇はいくつでも)

医師から何らかの指摘を受けながら、「特に何もしていない」「自分で生活に気をつけている」という人に、その理由を聞いたところ「病状や検査結果から食事や運動の指導を受ける必要がないと思うから」(15.3%)、「指導を受けなくても指導内容がわかっているから」(14.3%)がやや高くなっている。

〈 指導を受けていない理由 〉



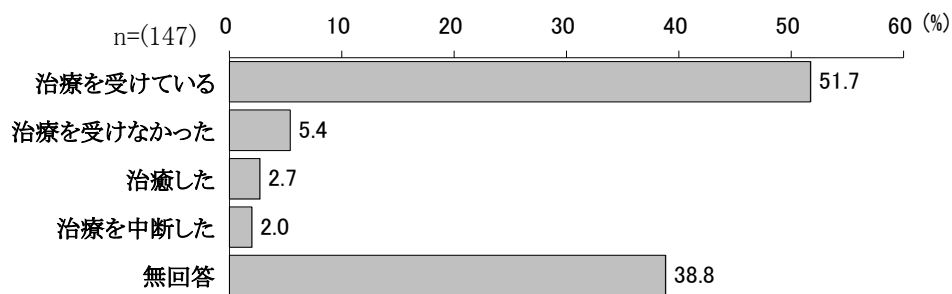
糖尿病と診断された人のみ

付問35-1-3 現在、治療（食事・運動療法を含む）を受けていますか。

(〇はいくつでも)

糖尿病と診断された人のうち、「治療を受けている」人は51.7%となっている。一方、「治療を受けなかった」は5.4%である。

〈 糖尿病の治療を受けているか 〉



付問35－1－3で「治療を中断した」と回答した人のみ

付問35－1－3－1 糖尿病の治療を中断した理由を選んでください。(○はいくつでも)

糖尿病の「治療を中断した」という人に、その理由を聞いたところ、3人のうち「自覚症状がないから」「以前より検査値がよくなったから」「運動療法が面倒だから」がそれぞれ1人となっている。

付問35－1－3で「治療を受けなかった」と回答した人のみ

付問35－1－3－2 糖尿病の治療を受けなかった理由を選んでください。(○はいくつでも)

糖尿病の「治療を受けなかった」という人に、その理由を聞いたところ、8人中5人が「検査値がそれほど悪いと思わなかったから」と回答している。

(6) がん検診を受けなかった理由

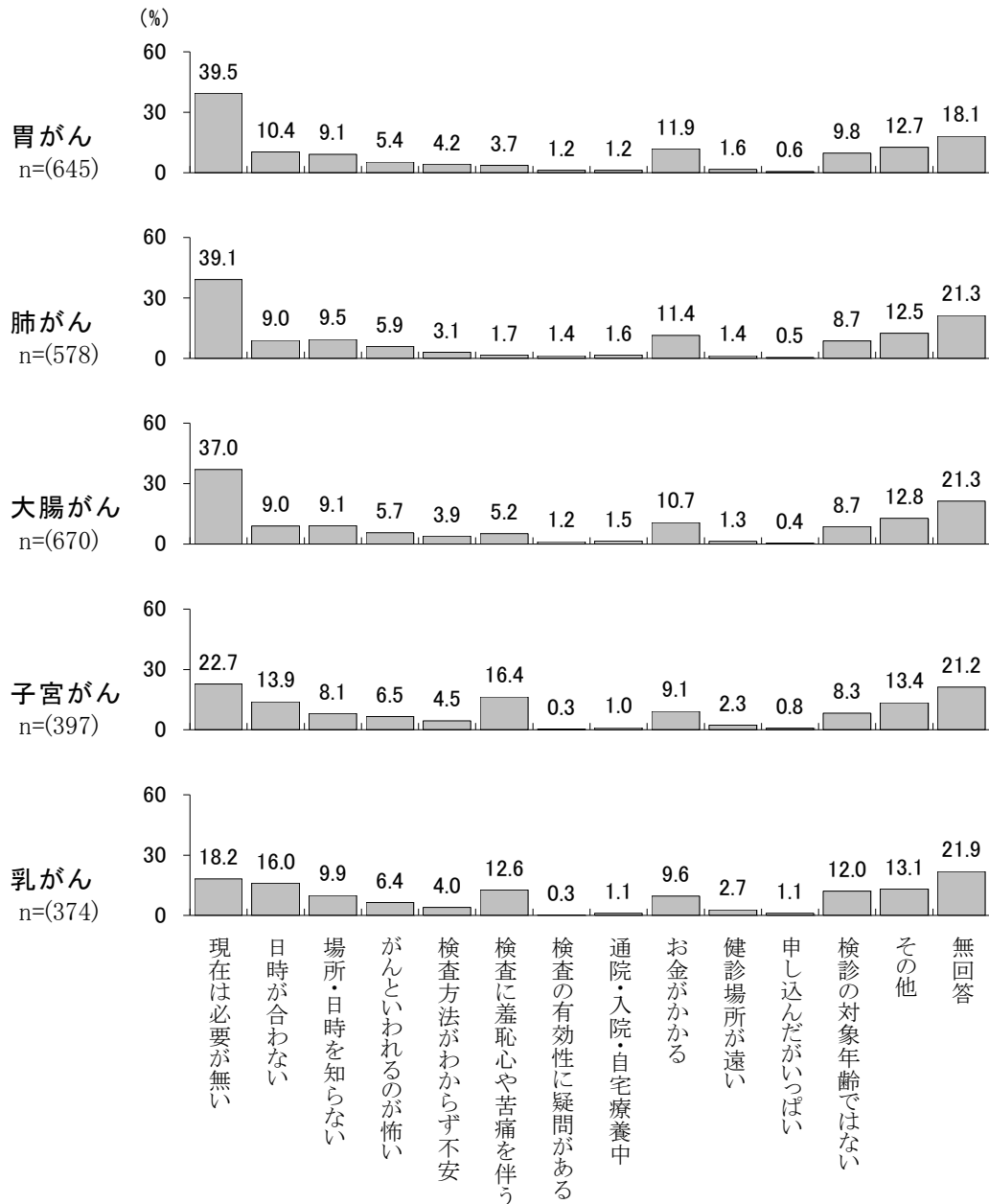
問36 それぞれのがん検診について、検診を受けなかった理由を選んでください。

(○はいくつでも)

がん検診を受けなかった理由としては、各がん検診とも、「現在は必要がない」が最も高く、これ以外では「お金がかかる」「日時が合わない」「場所・日時を知らない」等も高くなっている。

また、子宮がん・乳がんについては「検査に羞恥心や苦痛を伴う」が1割以上を占めている。

〈 がん検診を受けなかった理由 〉



(7) 市の実施する保健サービスの認知・利用状況

問37 あなたは、市が健康づくりのために実施している次のような保健サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。

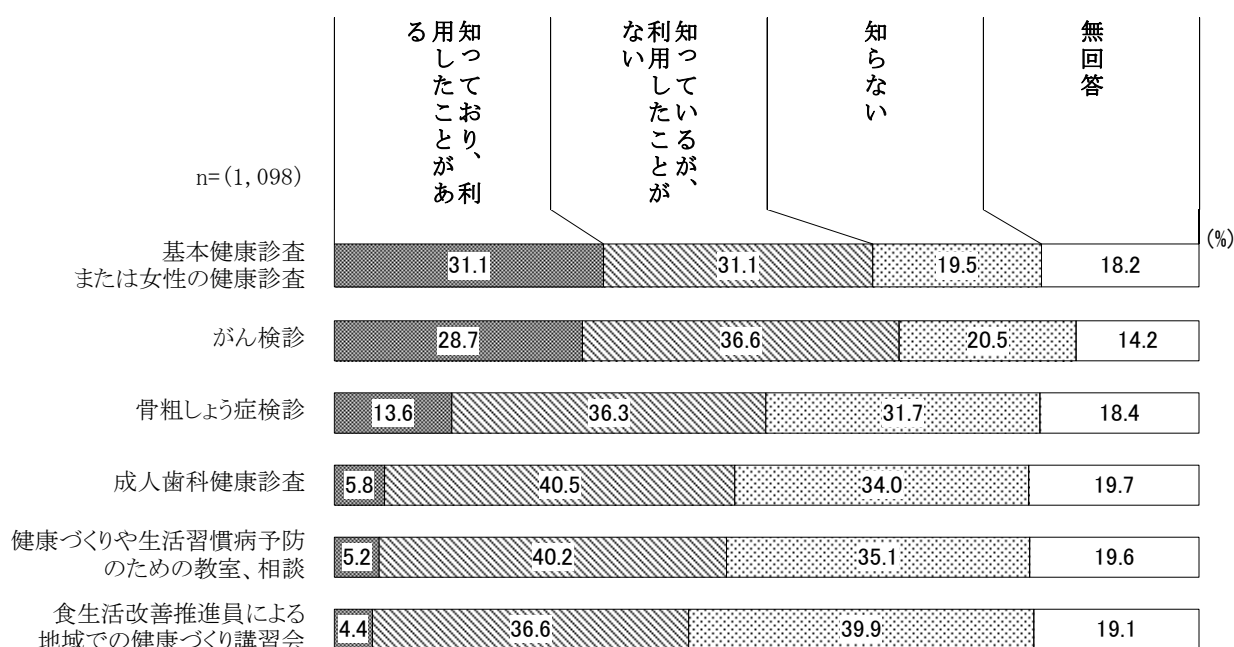
(それぞれの保健サービスについて、当てはまる番号1つだけに○)

市が実施している保健サービスの認知・利用状況を見ると、「知っており、利用したことがある」は、〈基本健康診査または女性の健康診査〉が31.1%で最も高く、以下〈がん検診〉(28.7%)、〈骨粗しょう症〉(13.6%)の順で続いている。

また、いずれのサービスについても、「知っているが、利用したことがない」が3割から4割を占めている。

〈食生活改善推進員による地域での健康づくり講演会〉については、「知らない」が39.9%と高くなっている。

〈市が実施している保健サービスの認知・利用について〉



問37で「知っているが利用したことがない」が1つでもある人のみ

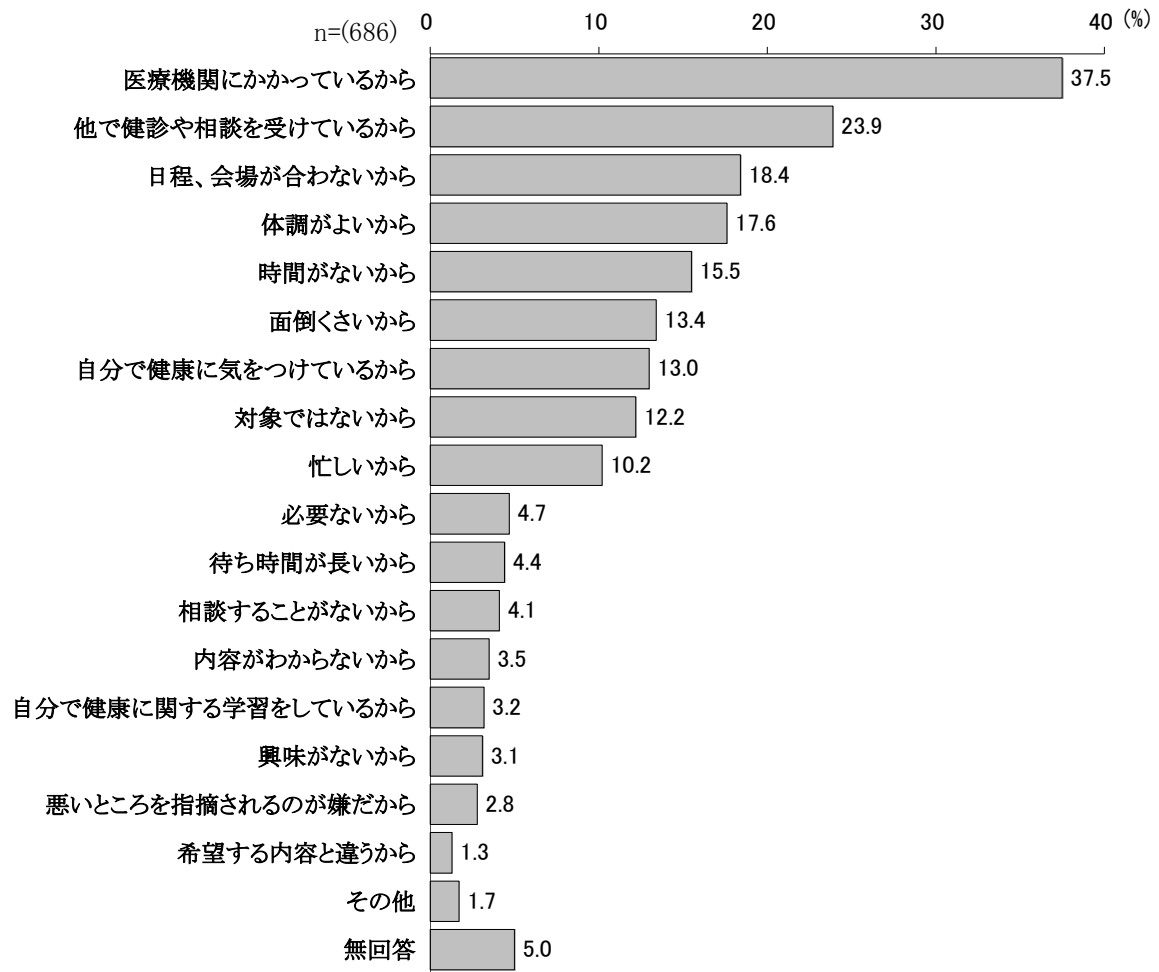
付問37-1 その理由を教えてください。(○はいくつでも)

市が実施している保健サービスを「知っているが、利用したことがない」という人に、その理由を聞いたところ、「医療機関にかかっているから」が37.5%で最も高く、以下「他で健診や相談を受けているから」(23.9%)、「日程、会場が合わないから」(18.4%)、「体調がよいから」(17.6%)の順で続いている。

性別でみると、男性では「医療機関にかかっているから」が40.4%と女性(35.5%)より高くなっている。

年齢別でみると、20代まで、30代では「対象ではないから」「時間がないから」「日程、会場が合わないから」等が高くなっているが、年齢とともに「医療機関にかかっているから」が増加し、80代以上では67.7%に達している。

〈 性別、年齢／知っているが利用した事のない理由 〉



	対象ではないから	体調がよいから	医療機関にかかっているから	自分で健康に気をつけているから	自分で健康に関する学習をしているから	他で健診や相談を受けているから	相談することがないから	待ち時間が長いから	悪いところを指摘されるのが嫌だから	面倒くさいから	時間がないから	日程、会場が合わないから	忙しいから	内容がわからないから	興味がないから	必要ないから	希望する内容と違うから	その他	無回答
全 体 (n=686)	12.2	17.6	37.5	13.0	3.2	23.9	4.1	4.4	2.8	13.4	15.5	18.4	10.2	3.5	3.1	4.7	1.3	1.7	5.0
男性 (n=272)	14.0	20.2	40.4	15.4	2.9	25.0	3.3	4.4	1.8	15.1	14.0	14.3	8.5	2.9	4.0	7.0	1.1	1.1	5.9
女性 (n=414)	11.1	15.9	35.5	11.4	3.4	23.2	4.6	4.3	3.4	12.3	16.4	21.0	11.4	3.9	2.4	3.1	1.4	2.2	4.3
20代まで (n=38)	28.9	18.4	7.9	2.6	2.6	15.8	5.3	-	2.6	18.4	28.9	21.1	21.1	13.2	5.3	2.6	-	-	5.3
30代 (n=67)	32.8	19.4	11.9	4.5	4.5	17.9	7.5	6.0	1.5	17.9	28.4	32.8	17.9	7.5	4.5	6.0	1.5	4.5	4.5
40代 (n=79)	10.1	19.0	16.5	10.1	2.5	32.9	3.8	5.1	2.5	8.9	29.1	25.3	17.7	-	6.3	7.6	1.3	2.5	5.1
50代 (n=124)	6.5	17.7	25.8	6.5	-	25.8	6.5	5.6	0.8	21.0	20.2	24.2	15.3	4.8	4.0	8.1	2.4	0.8	6.5
60代 (n=231)	8.2	16.0	48.5	15.6	2.6	25.1	3.9	5.2	4.8	10.4	9.5	13.9	6.1	1.7	1.3	3.5	1.3	2.2	4.8
70代 (n=109)	8.3	18.3	59.6	22.9	8.3	23.9	-	1.8	1.8	9.2	3.7	9.2	2.8	2.8	2.8	-	0.9	-	3.7
80代以上 (n=31)	16.1	16.1	67.7	25.8	3.2	12.9	3.2	-	-	16.1	3.2	6.5	-	-	-	6.5	-	-	6.5

10. 子育て

(1) 子育てに関する考え

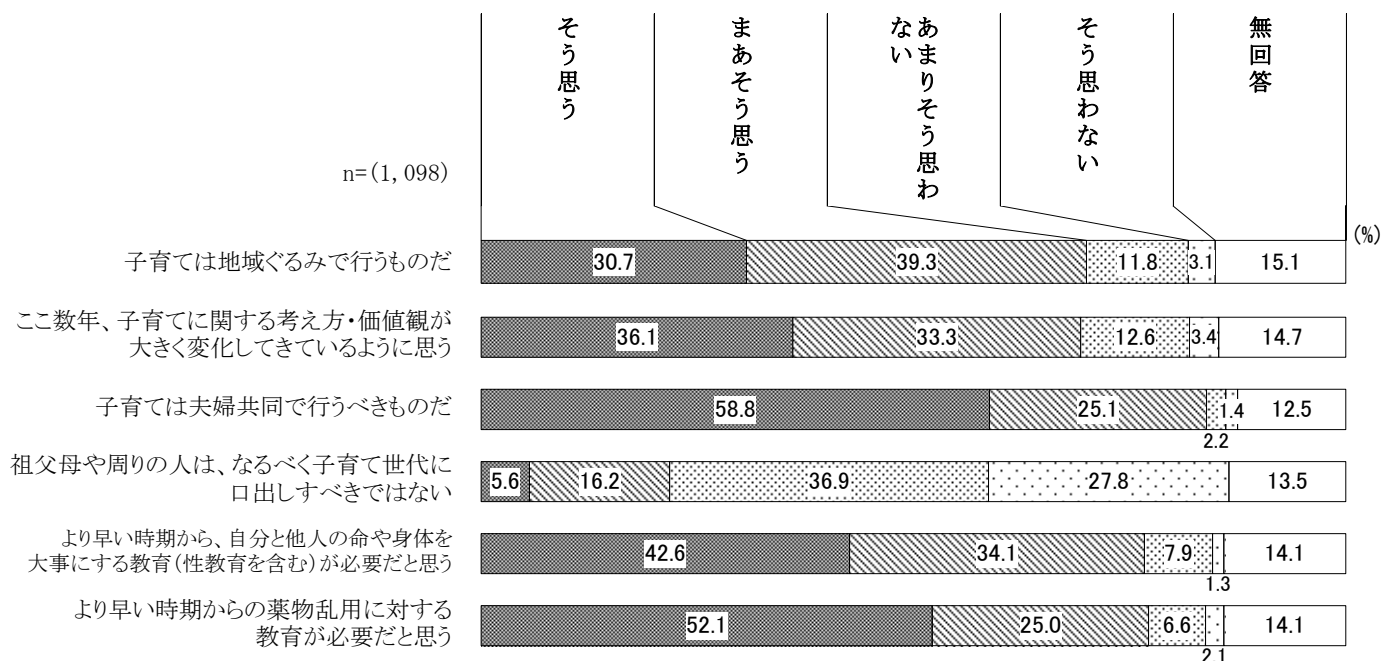
問38 以下のそれぞれの意見について、あなたの考えにもっとも近い番号を選んでください。
(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

子育てに関する考えをみると、〈子育ては夫婦共同で行うべきものだ〉について、「そう思う」が58.8%を占めて最も高くなっているほか、〈より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う〉も52.1%となっている。

また、〈子育ては地域ぐるみで行うものだ〉〈ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う〉〈より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育（性教育を含む）が必要だと思う〉については、「まあそう思う」が3割を超えている。

一方、〈祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない〉については、「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせると6割を超えている。

〈 子育てに関する考え方 〉

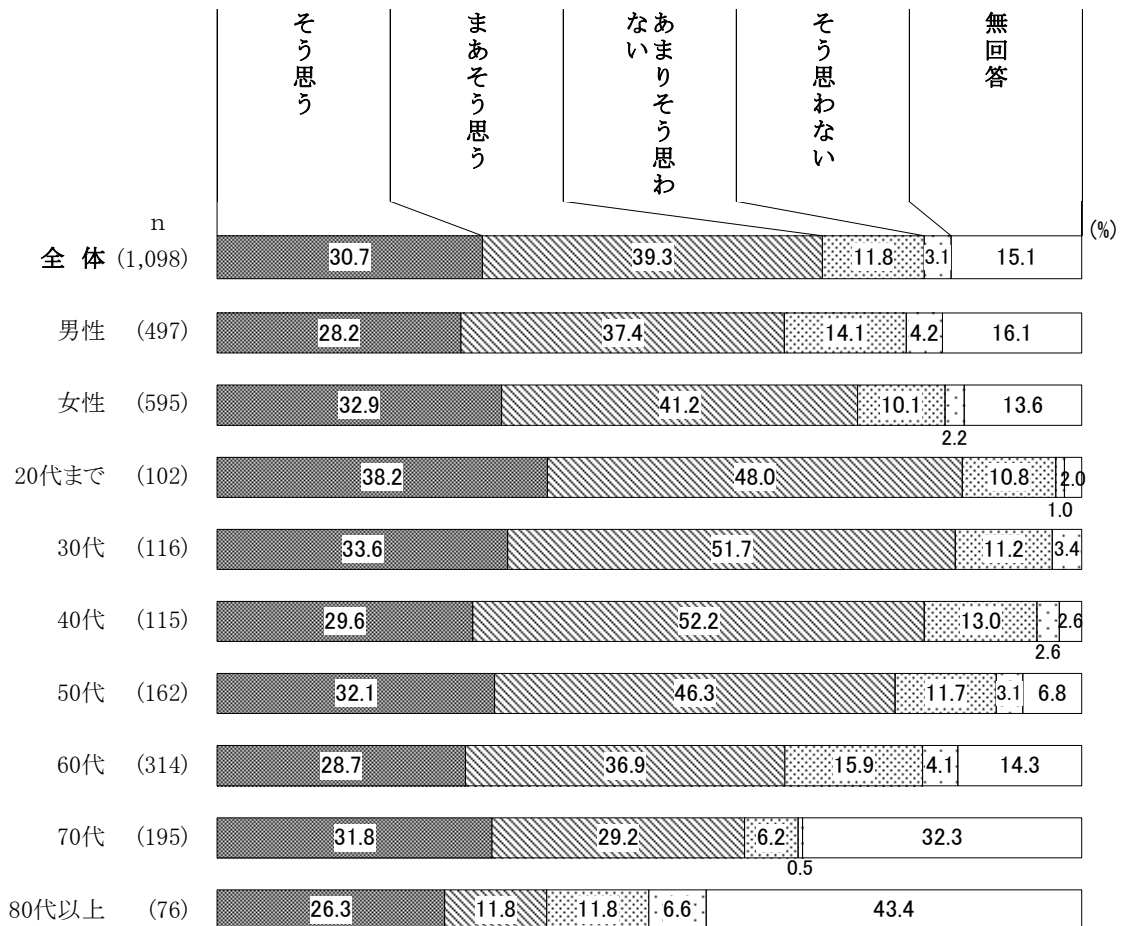


子育ては地域ぐるみで行うものだ

〈子育ては地域ぐるみで行うものだ〉について、性別で見ると、「そう思う」は男性28.2%、女性32.9%と大きな男女差はない。

年齢別で見ると、20代まででは「そう思う」が38.2%と他の世代より高くなっている。

〈性別、年齢／子育ては地域ぐるみで行うものだ〉

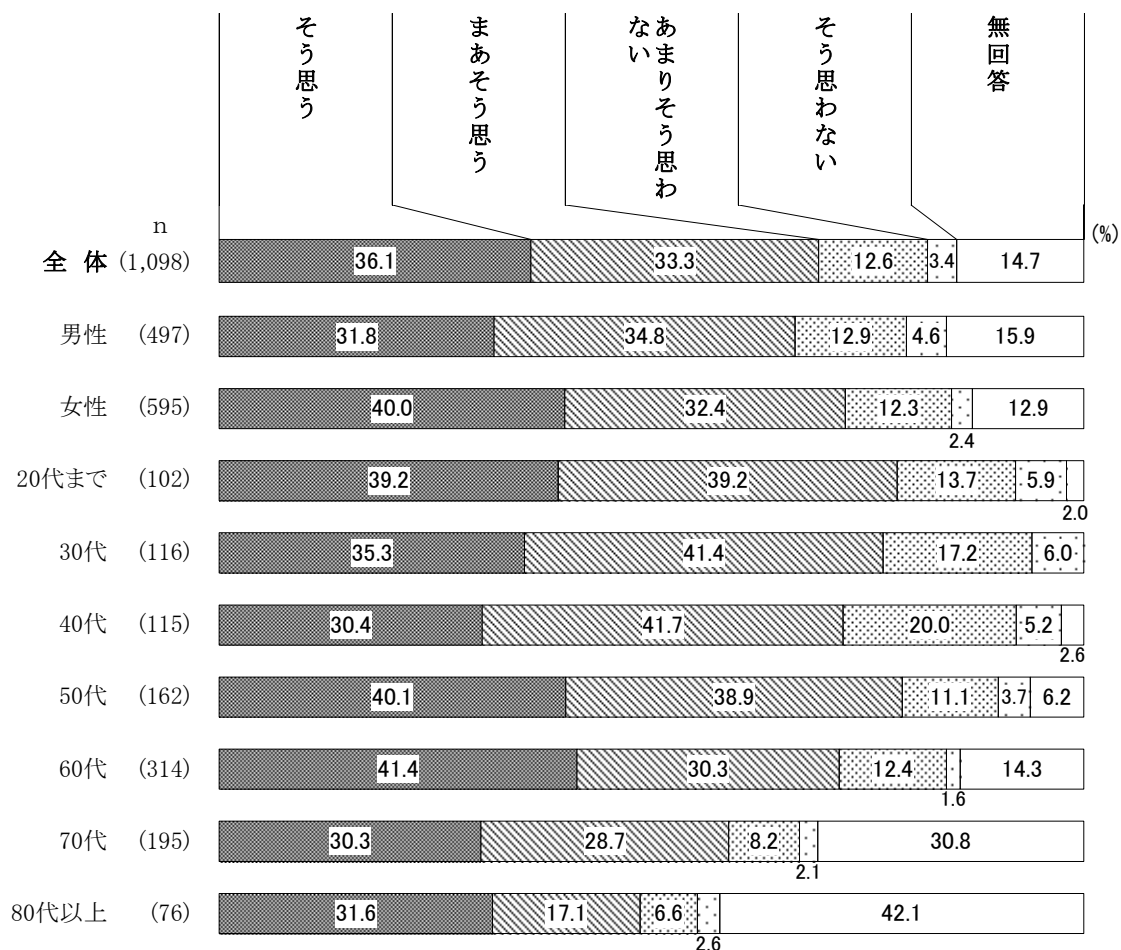


ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う

〈ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う〉について、性別でみると、女性では「そう思う」が40.0%と男性（31.8%）より高くなっている。

年齢別でみると、50代、60代で「そう思う」が4割を超え、他の年代より高くなっている。

〈性別、年齢／ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う〉

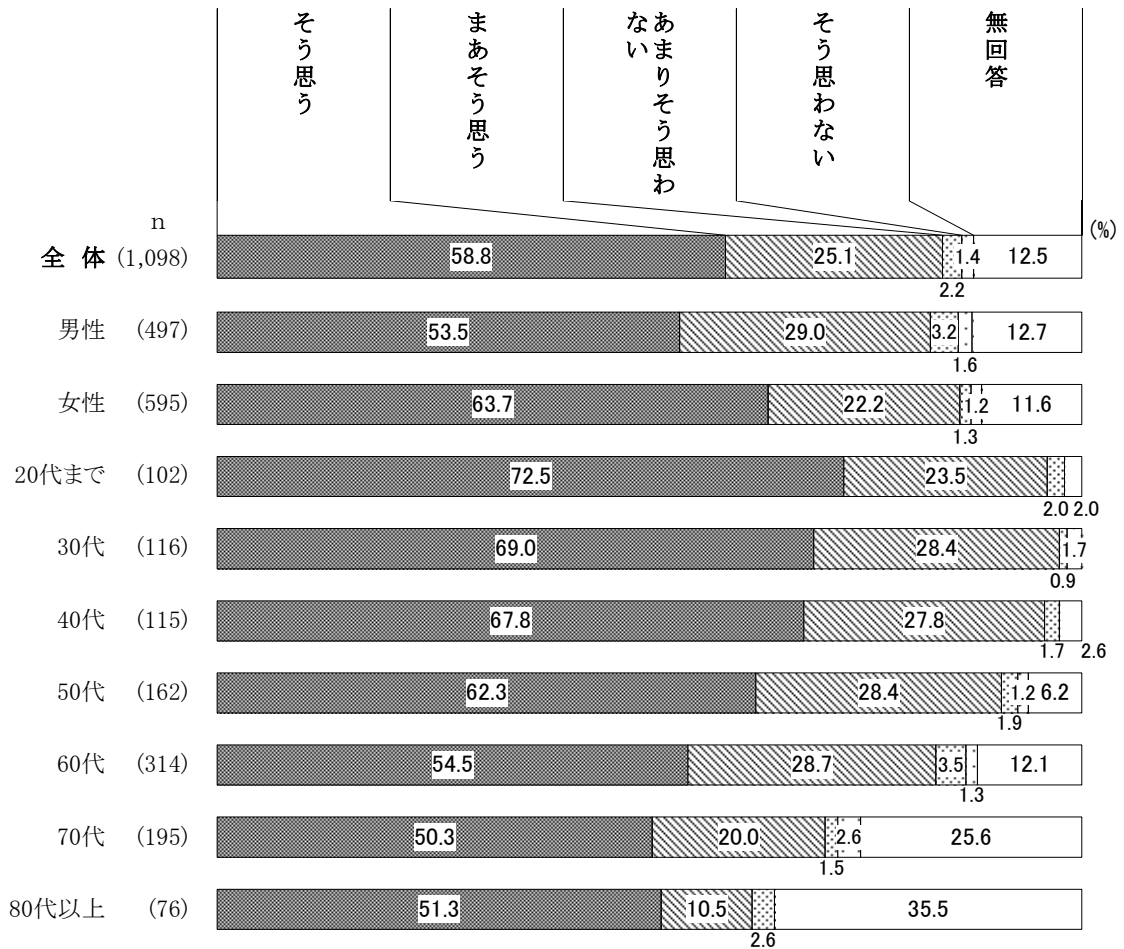


子育ては夫婦共同で行うべきものだ

〈子育ては夫婦共同で行うべきものだ〉について、性別でみると、女性では「そう思う」が63.7%と男性（53.5%）より高くなっている。

年齢別でみると、20代までから40代では「そう思う」が7割前後を占め、他の年代より高くなっている。

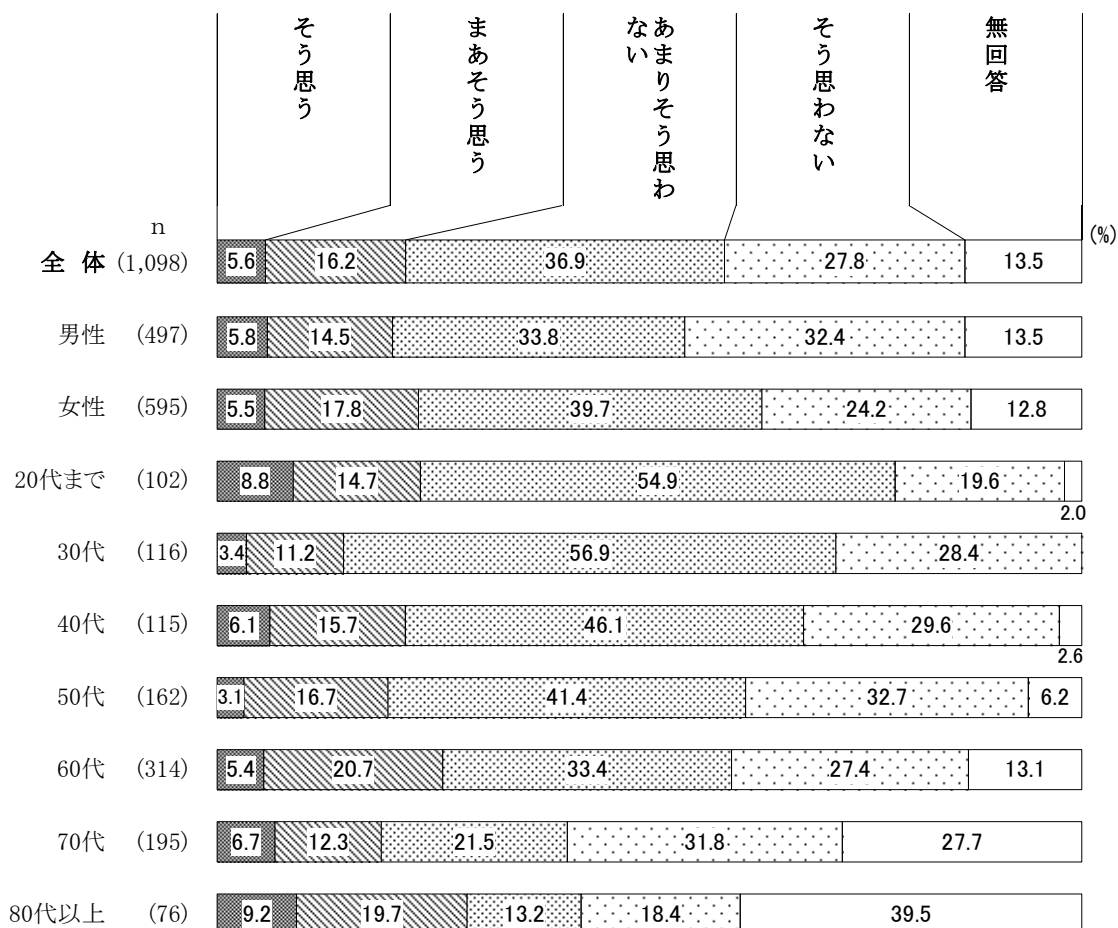
〈性別、年齢／子育ては夫婦共同で行うべきものだ〉



祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない

〈祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない〉については、年齢別でみると、20代まで、30代では「あまりそう思わない」が他の年代より高くなっている。

〈性別、年齢／祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない〉

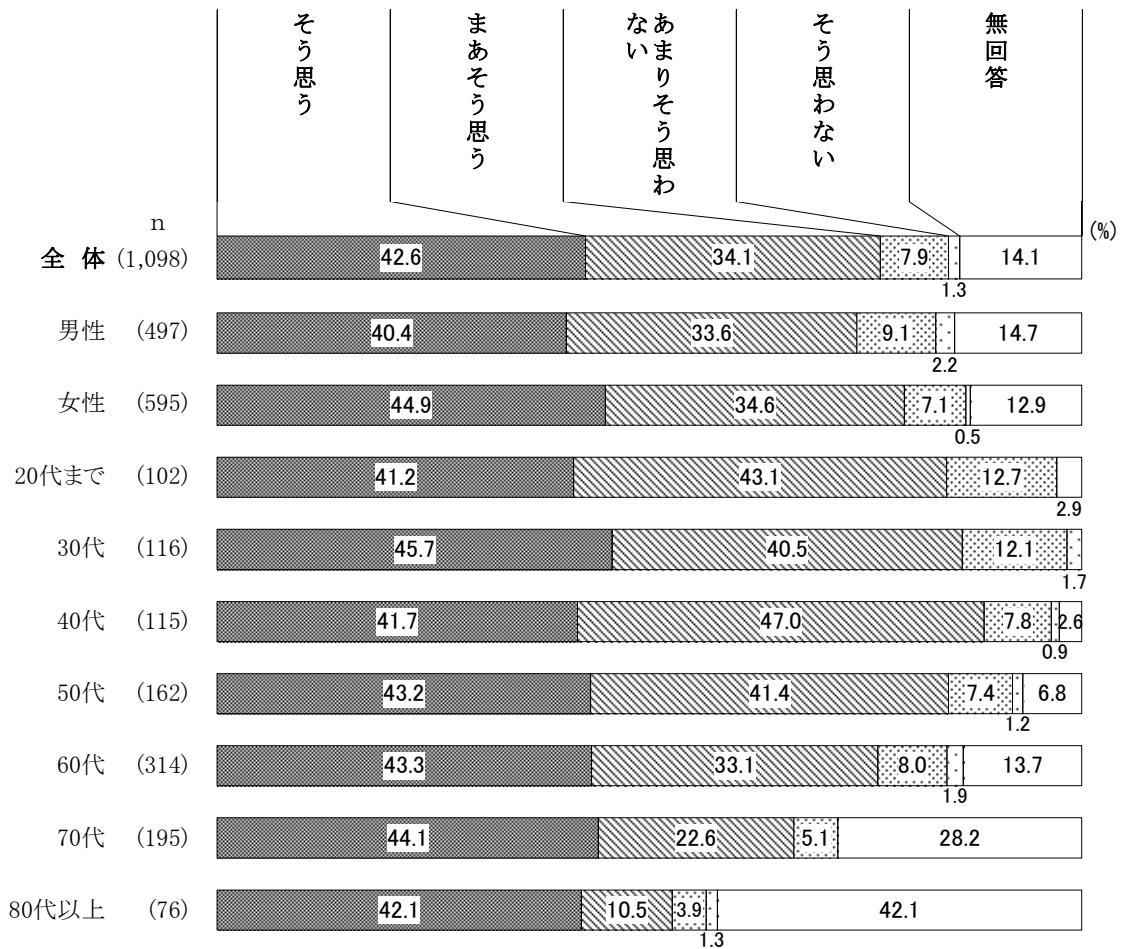


より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育（性教育を含む）が必要だと思う

〈より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育が必要だと思う〉について、性別で見ると、「そう思う」は男性40.4%、女性44.9%となっている。

年齢別で見ると、すべての年代で「そう思う」が4割を超えている。

〈性別、年齢／より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育が必要だと思う〉

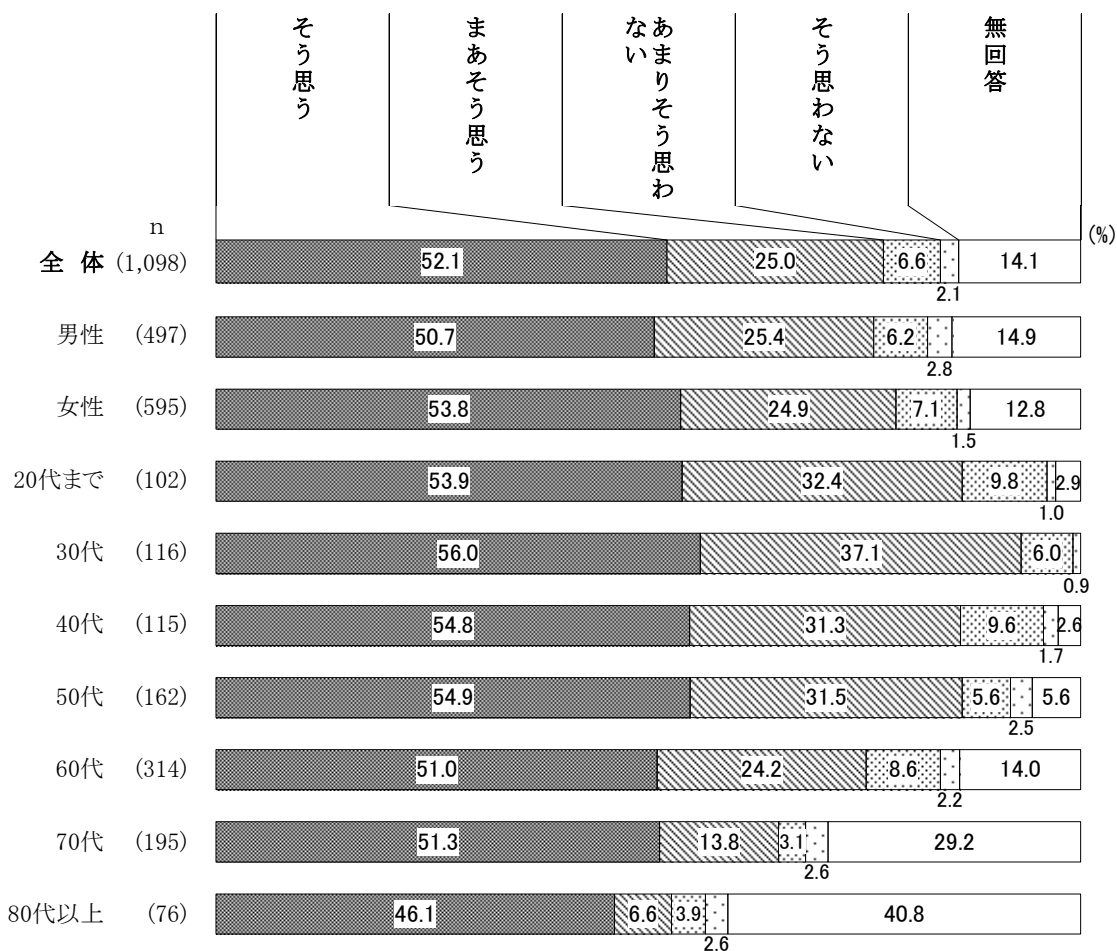


より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う

〈より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う〉について、性別でみると、「そう思う」は男性50.7%、女性53.8%と大きな男女差はない。

年齢別でみると、80歳以上を除くすべての年代で「そう思う」が5割を超えている。

〈性別、年齢／より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う〉



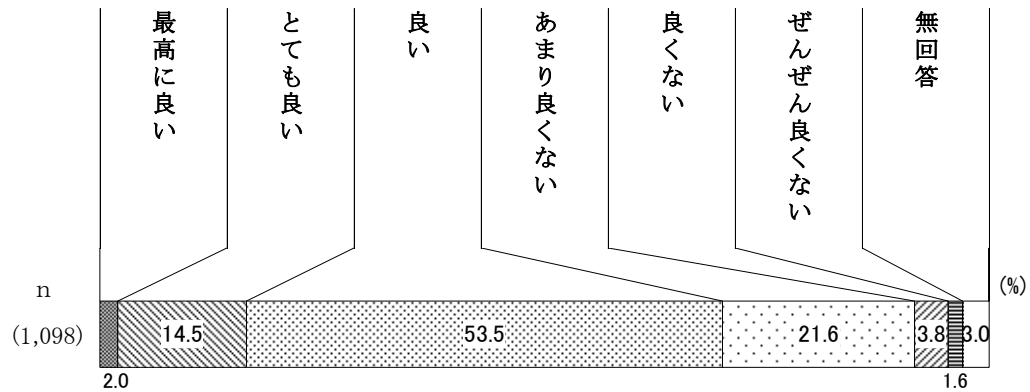
11. あなたの健康

(1) 過去1ヶ月間の健康状態

問39 全体的に見て、過去1ヶ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。(○は1つだけ)

過去1ヶ月の健康状態が「良い」が53.5%と過半数を占めている。一方、「あまり良くない」は21.6%となっている。

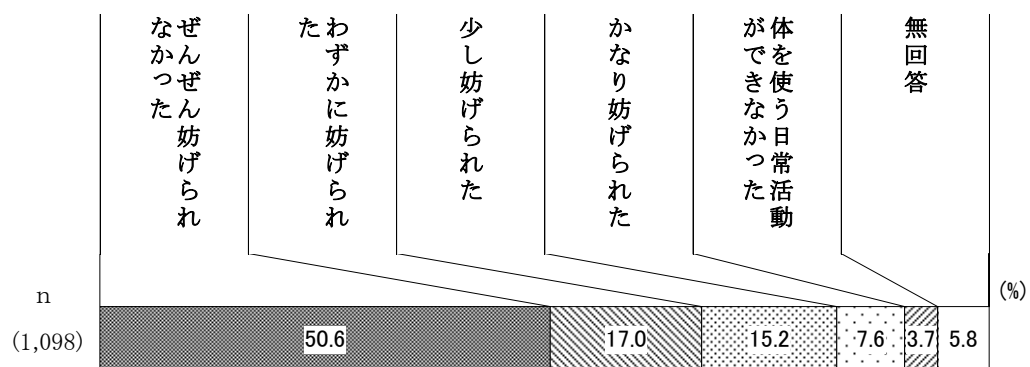
〈 過去1ヶ月間の健康状態 〉



問40 過去1ヶ月間に、体を使う日常活動（歩いたり階段を昇ったりなど）をすることが、身体的な理由でどれくらい妨げられましたか。(○は1つだけ)

過去1ヶ月間に日常活動が身体的な理由で「ぜんぜん妨げられなかった」は50.6%を占めている。一方、「かなり妨げられた」「体を使う日常活動ができなかった」が合わせて11.3%となっている。

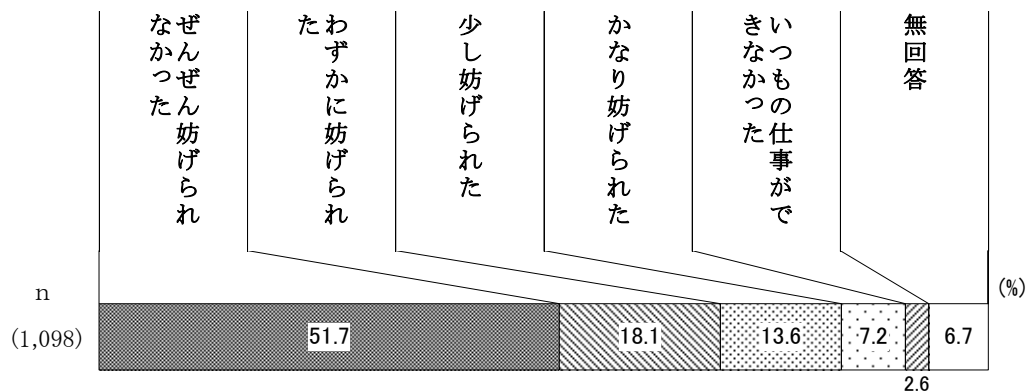
〈 過去1ヶ月間に日常活動が身体的な理由で妨げられたか 〉



問41 過去1ヶ月間に、いつもの仕事（家事を含みます）をすることが、身体的な理由でどれくらい妨げられましたか。（○は1つだけ）

過去1ヶ月間に仕事・家事が身体的な理由で「ぜんぜん妨げられなかった」は51.7%を占めている。一方、「かなり妨げられた」「いつもの仕事ができなかった」が合わせて9.8%となっている。

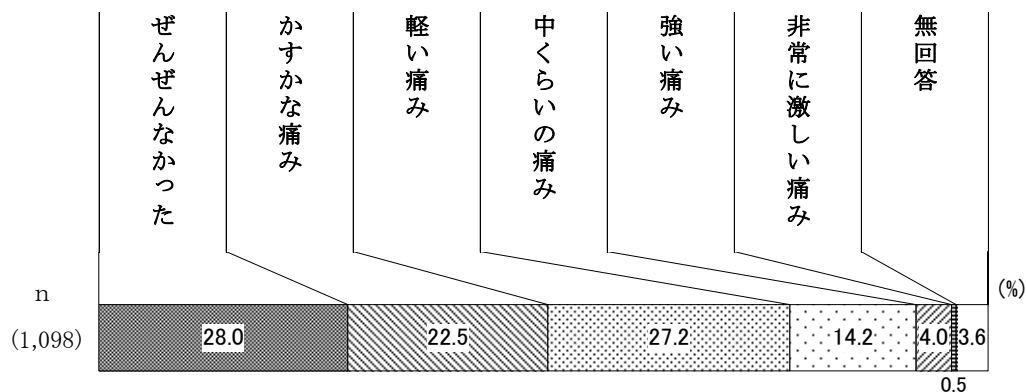
〈 過去1ヶ月間に仕事・家事が身体的な理由で妨げられたか 〉



問42 過去1ヶ月間に、体の痛みはどのくらいありましたか。（○は1つだけ）

過去1ヶ月間の体の痛みについて、「ぜんぜんなかった」(28.0%)と「軽い痛み」(27.2%)の2項目が3割近くを占めている。

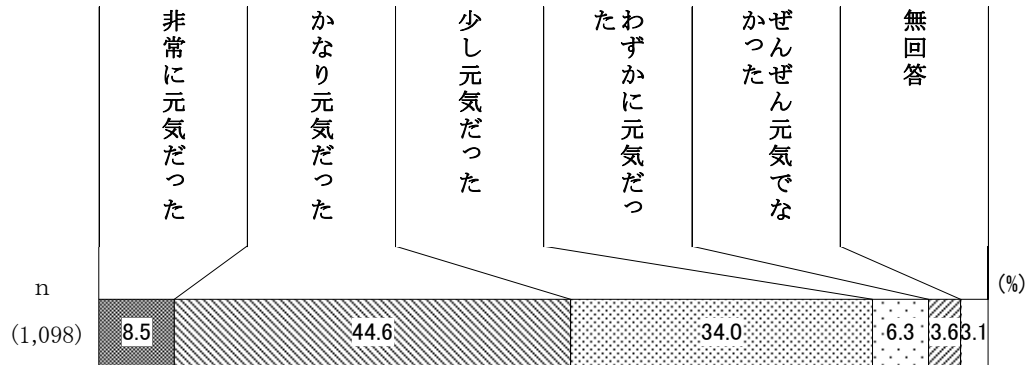
〈 過去1ヶ月間に体の痛みがあったか 〉



問43 過去1ヶ月間、どのくらい元気でしたか。(○は1つだけ)

過去1ヶ月間、「非常に元気だった」と「かなり元気だった」が合わせて53.1%となっている。

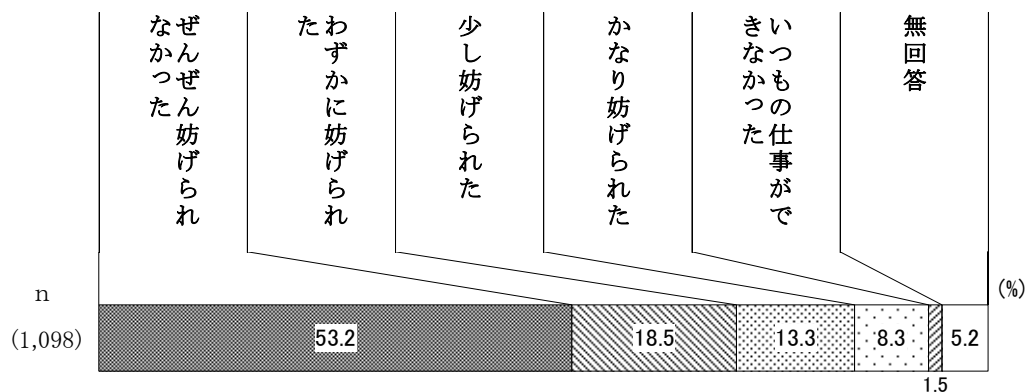
〈 過去1ヶ月間元気だったか 〉



問44 過去1ヶ月間に、家族や友人とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。(○は1つだけ)

過去1ヶ月間に身体的・心理的な理由で人づきあいが妨げられた頻度としては、「ぜんぜん妨げられなかった」が53.2%を占めている。一方、「かなり妨げられた」と「いつもの仕事ができなかった」を合わせると9.8%となっている。

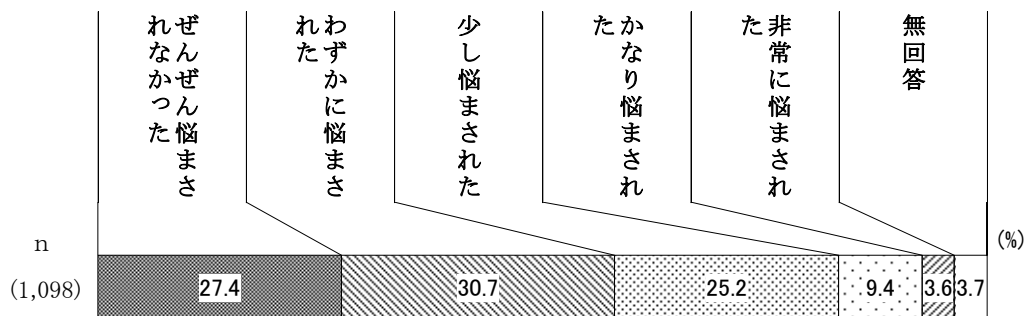
〈 過去1ヶ月間に人づきあいが身体的・心理的な理由で妨げられたか 〉



問45 過去1ヶ月間に、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたり）にどのくらい悩まされましたか。（○は1つだけ）

過去1ヶ月間に心理的な問題に悩まされた頻度としては、「わずかに悩まされた」が30.7%と「ぜんぜん悩まされなかった」（27.4%）よりやや高くなっている。

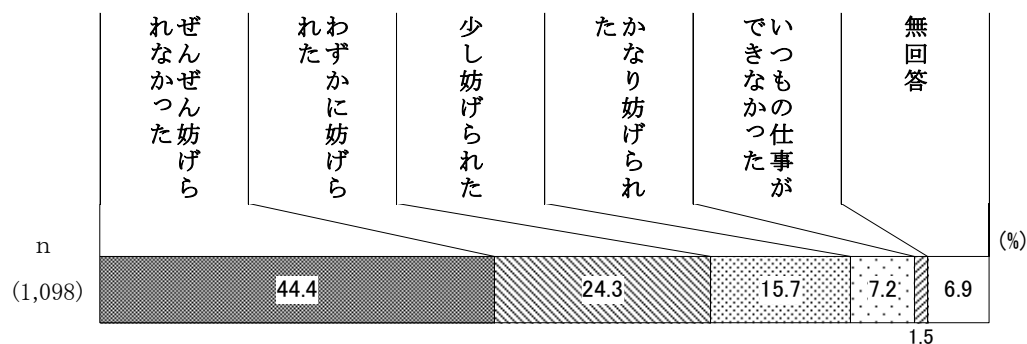
〈 過去1ヶ月間に心理的な問題に悩まされたか 〉



問46 過去1ヶ月間に、日常行う活動（仕事、学校、家事などのふだんの行動）が、心理的な理由でどのくらい妨げられましたか。（○は1つだけ）

過去1ヶ月間に心理的な理由で日常生活が妨げられた頻度としては、「ぜんぜん妨げられなかった」が44.4%となっている。一方、「かなり妨げられた」と「いつもの仕事ができなかった」を合わせて8.7%となっている。

〈 過去1ヶ月間に日常活動が心理的な理由で妨げられたか 〉



12. 生きがいづくり、まちづくり

(1) 生きがい

問47 あなたは、生きがいを感じていますか。(○は1つだけ)

生きがいを「感じている」は36.2%でこれに、「感じることもある」(40.3%)を合わせた《生きがいを感じる》は76.5%となっている。

平成19年の調査結果と比較すると、「感じている」は今回36.2%と前回の40.1%より低下している。

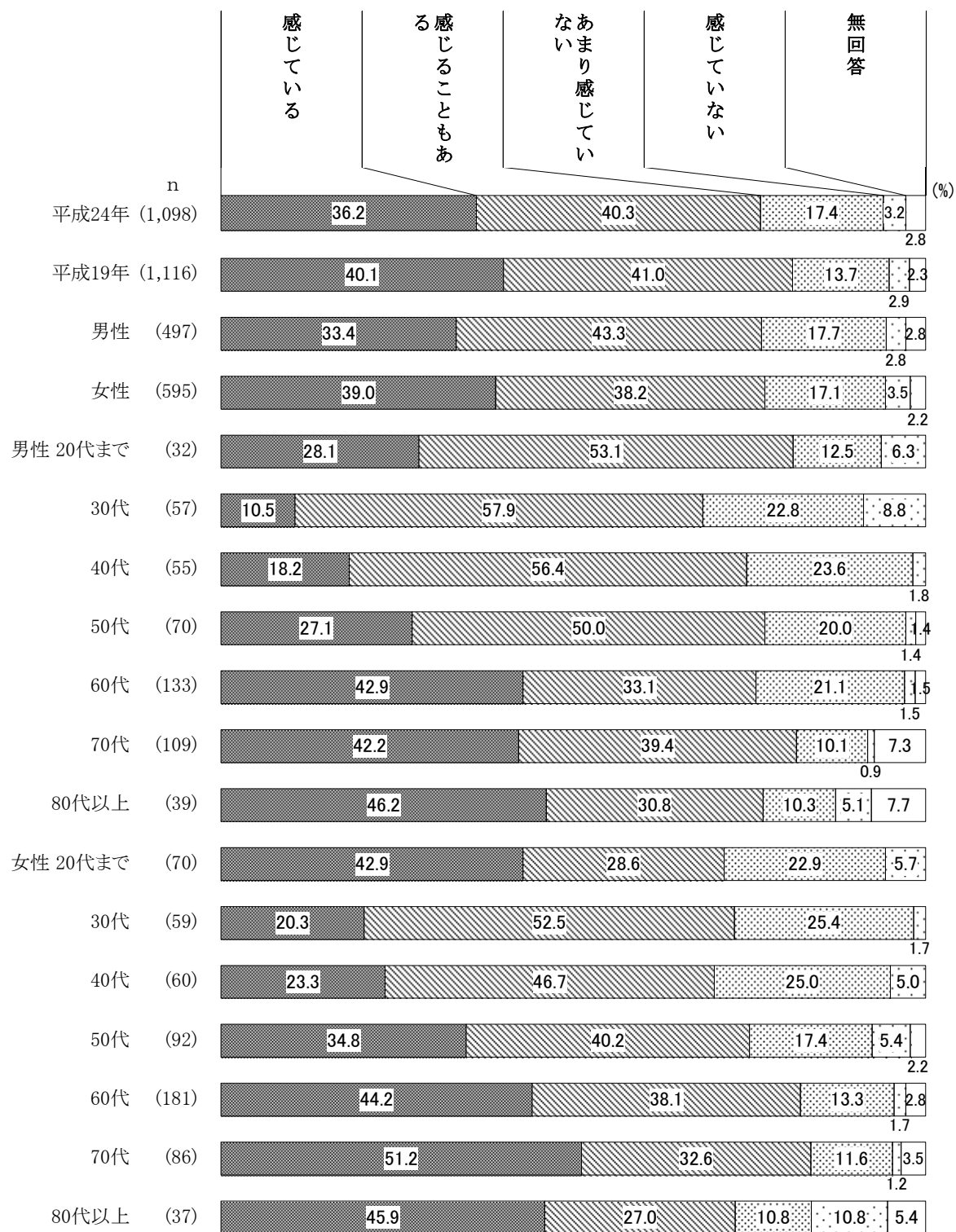
性別でみると、女性では「感じている」が39.0%と男性(33.4%)より高くなっている。

年齢別でみると、男女とも60代から80代以上で「感じている」が4割を超えて他の年代より高くなっている。特に女性では、70代で51.2%と高くなっている。

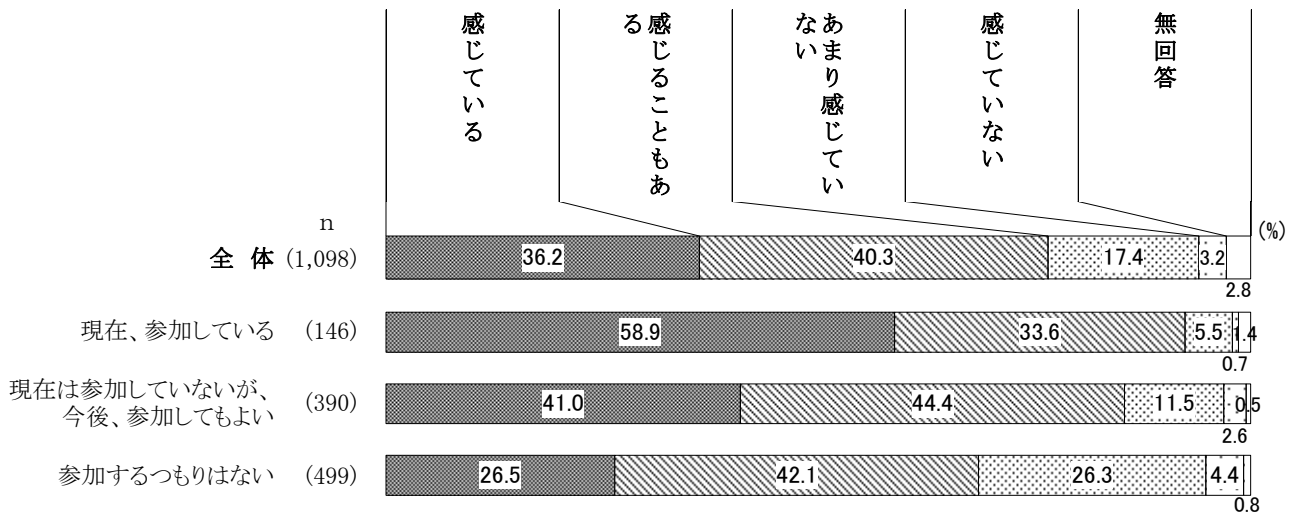
過去1年間の健康づくりに関わる活動への参加状況別でみると、活動に参加している人の方が、他の層よりも生きがいを感じる度合いが高くなっている。

第2章 調査結果の詳細

〈 前回、性別、性・年齢／生きがい 〉



〈健康づくりに関わる活動への参加／生きがい〉



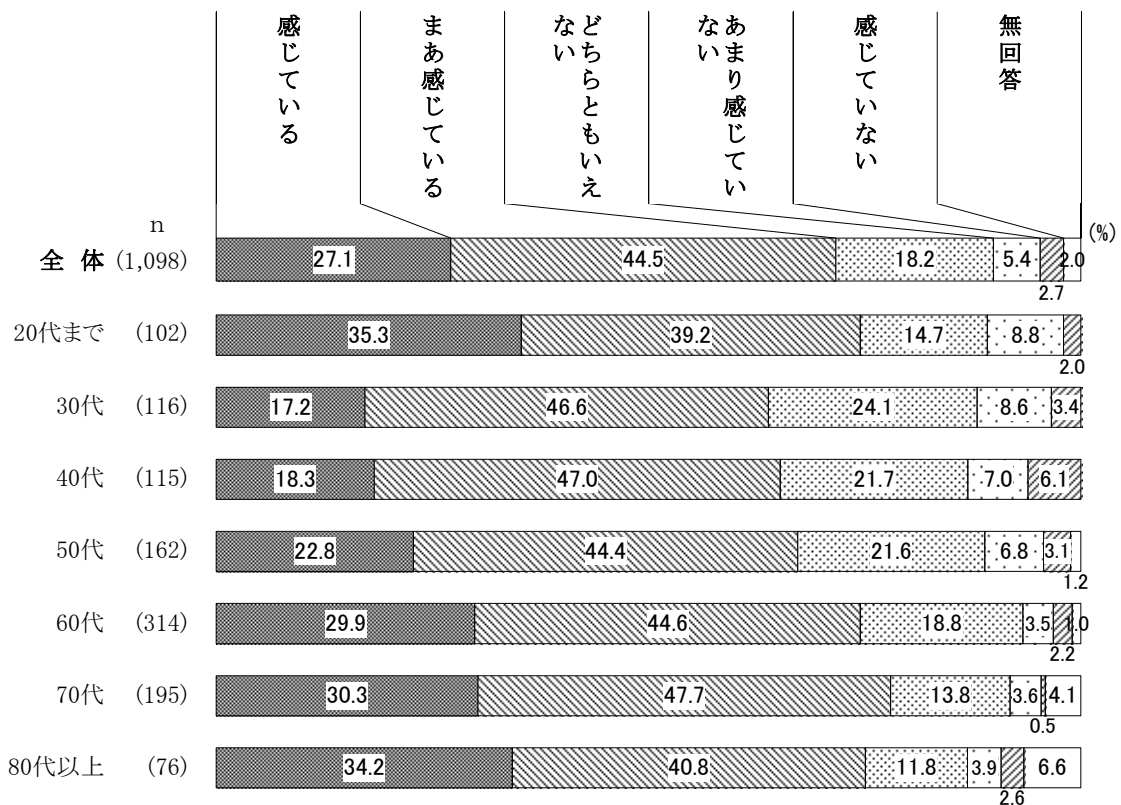
(2) 幸福感

問48 あなたは、幸福と感じていますか。(○は1つだけ)

幸福を「感じている」は27.1%で、これに「まあ感じている」(44.5%)を合わせた《幸福である》は71.6%となっている。

年齢別でみると、60代から80代以上では「感じている」が約3割を超え、他の年代より高くなっている。

〈年齢／幸福感〉



(3) 人づきあい

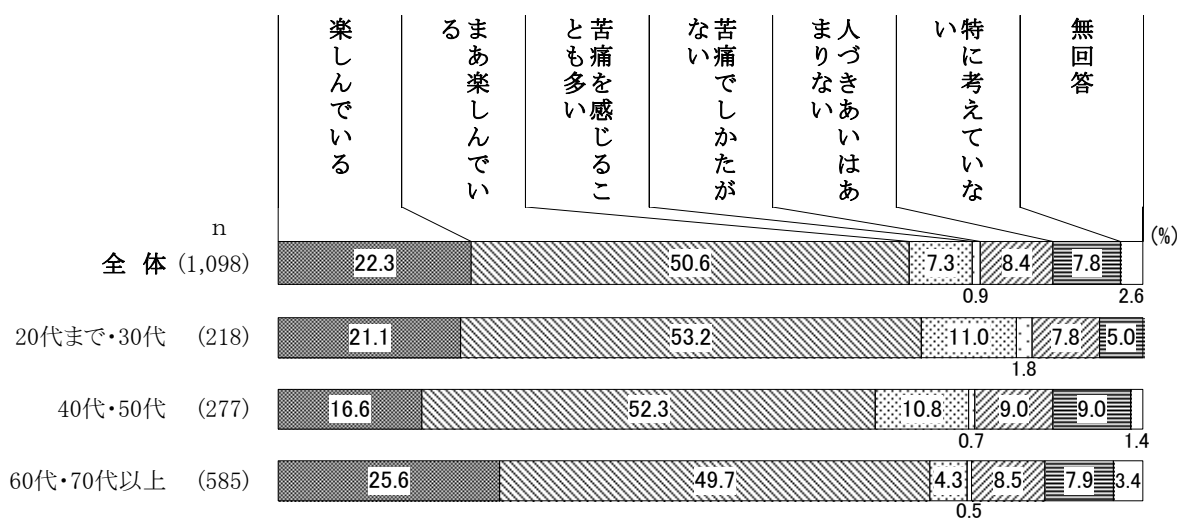
問49 あなたは、職場や家族、近所との人づきあいを楽しんでいますか。(〇は1つだけ)

職場や家族・近所との人づきあいについては、「楽しんでいる」が22.3%で、これに「まあ楽しんでいる」(50.6%)を合わせた《つきあいを楽しんでいる》は72.9%を占めている。

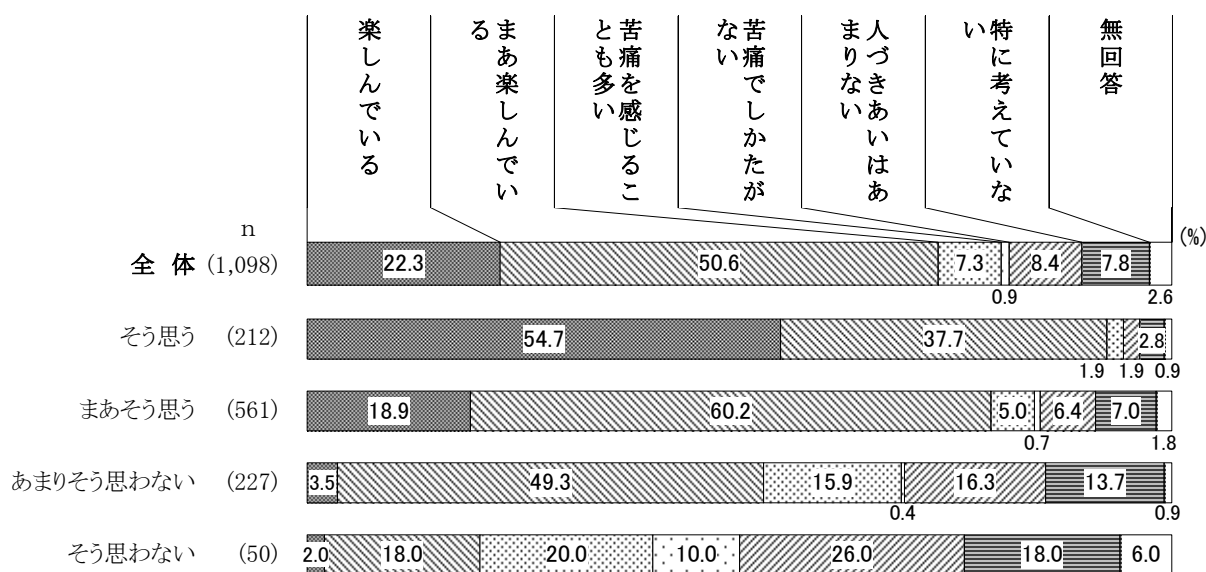
年齢別でみると、年齢による大きな違いはみられない。

毎日、健やかに暮らしているかどうかとの関係をみると、そう思う人では「楽しんでいる」が5割を超えている。

〈 年齢／職場や家族・近所との人づきあい 〉



〈 毎日を健やかに充実して暮らしているか／職場や家族・近所との人づきあい 〉



(4) 健康づくりに関わる活動への参加状況・意向

問50 あなたは現在、健康づくりに関わる活動（市民が自主的に、あるいは市のサポートを受けて行っている、健康づくりに関する地域のグループ活動やサークル、ボランティア活動など）に参加していますか。また、今後どうしたいですか。（○は1つだけ）

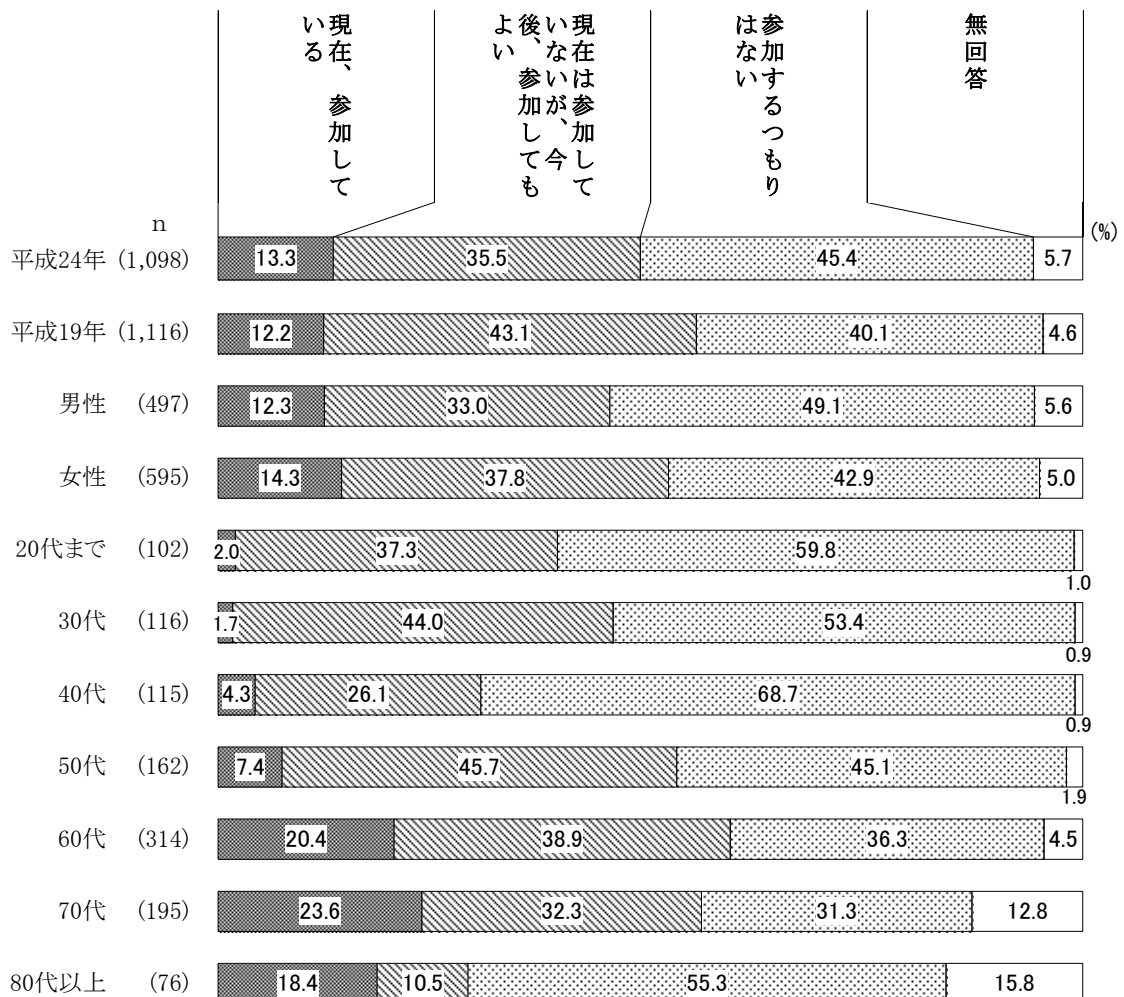
健康づくりに関わる活動への参加状況を見ると、「現在、参加している」が13.3%で、これに「現在は参加していないが、今後、参加してもよい」（35.5%）を合わせると《参加意向》は48.8%と5割近くを占めている。

平成19年の調査結果と比較すると、「現在、参加している」は今回13.3%と、前回の12.2%から横ばい状態となっている。

性別でみると、大きな男女差はみられない。

年齢別でみると、60代から80代以上では「現在、参加している」が2割前後を占め、他の年代より高くなっている。

〈 前回、性別、年齢／健康づくりに関わる活動への参加 〉



問50で「現在は参加していないが、今後、参加してもよい」と答えた人のみ

付問50ー1 あなたがこういったグループ活動に参加するには、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

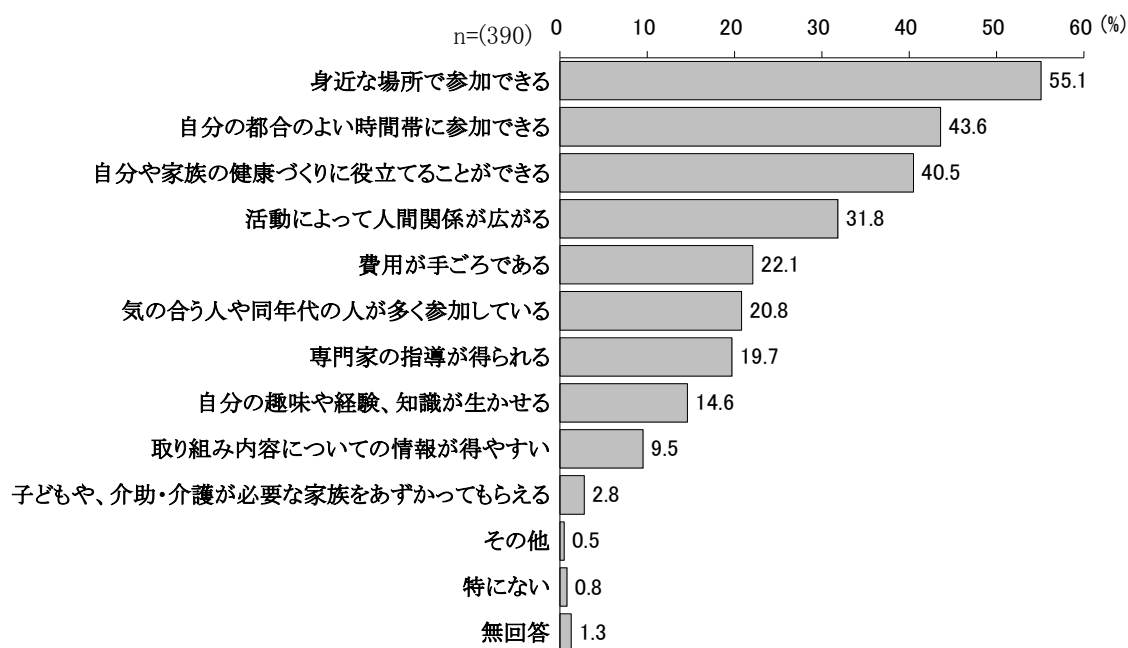
健康づくり活動に「現在は参加していないが、今後、参加してもよい」という人に、今後、健康づくり活動に参加するための条件について聞いてみたところ、「身近な場所で参加できる」が55.1%で最も高く、以下「自分の都合のよい時間帯に参加できる」(43.6%)、「自分や家族の健康づくりに役立てることができる」(40.5%)の順で続いている。

性別でみると、男性では「自分や家族の健康づくりに役立てることができる」が44.5%と女性(37.8%)より高くなっている。一方、女性では「費用が手ごろである」が27.1%と男性(14.6%)を上回っている。

年齢別でみると、20代までから40代では「費用が手ごろである」が3割を超えて他の年代より高くなっている。また、30代、40代では「自分の都合のよい時間帯に参加できる」が5割を超えている。

一方、50代から70代では「自分や家族の健康づくりに役立てることができる」が4割台半ばを超え、他の年代より高くなっている。

〈 性別、年齢／健康づくりに関わる活動への参加条件 〉



	き る	自 分 や 家 族 の 健 康 づ く り に 役 立 て る こ と が で き る	身 近 な 場 所 で 参 加 で き る	費 用 が 手 ご ろ で あ る	専 門 家 の 指 導 が 得 ら れ る	自 分 の 都 合 の よ い 時 間 帯 に 参 加 で き る	活 動 に よ っ て 人 間 関 係 が 広 が る	気 の 合 う 人 や 同 年 代 の 人 が 多 く 参 加 し て い る	取 り 組 み 内 容 に つ い て の 情 報 が 得 や す い	自 分 の 趣 味 や 経 験 、 知 識 が 生 か せ る	子 ど も や 、 介 助 ・ 介 護 が 必 要 な 家 族 を あ ず か つ て も ら え る	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体 (n=390)	40.5	55.1	22.1	19.7	43.6	31.8	20.8	9.5	14.6	2.8	0.5	0.8	1.3	
男性 (n=164)	44.5	54.9	14.6	15.9	42.7	36.6	20.7	8.5	14.0	1.8	0.6	1.2	0.6	
女性 (n=225)	37.8	55.1	27.1	22.2	44.4	28.4	20.9	10.2	15.1	3.6	0.4	0.4	1.8	
20代まで (n=38)	36.8	60.5	34.2	7.9	34.2	28.9	26.3	21.1	10.5	5.3	2.6	-	-	
30代 (n=51)	31.4	58.8	31.4	23.5	54.9	21.6	15.7	9.8	17.6	3.9	2.0	-	-	
40代 (n=30)	30.0	56.7	30.0	40.0	60.0	23.3	10.0	10.0	10.0	-	-	-	-	
50代 (n=74)	44.6	50.0	17.6	13.5	39.2	40.5	20.3	8.1	21.6	8.1	-	-	2.7	
60代 (n=122)	44.3	53.3	17.2	22.1	43.4	32.0	20.5	10.7	13.1	0.8	-	2.5	1.6	
70代 (n=63)	47.6	58.7	19.0	15.9	39.7	36.5	25.4	1.6	9.5	-	-	-	-	
80代以上 (n=8)	12.5	62.5	12.5	25.0	12.5	25.0	37.5	12.5	12.5	-	-	-	12.5	

(5) 健やかに暮らすために特に重要だと思うこと

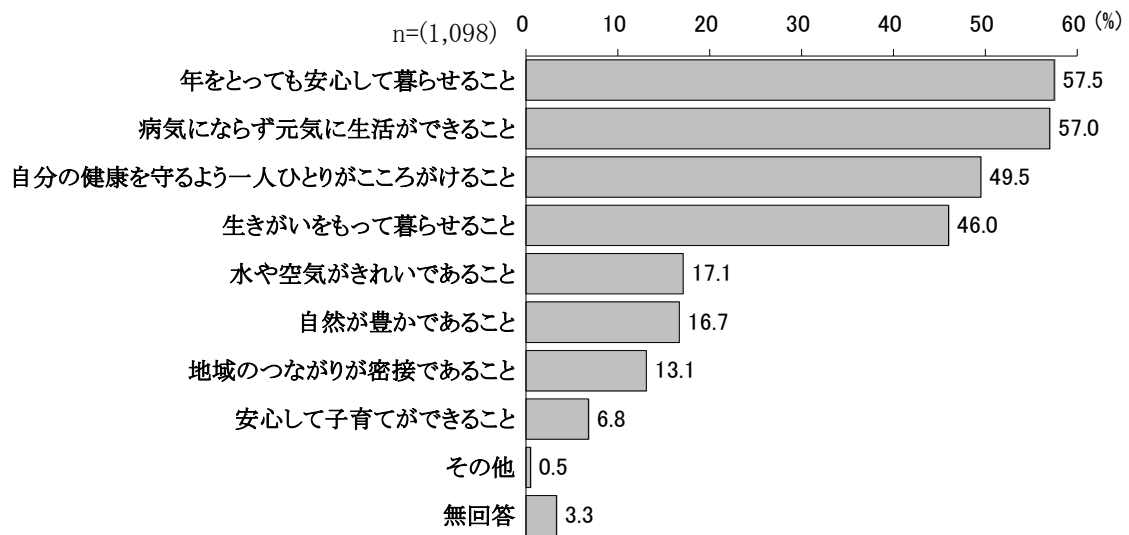
問51 次のうち、あなた自身にとって、健やかに暮らすために特に重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

健やかに暮らすために特に重要だと思うこととしては、「年をとっても安心して暮らせること」(57.5%)と「病気にならず元気に生活ができること」(57.0%)の2項目が、いずれも6割近くを占めて、特に高くなっている。また、「自分の健康を守るよう一人ひとりがこころがけること」(49.5%)と「生きがいをもって暮らせること」(46.0%)も4割台半ばを超えている。

性別でみると、女性では「病気にならず元気に生活ができること」が60.5%と男性(53.3%)を上回っている。

年齢別でみると、40代から60代では「年をとっても安心して暮らせること」が6割を超えている。また、60代から80代以上にかけては「自分の健康を守るよう一人ひとりがこころがけること」が5割を超え、他の年代より高くなっている。

〈性別、年齢／健やかに暮らすために特に重要なこと〉



	無回答	その他	病気に ならず元 気に生 活がで きるこ と	水や空 気がき れいで あるこ と	自然が 豊かで あるこ と	地域の つなが りが密 接であ るこ と	年をと つても 安心し て暮ら せるこ と	安心し て子育 てがで きるこ と	生きが いをも って暮 らせる こ と	自分の 健康を 守るよ うに一 人ひと りがこ ころが けるこ と
全 体 (n=1,098)	3.3	0.5	57.0	17.1	16.7	13.1	57.5	6.8	46.0	49.5
男性 (n=497)	4.0	0.4	53.3	16.5	17.1	13.3	55.7	4.6	45.3	51.5
女性 (n=595)	1.8	0.7	60.5	17.8	16.5	13.1	59.5	8.7	46.9	48.2
20代まで (n=102)	1.0	-	51.0	32.4	29.4	14.7	34.3	18.6	51.0	41.2
30代 (n=116)	1.7	2.6	51.7	23.3	19.0	10.3	44.0	17.2	54.3	41.4
40代 (n=115)	-	-	55.7	17.4	13.9	13.0	66.1	13.9	55.7	42.6
50代 (n=162)	1.9	-	59.3	15.4	9.9	12.3	68.5	5.6	58.0	42.0
60代 (n=314)	1.3	0.3	65.3	15.6	16.6	12.4	63.1	2.5	43.3	54.8
70代 (n=195)	7.2	1.0	52.3	13.3	17.9	14.9	57.9	1.5	39.0	59.5
80代以上 (n=76)	7.9	-	53.9	6.6	13.2	17.1	51.3	-	21.1	56.6

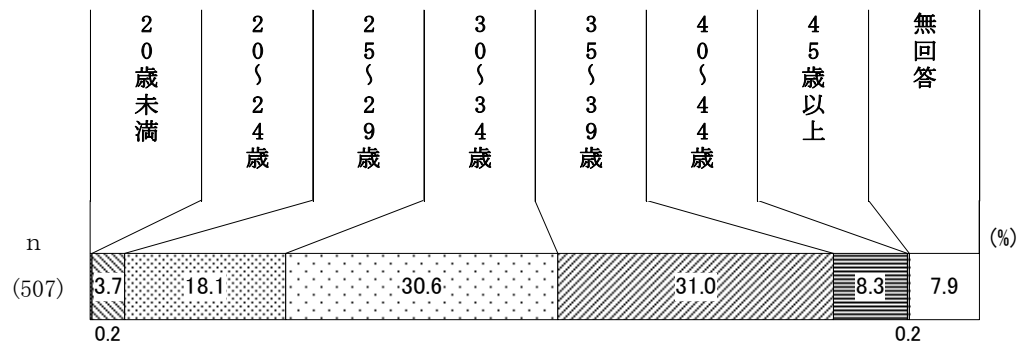
I I 妊娠・出産・育児調査結果

1. 基本属性

(1) 年齢

F 1 平成24年3月31日現在の年齢

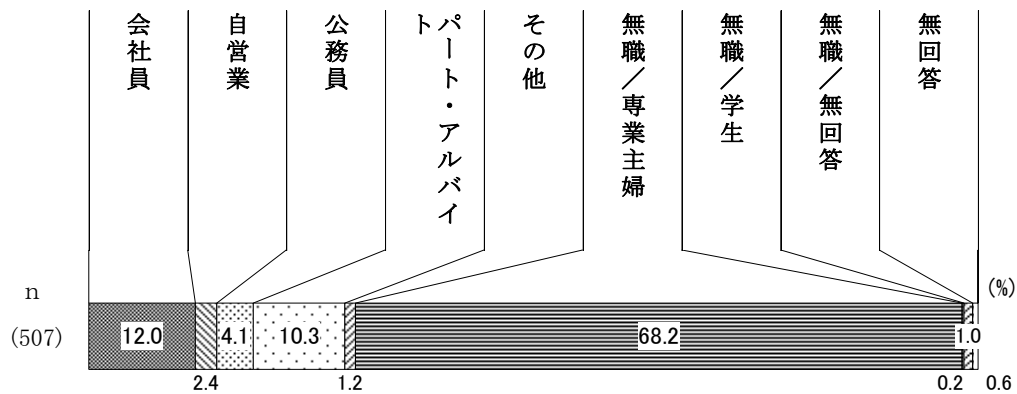
〈 年齢 〉



(2) 職業

F 2 現在のお仕事は何ですか。なお「6」を選んだ方はa, bのいずれかを選んでください。
(現在、育児休業中も含む)

〈 職業 〉



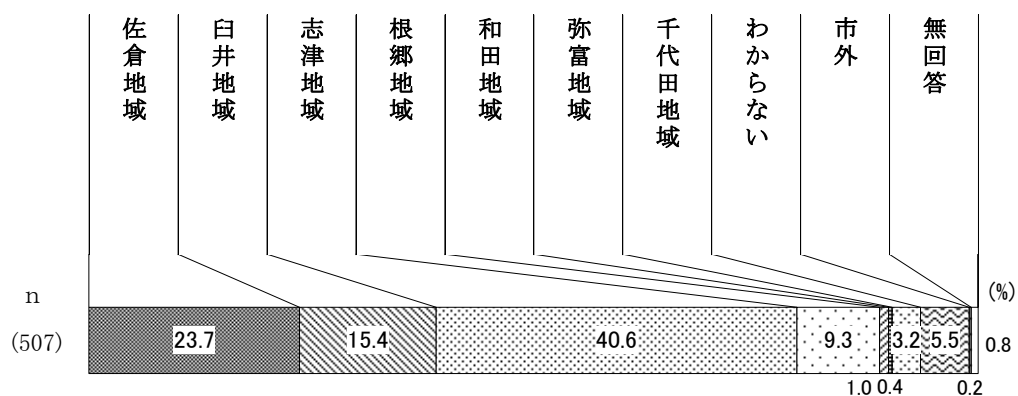
2. 家族、地域とのかかわり

(1) 居住地域

問1 住んでいるところはどこですか。

居住地域は、「志津地域」が40.6%で最も高く、以下「佐倉地域」(23.7%)、「臼井地域」(15.4%)の順で続いている。

〈 居住地域 〉

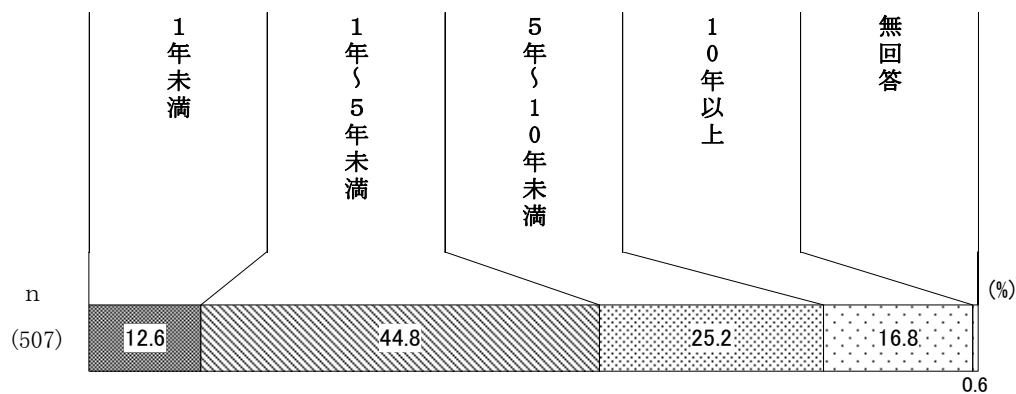


(2) 居住年数

問2 居住年数はどのくらいですか。

居住年数は、「1年～5年未満」が44.8%で最も高く、次いで「5年～10年未満」(25.2%)となっている。

〈 居住年数 〉



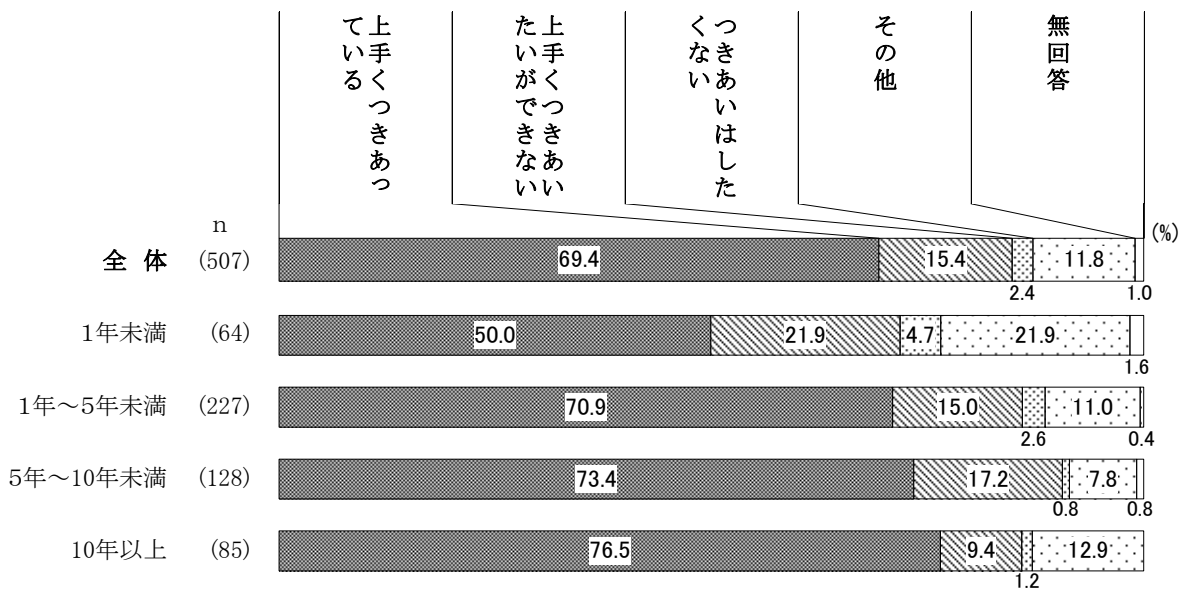
(3) 近所づきあい

問3 あなたは日頃の近所づきあいについてどのように考えていますか。

近所づきあいについては、「上手くつきあっている」が69.4%で最も高くなっている。一方、「上手くつきあいたいができない」は15.4%となっている。

居住年数別でみると、居住年数が長くなるほど「上手くつきあっている」が高くなっている。

〈居住年数／近所づきあい〉

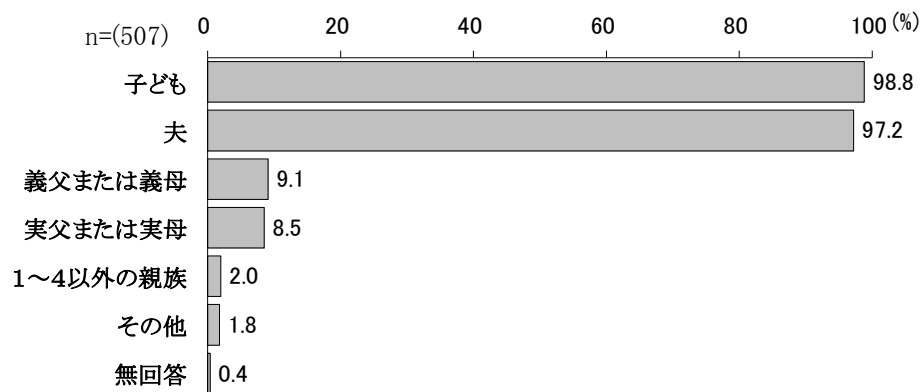


(4) 家族構成

問4 あなたの家族構成はどのようになっていますか。続柄は、お母さん自身からみたものとします。あてはまる選択肢に、すべて○をつけてください。

同居している家族としては、「子ども」(98.8%)と「夫」(97.2%)で、「義父または義母」と同居が9.1%、「実父または実母」との同居が8.5%となっている。

〈家族構成〉

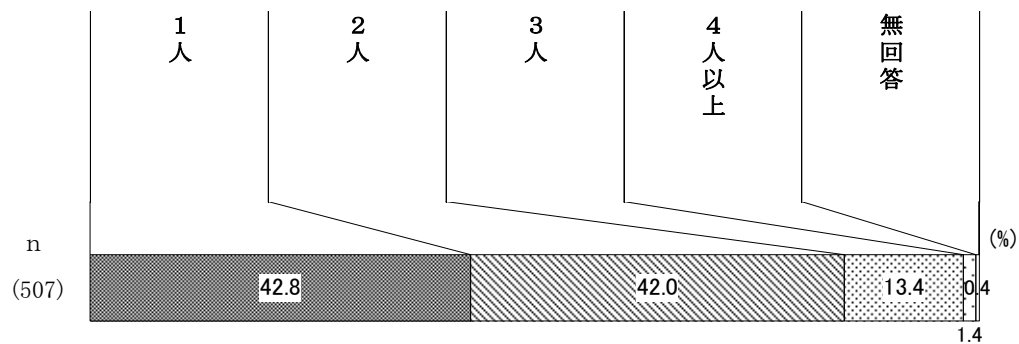


(5) 子ども

問5 お子さんは何人いますか。

子どもの人数は「1人」(42.8%)が最も多く、次いで「2人」(42.0%)となっている。

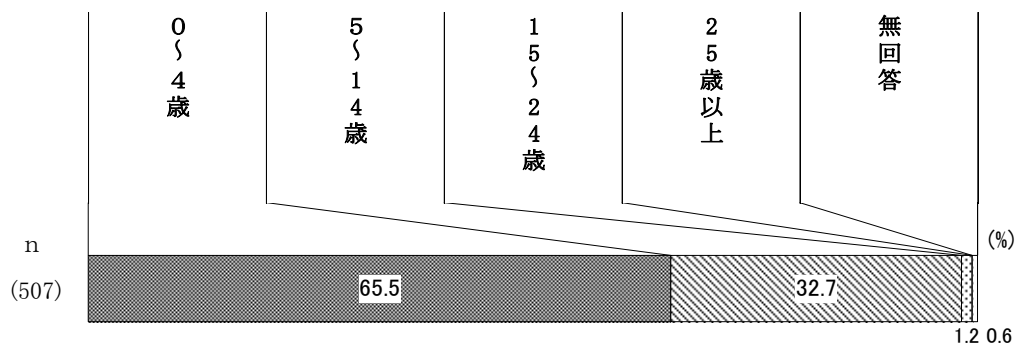
〈子どもの人数〉



問5-1 お子さんの年齢を高い順にお書きください。(第1子)

第1子の年齢は「0～4歳」が65.5%と最も高くなっている。

〈子どもの年齢(第1子)〉



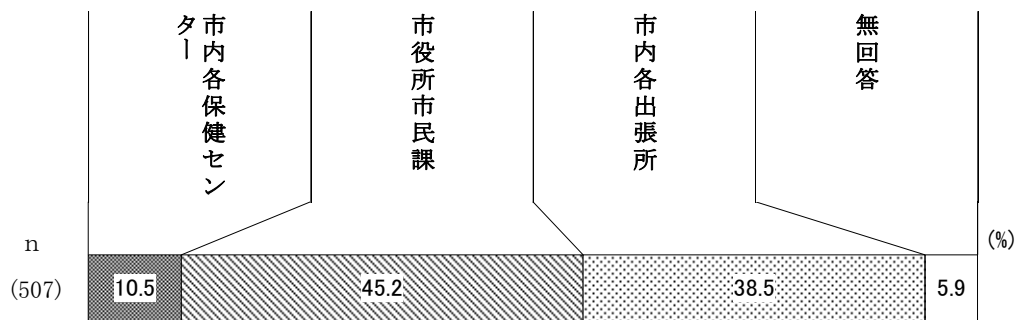
3. 第1子を妊娠したときの状況

(1) 妊娠

問1 妊娠届出書は、どこで提出しましたか。

妊娠届出書の提出先としては、「市役所市民課」が45.2%で最も高く、次いで「市内各出張所」(38.5%)となっている。

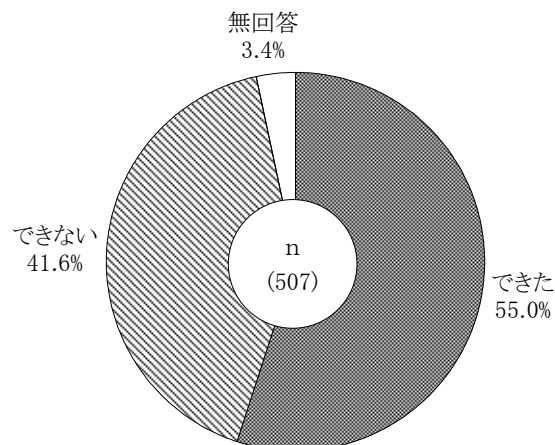
〈妊娠届出書提出先〉



問2 妊娠届出時、妊娠・出産について相談することはできましたか。

妊娠届出時に妊娠・出産について相談「できた」は55.0%、「できない」は41.6%となっている。

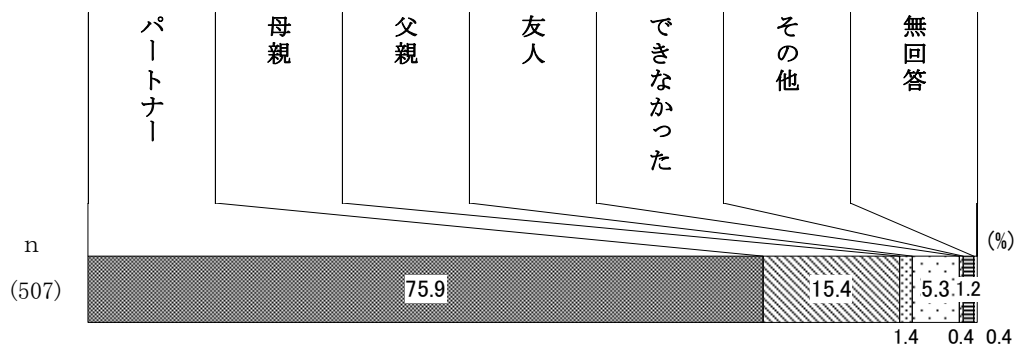
〈妊娠届出時に相談できたか〉



問3 妊娠がわかった時に、誰かに相談できましたか。

妊娠がわかったときの相談相手としては、「パートナー」が75.9%で最も高く、次いで「母親」(15.4%)となっている。

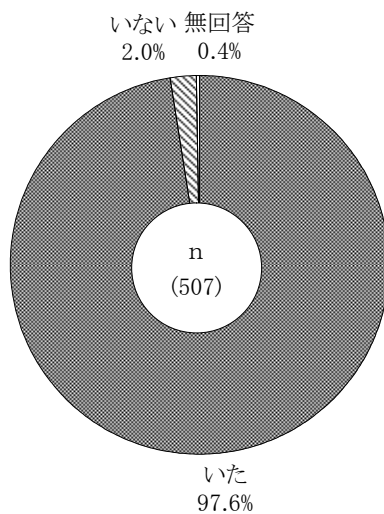
〈妊娠がわかったときの相談相手〉



問4 妊娠中、相談できる人はいましたか。

妊娠中の相談相手が「いた」が97.6%となっている。

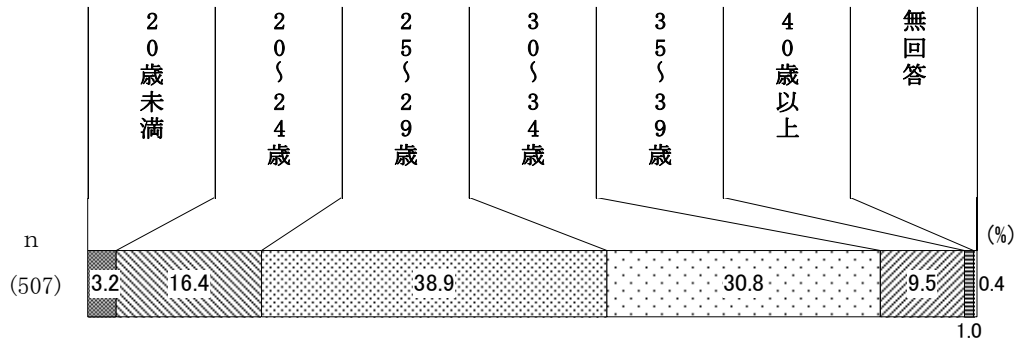
〈妊娠中の相談相手の有無〉



問5 第1子を妊娠したときの年齢はいくつでしたか。

第1子妊娠時の年齢は、「25～29歳」が38.9%で最も高く、次いで「30～34歳」(30.8%)となっている。

〈 第1子妊娠時の母の年齢 〉

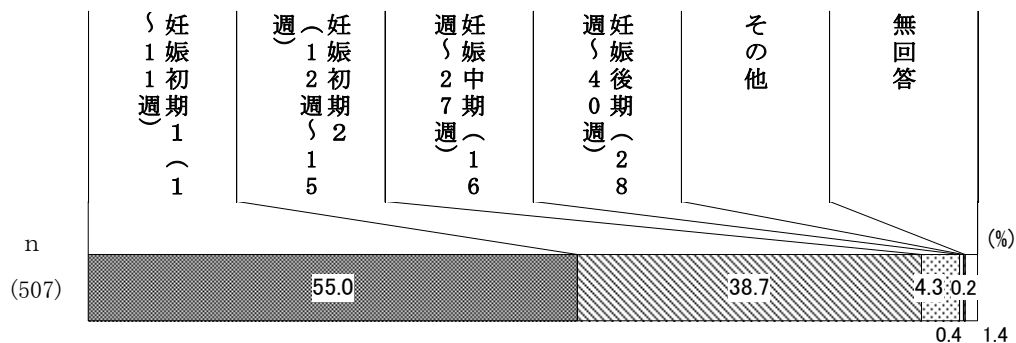


(2) 母子手帳の交付

問6 母子健康手帳の交付を受けたのは、いつごろですか。

母子健康手帳の交付を受けた時期としては、「妊娠初期1 (1～11週)」が55.0%で最も高く、次いで「妊娠初期2 (12～15週)」(38.7%)となっている。

〈 母子手帳の交付を受けた時期 〉

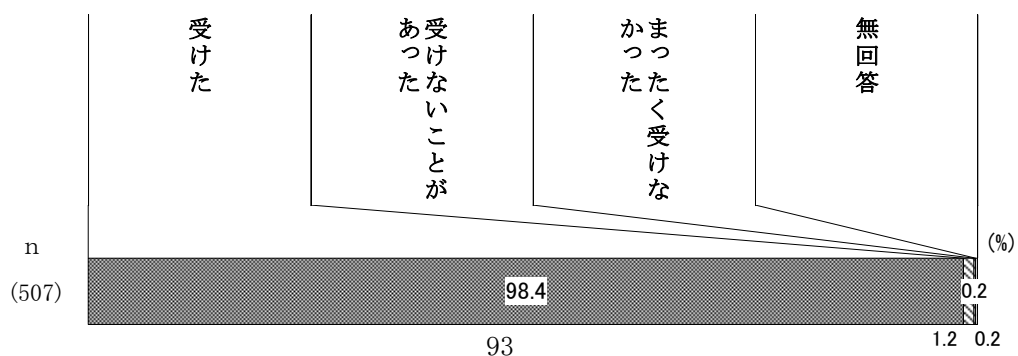


(3) 妊娠中の定期健診

問7 妊娠中、定期的に健診を受けましたか。

妊娠中に定期的な健診を「受けた」は98.4%を占めている。

〈 妊娠中の定期的な健診受診の有無 〉

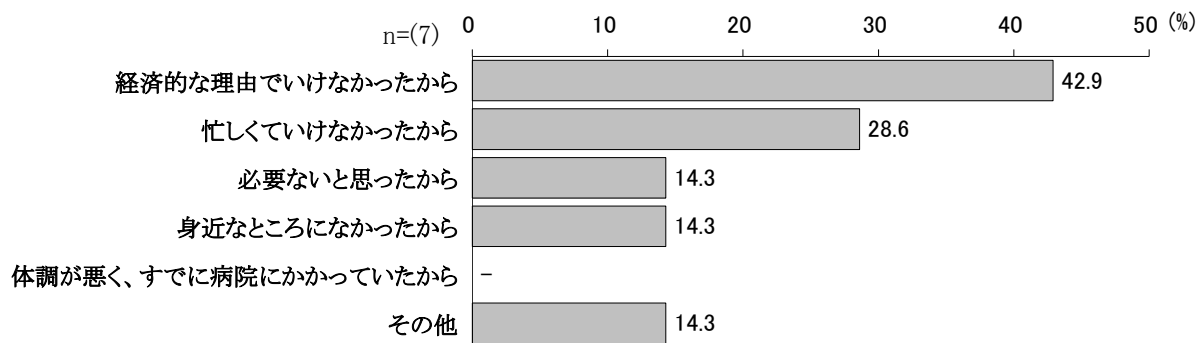


問7で「2あるいは3」と答えた方へ

問7-1 健診を受けなかった理由は何ですか。(複数回答可)

妊娠中の定期的な健診を受けなかった理由で最も多かったのは、「経済的な理由で行けなかったから」が3人で42.9%となっている。

〈 健診を受けなかった理由 〉

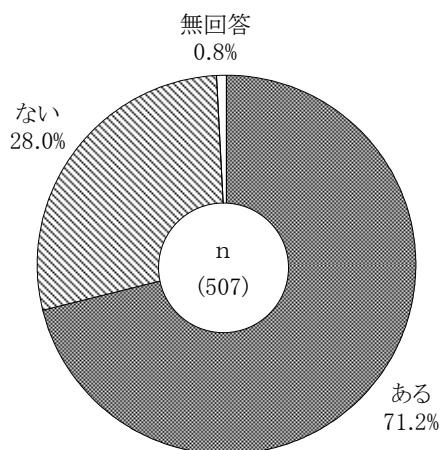


(4) 妊婦健診時の日常生活指導

問8 妊婦健診時、医師や助産師などから日常生活の指導を受けましたことがありますか。

妊婦健診時に医師や助産婦から日常生活の指導を受けたことが「ある」が71.2%を占めている。

〈 医師などからの日常生活の指導の有無 〉

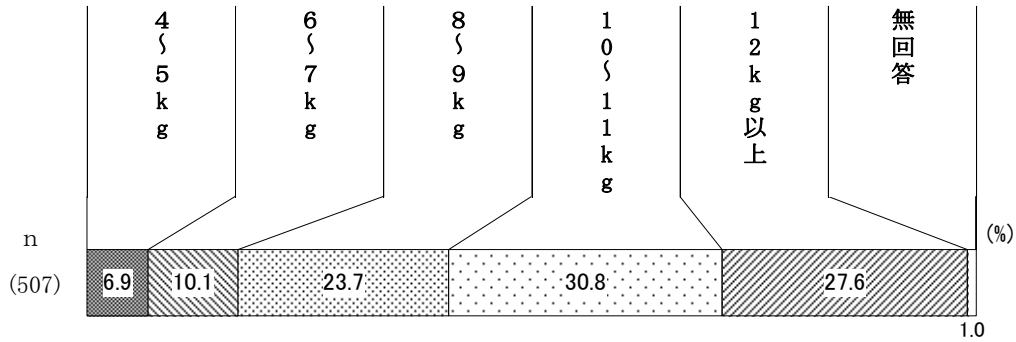


(5) 妊娠中の体重管理

問9 出産直前の体重は、妊娠前にくらべて、どのくらいまで増えましたか。

妊娠前と比較した場合の体重の増加は、「10～11kg」が30.8%で最も高く、以下「12kg以上」(27.6%)、「8～9kg」(23.7%)の順で続いている。

〈妊娠前と比べた出産直前の体重の増加〉

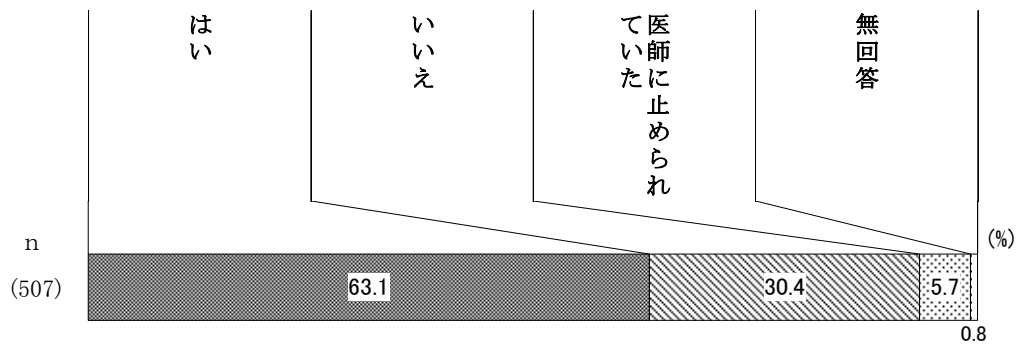


(6) 妊娠中期

問10 妊娠中期（16週～27週）頃、積極的に身体を動かしましたか。

妊娠中期の積極的な身体運動の実施については、「はい」が63.1%、「いいえ」が30.4%となっている。

〈妊娠中期の積極的な身体運動〉



(7) 喫煙状況

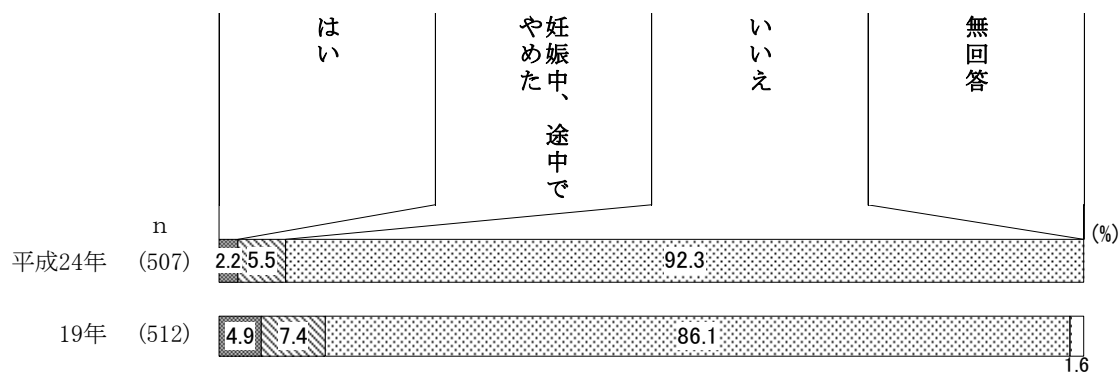
問11 妊娠中、喫煙はしていましたか。

妊娠中の喫煙については、「はい」が2.2%と極めて少なくなっている。また、「妊娠中、途中でやめた」は5.5%となっている。

一方、「いいえ」は92.3%となっている。

平成19年の調査結果と比べると、今回、「いいえ」が92.3%と、前回の86.1%より増加している。

〈 前回／妊娠中の喫煙 〉

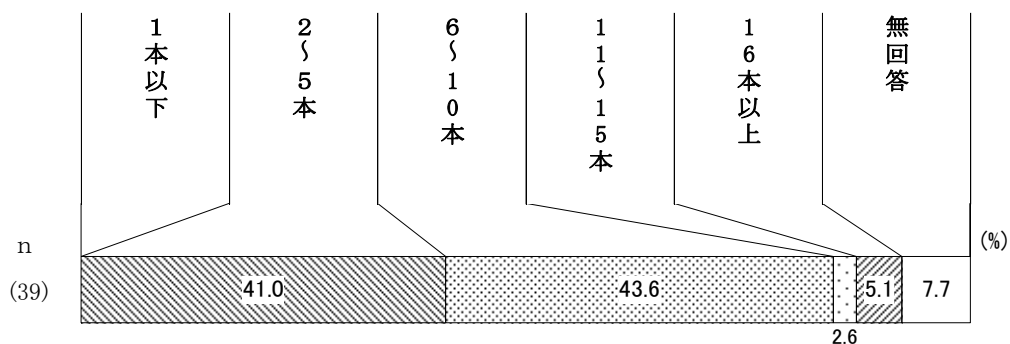


問11で「1または2」と答えた方へ

問11-1 一日何本くらい吸っていましたか。

妊娠中の喫煙本数としては、「6～10本」(43.6%)と「2～5本」(41.0%)が高くなっている。

〈 1日の喫煙本数 〉

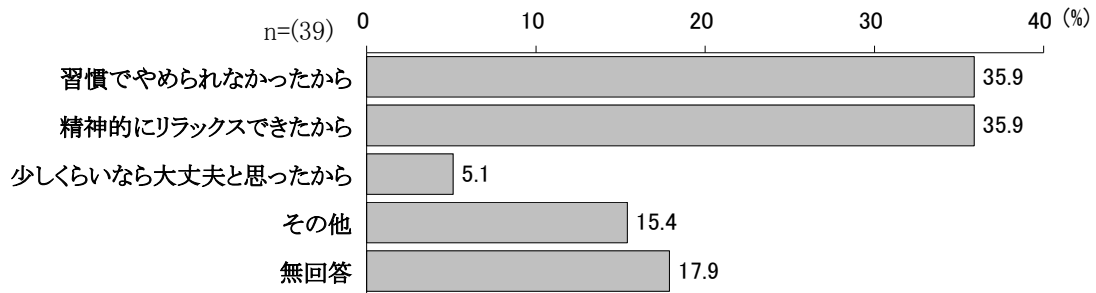


問11で「1または2」と答えた方へ

問11-2 吸っていたのはなぜですか（複数回答可）

妊娠中の喫煙の理由としては、「習慣でやめられなかったから」と「精神的にリラックスできたから」（ともに35.9%）が、特に高くなっている。

〈 吸っていた理由 〉

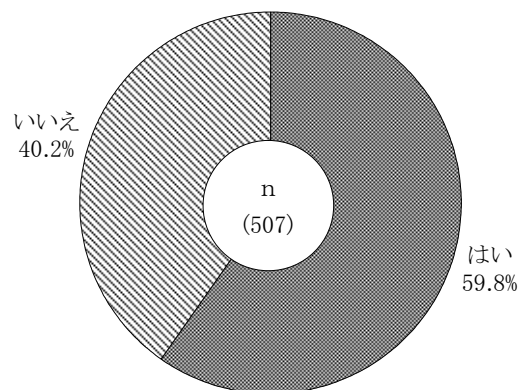


(8) 栄養補助食品

問12 妊娠中、栄養補助食品をとりましたか。

妊娠中の栄養補助食品の摂取については、「はい」が59.8%、「いいえ」が40.2%となっている。

〈 妊娠中の栄養補助食品摂取の有無 〉

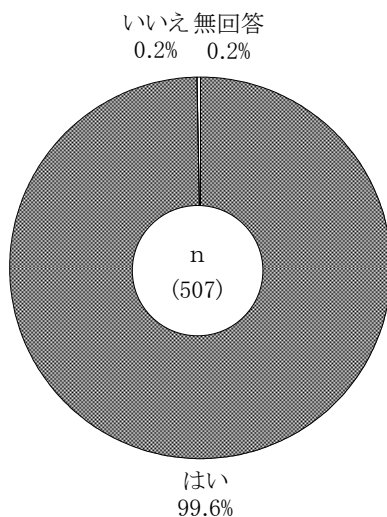


(9) 妊娠中の喫煙

問13 妊娠中の喫煙が胎児に悪い影響を与えることは知っていましたか。

妊娠中の喫煙が胎児に悪影響を与えるという認識があるかについては、「はい」が99.6%を占めている。

〈 妊娠中の喫煙が胎児に悪影響を与えるという認識 〉

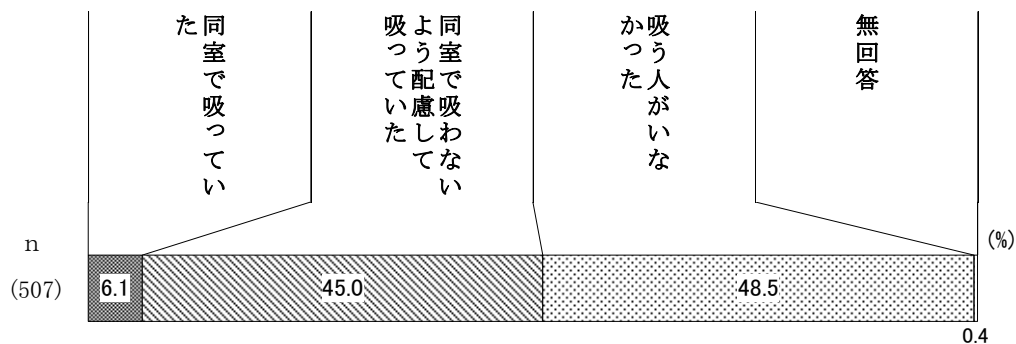


(10) 家族の喫煙状況

問14 妊娠中、同居の家族はたばこを吸っていましたか。

妊娠中の同居家族の喫煙状況をみると、「同室で吸っていた」が6.1%、「同室では吸わないよう配慮して吸っていた」が45.0%となっている。一方、「吸う人がいなかった」は48.5%となっている。

〈 妊娠中の同居家族の喫煙状況 〉

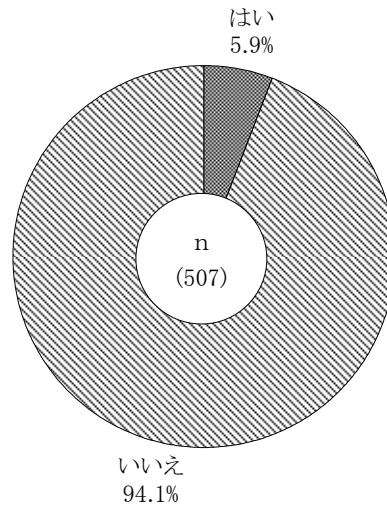


(11) 飲酒状況

問15 妊娠中、飲酒はしていましたか。

妊娠中の飲酒については、「いいえ」が94.1%を占めている。

〈 妊娠中の飲酒状況 〉

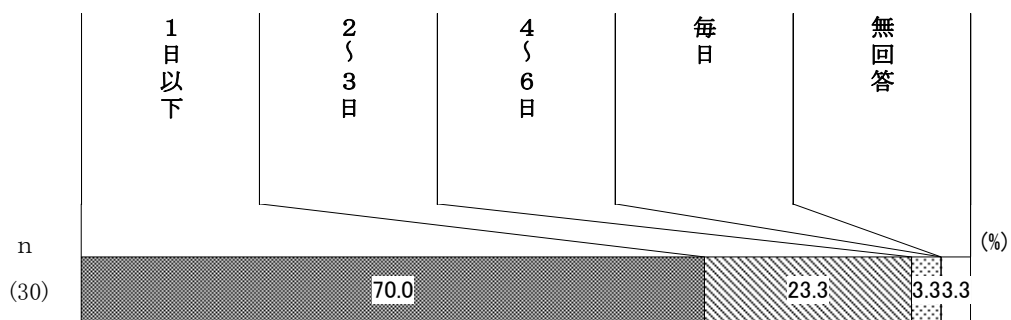


問15で「はい」と答えた方へ

問15-1 週に何日くらい飲酒していましたか。

妊娠中の1週間の飲酒頻度としては、「1日以下」が70.0%を占めている。

〈 妊娠中の1週間の飲酒頻度 〉

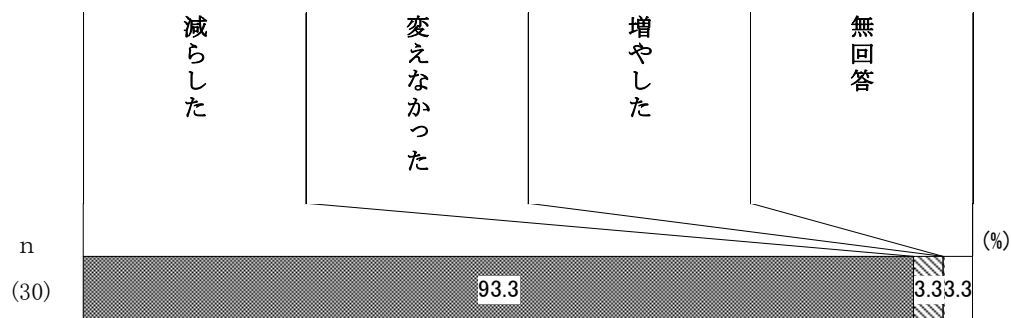


問15で「はい」と答えた方へ

問15-2 妊娠中、妊娠前とくらべて飲酒量を変えましたか。

妊娠前と比較した飲酒量の変化については、「減らした」が93.3%を占めている。

〈妊娠前と比較した飲酒量〉

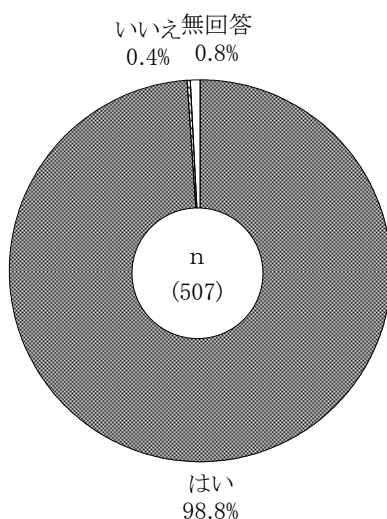


(12) 妊娠中の飲酒

問16 妊娠中の大量飲酒がお母さんの身体や胎児の成長に悪い影響があることを知っていましたか。

妊娠中の大量飲酒が母体や胎児に悪影響を与えるという認識については、「はい」が98.8%を占めている。

〈妊娠中の大量飲酒が母体や胎児に悪影響を与えるという認識〉

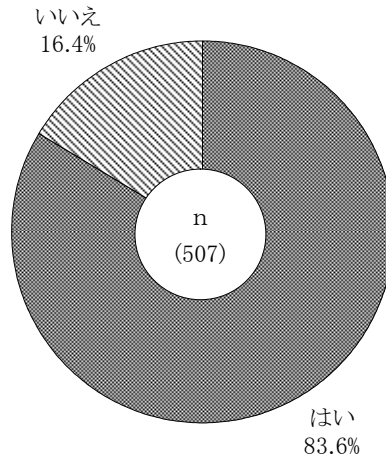


(13) マタニティクラス

問17 マタニティクラス（母親学級）に参加しましたか。

マタニティクラスへの参加については、「はい」が83.6%を占めている。平成19年の調査結果と比較すると、前回の76.2%から増加している。

〈 マタニティクラスへの参加 〉

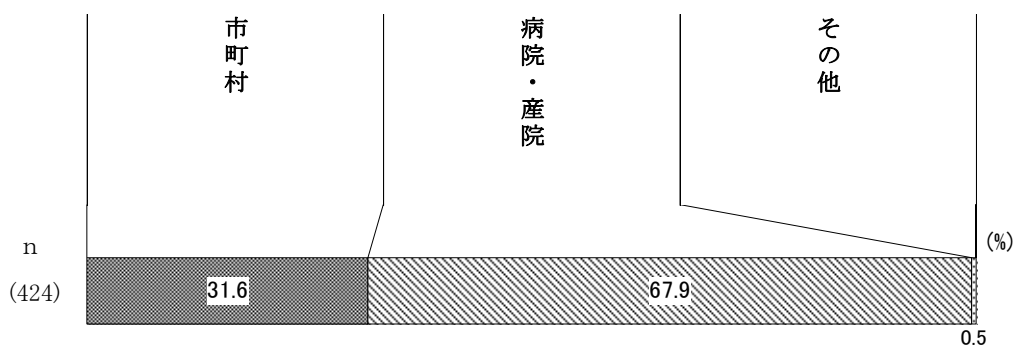


問17で「はい」と答えた方へ

問17-1 どこでマタニティクラスに参加しましたか。

参加したマタニティクラスの場所は、「病院・産院」が67.9%、「市町村」が31.6%となっている。平成19年の調査結果と比較すると、前回の「市町村」が50.3%、「病院・産院」が48.7%であったが、「病院・産院」が増加している。

〈 参加したマタニティクラスの場所 〉

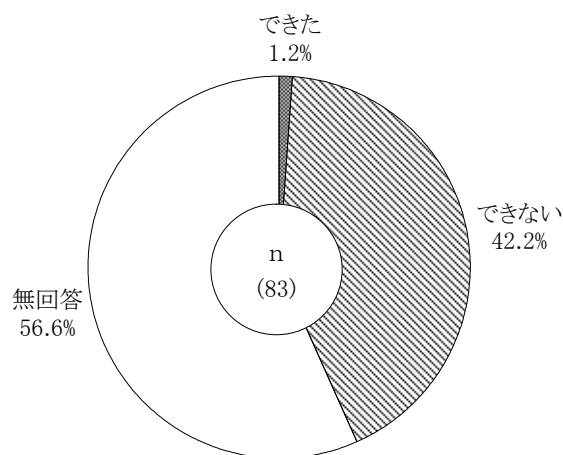


問17で「いいえ」と答えた方へ

問17-2 マタニティクラスの参加時には友達はできましたか。

参加したマタニティクラスにおいて友達が「できた」は1.2%となっている。

〈 参加したマタニティクラスの友達 〉

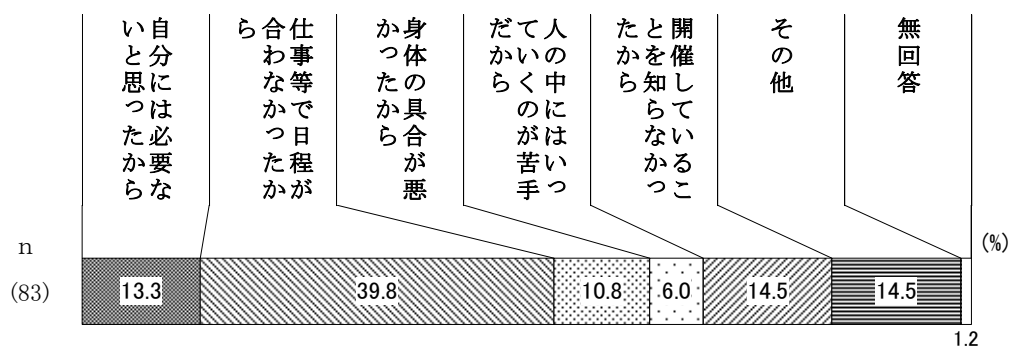


問17で「いいえ」と答えた方へ

問17-3 参加しなかった理由で最もあてはまるものは何ですか。

マタニティクラスに参加しなかった理由としては、「仕事等で日程が合わなかったから」が39.8%で最も高く、以下「開催していることを知らなかったから」(14.5%)、「自分には必要ないと思ったから」(13.3%)の順で続いている。

〈 参加しなかった理由 〉

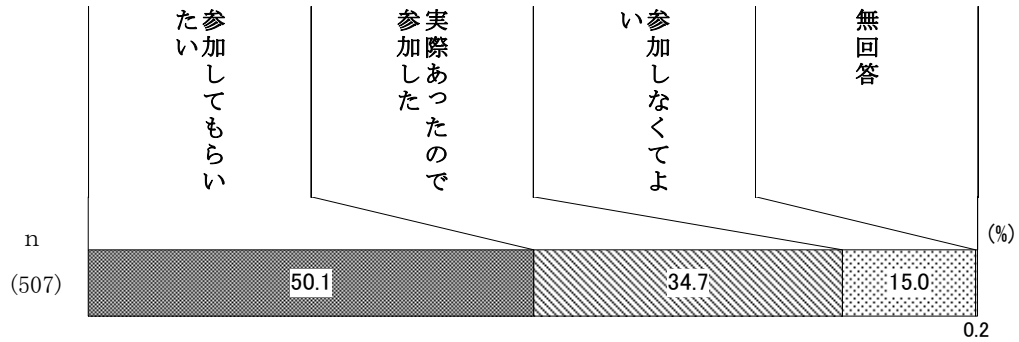


(14) 両親学級・父親学級

問18 「両親学級」「父親学級」があれば、夫にも参加してもらいたいですか。

「両親学級」「父親学級」への夫の参加については、「実際あったので参加した」が34.7%「参加してもらいたい」が50.1%となっている。一方、「参加しなくてよい」は15.0%である。

〈「両親学級」「父親学級」の夫への参加希望〉

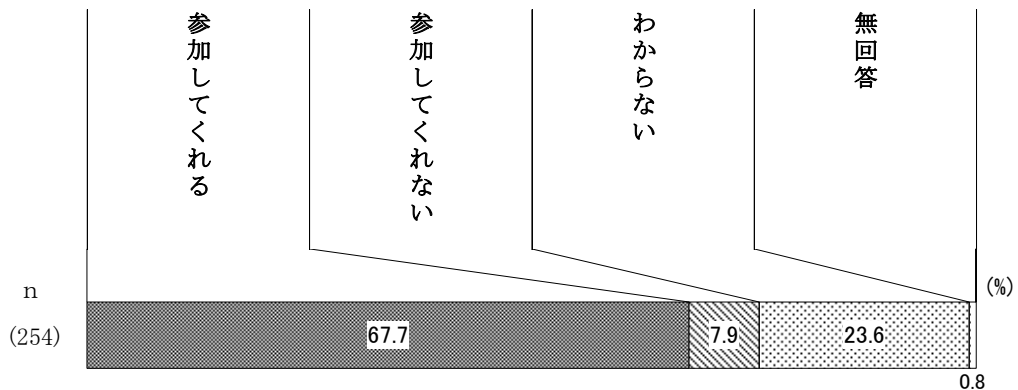


問18で「参加してもらいたい」と答えた方へ

問18-1 夫は参加してくれると思いますか。

「両親学級」「父親学級」へ夫に参加してもらいたいという人に、実際に夫が参加すると思うか、聞いたところ「参加してくれる」が67.7%を占めている。

〈夫の参加意向〉

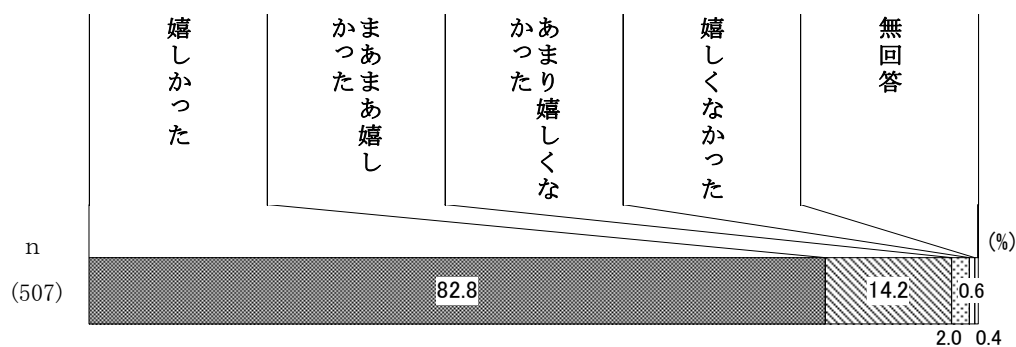


(15) 妊娠がわかったとき

問19 妊娠とわかったときのお気持ちで、最もあてはまるものは次のうちどれですか。

妊娠がわかったときのお気持ちは「嬉しかった」が82.8%を占めている。

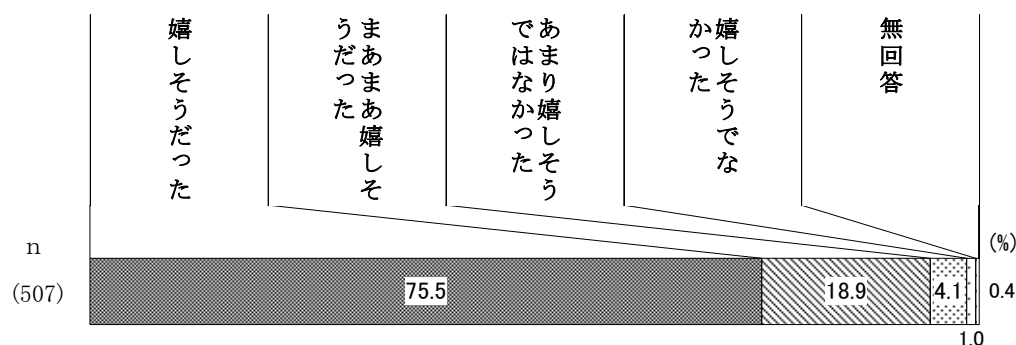
〈 妊娠がわかったときのお気持ち 〉



問20 妊娠とわかったときの夫の様子で、最もあてはまるものは次のうちどれですか。

妊娠がわかったときの夫の様子は、「嬉しそうだった」が75.5%を占めている。

〈 妊娠がわかったときの夫の様子 〉

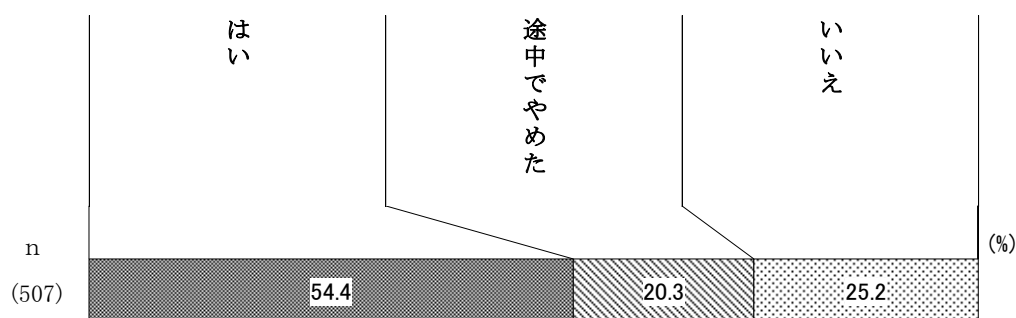


(16) 妊娠中の仕事

問21 妊娠中、仕事をもっていましたか。

妊娠中仕事を継続したかについては、「はい」が54.4%で最も高く、「途中でやめた」は20.3%となっている。一方、「いいえ」は25.2%となっている。

〈 妊娠中の仕事の有無 〉

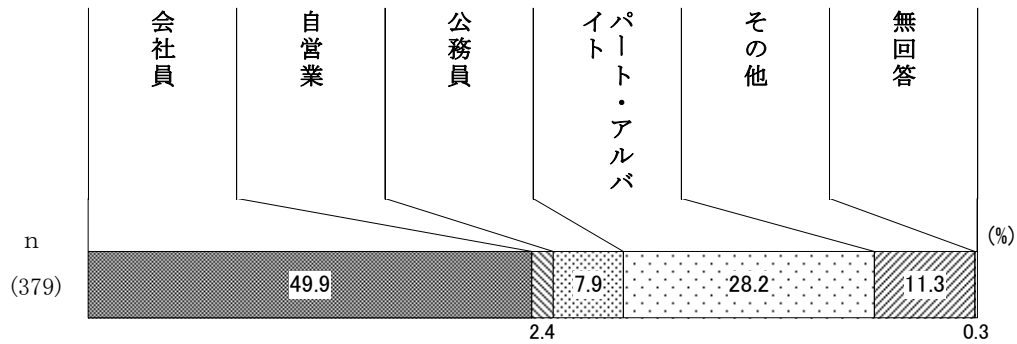


問21で「1あるいは2」と答えた方へ

問21-1 職業は何ですか（あるいは何でしたか）。

妊娠中の職業としては、「会社員」が49.9%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」（28.2%）となっている。

〈 妊娠中の職業 〉

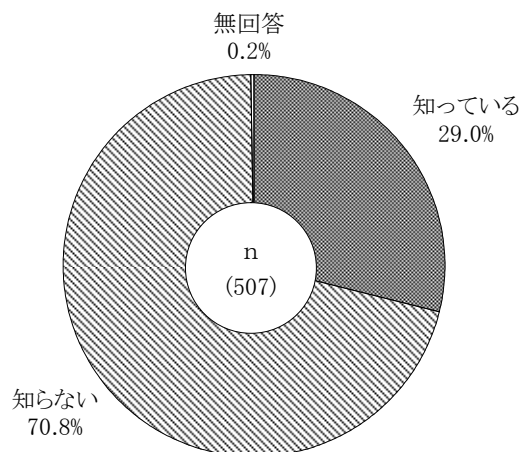


(17) 母性健康管理指導事項連絡カード

問22 母性健康管理指導事項連絡カードを知っていますか。

母性健康管理指導事項連絡カードを「知っている」は29.0%、「知らない」は70.8%となっている。

〈 母性健康管理指導事項連絡カードの知識 〉

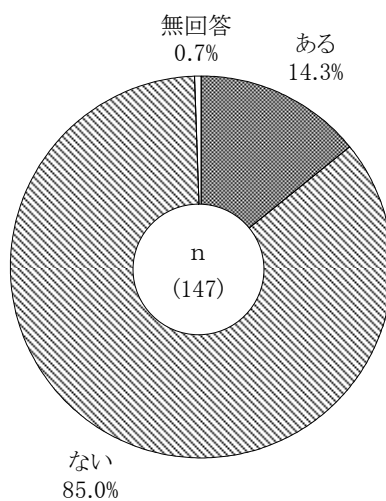


問22で「知っている」と答えた方へ

問22－1 利用したことはありますか。

母性健康管理指導事項連絡カードを知っている人のうち、利用したことが「ある」は14.3%、「ない」は85.0%となっている。

〈 母性健康管理指導事項連絡カードの利用 〉



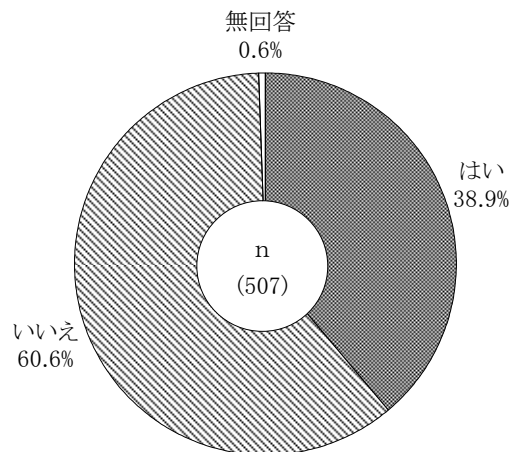
4. 第1子を出産したときの状況

(1) 里帰り出産

問1 出産に先立って、里帰りしましたか。

出産に先立っての里帰りについては、「はい」が38.9%、「いいえ」が60.6%となっている。

〈 出産に先立っての里帰り 〉

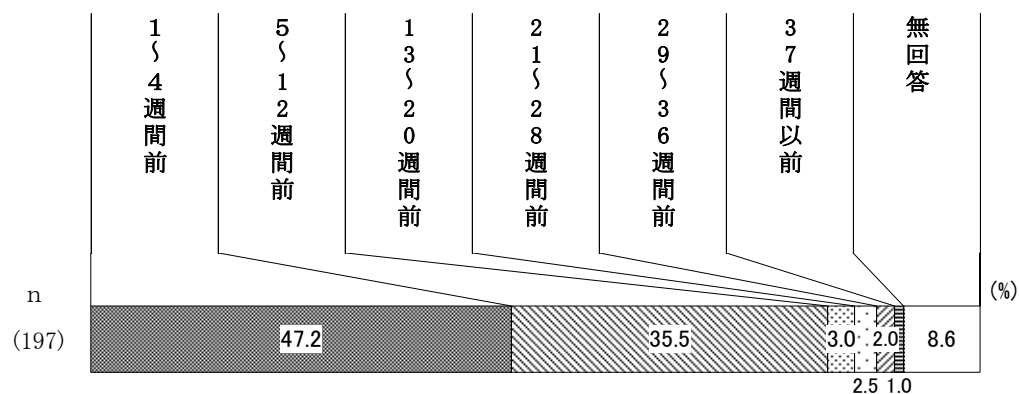


問1で「はい」と答えた方へ

問1-1 いつごろから里帰りしましたか。

里帰りの時期としては、「1～4週間前」が47.2%で最も高く、次いで「5～12週間前」(35.5%)となっている。

〈 里帰りの時期 〉

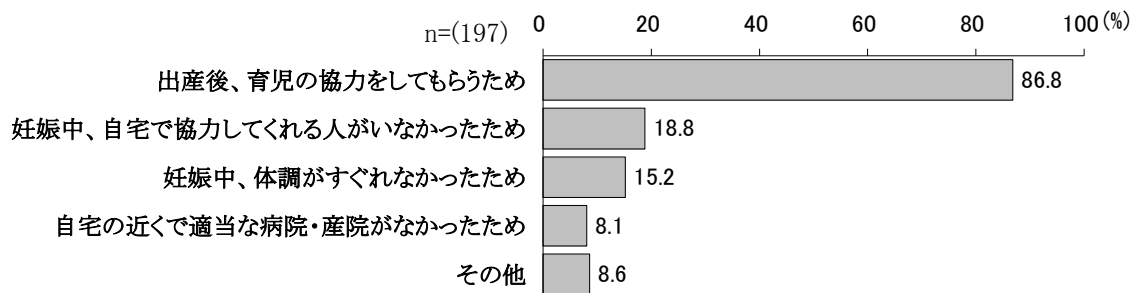


問1で「はい」と答えた方へ

問1-2 里帰り出産をした理由はなんですか。(複数回答可)

里帰り出産をした理由としては、「出産後、育児の協力をしてもらうため」が86.8%で最も高く、次いで、「妊娠中、自宅で協力してくれる人がいなかったため」(18.8%)となっている。

〈 里帰り出産をした理由 〉

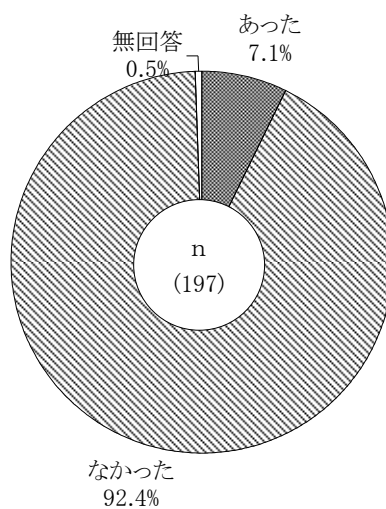


問1で「はい」と答えた方へ

問1-3 里帰り出産で保健サービスや医療を受けるにあたり困ったことがありましたか。

里帰り出産で保健サービスを受けるにあたり困った経験は「なかった」が92.4%を占めている。

〈 里帰り出産で保健サービスを受けるにあたり困ったことの有無 〉

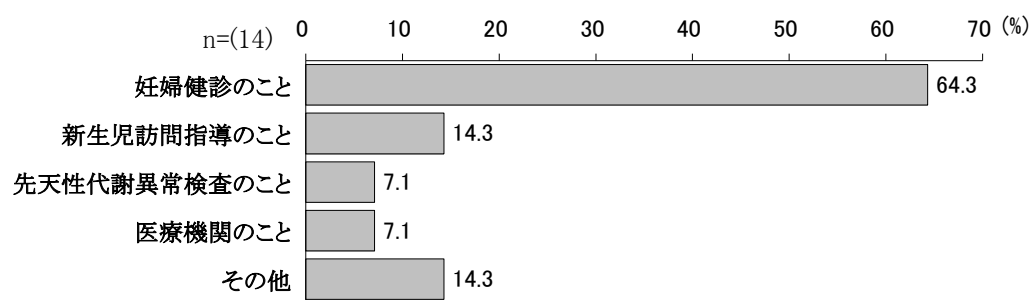


問1-3で「あった」と答えた方へ

問1-4 どんなことで困りましたか。(複数回答可)

里帰り出産で保健サービスを受けるにあたり困った内容としては、「妊婦健診のこと」が64.3%で最も高く、次いで「新生児訪問指導のこと」(14.3%)となっている。

〈 里帰り出産で保健サービスを受けるにあたり困った内容 〉

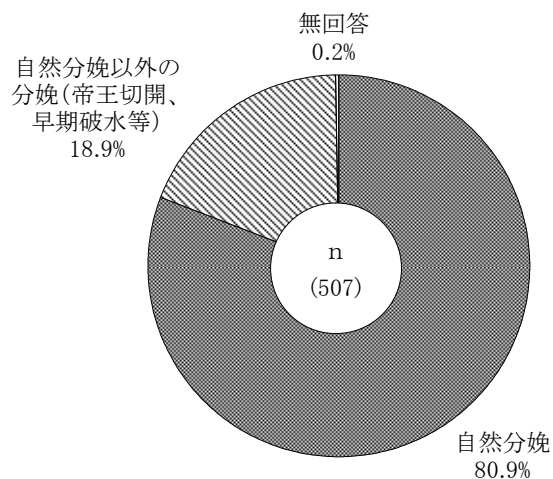


（2）出産の状態

問2 出産の状態はどうでしたか。

出産の状態は「自然分娩」が80.9%と最も高く、次いで「自然分娩以外の分娩（帝王切開、早期破水等）」（18.9%）となっている。

〈 出産の状態 〉

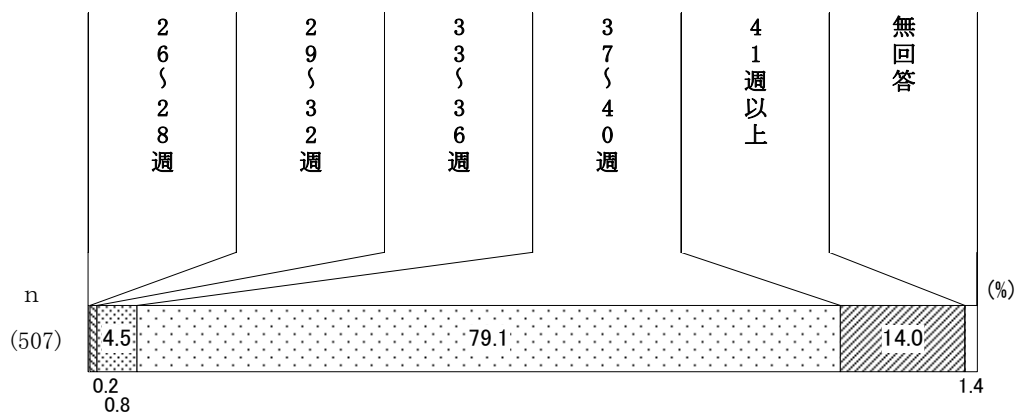


（3）出産時の妊娠週数

問3 出産時の妊娠週数はどのくらいでしたか。数字を記入してください。

出産時の妊娠週数は、「37～40週」が79.1%で最も高く、次いで「41週以上」（14.0%）となっている。

〈 出産時の妊娠週数 〉

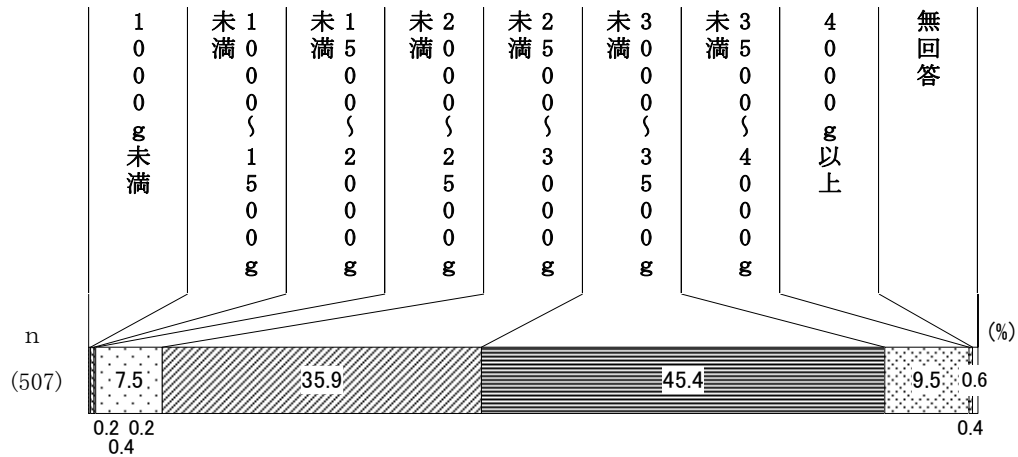


(4) 出産時の子ども

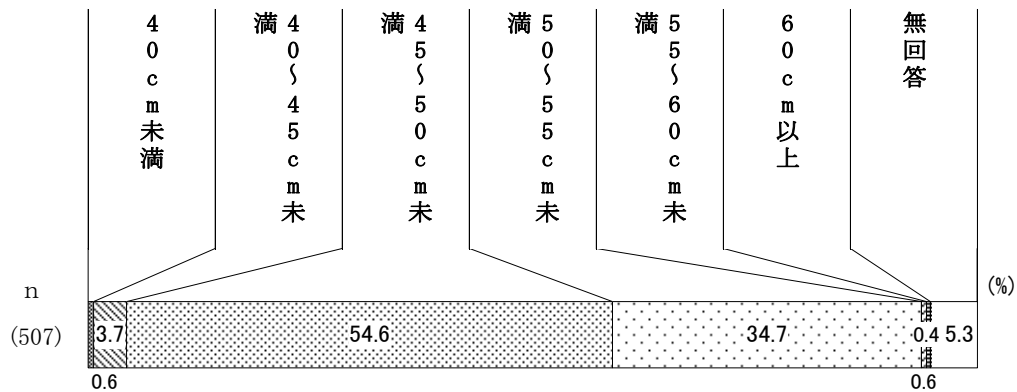
問4 出産時のお子さんの体重と身長はどのくらいでしたか。数字を記入してください。

出産時の子どもの体重としては、「3000～3500 g 未満」が45.4%で最も高く、次いで「2500～3000 g 未満」(35.9%)となっている。

〈 出産時の子どもの体重 〉



〈 出産時の子どもの身長 〉

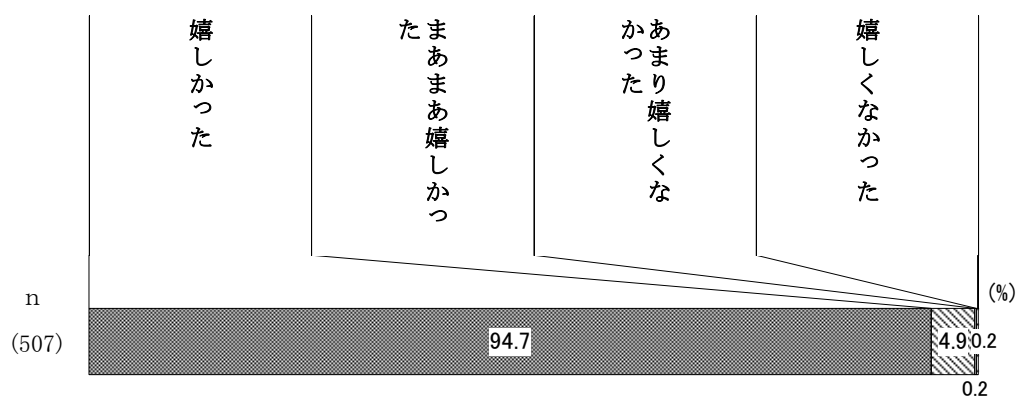


(5) 子どもの顔を見たときの気持ち

問5 出産し、お子さんの顔を見たときの気持ちで最もあてはまるものはどれですか。

出産し、子どもの顔を見たときの気持ちとしては、「嬉しかった」が94.7%を占めている。

〈 出産し、子どもの顔を見たときの気持ち 〉

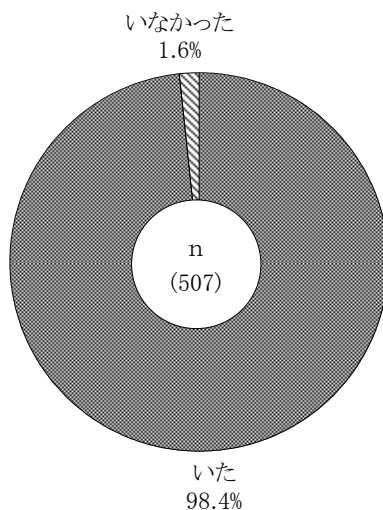


(6) 産後1ヶ月頃まで

問6 産後1ヶ月頃までの時期に協力してくれた人はいましたか。

産後1ヶ月頃までの時期に協力者が「いた」が98.4%を占めている。

〈産後1ヶ月頃までの協力者の有無〉

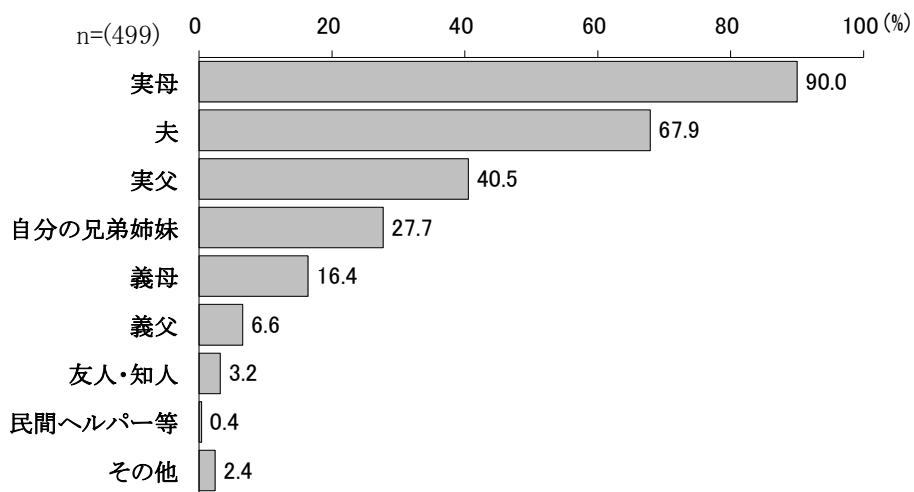


問6で「いた」と答えた方へ

問6-1 誰が協力してくれましたか。(複数回答可)

産後1ヶ月頃までの協力者としては、「実母」が90.0%で最も高く、以下「夫」(67.9%)、「実父」(40.5%)の順で続いている。

〈産後1ヶ月頃までの協力者〉

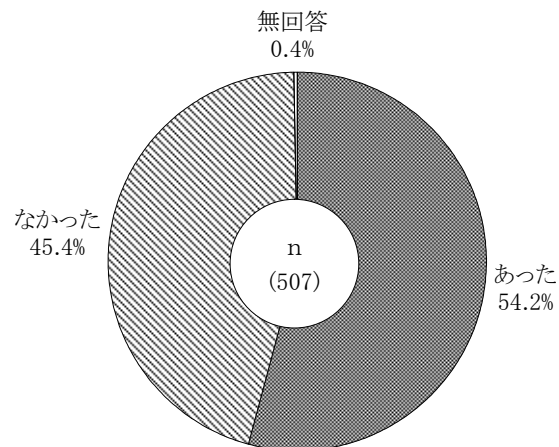


(7) 産後3ヶ月頃まで

問7 産後3ヶ月くらいまでの間に気分が沈んだり涙もろくなったり何もする気になれないと
いうことがありましたか。

産後3ヶ月くらいまでの気分の低下が「あった」は54.2%、「なかった」は45.4%となっている。

〈 産後3ヶ月くらいまでの気分の低下 〉



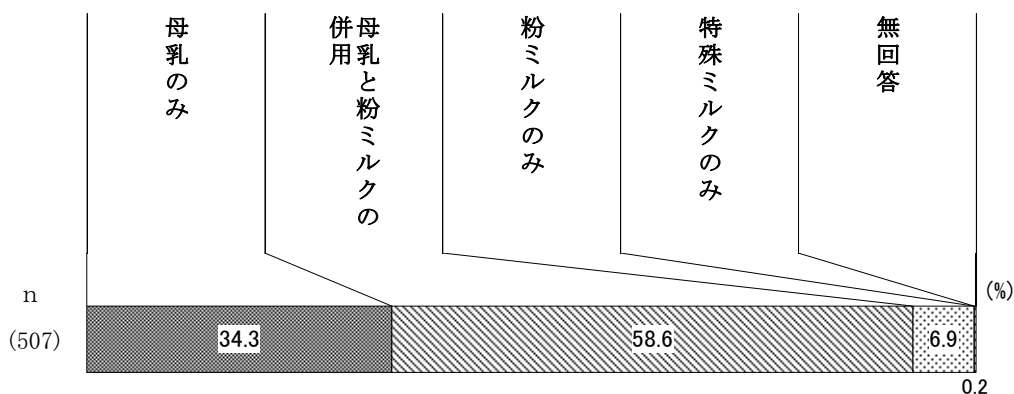
5. 第1子の育児

(1) 栄養

問1 生後1ヶ月頃はお子さんを何で育てていましたか。

生後1ヶ月頃の子どもの食事としては、「母乳と粉ミルクの併用」が58.6%で最も高く、次いで「母乳のみ」(34.3%)となっている。

〈 生後1ヶ月頃の子どもの食事 〉

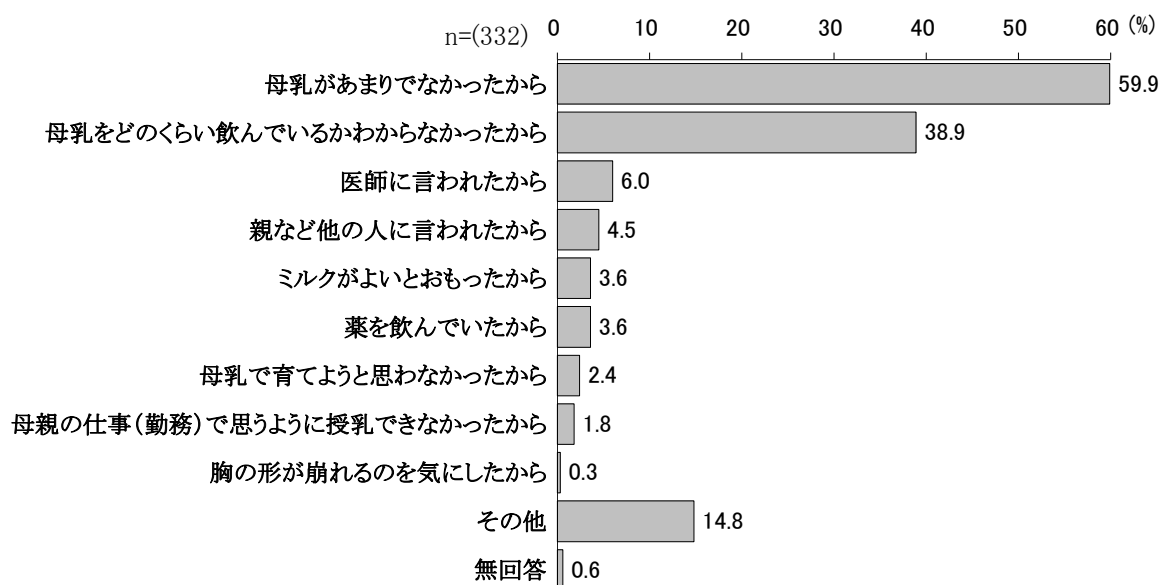


問1で「2～4」と答えた方へ

問1-1 母乳のみにしなかった理由は何ですか。(複数回答可)

母乳のみにしなかった理由としては、「母乳があまり出なかったから」が59.9%で最も高く、次いで「母乳をどのくらい飲んでいるかわからなかったから」(38.9%)となっている。

〈 母乳のみにしなかった理由 〉

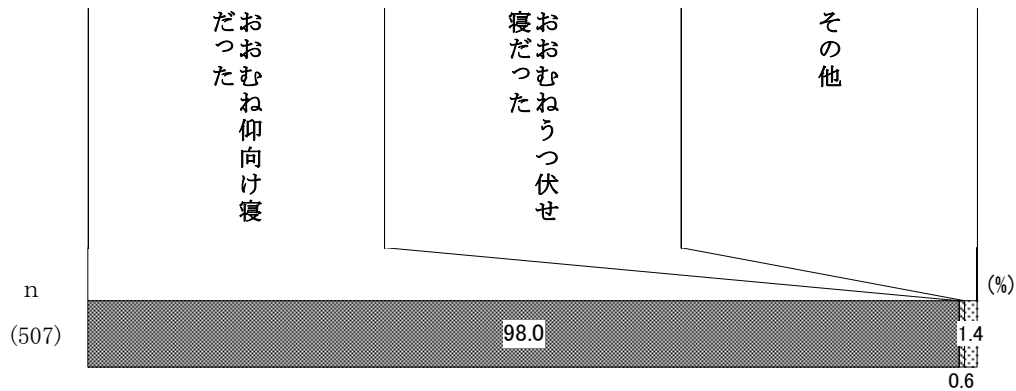


(2) 子どもの寝かせ方

問2 お子さんが生まれてからの寝かせ方はどうでしたか。

子どもが生まれてからの寝かせ方としては、「おおむね仰向け寝だった」が98.0%を占めている。

〈 子どもが生まれてからの寝かせ方 〉



問2で「2」と答えた方へ

問2-1 どのような理由でそうしましたか。

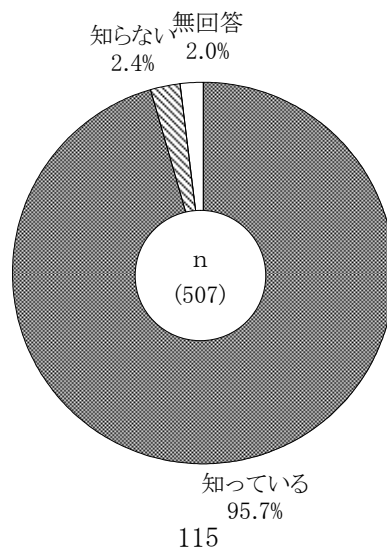
うつ伏せ寝をさせたという3人の理由としては、「自然にしていた」「生まれた病院でしていたから」「うつ伏せ寝がいいと思ったから」に分かれている。

(3) 乳幼児突然死症候群 (SIDS)

問3 うつ伏せ寝が乳幼児突然死症候群 (SIDS) の危険因子のひとつといわれていることを知っていますか。

うつ伏せ寝が『SIDS』の危険因子であるという認識について「知っている」が95.7%を占めている。

〈 うつ伏せ寝とSIDSとの関係 〉

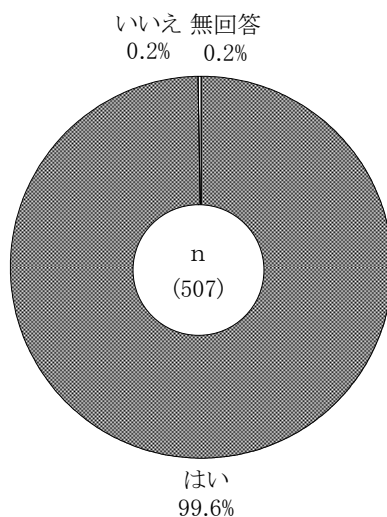


(4) BCG

問4 BCG接種を受けましたか。

BCGの接種については「はい」が99.6%を占めている。

〈BCG接種の経験〉

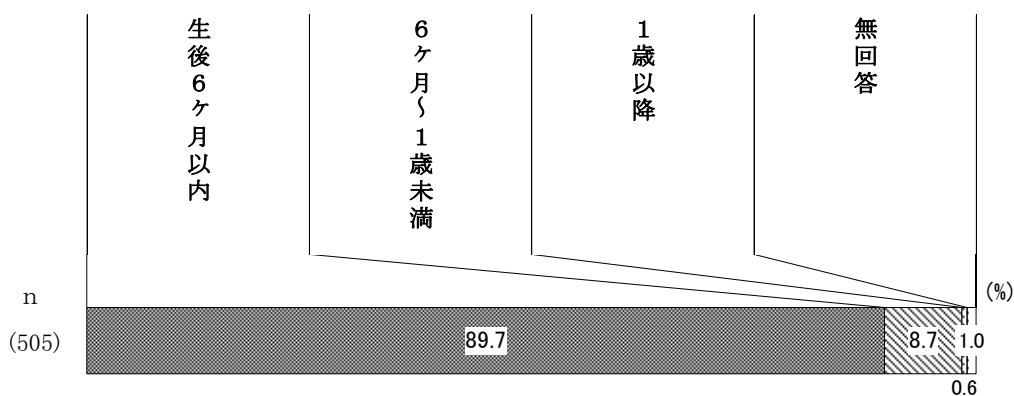


問4で「はい」と答えた方へ

問4-1 接種したのはいつごろですか。

BCGの接種の時期は、「生後6ヶ月以内」が89.7%を占めている。

〈BCGを接種した時期〉



問4で「いいえ」と答えた方へ

問4-2 受けなかった理由で最もあてはまるのは何ですか。

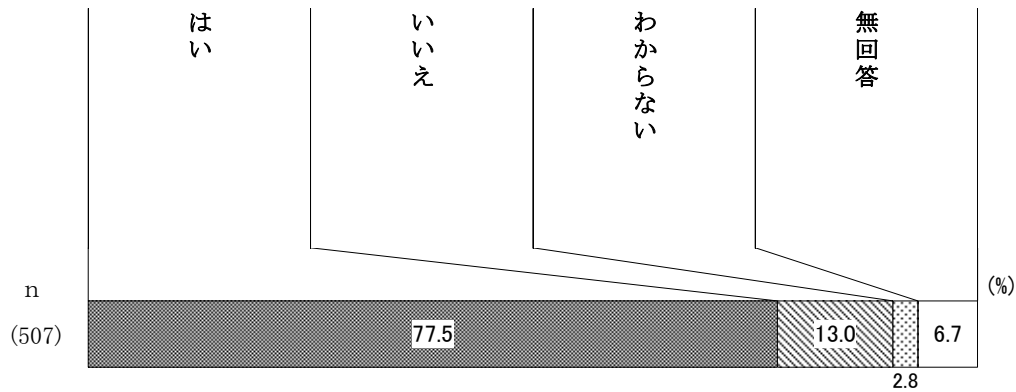
BCGの接種を受けなかった1人の理由は、「その他」となっている。

(5) MR

問5 MR（麻疹・風しん混合ワクチン）または麻疹（はしか）の予防接種を2歳までに受けましたか。

2歳までのMRまたは麻疹予防接種については、「はい」が77.5%を占めている。

〈 2歳までのMRまたは麻疹予防接種の有無 〉

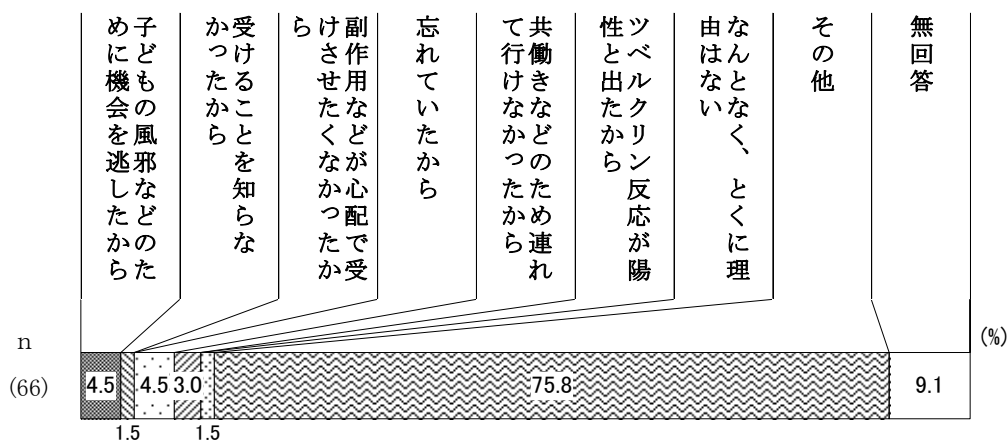


問5で「いいえ」と答えた方へ

問5-1 受けなかった理由で最もあてはまるのは何ですか。

2歳までのMRまたは麻疹予防接種を受けていない理由としては、「子どもの風邪などのために機会を逃したから」「忘れていたから」等が挙げられている。

〈 予防接種を受けなかった理由 〉



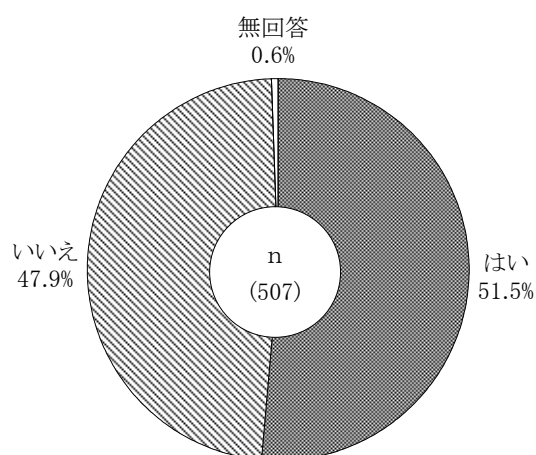
6. すべての子の育児

(1) 子どもの事故死

問1 1歳から14歳までの子どもは、病気でなくなるよりも事故でなくなる子どもの方が多いことを知っていましたか。

1歳から14歳までの子どもは、病気でなくなるより事故でなくなる子どもの方が多いことを知っていたかについては、「はい」が51.5%、「いいえ」が47.9%となっている。

〈 1歳から14歳までの子どもが病気より事故での死亡が多いことの知識 〉



(2) 事故やけがの防止

問2 家庭内での子どもの事故やけがの防止のための工夫についておうかがいします。

問2-1 階段などから子どもが落ちないように柵などをつけている

問2-2 水を張った浴槽に子どもが落ちないようにしている

問2-3 子どもだけを家に残さないようにしている

問2-4 誤って飲み込まないように、薬やお金などは子どもの手の届かないところに置いている

問2-5 玄関から飛び出さないように柵や網をつけている

問2-6 その他にしている工夫があったらお書きください

〈階段等の転落防止〉については、「している」が38.5%を占めている。

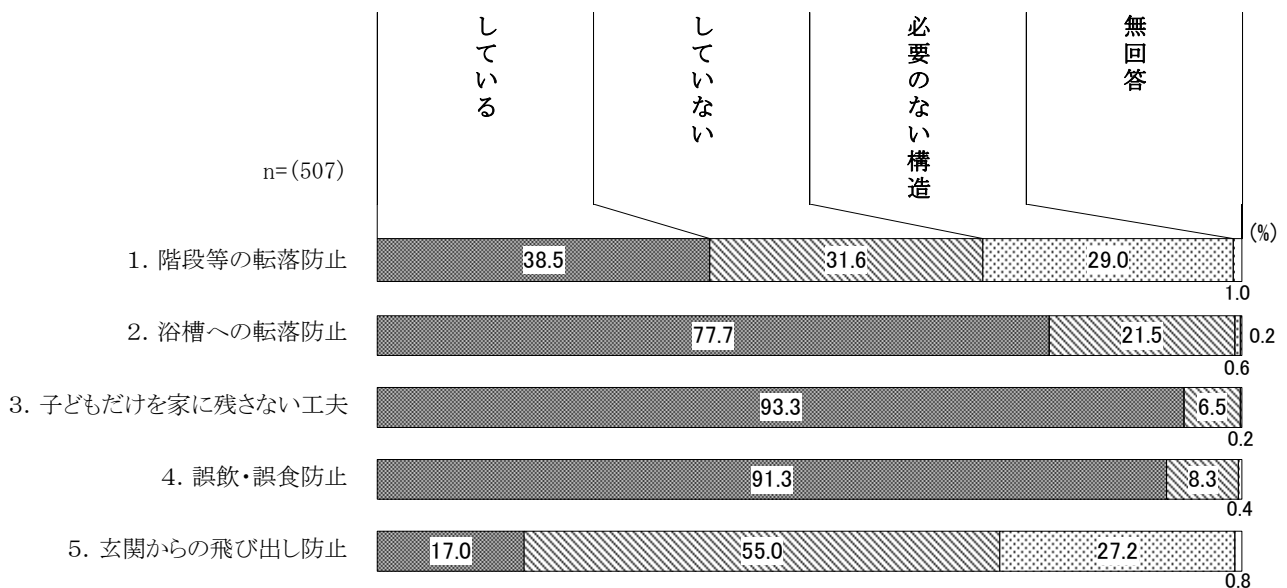
〈浴槽への転落防止〉については、「している」が77.7%を占めている。

〈子どもだけを家に残さない工夫〉については、「している」が93.3%を占めている。

〈誤飲・誤食防止〉については、「している」が91.3%を占めている。

〈玄関からの飛び出し防止〉については、「していない」が55.0%を占めている。また、「玄関は柵や網をつけなくてよい構造である」は27.2%となっている。一方、「している」は17.9%となっている。

〈家庭内での子どもの事故防止のための工夫〉

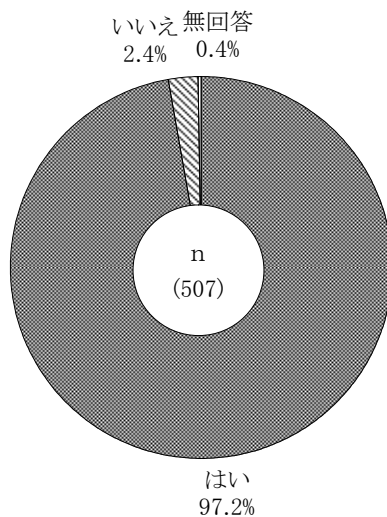


(3) チャイルドシート

問3 子どもを車に乗せるときにはチャイルドシートをしていますか。

子どもを車に乗せるときにチャイルドシートをしているかについては、「はい」が97.2%を占めている。

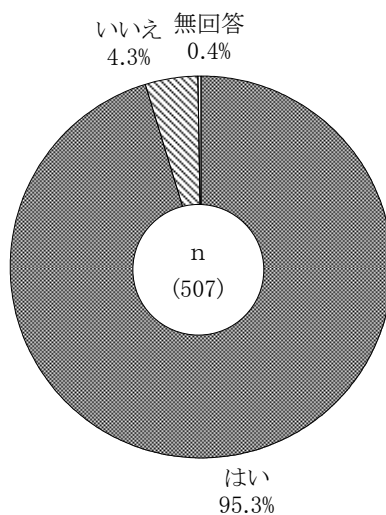
〈チャイルドシートの使用〉



問4 チャイルドシートの正しい装着方法を知っていますか。

チャイルドシートの正しい装着方法については、「はい」が95.3%を占めている。

〈チャイルドシートの正しい装着方法の知識〉

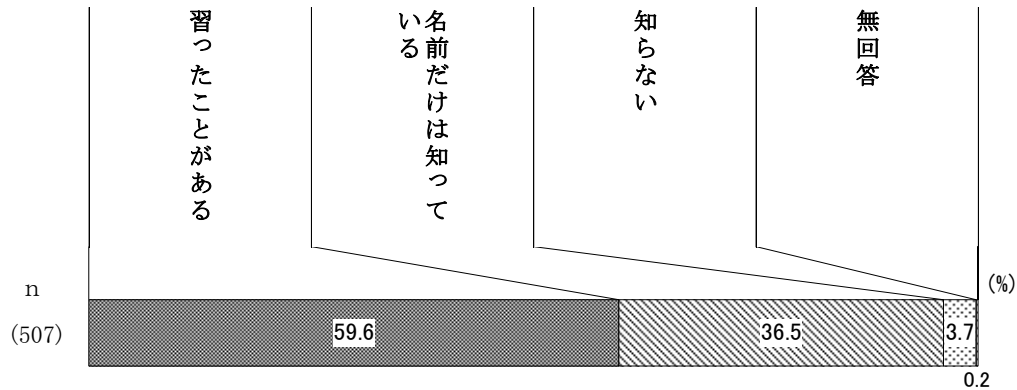


(4) 心肺蘇生法

問5 心肺蘇生法を知っていますか。

心肺蘇生法について、「習ったことがある」が59.6%と最も高く、次いで「名前だけは知っている」(36.5%)となっている。一方、「知らない」は3.7%となっている。

〈 心配蘇生法の知識 〉

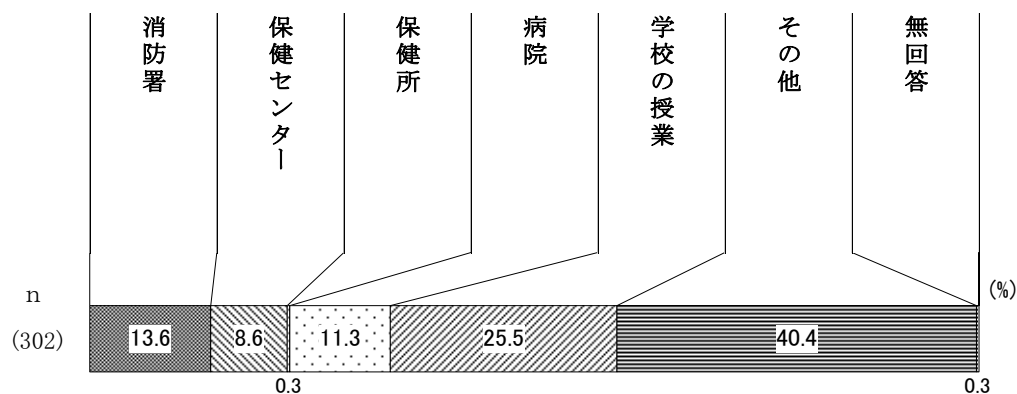


問5で「習ったことがある」と答えた方へ

問5-1 どこで習いましたか。

心肺蘇生法を習った人の習得場所としては、「学校の授業」が25.5%で最も高く、以下「消防署」(13.6%)、「病院」(11.3%)の順で続いている。

〈 心配蘇生法を習った場所 〉

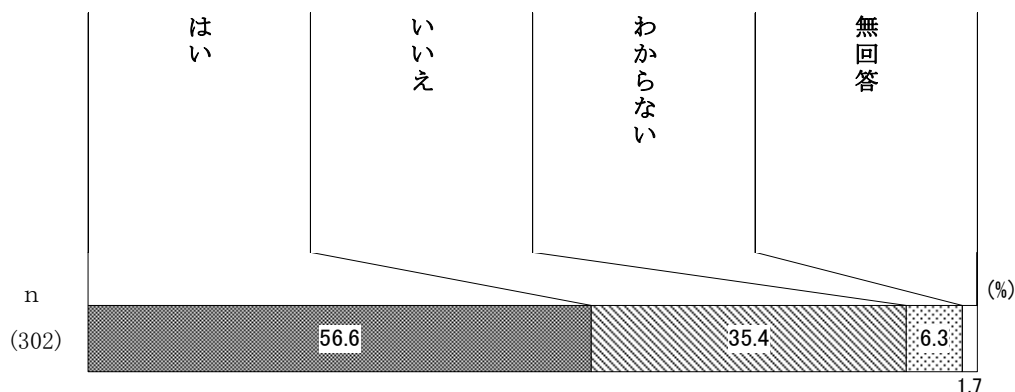


問5で「習ったことがある」と答えた方へ

問5-2 その際、子どもの心肺蘇生法は習いましたか。

心肺蘇生法を習った人のうち、子どもの心肺蘇生法の習得については、「はい」が56.6%、「いいえ」が35.4%となっている。

〈 子どもの心配蘇生法を習った経験 〉

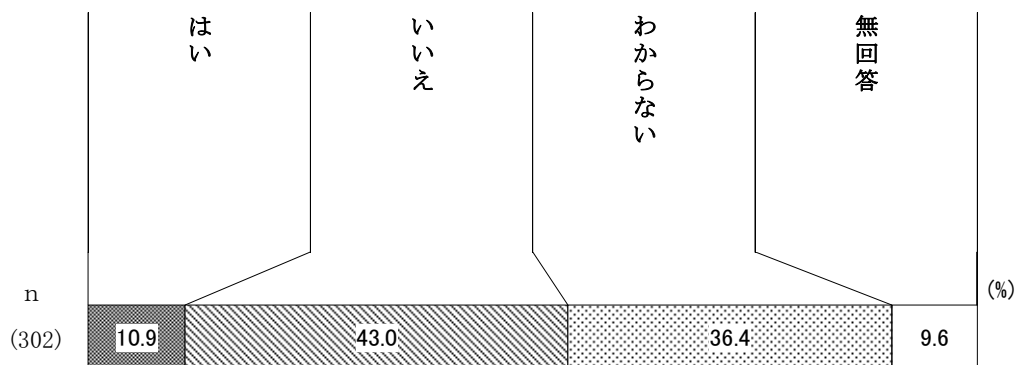


問5で「習ったことがある」と答えた方へ

問5-3 実際に心肺蘇生法を実践する自信はありますか。

心肺蘇生法を習った人のうち、実際に心肺蘇生法を実践する自信の有無については、「いいえ」が43.0%を占めている。また、「わからない」という人も36.4%となっている。

〈 心配蘇生法を実践する自信 〉

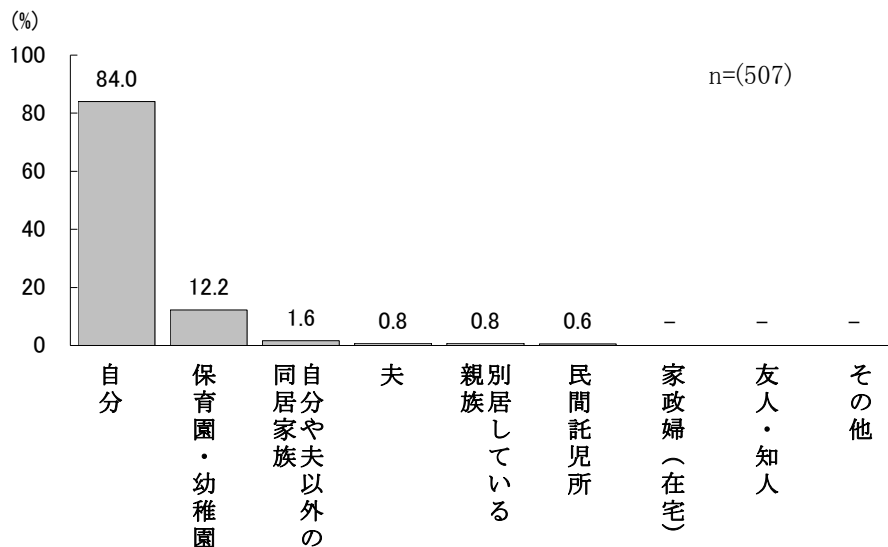


(5) 日中の育児

問6 日中の育児は主にどなたが行っていますか。続柄はお母さん自身から見たものとします。
(1つのみ回答)

日中の主な育児者としては、「自分」が84.0%と最も高く、次いで「保育園・幼稚園」(12.2%)となっている。

〈 日中の主な育児者 〉

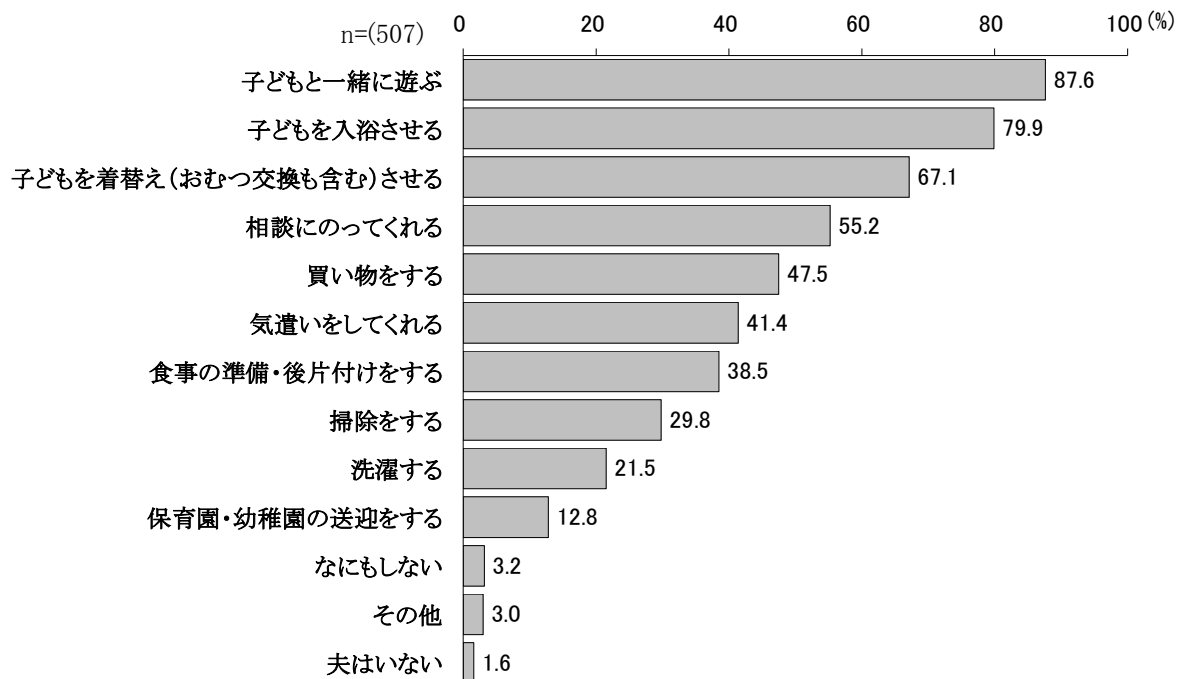


(6) 夫の育児参加

問7 夫は、育児にどのような形で参加してくれていますか。(複数回答可)

夫の育児参加の状況については、「子どもと一緒に遊ぶ」が87.6%で最も高く、以下「子どもを入浴させる」(79.9%)、「子どもを着替え(おむつ交換も含む)させる」(67.1%)の順で続いている。

〈 夫の育児参加の状況 〉

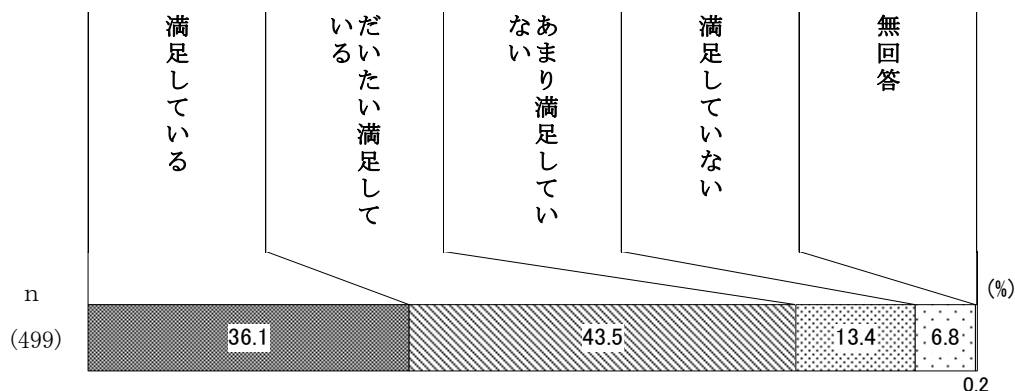


問7で「1～12」と回答した方へ

問7-1 夫の協力の仕方に満足していますか。

夫の育児への協力については、「満足している」が36.1%、「だいたい満足している」が43.5%となっており、あわせると79.6%が満足していると答えている。

〈 夫の協力の満足度 〉

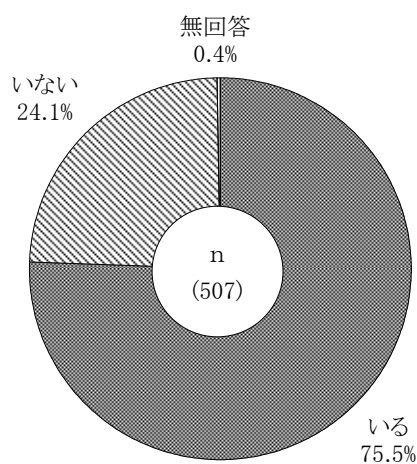


(7) 育児について話し合える友達

問8 近所に育児について話し合える友達がいますか。

近所に育児について話し合える友達が「いる」は75.5%、「いない」が24.1%となっている。

〈 近所に育児について話し合える友達の有無 〉

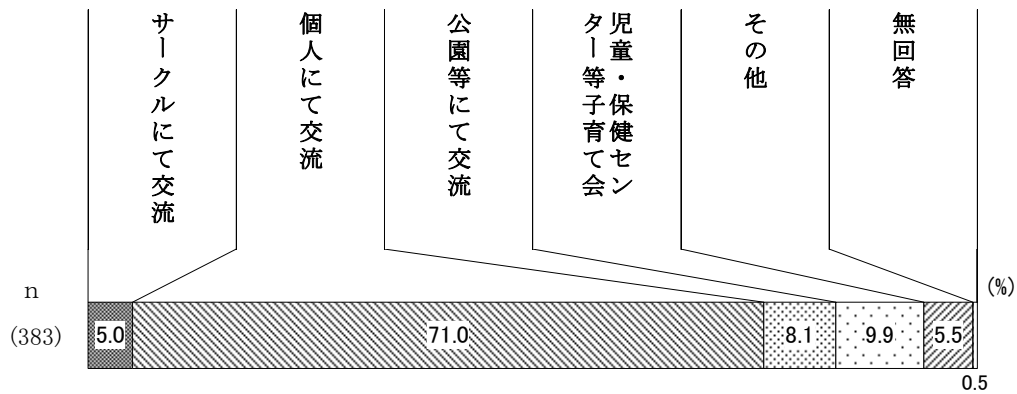


問8で「いる」と回答した方へ

問8-1 友達とはどのように交流していますか。

近所に育児について話し合える友達がいる人の交流としては、「個人にて交流」が71.0%と最も多い。

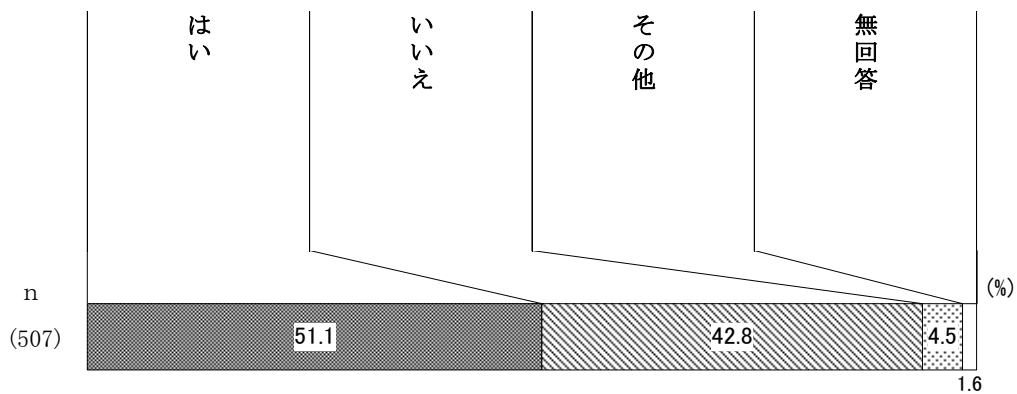
〈 友達との交流形態 〉



問8-2 新たな育児サークル等があったら参加を希望しますか。

近所に育児について話し合える友達が「いる」人のうち、新たな育児サークル等への参加について、「はい」は51.1%、「いいえ」は42.8%となっている。

〈 新たな育児サークル等の参加希望 〉

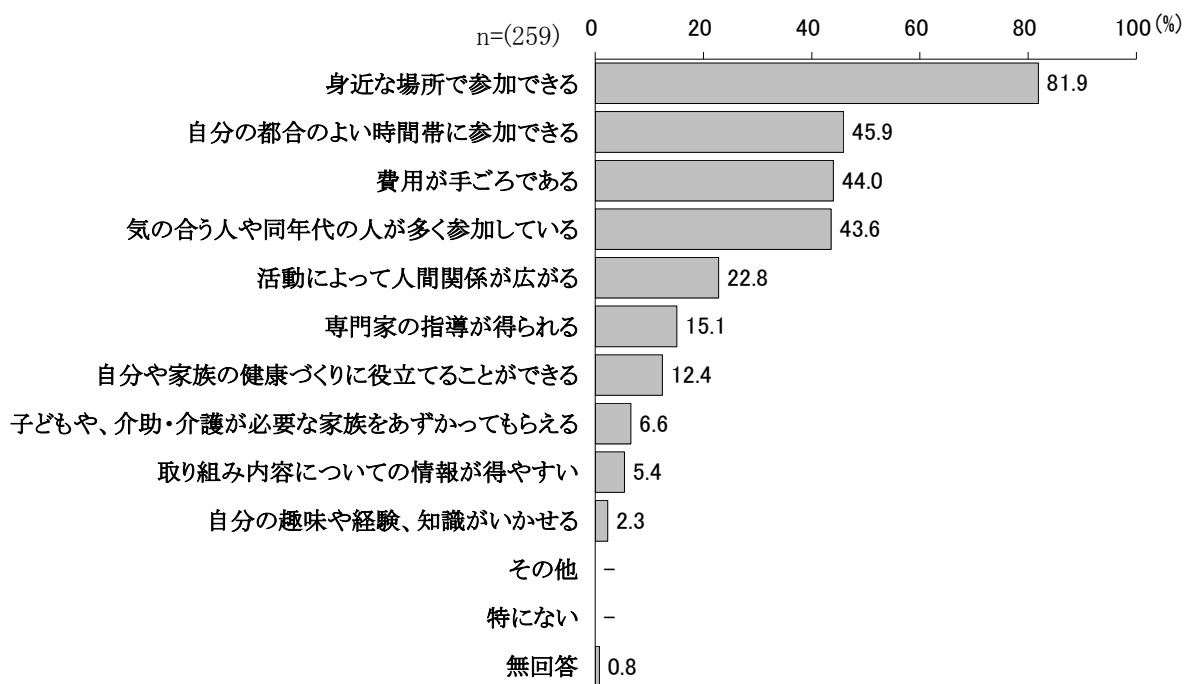


問8-2で「はい」と回答した方へ

問8-3 あなたが育児サークル等に参加するには、どのような条件が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

近所に育児について話し合える友達がおりに、新たな育児サークル等への参加意向もある人に、参加のための必要な条件を聞くと、「身近な場所に参加できる」が81.9%で最も高く、以下「自分の都合のよい時間帯に参加できる」(45.9%)「費用が手ごろである」(44.0%)「気の合う人や同年代の人が多く参加している」(43.6%)の順で続いている。

〈 育児サークル等に参加するための必要条件 〉

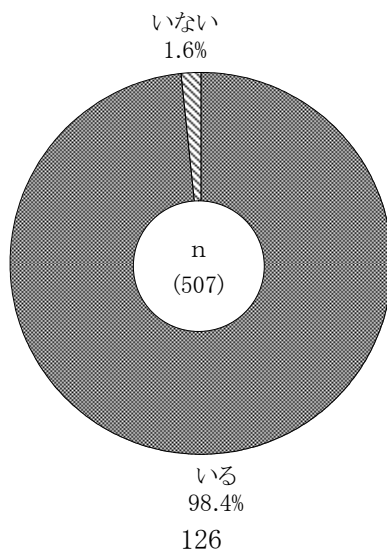


(8) 育児についての相談相手

問9 育児について相談できる人はいますか。

育児についての相談相手が「いる」が98.4%を占めている。

〈 育児についての相談相手の有無 〉

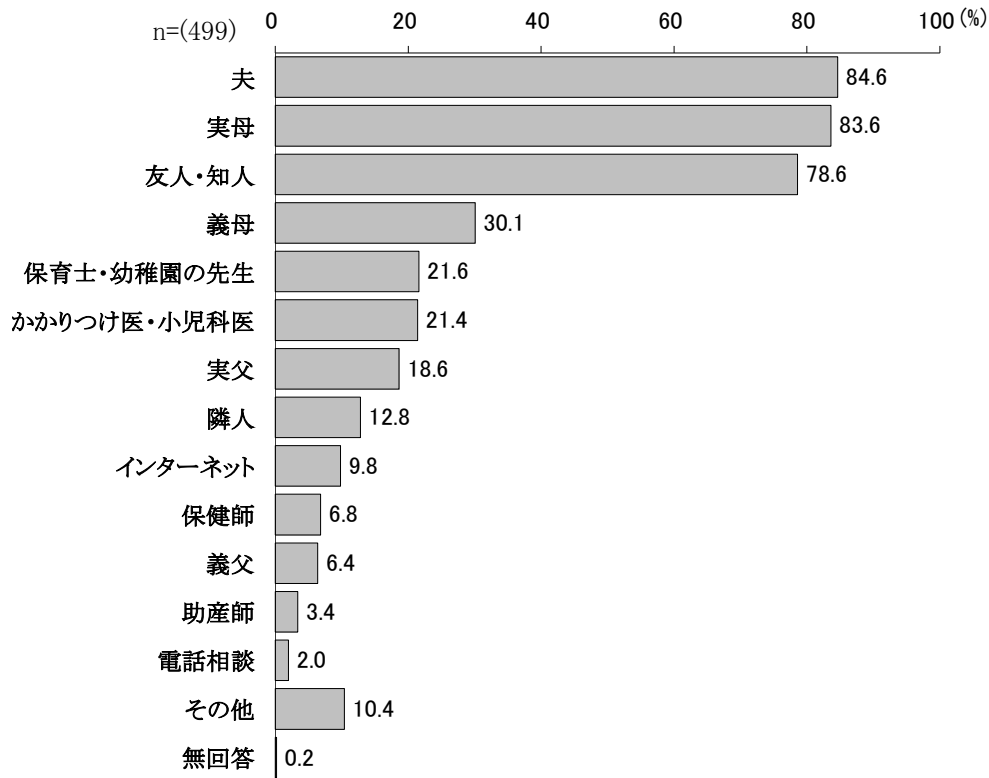


問9で「いる」と答えた方へ

問9-1 それは誰ですか。(複数回答可)

育児の相談相手としては、「夫」(84.6%)、「実母」(83.6%)、「友人・知人」(78.6%)が際立って高くなっている。

〈 育児の相談相手 〉

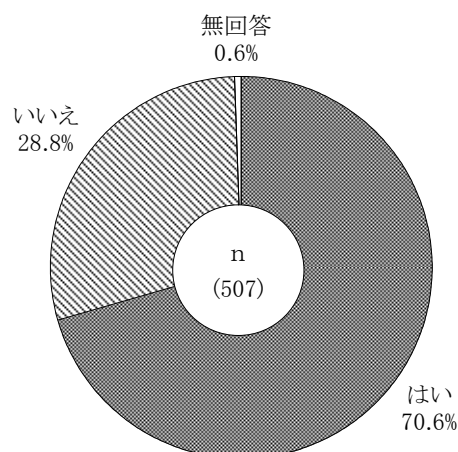


(9) 育児の不安

問10 お子さんを育ててきた中で育児の不安はありましたか。

育児中の不安については、「はい」が70.6%、「いいえ」が28.8%となっている。

〈 育児中の不安の有無 〉

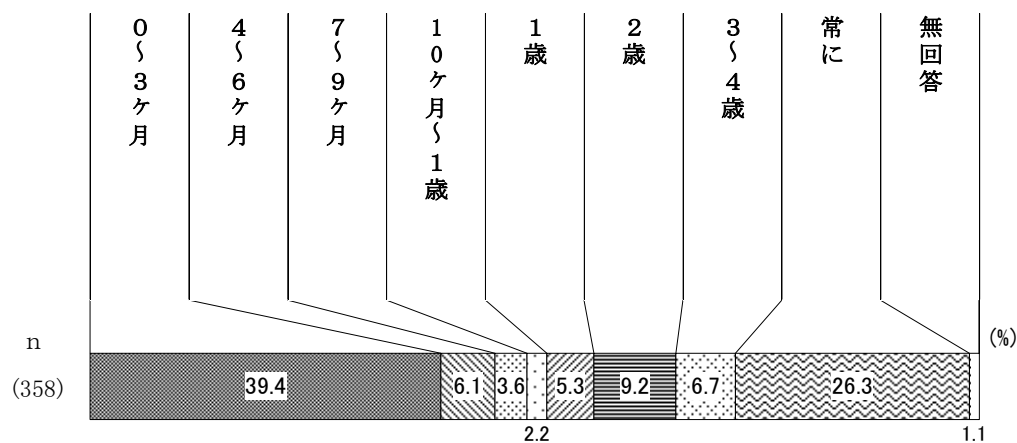


問10で「はい」と答えた方へ

問10－1 特に不安を感じたお子さんの年齢はありましたか。

育児中特に不安を感じた子どもの年齢としては、「0～3ヶ月」が39.4%で最も高く、次いで「常に」(26.3%)となっている。

〈 特に不安を感じた子どもの年齢 〉



(10) 保護者の気持ち

問11 今のあなたの気持ちに一番あてはまるものに○をつけてください。

〈子どもがかわいと感じる〉については、「あてはまる」が93.5%を占めている。

〈子育てに自信が持てないと感じる〉については、「あてはまる」が7.3%、「ややあてはまる」が39.4%となっている。

〈ふだんの生活の中でイライラすることが多い〉については、「あてはまる」が17.8%、「ややあてはまる」が43.0%となっている。

〈急にわけもなく泣きたくなることがある〉については、「あてはまる」3.9%、「ややあてはまる」11.8%となっている。

〈眠れないことがある〉については、「あてはまる」5.1%、「ややあてはまる」16.6%となっている。

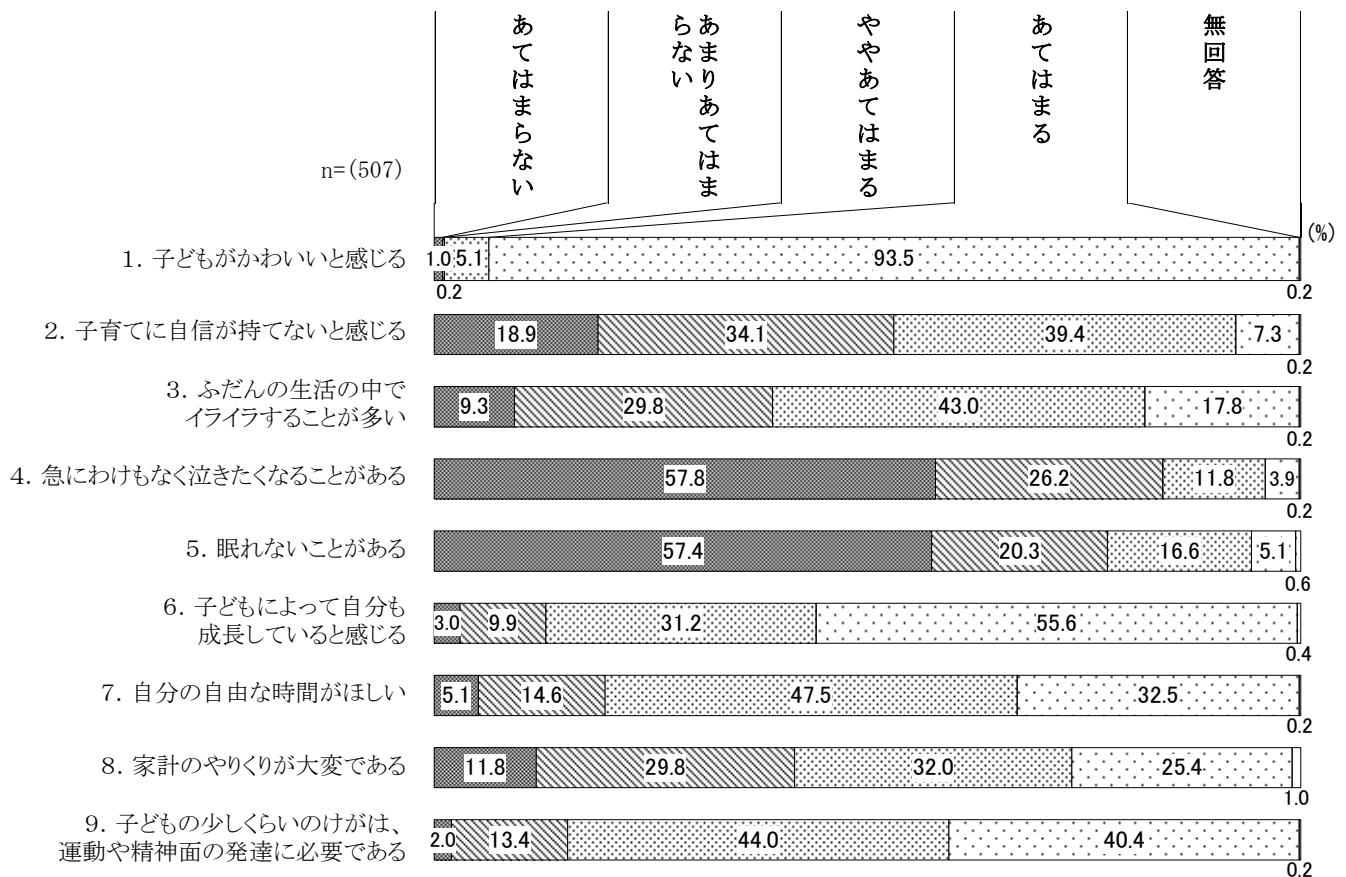
〈子どもによって自分も成長していると感じる〉については、「あてはまる」が55.6%、「ややあてはまる」が31.2%となっている。

〈自分の自由な時間がほしい〉については、「あてはまる」が32.5%、「ややあてはまる」が47.5%となっている。

〈家計のやりくりが大変である〉については、「あてはまる」が25.4%、「ややあてはまる」が32.0%となっている。

〈子どもの少しくらいのけがは、運動や精神面の発達に必要である〉については、「あてはまる」が40.4%、「ややあてはまる」が44.0%となっている。

〈 保護者の現在の気持ち 〉



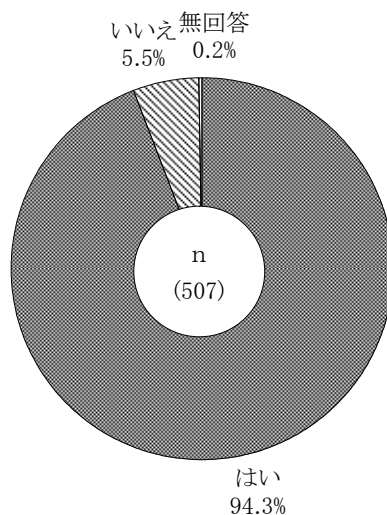
7. すべての子の健康管理

(1) かかりつけ医

問1 小児科のかかりつけ医を持っていますか。

小児科のかかりつけ医がいるかについては、「はい」が94.3%、「いいえ」が5.5%となっている。

〈小児科のかかりつけ医の有無〉

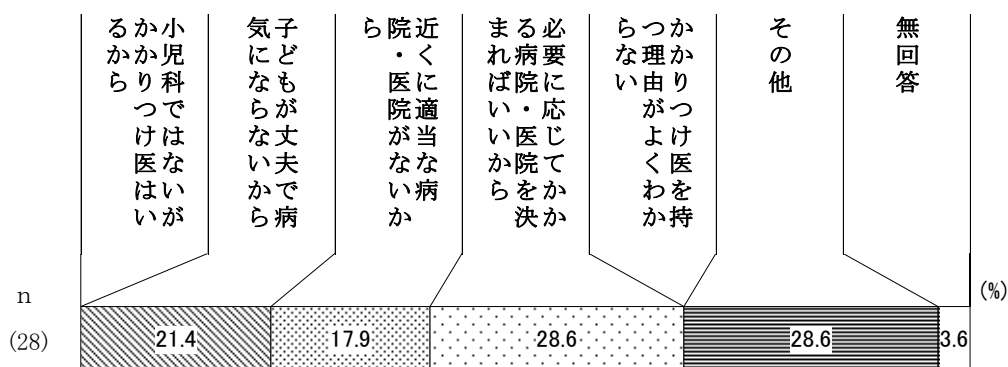


問1で「いいえ」と答えた方へ

問1-1 かかりつけ医を持っていない理由で最もあてはまるものは何ですか。

小児科のかかりつけ医のいない理由としては、「必要に応じてかかる病院・医院を決まればいから」が28.6%で最も高く、次いで「子どもが丈夫で病気にならないから」(21.4%)となっている。

〈かかりつけ医を持っていない理由〉

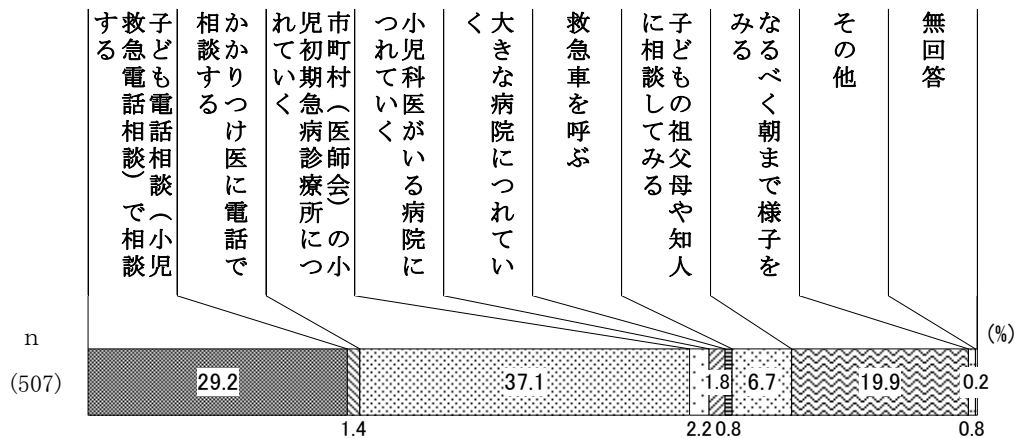


(2) 夜間、子どもの具合が悪くなったときの対応

問2 夜間、お子さんの具合が悪くなったとき、まずどうしますか。

夜間、子どもの具合が悪くなったときの対応としては、「市町村（医師会）の小児初期急病診療所につれていく」が37.1%で最も高く、以下「子ども電話相談（小児救急電話相談）で相談する」（29.2%）、「なるべく朝まで様子をみる」（19.9%）の順で続いている。

〈 夜間、子どもの具合が悪くなったときの対応 〉

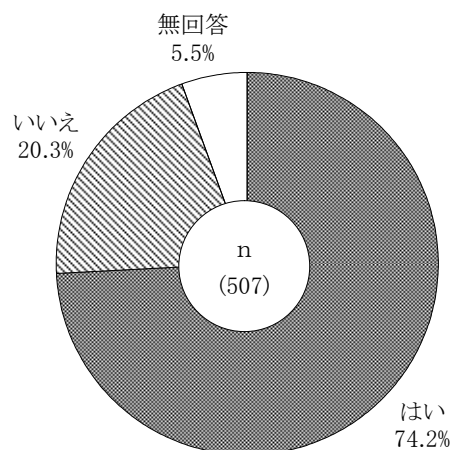


(3) 幼児健診

問3 幼児健診（1歳6か月児健診・3歳児健診）は受けましたか

幼児健診（1歳6か月児健診・3歳児健診）を受けたかという質問については、「はい」が74.2%、「いいえ」が20.3%となっている。

〈 幼児健診の受診 〉

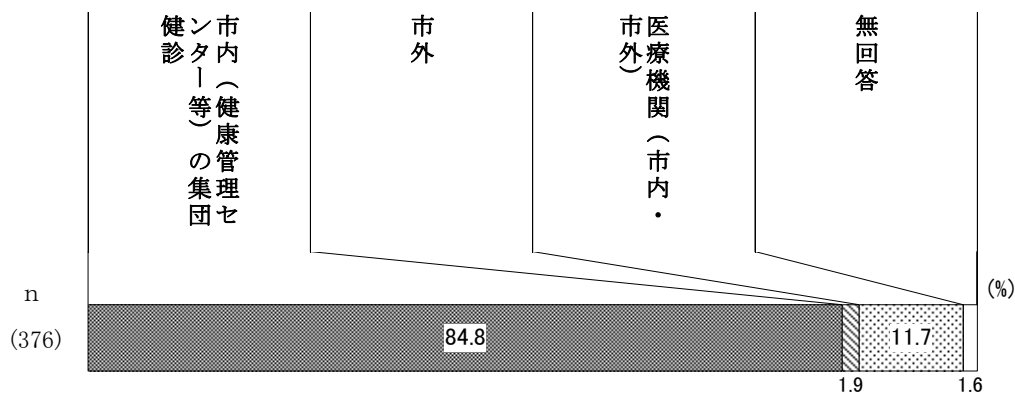


問3で「はい」と回答された方へ

問3-1 これまでに幼児健診は主にどこで受けましたか。

幼児健診の主な受診場所としては、「市内（健康管理センター等）の集団健診」が84.8%を占めている。

〈 幼児健診の受診場所 〉

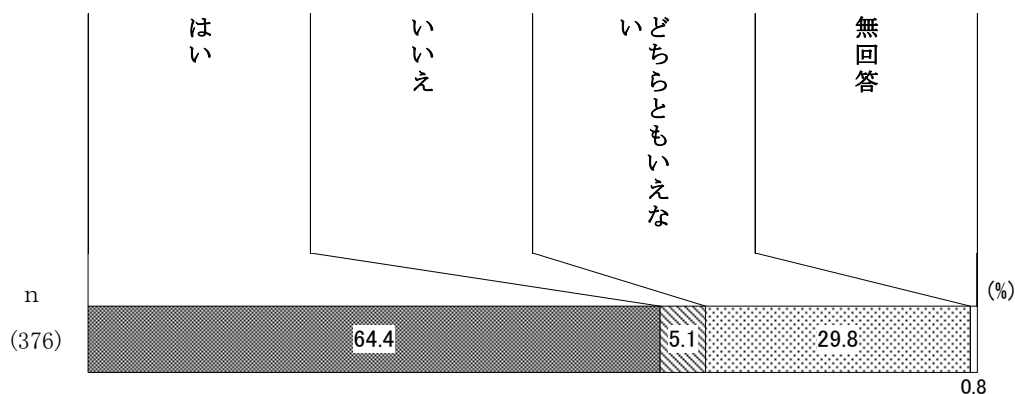


問3で「はい」と回答された方へ

問3-2 健診を受けた感想は満足できるものでしたか。

幼児健診についての満足感については、「はい」が64.4%、「いいえ」が5.1%となっている。

〈 幼児健診の満足度 〉

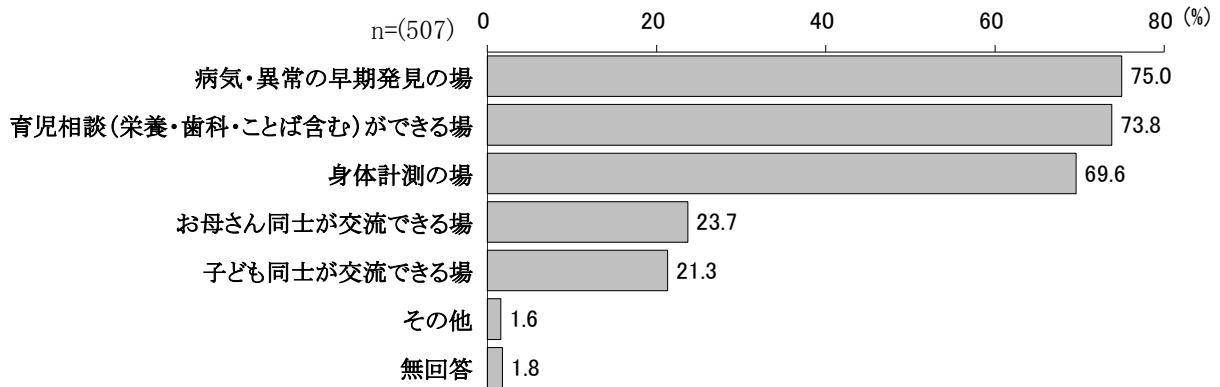


(4) 乳幼児健診

問4 乳幼児健診に期待することは何ですか。(複数回答可)

乳幼児健診に期待することとしては、「病気・異常の早期発見の場」(75.0%)、「育児相談(栄養・歯科・ことば含む)ができる場」(73.8%)、「身体計測の場」(69.6%)の3項目が、特に高くなっている。

〈乳幼児健診に期待すること〉

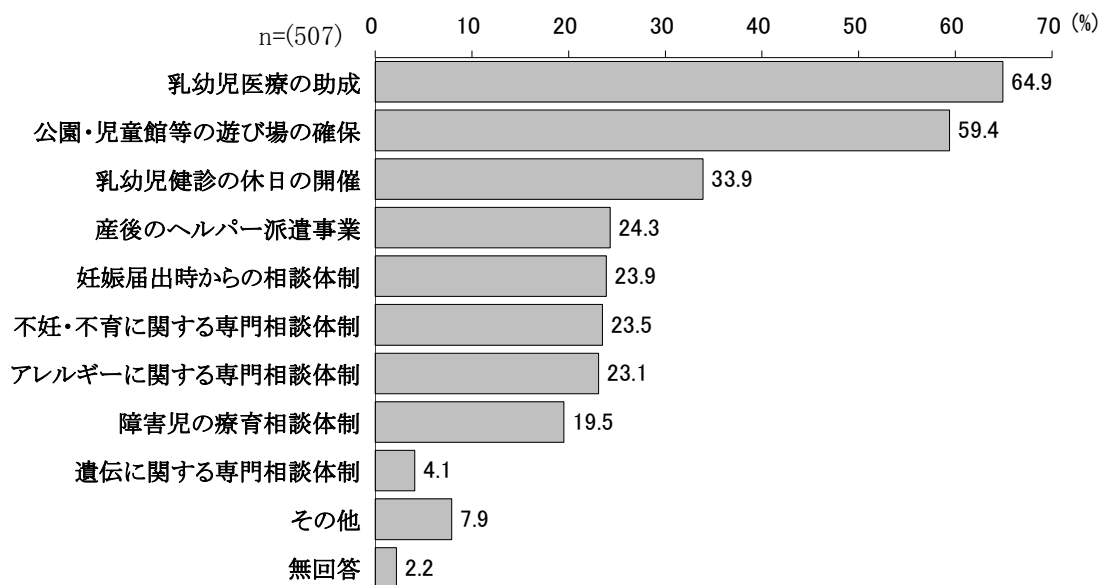


(5) 今後

問5 21世紀の佐倉市の親と子が健やかに生活できるようにするために、どこに力を入れていくといいと思いますか。(〇は4つまで)

佐倉市の親と子が健やかに生活できるようにするために必要なこととしては、「乳幼児医療の助成」が64.9%で最も高く、以下「公園・児童館等の遊び場の確保」(59.4%)「乳幼児健診の休日の開催」(33.9%)の順で続いている。

〈佐倉市の親と子が健やかに生活できるようにするために必要なこと〉



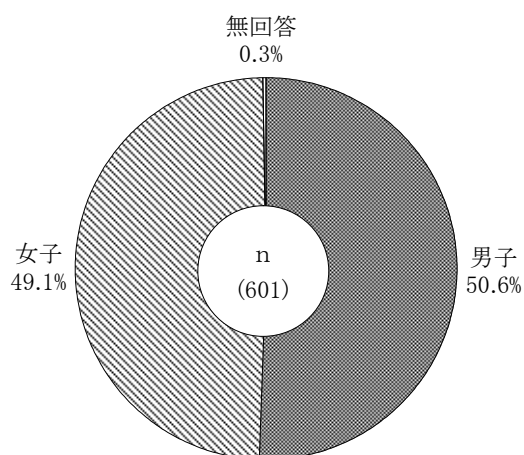
I I I 幼児・小学生調査結果

1. 基本属性

(1) 子どもの性別

F 1-1 お子さんの性別は。(○は1つだけ)

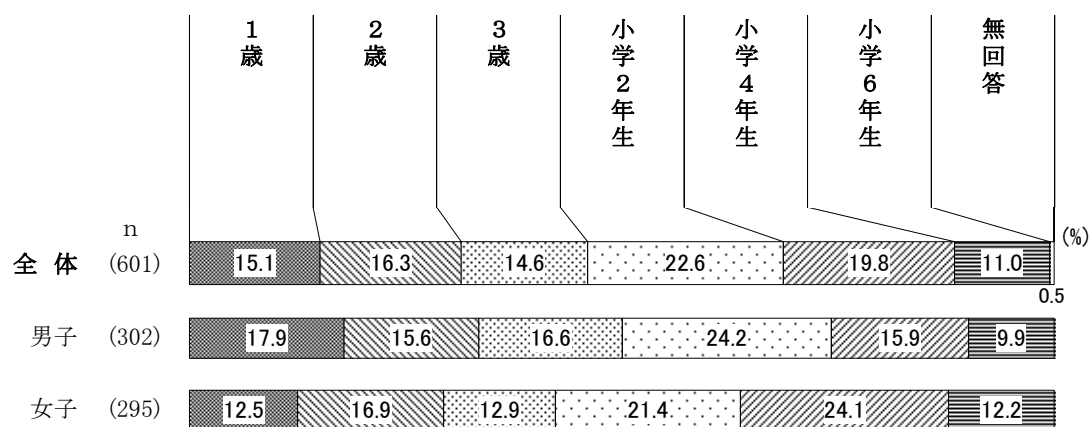
〈子どもの性別〉



(2) 子どもの年齢

F 1-2 お子さんの年齢は。(○は1つだけ)

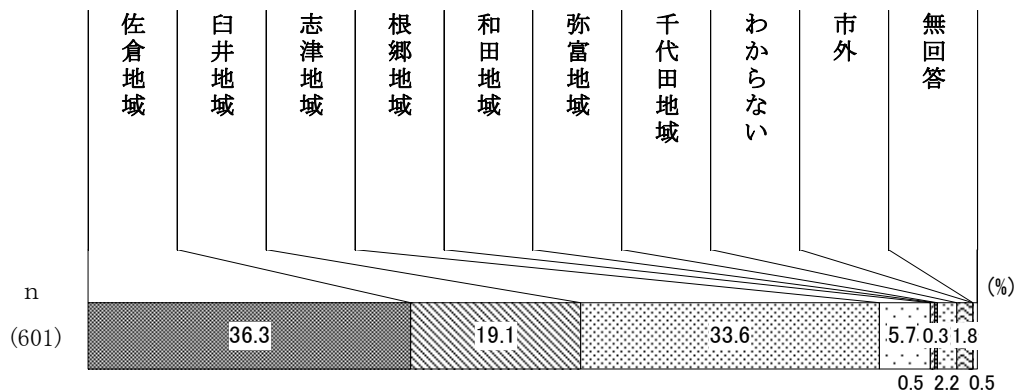
〈子どもの年齢〉



(3) 居住地

F 1-3 お住まいの居住地は。(○は1つだけ)

〈居住地〉

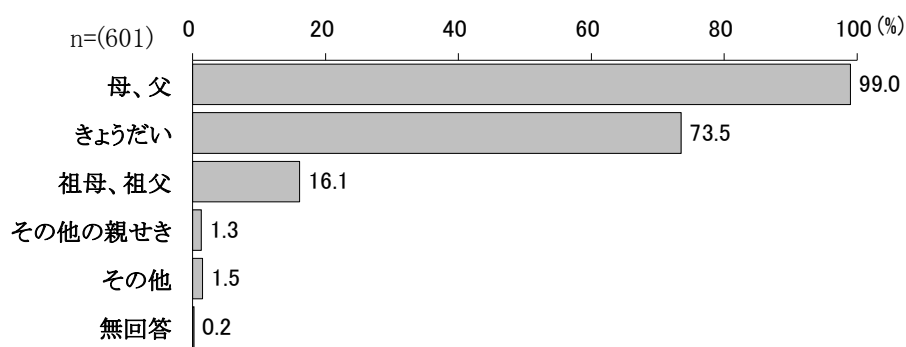


(4) 同居者

F 1-4 お子さんから見た続柄で、現在の同居者をすべて選んでください。

(○はいくつでも)

〈同居者〉

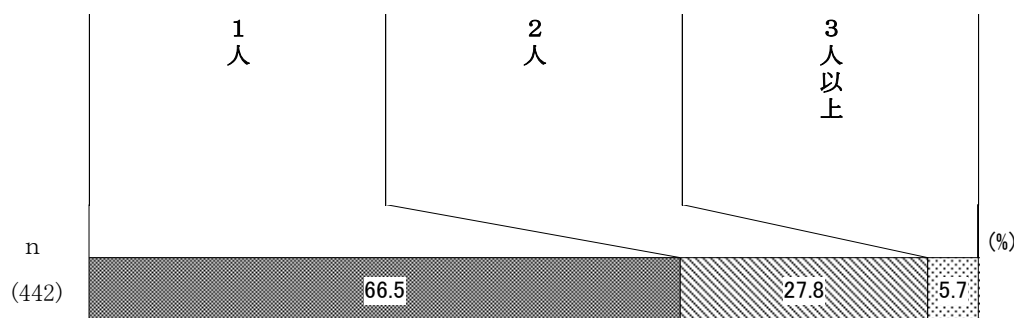


F 1-4で「きょうだい」に○をつけた人のみ

F 1-4-1 お子さんには、きょうだいが何人いますか。

(このアンケートの対象となったお子さん本人を除く。○はひとつだけ)

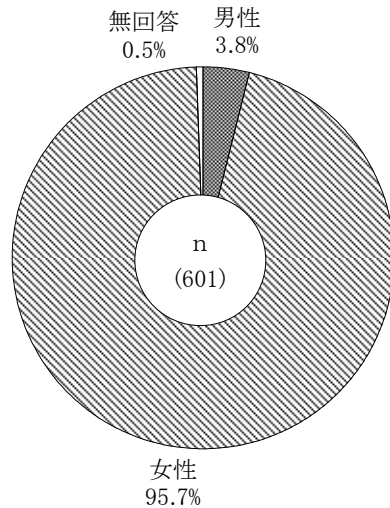
〈きょうだいの人数〉



(5) 記入者の性別

F 2-1 あなたの性別は。(○は1つだけ)

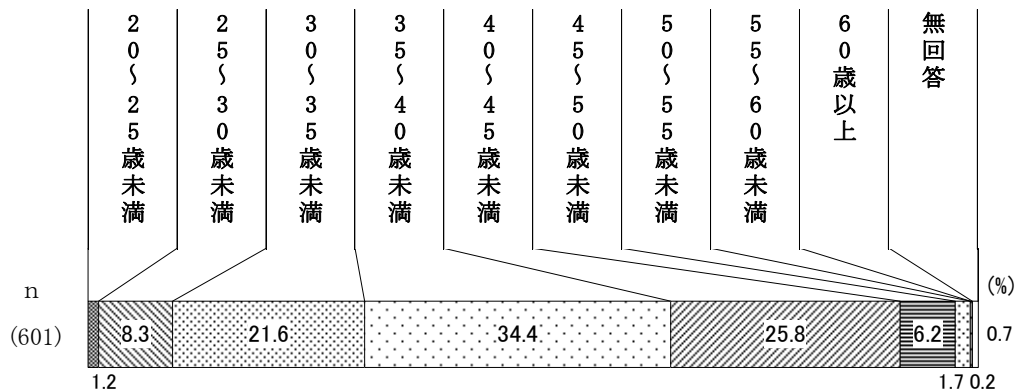
〈記入者の性別〉



(6) 記入者の年齢

F 2-2 あなたの年齢は。

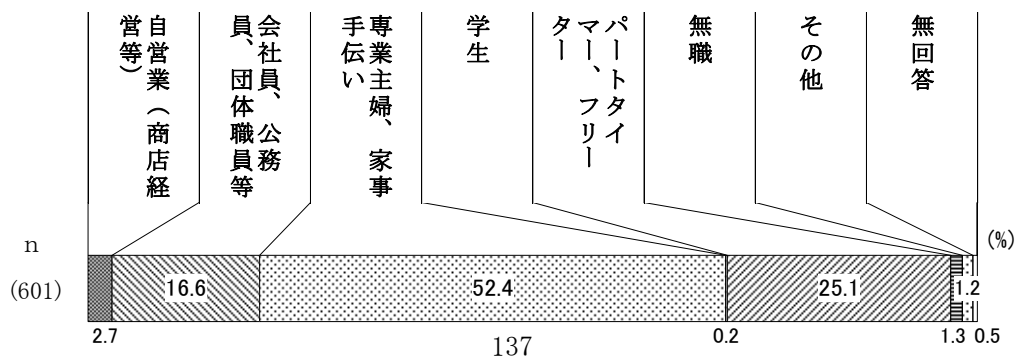
〈記入者の年齢〉



(7) 記入者の職業

F 2-3 あなたの職業は。(○は1つだけ)

〈記入者の職業〉



2. 健康についての考え方

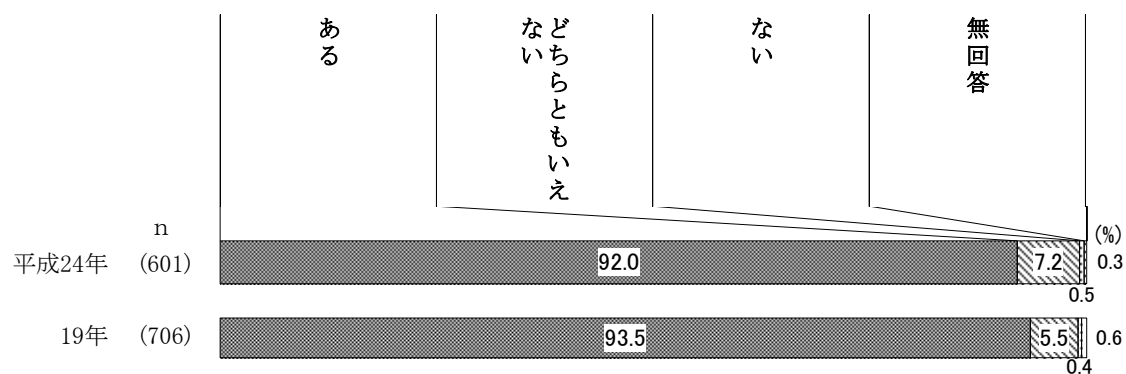
(1) 自分や家族の健康への関心

問1 あなたは、自分や家族の健康に関心がありますか。(○は1つだけ)

自分や家族の健康に対して、関心が「ある」は92.0%を占めている。

平成19年調査の結果と比較すると、ほぼ横ばいとなっている。

〈 前回／自分や家族の健康への関心 〉



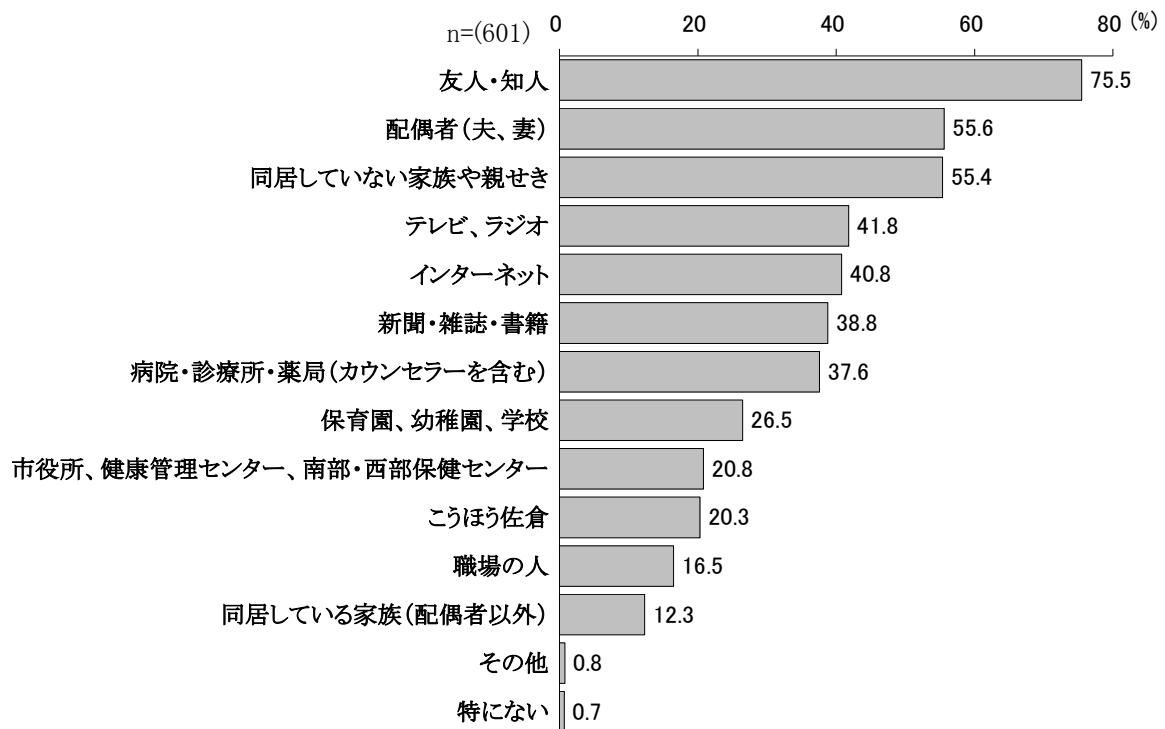
(2) 子育てや健康等の情報源

問2 ふだん、どこ（だれ）に、妊娠・出産・育児やお子さんの健康に関する情報を聞いていますか。（○はいくつでも）

子育てや子どもの健康についての情報源としては、「友人・知人」が75.5%で最も高く、以下「配偶者（夫、妻）」（55.6%）、「同居していない家族や親せき」（55.4%）、「テレビ、ラジオ」（41.8%）の順で続いている。

幼児・小学生別でみると、幼児では「配偶者（夫、妻）」や「同居していない家族や親せき」が小学生より高くなっている。

〈 幼児・小学生／妊娠・出産・育児や子どもの健康に関する情報源 〉



	配偶者(夫、妻)	同居している家族(配偶者以外)	同居していない家族や親せき	友人・知人	市役所、健康管理センター、南部・西部保健センター	病院・診療所・薬局(カウンセラーを含む)	保育園、幼稚園、学校	職場の人	テレビ、ラジオ	新聞・雑誌・書籍	こうほう佐倉	インターネット	その他	特になし
全 体 (n=601)	55.6	12.3	55.4	75.5	20.8	37.6	26.5	16.5	41.8	38.8	20.3	40.8	0.8	0.7
幼児 (n=277)	63.2	13.4	64.6	78.7	29.6	40.8	27.8	13.7	37.2	37.5	24.2	49.8	1.8	-
小学生 (n=321)	48.9	11.2	47.4	73.2	12.8	34.6	25.2	19.0	45.5	39.6	17.1	33.0	-	1.2

3. 栄養・食生活

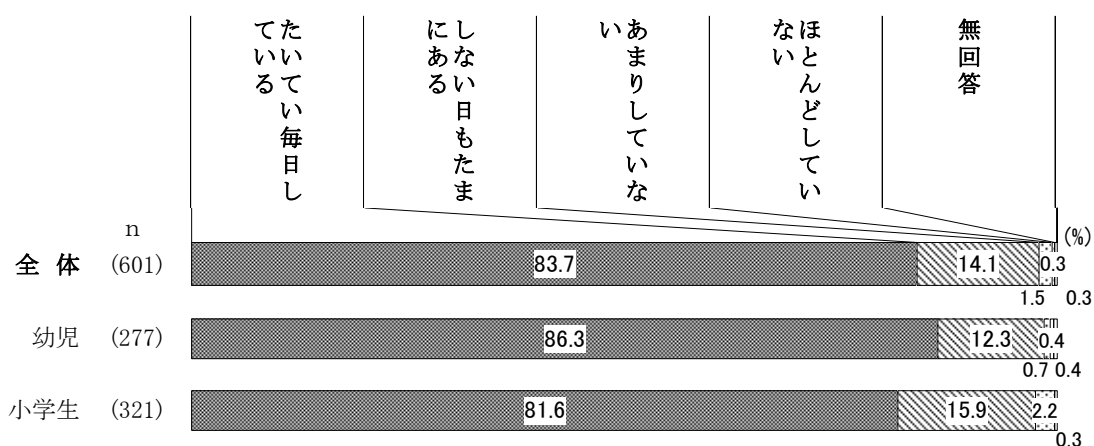
(1) 子どもの食生活

問3 あなたは、お子さんの食生活に関して、ふだん、次のそれぞれのことをどのくらいしていますか。(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

お子さんに、一日3回規則正しい食事を心がけている

〈お子さんに、一日3回規則正しい食事を心がけている〉については、「たいてい毎日している」が83.7%を占めている。

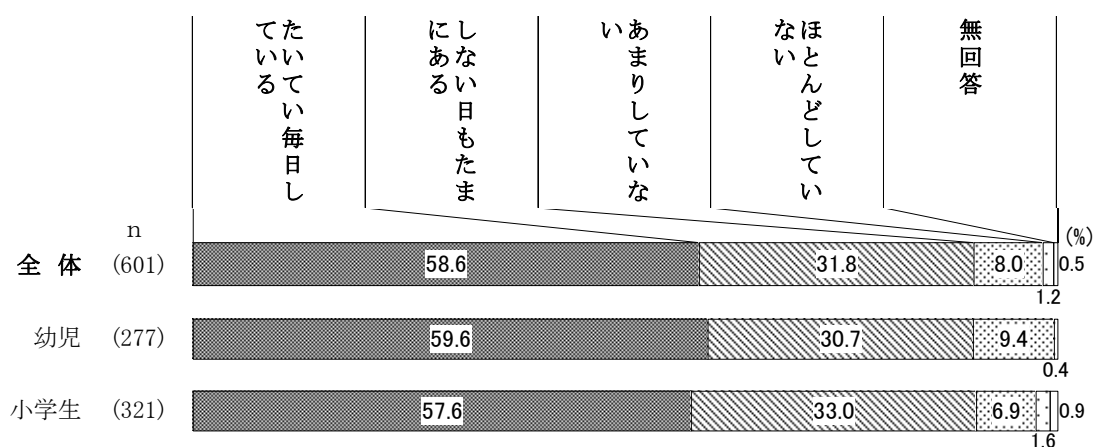
〈 幼児・小学生／お子さんに、一日3回規則正しい食事を心がけている 〉



お子さんが家族と会話しながら、時間をかけて食事ができるようにする

〈お子さんが家族と会話しながら、時間をかけて食事ができるようにする〉については、「たいてい毎日している」が58.6%を占めて最も高く、次いで「しない日もたまにある」(31.8%)となっている。

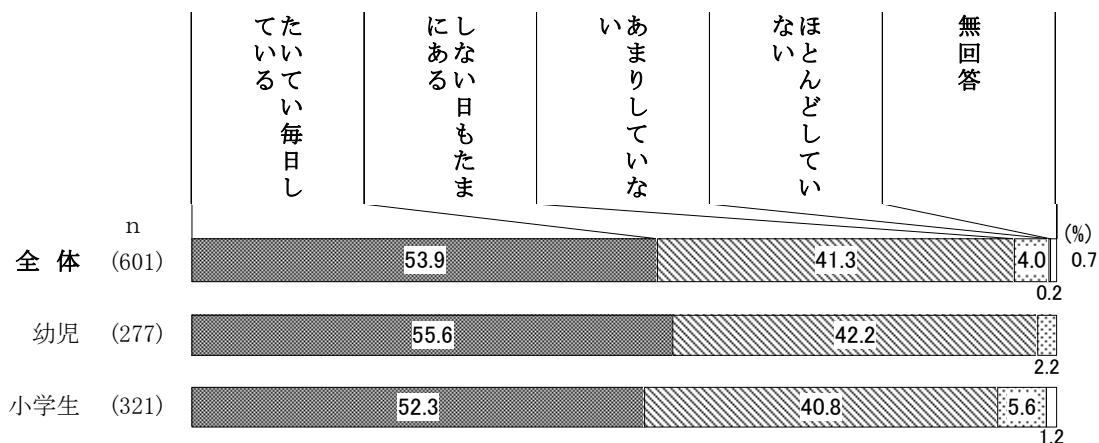
〈 幼児・小学生／お子さんが家族と会話しながら、時間をかけて食事ができるようにする 〉



お子さんの健康づくりのために、栄養や食事について考える

〈お子さんの健康づくりのために、栄養や食事について考える〉については、「たいてい毎日している」が53.9%を占めて最も高く、次いで「しない日もたまにある」(41.3%)となっている。

〈 幼児・小学生／お子さんの健康づくりのために、栄養や食事について考える 〉

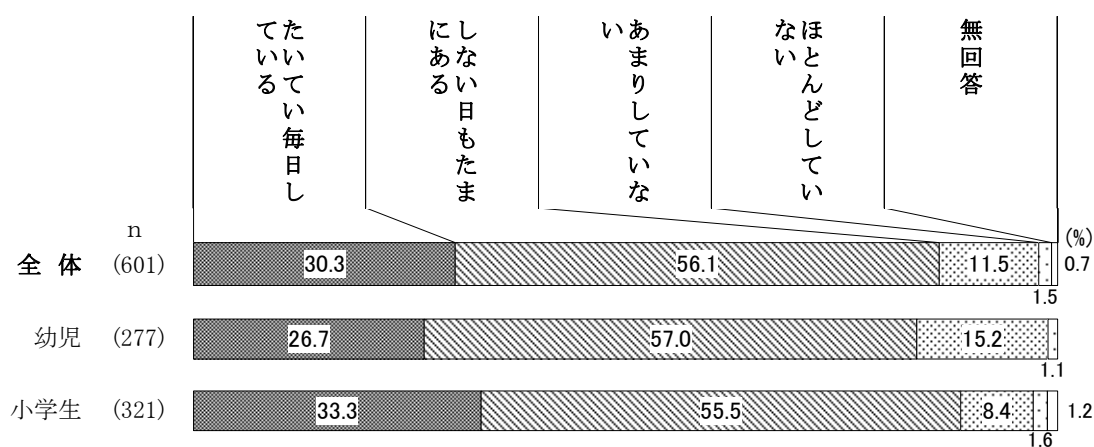


毎食（三食）、野菜料理を食べさせる

〈毎食（三食）、野菜料理を食べさせる〉については、「しない日もたまにある」が56.1%を占めて最も高く、次いで「たいてい毎日している」(30.3%)となっている。

幼児・小学生別でみると、小学生では「たいてい毎日している」が33.3%と幼児(26.7%)より高くなっている。

〈 幼児・小学生／毎食（三食）、野菜料理を食べさせる 〉

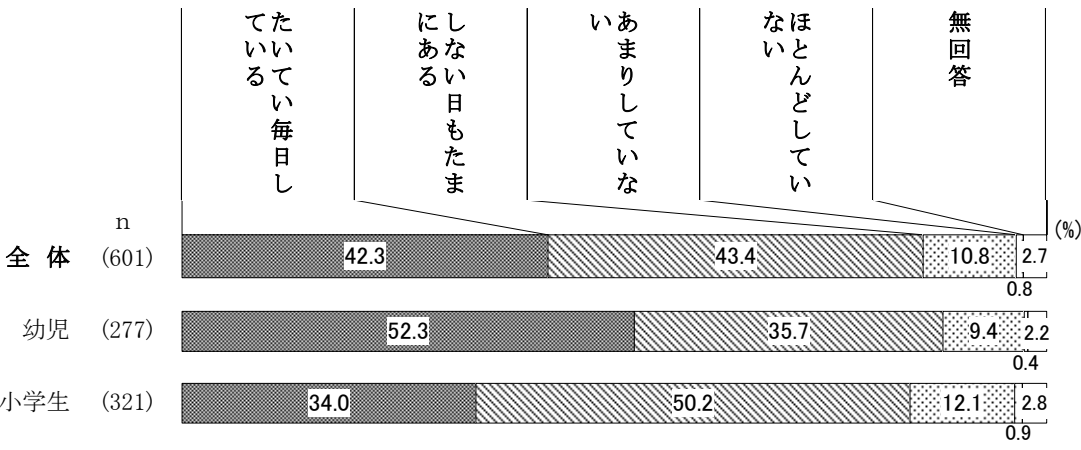


カルシウムが多い食品をとらせている

〈カルシウムが多い食品をとらせている〉については、「たいてい毎日している」(42.3%)と「しない日もたまにある」(43.4%)に分かれている。

幼児・小学生別でみると、幼児では「たいてい毎日している」が52.3%と小学生(34.0%)より高くなっている。

〈 幼児・小学生／カルシウムが多い食品をとらせている 〉

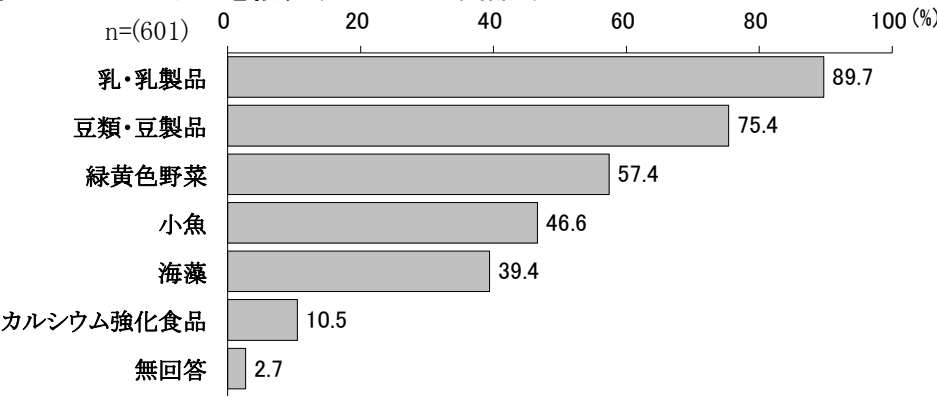


付問3-1 具体的には、どのような食品でカルシウムをとらせるようにしていますか。(〇はいくつでも)

カルシウムを摂取するための食品としては、「乳・乳製品」が89.7%で最も高く、以下「豆類・豆製品」(75.4%)、「緑黄色野菜」(57.4%)の順で続いている。

幼児・小学生別でみると、幼児では「緑黄色野菜」が62.8%と小学生(52.6%)より高くなっている。

〈 幼児・小学生／カルシウムを接種するための食品 〉



	乳・乳製品	豆類・豆製品	小魚	海藻	緑黄色野菜	カルシウム強化食品	無回答
全 体 (n=601)	89.7	75.4	46.6	39.4	57.4	10.5	2.7
幼児 (n=277)	91.0	78.3	49.5	33.6	62.8	13.7	1.4
小学生 (n=321)	88.8	73.2	43.9	43.9	52.6	7.5	3.7

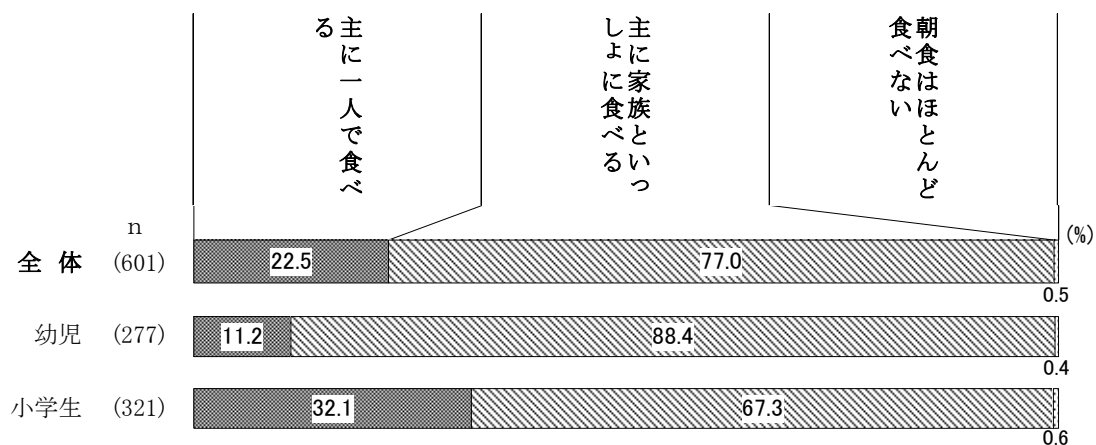
(2) 朝食

問4 お子さんは、朝食はどのように食べていますか。(○は1つだけ)

子どもの朝食のとり方としては、「主に家族といっしょに食べる」が77.0%で最も高く、次いで「主に1人で食べる」(22.5%)となっている。

幼児・小学生別でみると、幼児では「主に家族といっしょに食べる」が88.4%を占めているが、小学生では「主に1人で食べる」も32.1%となっている。

〈 幼児・小学生／子どもの朝食のとり方 〉



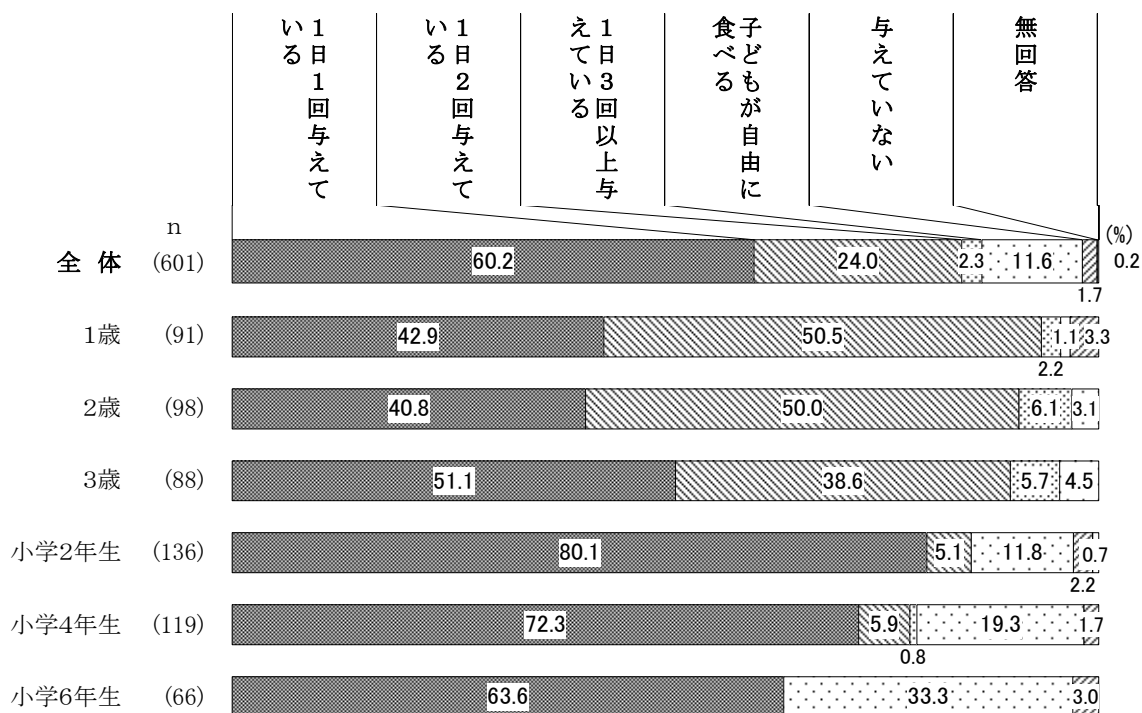
(3) おやつ

問5 おやつは与えていますか。(○は1つだけ)

おやつの与え方としては、「1日1回与えている」が60.2%で最も高く、次いで「1日2回与えている」(24.0%)となっている。

子どもの年齢別でみると、幼児にあたる層では「1日1回与えている」と「1日2回与えている」の合計が90%近くになる。一方、小学2年生、小学4年生では「1日1回与えている」が70%を超えているが、小学6年生では「子どもが自由に食べる」(33.3%)が全体に比べ高くなっている。

〈子どもの年齢(学年)／おやつの与え方〉



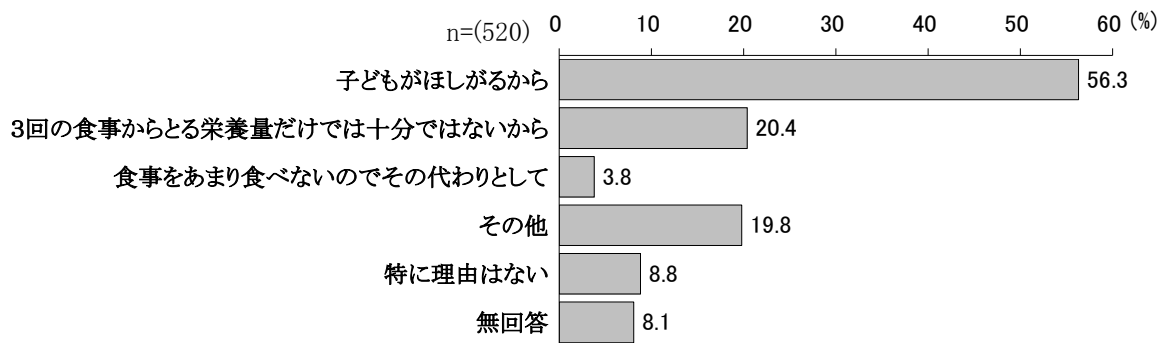
「1日1回～3回以上与えている」と回答した人のみ

付問5-1 おやつを与えている理由は何ですか。(〇はいくつでも)

おやつを「1日1回から3回以上与えている」という人に対して、その理由を聞いたところ、「子どもがほしがかるから」が56.3%で最も高く、次いで「3回の食事からとる栄養量だけでは十分ではないから」(20.4%)となっている。

子どもの年齢別でみると、1歳、2歳では「3回の食事からとる栄養量だけでは十分ではないから」が3割を超えて、他の年齢より高くなっている。3歳では「子どもがほしがかるから」が69.0%と高くなっている。

〈子どもの年齢(学年)／おやつを与えている理由〉



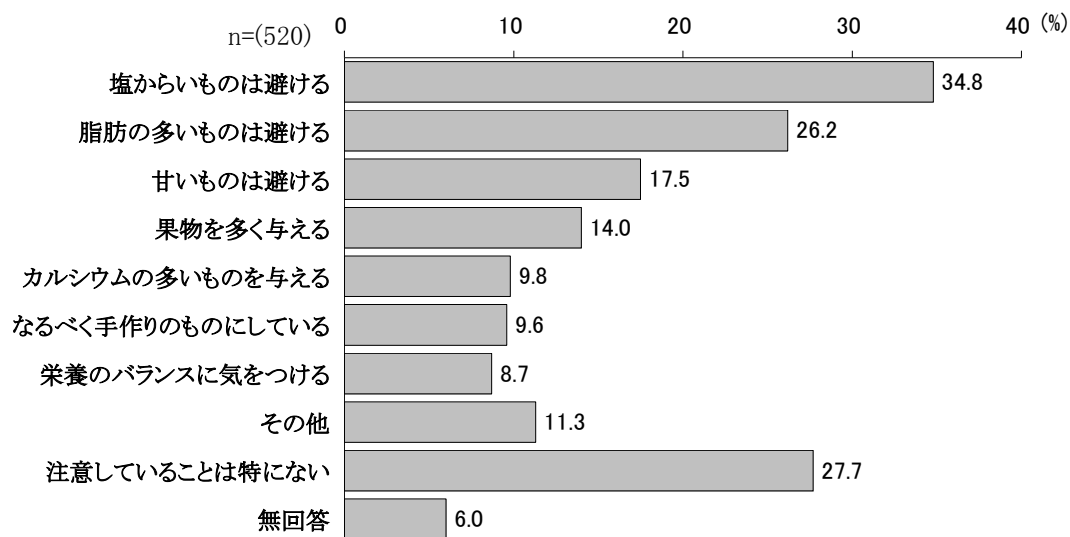
	子どもがほしがかるから	3回の食事からとる栄養量だけでは十分ではないから	食事をあまり食べないのでその代わりとして	その他	特に理由はない	無回答
全 体 (n=520)	56.3	20.4	3.8	19.8	8.8	8.1
1 歳 (n=87)	41.4	37.9	5.7	24.1	9.2	6.9
2 歳 (n=95)	53.7	31.6	7.4	12.6	9.5	8.4
3 歳 (n=84)	69.0	15.5	3.6	20.2	7.1	7.1
小学2年生 (n=116)	59.5	12.9	2.6	20.7	7.8	8.6
小学4年生 (n=94)	56.4	7.4	2.1	27.7	8.5	7.4
小学6年生 (n=42)	61.9	14.3	-	7.1	14.3	11.9

「1日1回～3回以上与えている」と回答した人のみ

付問5-2 何に注意しておやつを与えていますか。(〇はいくつでも)

年齢別でみると、幼児の保護者では、「塩からいものは避ける」「脂肪の多いものは避ける」「甘いものは避ける」等の配慮をしている人が多くなっている。一方、小学生の保護者では、いずれの学年でも、「注意していることは特にない」が3割を超えている。

〈子どもの年齢（学年）／おやつを与えるときに注意していること〉



	脂肪の多いものは避ける	塩からいものは避ける	甘いものは避ける	果物を多く与える	カルシウムの多いものを与える	栄養のバランスに気をつける	なるべく手作りのものにしている	その他	注意していることは特にない	無回答
全 体 (n=520)	26.2	34.8	17.5	14.0	9.8	8.7	9.6	11.3	27.7	6.0
1 歳 (n=87)	31.0	56.3	35.6	20.7	23.0	13.8	23.0	9.2	10.3	5.7
2 歳 (n=95)	28.4	43.2	25.3	21.1	15.8	12.6	9.5	6.3	22.1	4.2
3 歳 (n=84)	27.4	42.9	19.0	20.2	7.1	10.7	3.6	6.0	28.6	6.0
小学2年生 (n=116)	18.1	19.8	9.5	9.5	4.3	4.3	4.3	18.1	35.3	6.9
小学4年生 (n=94)	26.6	24.5	4.3	4.3	1.1	5.3	8.5	12.8	37.2	6.4
小学6年生 (n=42)	28.6	19.0	9.5	7.1	7.1	2.4	7.1	16.7	33.3	7.1

(4) 肥満度

問6 お子さんのおよその身長、体重を整数で教えてください。

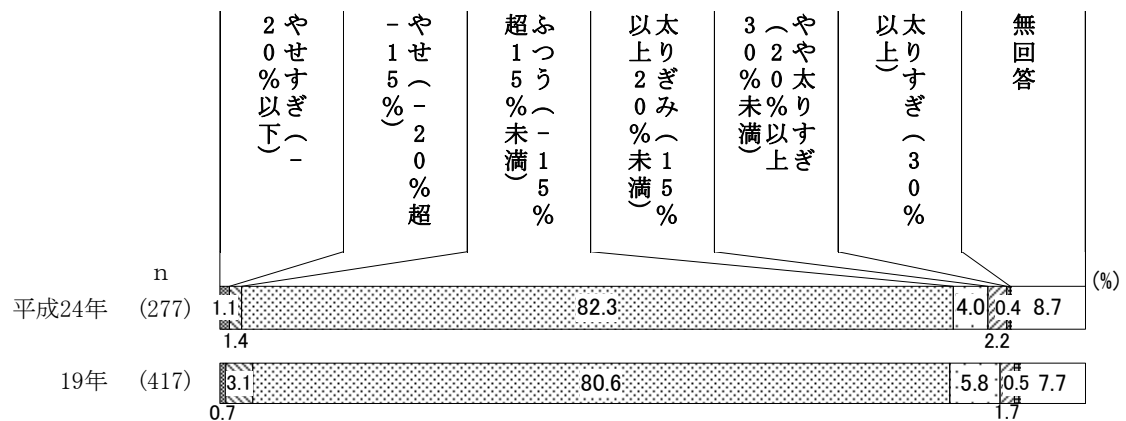
(小数点以下は四捨五入してください)

肥満度については、「ふつう」が82.3%を占めている。

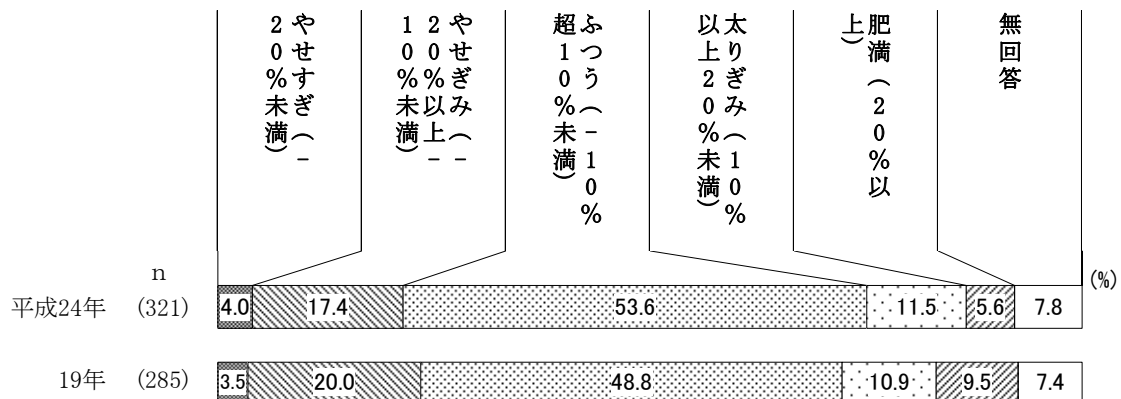
幼児・小学生別でみると、幼児では「ふつう」が82.3%となっているのに対して、小学生では「ふつう」が53.6%となっている。

平成19年の調査結果と比較すると、幼児、小学生とも「ふつう」が微増している。

〈 前回／肥満度（幼児） 〉



〈 前回／肥満度（小学生） 〉



※肥満度の判定区分は、幼児については幼児の身長体重曲線に基づく判定区分、小学生については日比式を採用している。

4. 身体活動・運動

(1) 子どもの外遊び

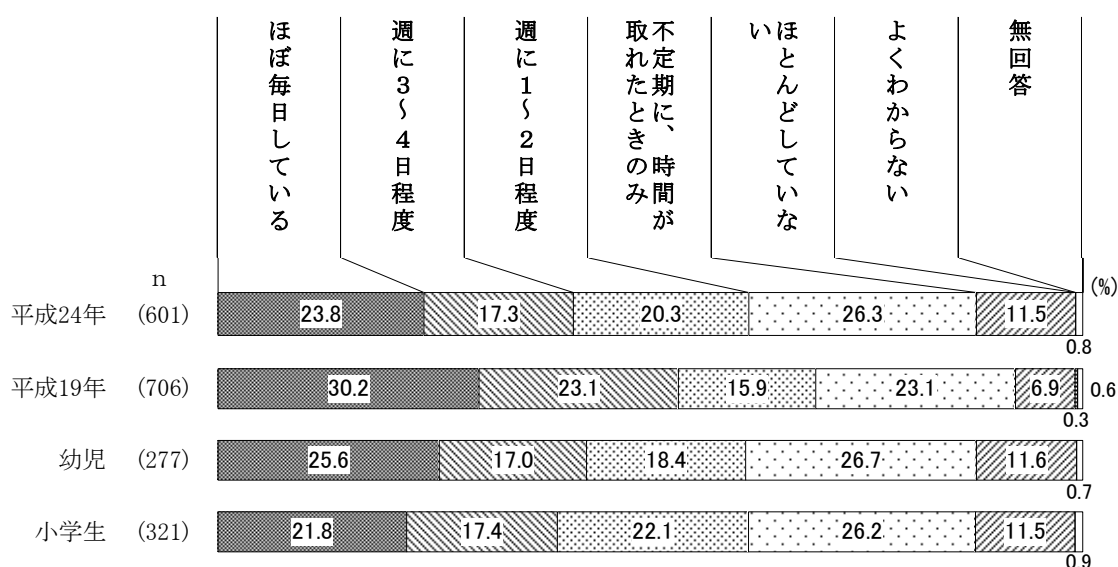
問7 お子さんは、どのくらい外遊びをしますか。(保育園、幼稚園、学校などに通っている場合は、帰宅してからの時間の外遊び) (○は1つだけ)

子どもの外遊びの頻度は、「不定期に、時間が取れたときのみ」が26.3%で最も高く、次いで「ほぼ毎日している」(23.8%)となっている。一方、「ほとんどしていない」が11.5%となっている。

平成19年の調査結果と比較すると、定期的に外遊びをしている割合が減少し、「不定期に、時間が取れたときのみ」が増加している。

幼児・小学生別でみると、幼児では「ほぼ毎日している」が25.6%と小学生(21.8%)より高くなっている。

〈 前回、幼児・小学生／子どもの外遊びの頻度 〉



(2) テレビゲーム等で遊ぶ時間

お子さんが小学生の場合のみ

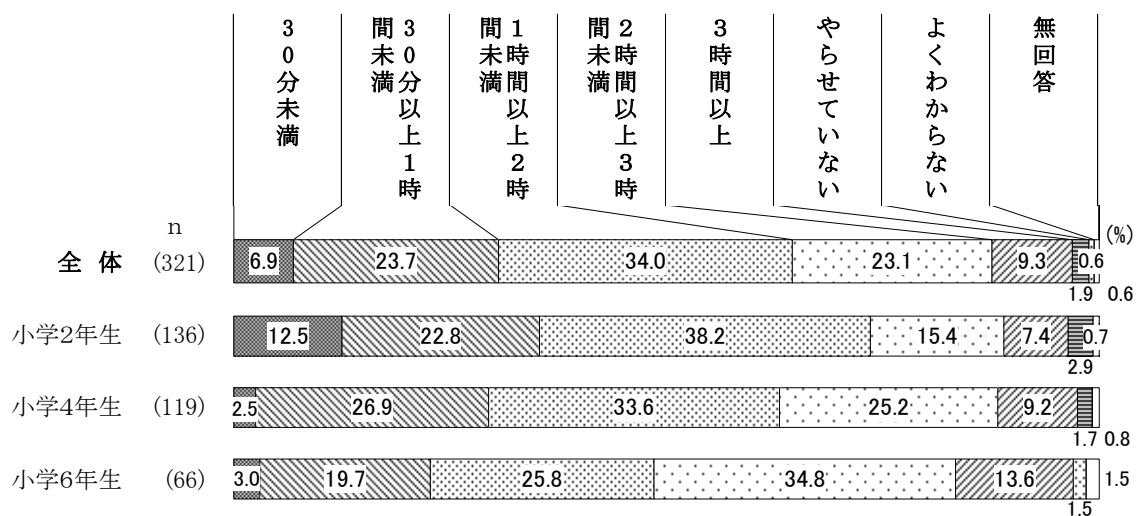
問8 1日の中で、テレビゲームなどをしたり、テレビをみたり、インターネットで遊んでいる時間は平均してどのくらいですか。(〇は1つだけ)

子ども(小学生)がテレビゲーム・テレビ視聴・インターネットする時間は、「1時間以上2時間未満」が34.0%で最も高く、次いで「30分以上1時間未満」(23.7%)となっている。

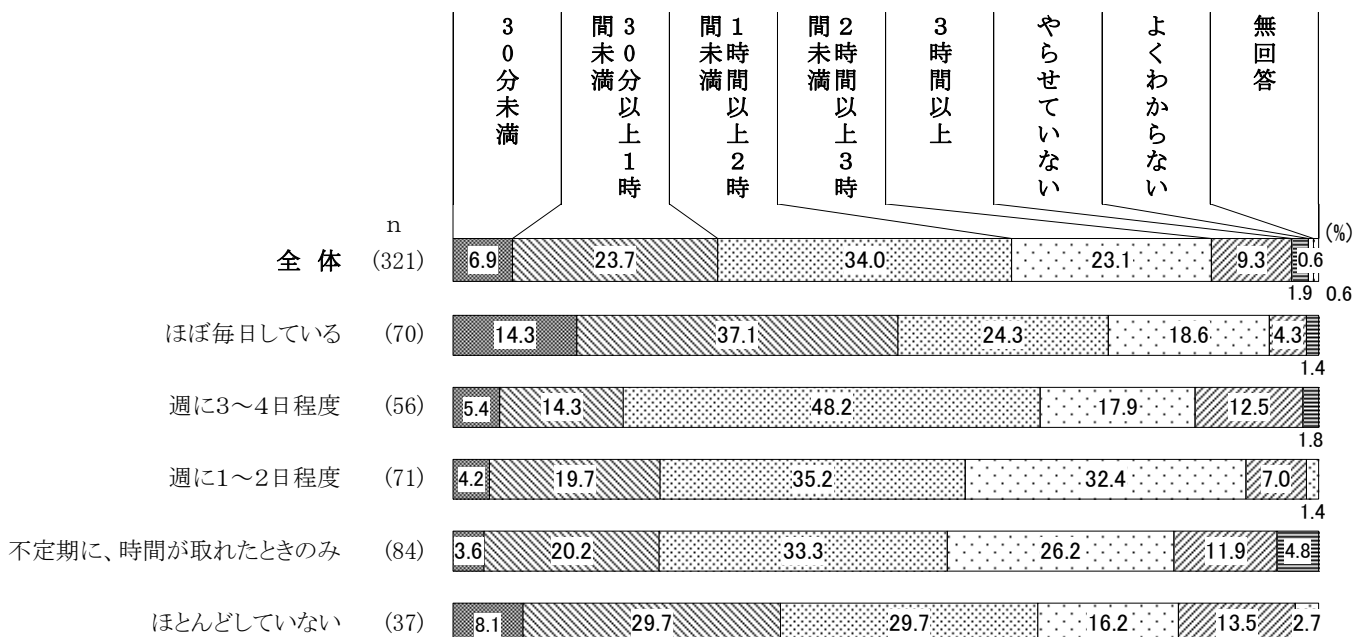
年齢別でみると、小学校2年生では「1時間以上2時間未満」が38.2%と高くなっている。

外遊びの時間との関係でみると、外遊びが多い層ほど、テレビゲーム等で遊ぶ時間が短くなる傾向がある。

〈子どもの学年／子どもがテレビゲーム・テレビ・インターネットで遊ぶ時間〉



〈子どもの外遊びの頻度／子どもがテレビゲーム・テレビ・インターネットで遊ぶ時間〉



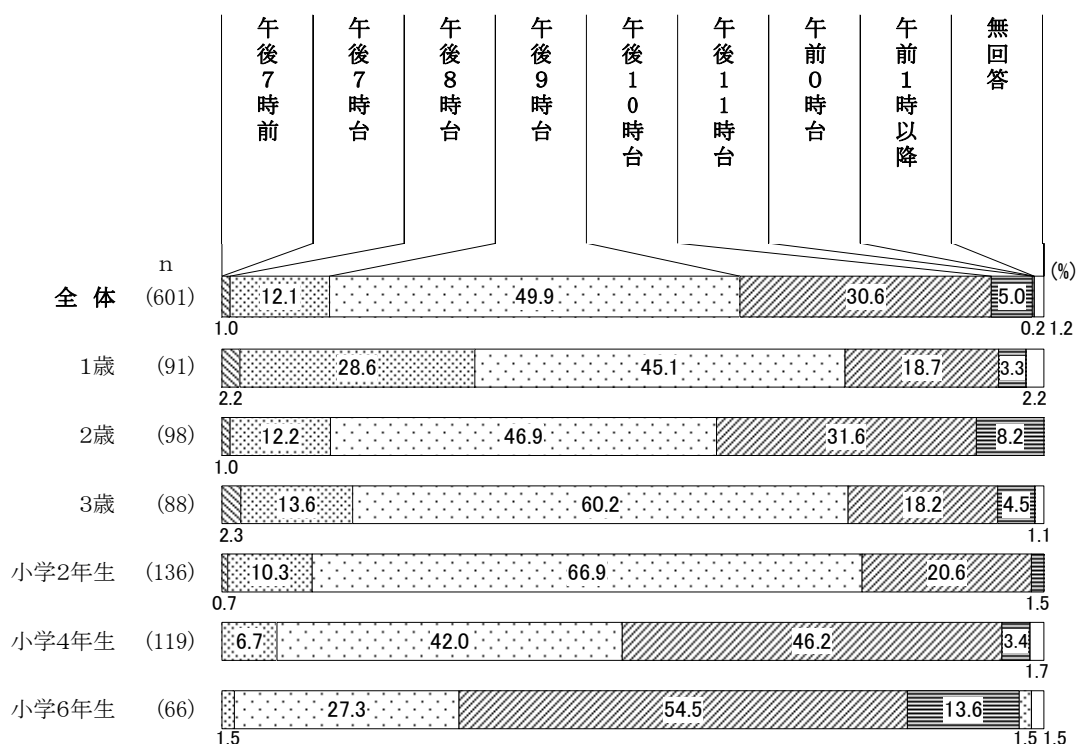
5. 休養・こころの健康づくり

(1) 子どもの睡眠時間

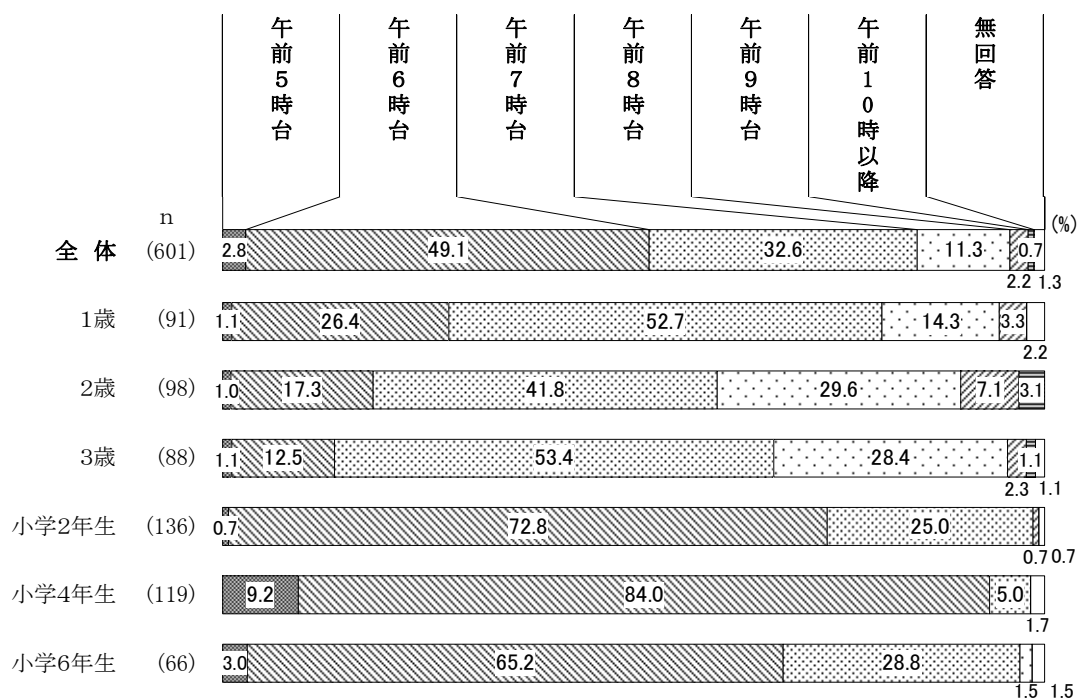
問9 お子さんの就寝時間と起床時間を24時間表記（例：夜11時なら23時）でお答えください。

子どもの就寝時間をみると、幼児では、「午後9時台まで」が約6割から7割を占めているが、小学4年生以降は10時台に就寝する子が増え、小学6年生では「午後10時台以降」が69.6%となっている。
起床時間では、幼児では午前7時台・8時台までに、小学生では午前7時台までに、起床している子が多くなっている。

〈子どもの年齢（学年）／子どもの就寝時間〉



〈子どもの年齢（学年）／子どもの起床時間〉



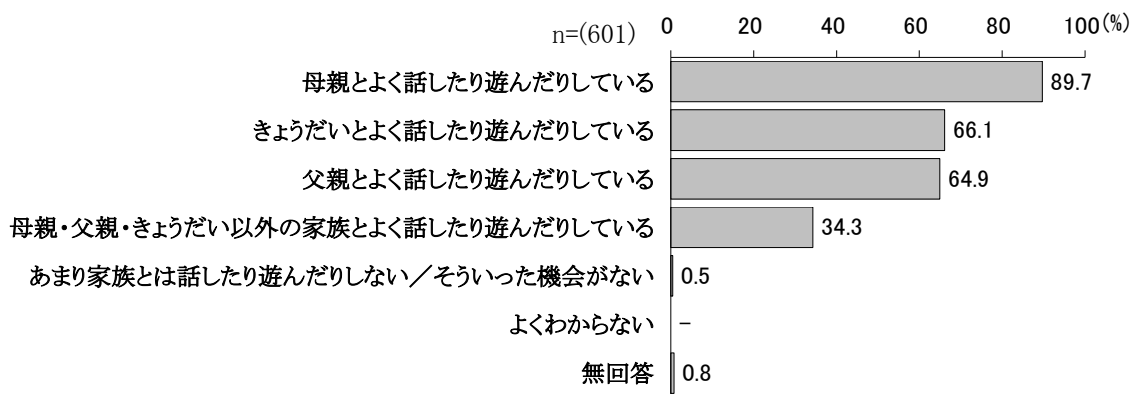
(2) 家族と子どものコミュニケーション

問10 あなたのご家族とお子さんのコミュニケーションの状況について、主に当てはまるものを選んでください。(お子さんからみた続柄でお答えください)(○はいくつでも)

家族と子どものコミュニケーションであてはまることは、「母親とよく話したり遊んだりしている」が89.7%で最も高く、以下「きょうだいとよく話したり遊んだりしている」(66.1%)、「父親とよく話したり、遊んだりしている」(64.9%)の順で続いている。

幼児・小学生別でみると、幼児では「母親とよく話したり遊んだりしている」と「父親とよく話したり、遊んだりしている」が小学生より高くなっている。一方、小学生では「きょうだいとよく話したり遊んだりしている」が幼児より高くなっている。

〈 幼児・小学生／子どもとのコミュニケーション 〉



	母親とよく話したり遊んだりしている	父親とよく話したり遊んだりしている	きょうだいとよく話したり遊んだりしている	母親・父親・きょうだい以外の家族とよく話したり遊んだりしている	あまり家族とは話したり遊んだりしない／そういった機会がない	よくわからない	無回答
全 体 (n=601)	89.7	64.9	66.1	34.3	0.5	—	0.8
幼児 (n=277)	97.8	73.6	53.8	40.8	—	—	0.7
小学生 (n=321)	82.6	57.6	76.9	28.7	0.9	—	0.9

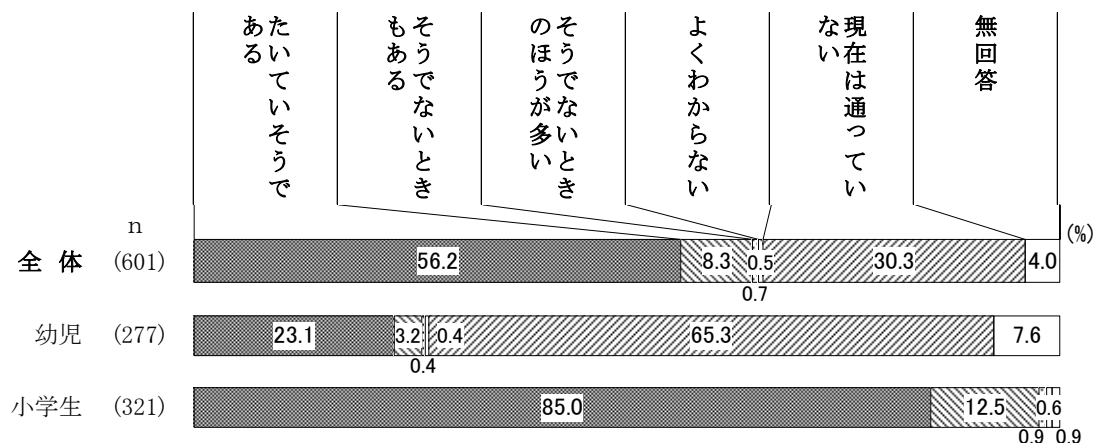
(3) 幼稚園・保育園・学校への通園・通学の様子

問11 お子さんは、幼稚園・保育園・学校に楽しそうに通っていますか。(○は1つだけ)

幼稚園・保育園・学校に楽しそうに通っているかについては、「たいていそうである」が56.2%と過半数を占めている。また、「現在は通っていない」は30.3%となっている。

幼児・小学生別でみると、小学生では「たいていそうである」の割合が高く、幼児では「現在は通っていない」の割合が高くなっている。

〈 幼児・小学生／幼稚園・保育園・学校に楽しそうに通っているか 〉



6. たばこ

(1) 家族の喫煙状況

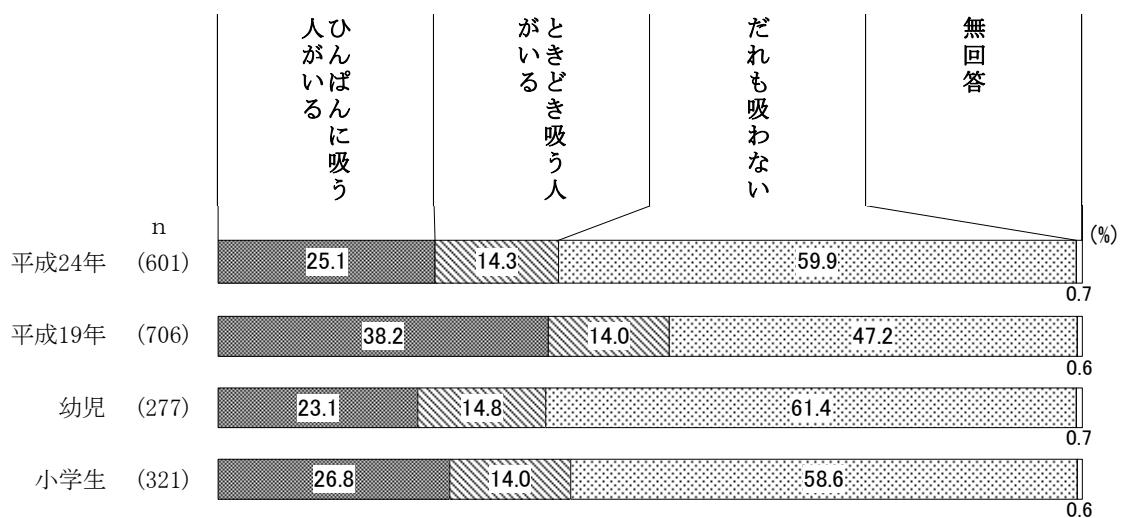
問12 家族の方は、たばこを吸いますか。(○は1つだけ)

家族の喫煙については、「だれも吸わない」が59.9%で最も高く、次いで「ひんぱんに吸う人がある」(25.1%)となっている。

平成19年の調査の結果と比較すると、今回「だれも吸わない」が59.9%と、前回の47.2%から大幅に増加している。

幼児・小学生別でみても、大きな差はみられない。

〈 幼児・小学生／家族における喫煙者の有無 〉



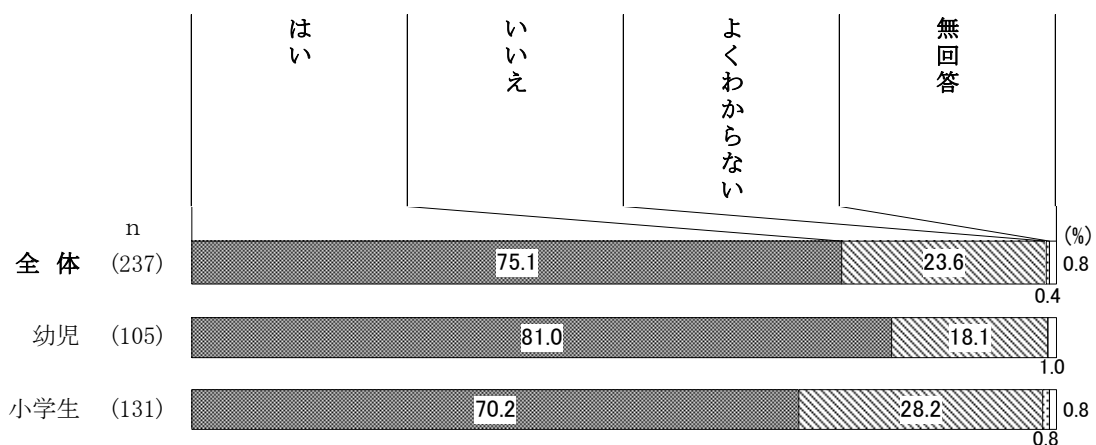
問12で「ひんぱんに吸う人がある」「ときどき吸う人がある」家庭のみ

付問12-1 お子さんの前では吸わないようにしていますか。(○は1つだけ)

家庭に喫煙者がいる人に、子どもの前で喫煙しないようにしているか聞いたところ、「はい」が75.1%を占めている。

幼児・小学生別でみると、幼児では「はい」が81.0%と小学生(70.2%)を上回っている。

〈 幼児・小学生／子どもの前で喫煙しないようにしているか 〉



(2) 妊娠中の母親・家族の喫煙状況

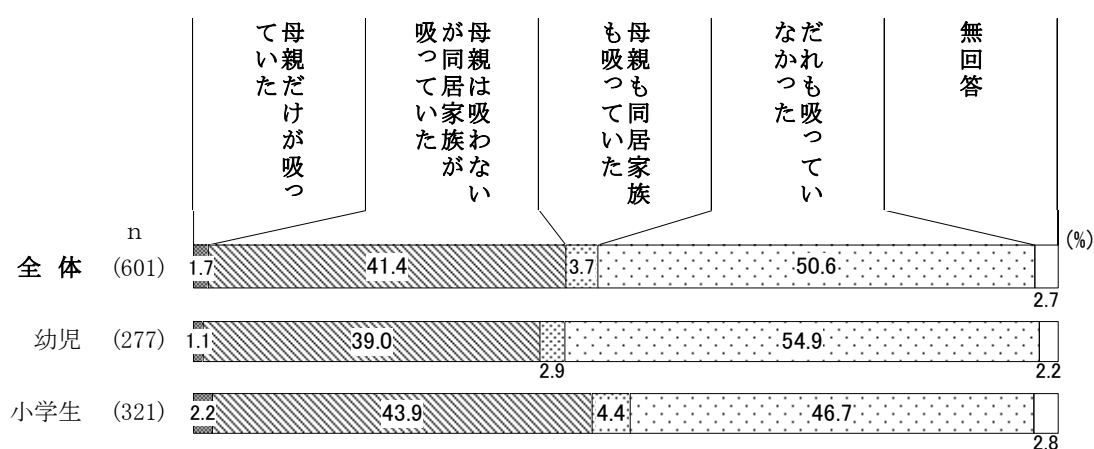
問13 お子さんを妊娠していた期間、お母さんや同居家族はたばこを吸っていましたか。

(○は1つだけ)

妊娠中の母親・同居家族の喫煙状況については、「だれも吸っていなかった」が50.6%で最も高く、次いで「母親は吸わないが同居家族が吸っていた」(41.4%)となっている。一方、「母親だけが吸っていた」と「母親も同居家族も吸っていた」を合わせて、妊娠中母親が喫煙していた家庭は5.4%となっている。

幼児・小学生別でみると、幼児では「だれも吸っていなかった」が54.9%と小学生(46.7%)を上回っている。

〈 幼児・小学生／妊娠中の母親・同居家族の喫煙状況 〉



問13で「吸っていた」同居家族がいた家庭のみ

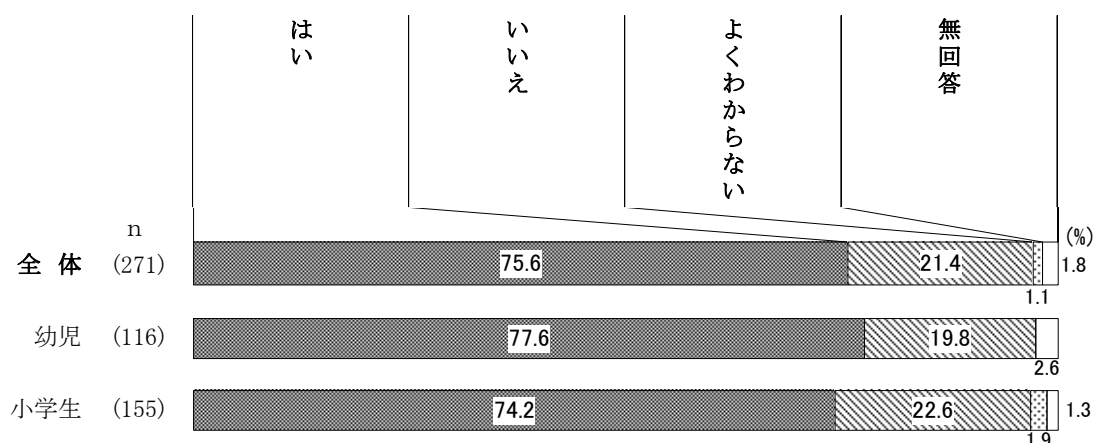
付問13-1 妊娠しているお母さんの前では吸わないようにしていましたか。

(○は1つだけ)

同居家族が母親の前で喫煙しないようにしていたかについては、「はい」が75.6%を占めている。

幼児・小学生別でみると、大きな差はみられない。

〈 幼児・小学生／同居家族は妊娠中の母親の前で喫煙しないようにしていたか 〉



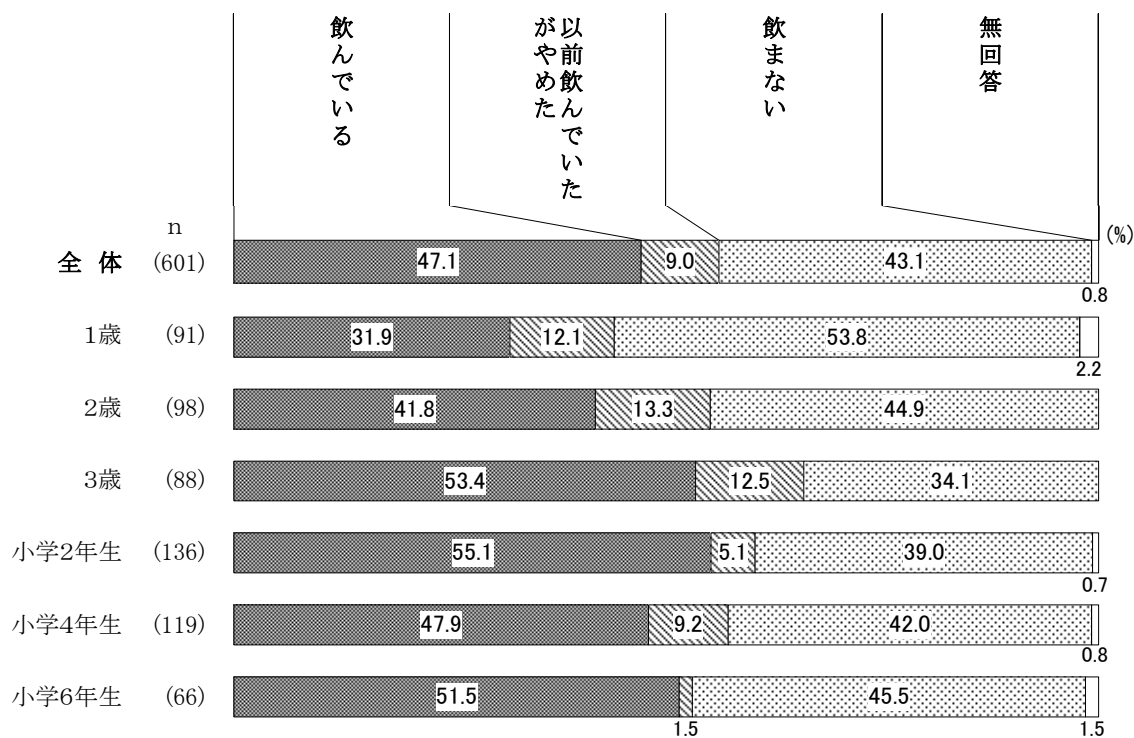
7. アルコール

(1) 記入者の飲酒状況

問14 あなたは、アルコールを飲みますか。(○は1つだけ)

飲酒については、「飲んでいる」が47.1%、「以前飲んでいたがやめた」「飲まない」が合計52.1%となっている。

〈子どもの年齢(学年)／記入者の飲酒状況〉



(2) 妊娠中の飲酒状況

問15 お子さんを妊娠していた期間、お母さんはアルコールを飲んでいましたか。

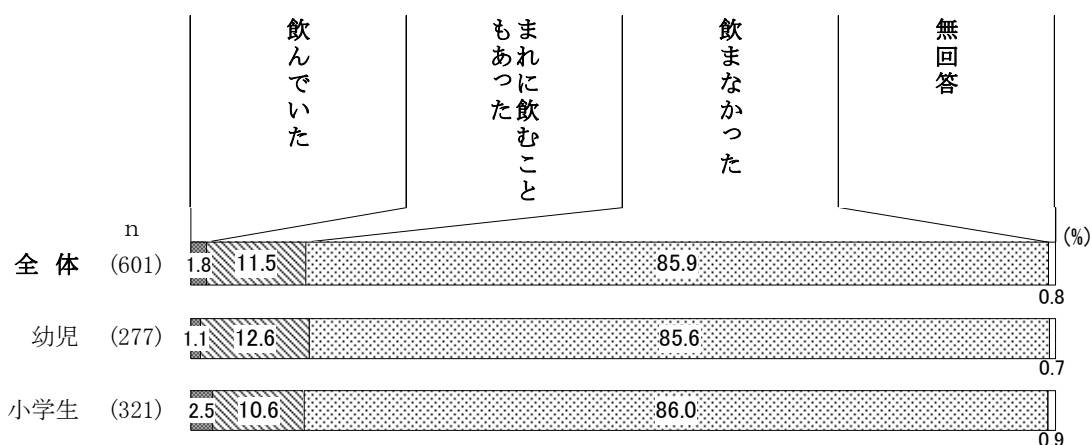
(〇は1つだけ)

妊娠中の母親の飲酒状況については、「飲まなかった」が85.9%で最も高く、次いで「まれに飲むこともあった」(11.5%)となっている。

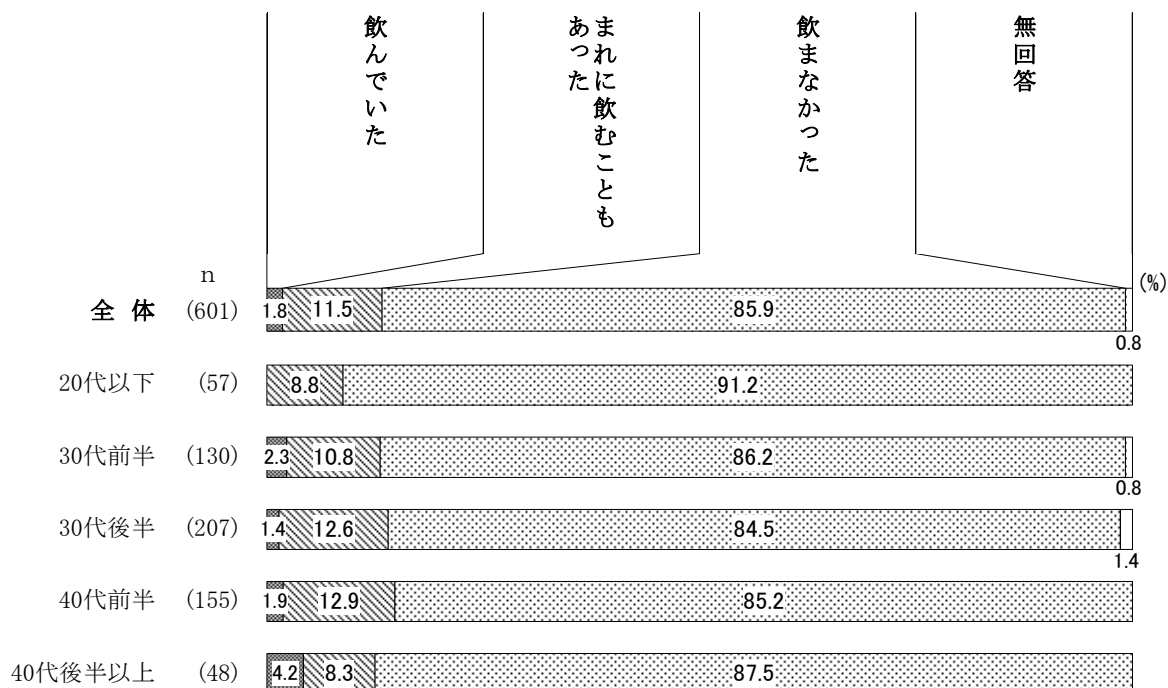
幼児・小学生別でみると、大きな差はみられない。

記入者の年齢別でみると、20代以下では「飲まなかった」が他の年代より高くなっている。

〈 幼児・小学生／妊娠中の母親の飲酒状況 〉



〈 記入者の年齢／妊娠中の母親の飲酒状況 〉



(3) 子どもに飲酒をすすめた経験

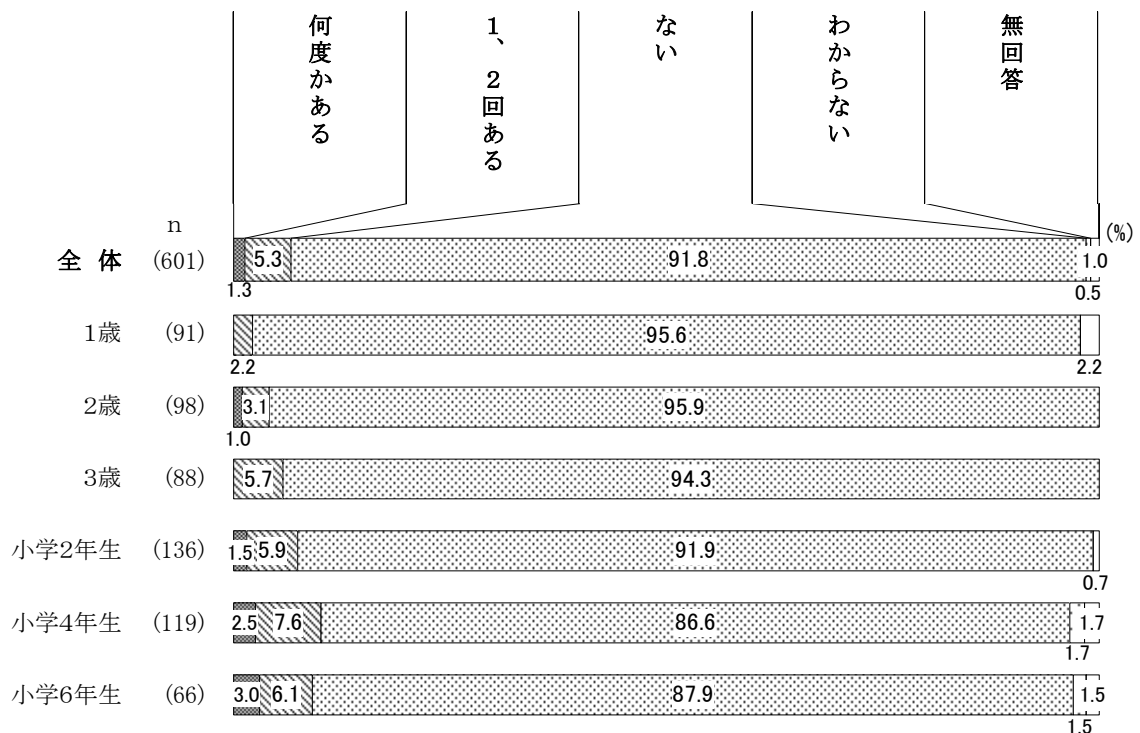
問16 お子さんに対して、自分や家族、親せきなどがアルコールをすすめたり飲ませたりしたことはありますか。(〇は1つだけ)

子どもにアルコールをすすめた経験の有無については、「何度かある」と「1、2回ある」の合計が6.6%となっている。

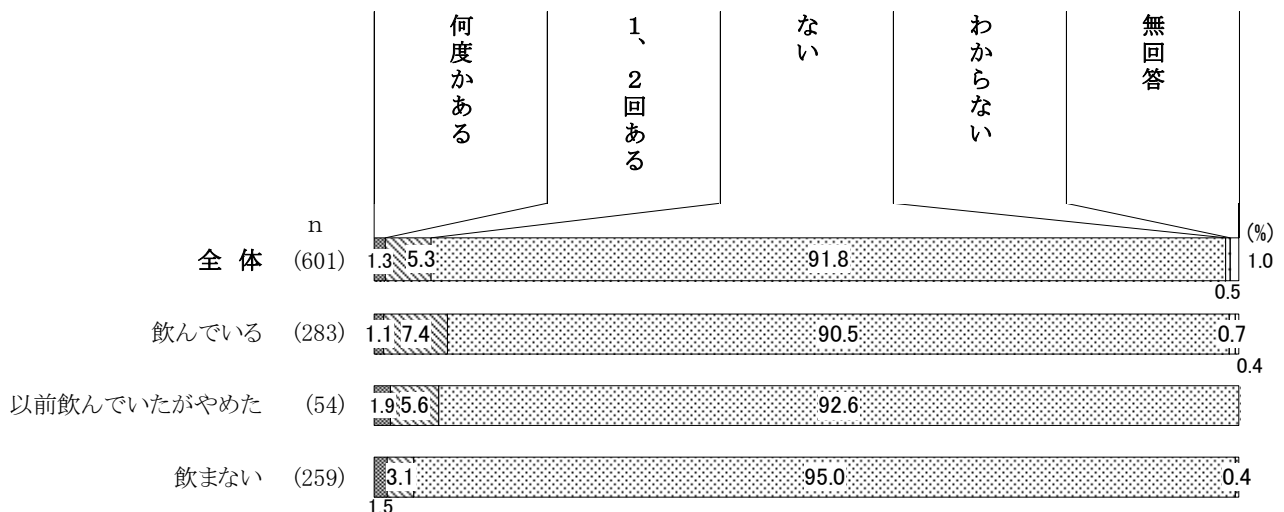
子どもの年齢別でみると、小学生では、やや比率が高くなっている。

記入者の飲酒状況別でみると、〈飲んでいる〉人では、子どもに飲酒をすすめた経験のある人が8.5%となっている。

〈子どもの年齢(学年)／子どもにアルコールをすすめた経験の有無(本人・家族・親戚)〉



〈記入者の飲酒状況／子どもにアルコールをすすめた経験の有無(本人・家族・親戚)〉



8. 歯の健康

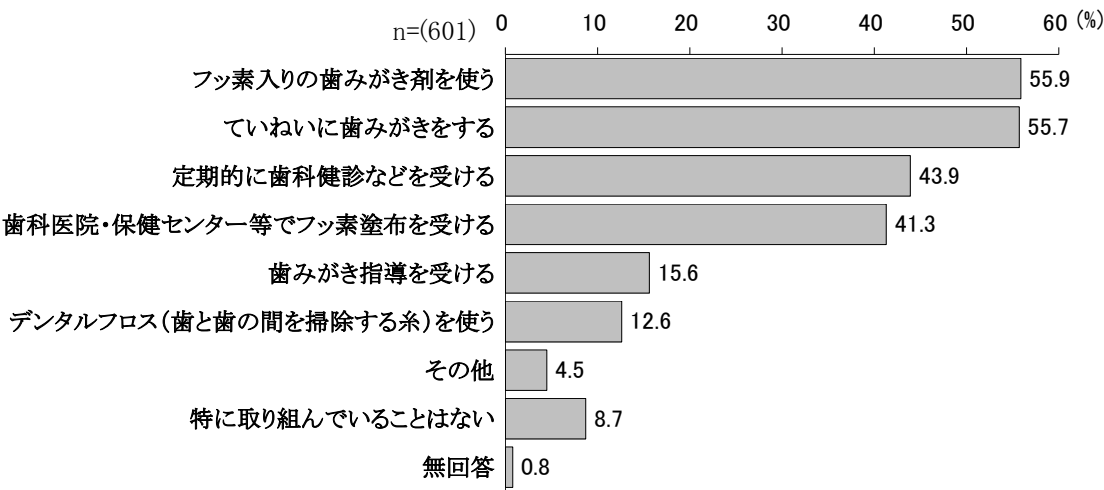
(1) 歯や歯ぐきの健康のための取り組み

問17 ふだん、お子さんの歯や歯ぐきの健康のために、どのようなことに取り組んでいますか。
(○はいくつでも)

ふだん子どもの歯や歯ぐきの健康のために取り組んでいることとしては、「フッ素入りの歯みがき剤を使う」(55.9%)と「ていねいに歯みがきをする」(55.7%)の2項目が、いずれも5割を超えて特に高くなっている。また、「定期的に歯科健診などを受ける」(43.9%)「歯科医院・保健センター等でフッ素塗布を受ける」(41.3%)も高くなっている。

子どもの年齢別でみると、2歳、3歳では「ていねいに歯みがきをする」が7割を超えている。また、3歳、小学2年生では、「フッ素入りの歯磨剤を使う」が6割から7割と他の年齢に比べて高くなっている。

＜子どもの年齢（学年）／子どもの歯や歯ぐきの健康のための取り組み＞



	定期的に歯科健診など を受ける	歯科医院・保健センタ ー等でフッ素塗布を受け る	歯みがき指導を受ける	デンタルフロス（歯と歯 の間を掃除する糸）を使 う	ていねいに歯みがきを する	フッ素入りの歯みがき 剤を使う	その他	特に取り組んでいるこ とはない	無回 答
全 体 (n=601)	43.9	41.3	15.6	12.6	55.7	55.9	4.5	8.7	0.8
1 歳 (n=91)	13.2	19.8	16.5	2.2	67.0	30.8	6.6	15.4	2.2
2 歳 (n=98)	32.7	70.4	14.3	7.1	72.4	59.2	1.0	2.0	1.0
3 歳 (n=88)	45.5	70.5	19.3	6.8	79.5	71.6	3.4	1.1	－
小学2年生 (n=136)	61.8	41.2	19.9	30.1	45.6	66.2	4.4	6.6	－
小学4年生 (n=119)	47.9	21.8	8.4	10.1	37.0	52.1	4.2	16.0	0.8
小学6年生 (n=66)	57.6	24.2	15.2	10.6	39.4	48.5	9.1	10.6	1.5

9. 子育て

(1) 子育てに関する考え

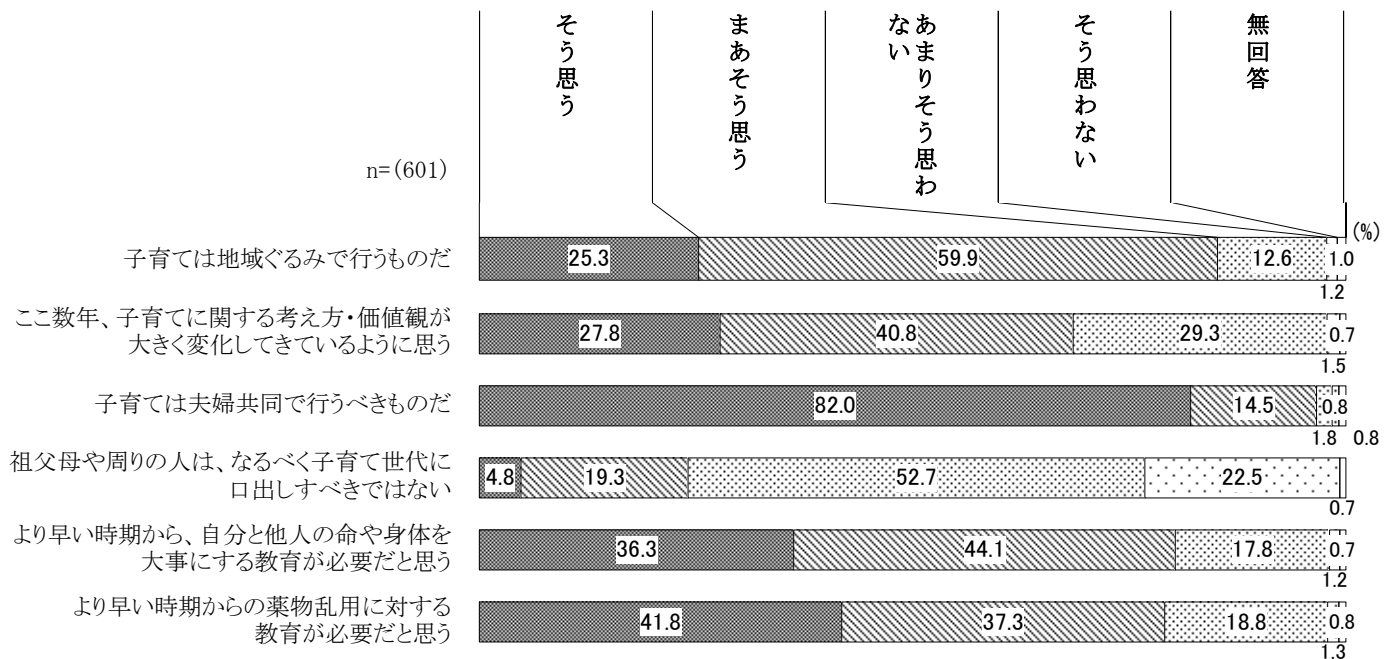
問18 以下のそれぞれの意見について、あなたの考えにもっとも近い番号を選んでください。
(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

子育てに関する考えをみると、〈子育ては夫婦共同で行うべきものだ〉については82.0%が「そう思う」と回答している。

〈子育ては地域ぐるみで行うものだ〉〈ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う〉〈より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う〉については、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた《思う》が約7割から約8割を占めている。

〈祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない〉については、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせて75.2%と、「そう思う」と「まあそう思う」の合計(24.1%)を上回っている。

〈子育てに関する考え〉



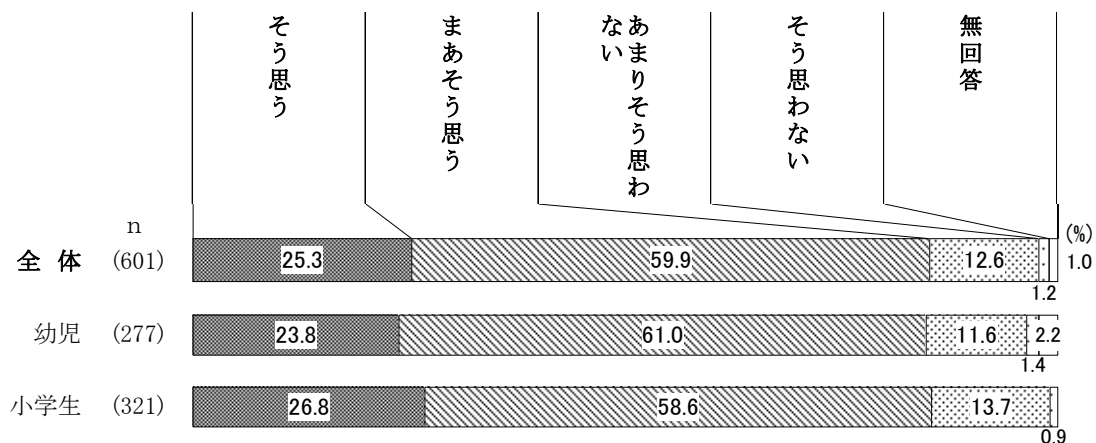
子育ては地域ぐるみで行うものだ

「子育ては地域ぐるみで行うものだ」は、「そう思う」「まあそう思う」の割合が約8割を占めている。

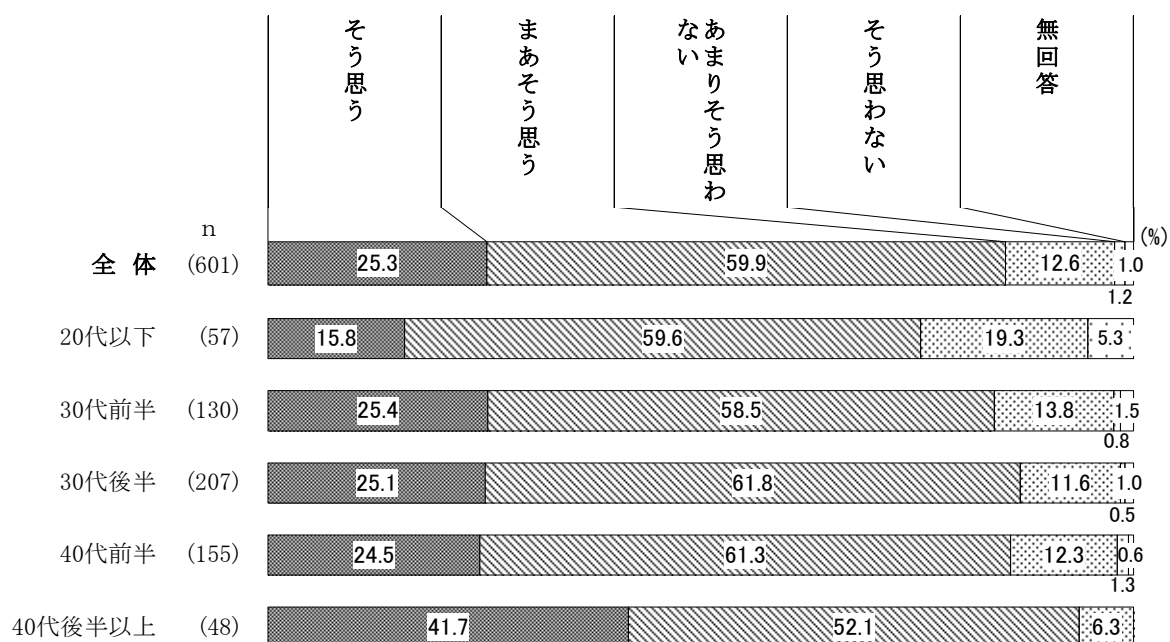
幼児・小学生別でみると、小学生では「そう思う」の割合が幼児よりやや高くなっている。

記入者の年齢別でみると、40代後半以上では「そう思う」の割合が高くなっている。一方、20代以下では「あまりそう思わない」の割合が高くなっている。

〈 幼児・小学生／子育ては地域ぐるみで行うものだ 〉



〈 記入者の年齢／子育ては地域ぐるみで行うものだ 〉



ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う

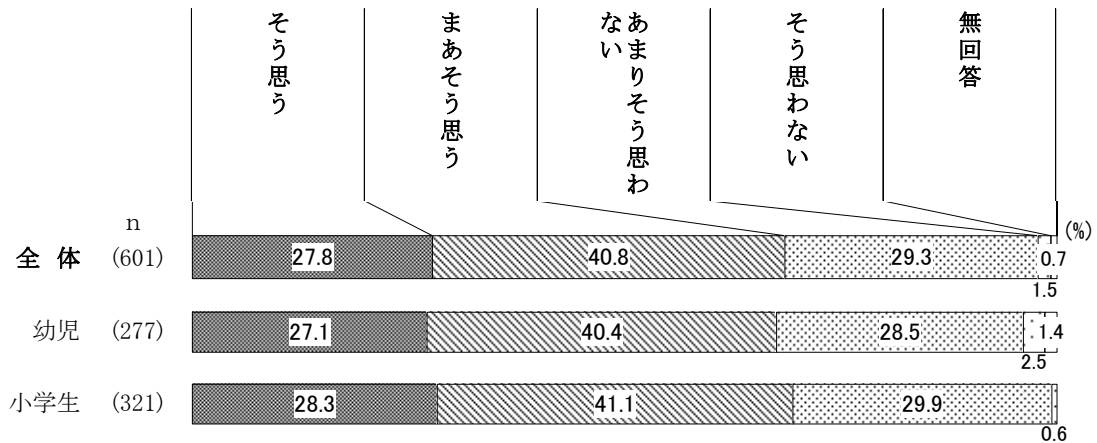
「ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う」は、「そう思う」が27.8%となっており、前回調査時の37.5%から減っている。

幼児・小学生別でみると、大きな差はみられない。

記入者の年齢別でみると、20代以下で「そう思う」が最も高く、年齢とともに漸減している。

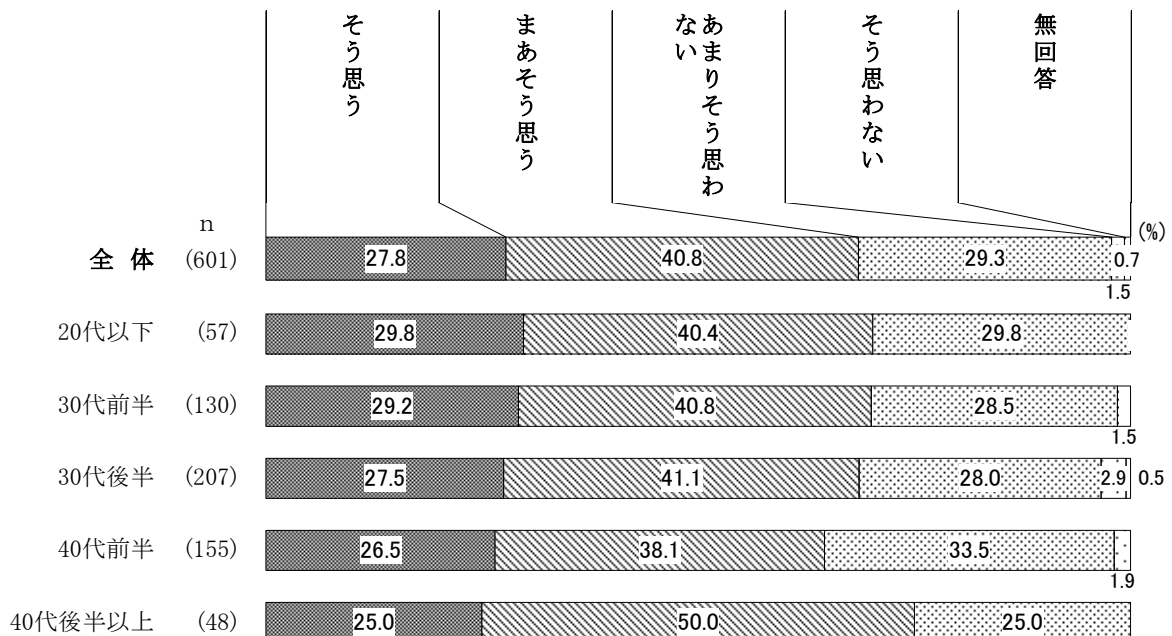
〈 幼児・小学生／

ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う 〉



〈 記入者の年齢／

ここ数年、子育てに関する考え方・価値観が大きく変化してきているように思う 〉



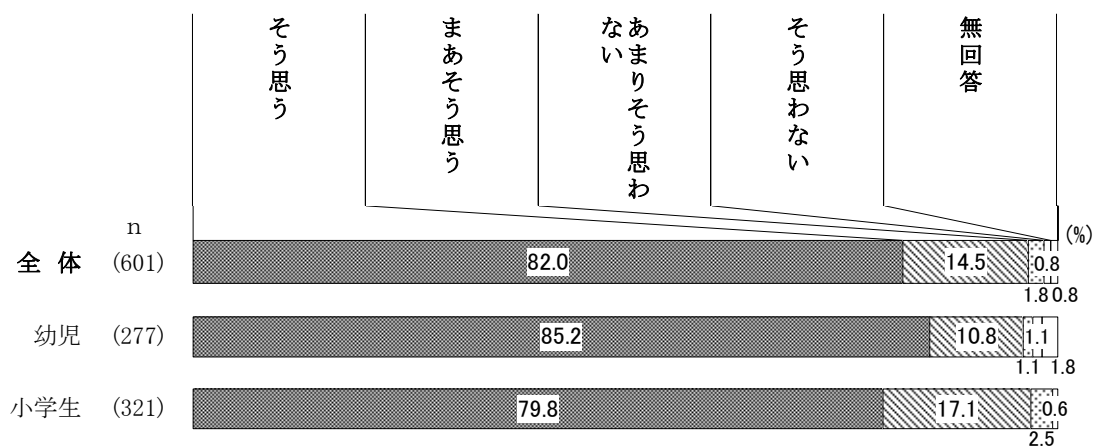
子育ては夫婦共同で行うべきものだ

「子育ては夫婦共同で行うべきものだ」は、「そう思う」「まあそう思う」が9割以上と、高い割合を占めている。

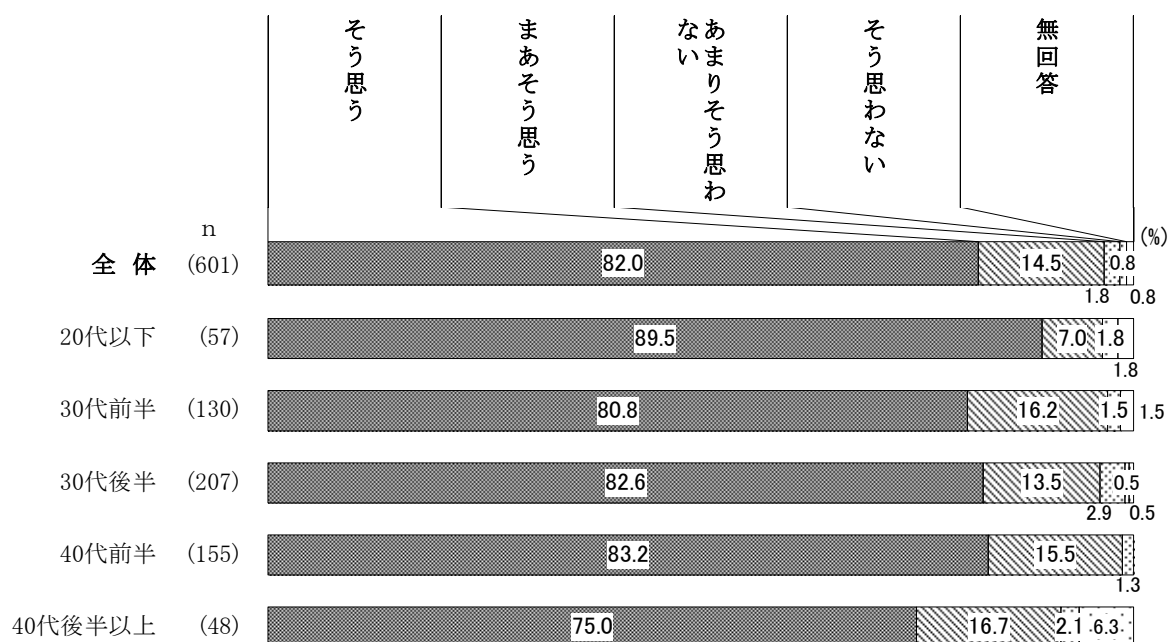
幼児・小学生別でみると、幼児では「そう思う」が小学生よりやや高くなっている。

記入者の年齢別でみると、20代以下で「そう思う」が9割近くを占めている。

〈 幼児・小学生／子育ては夫婦共同で行うべきものだ 〉



〈 記入者の年齢／子育ては夫婦共同で行うべきものだ 〉



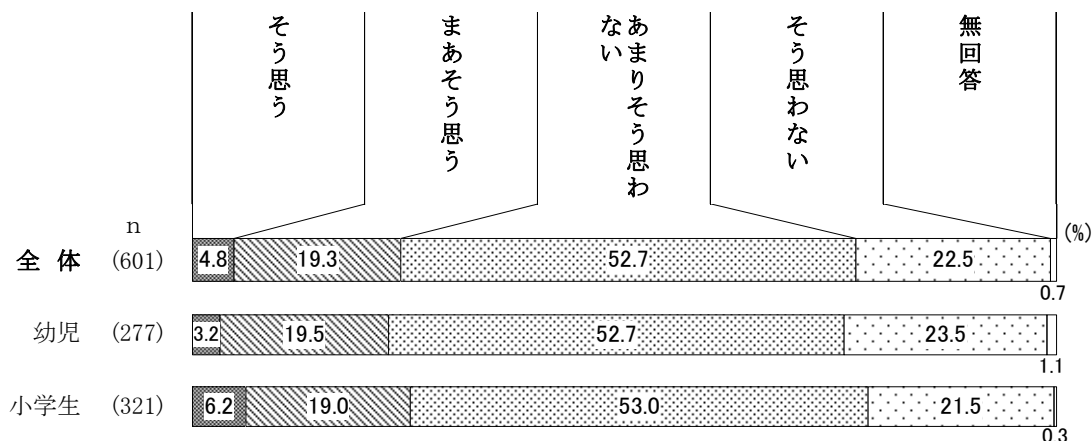
祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない

「祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない」は、「あまりそう思わない」の割合が52.7%と最も高くなっている。

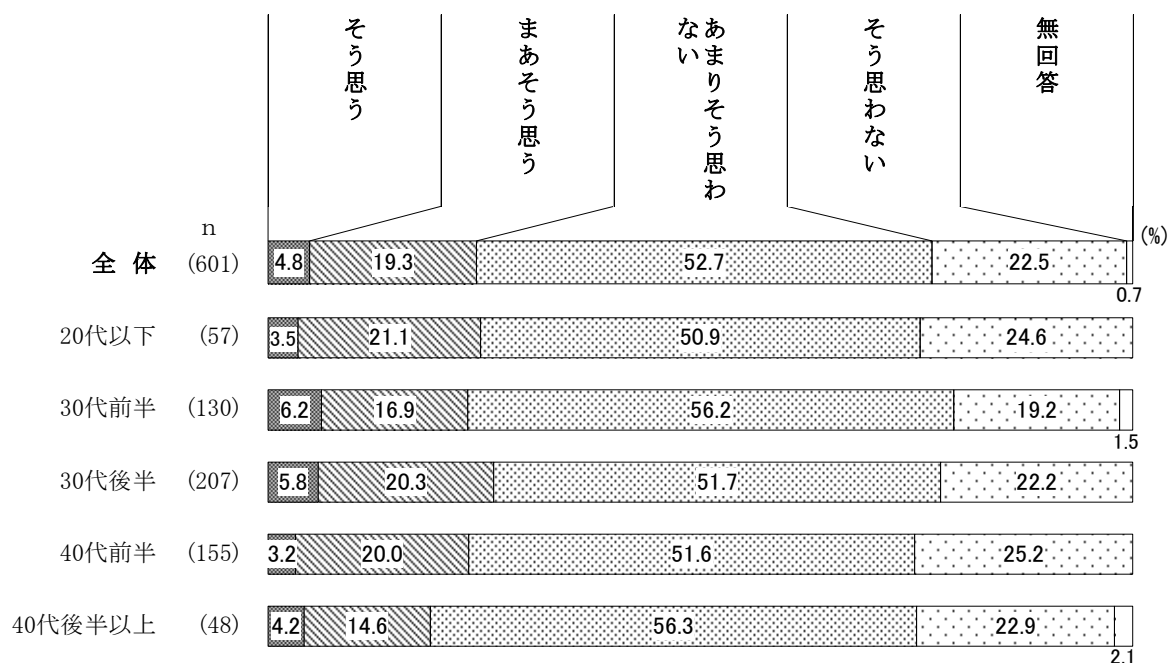
幼児・小学生別でみると、小学生では「そう思う」が幼児よりやや高くなっている。

記入者の年齢別でみると、30代前半・後半では「そう思う」がやや高くなっている。

〈 幼児・小学生／祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない 〉



〈 記入者の年齢／祖父母や周りの人は、なるべく子育て世代に口出しすべきではない 〉



より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育（性教育を含む）が必要だと思う

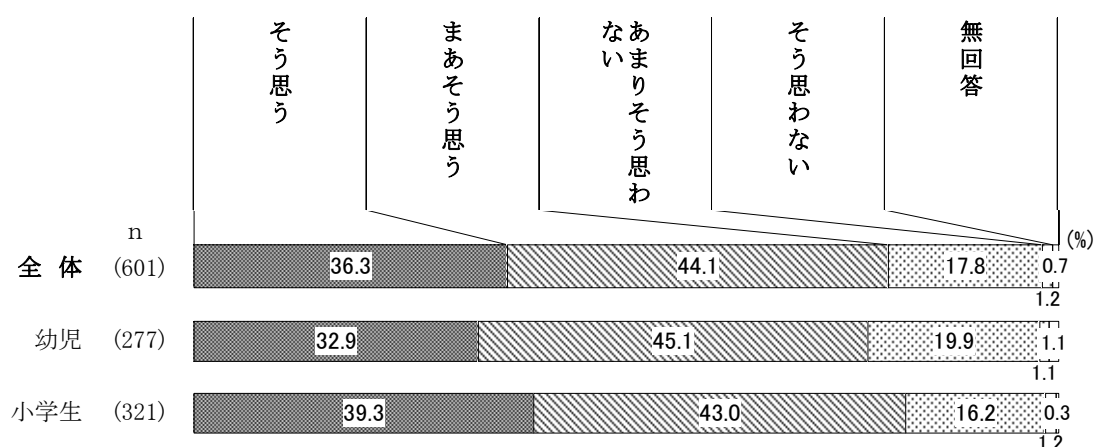
「より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育が必要」は、「そう思う」「まあそう思う」の合計が約8割を占めている。

幼児・小学生別でみると、小学生では「そう思う」が幼児よりやや高くなっている。

記入者の年齢別でみると、40代後半以上では「そう思う」が54.2%で、他の年齢層が30%台のなか、高くなっている。

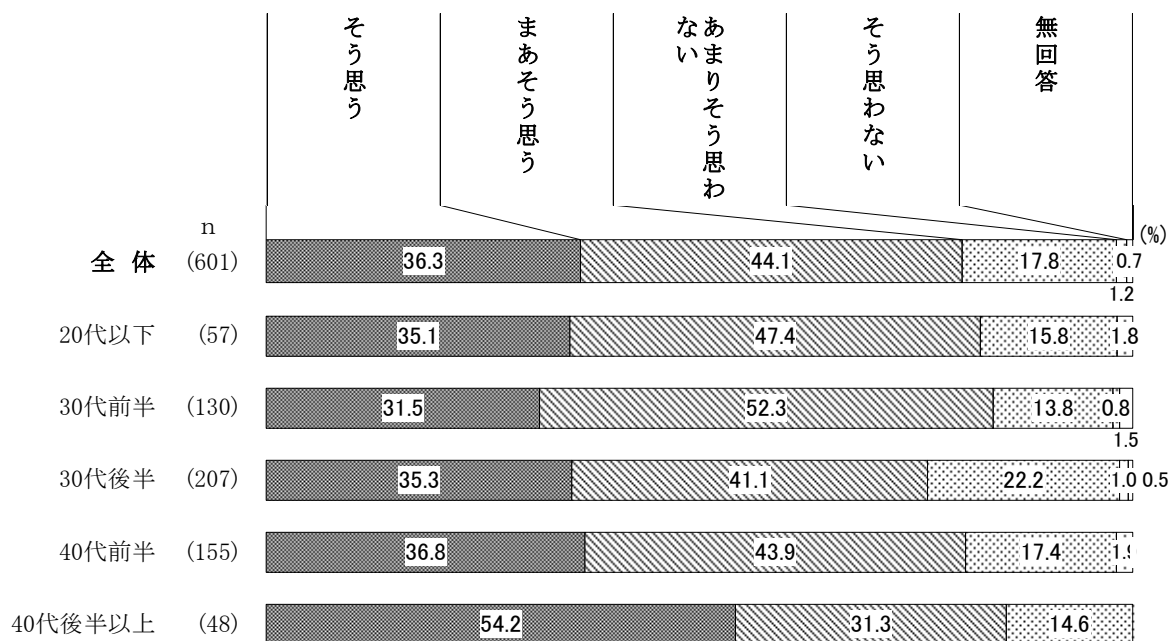
〈 幼児・小学生／

より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育（性教育を含む）が必要だと思う 〉



〈 記入者の年齢／

より早い時期から、自分と他人の命や身体を大事にする教育（性教育を含む）が必要だと思う 〉



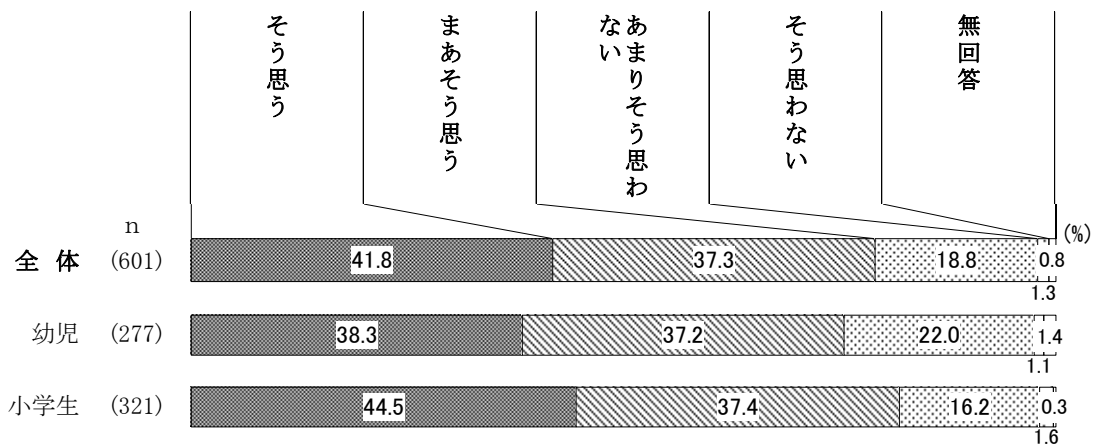
より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う

「より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う」は、「そう思う」「まあそう思う」の割合が79.1%と、高くなっている。

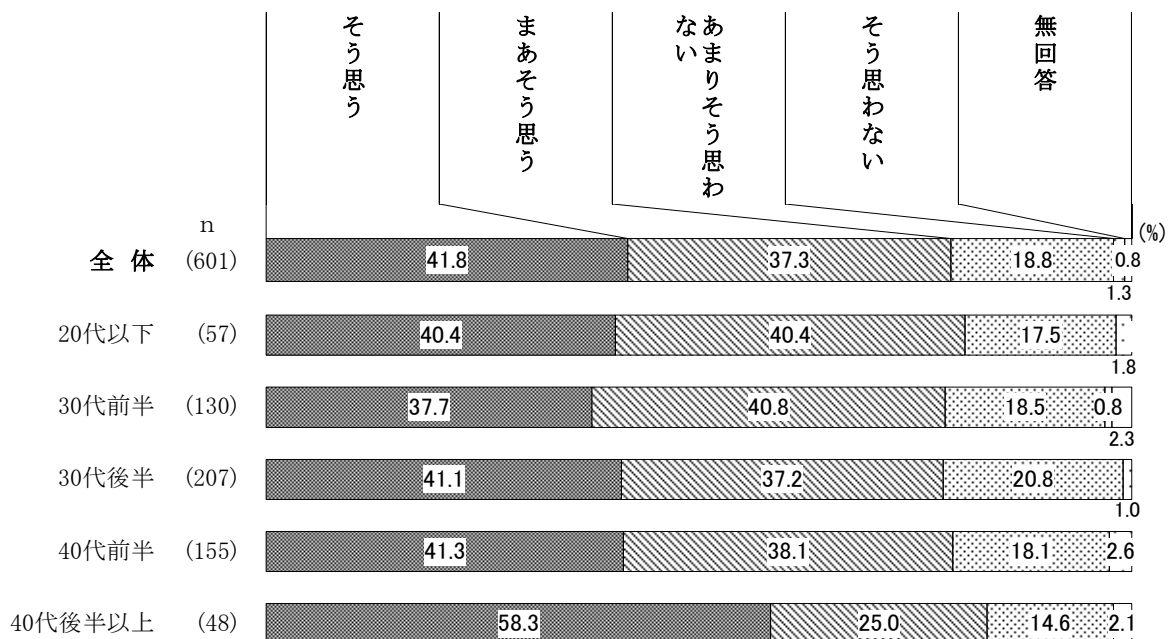
幼児・小学生別でみると、小学生では「そう思う」が44.5%と高くなっている。

記入者の年齢別でみると、40代後半以上で「そう思う」が58.3%と高くなっている。

〈 幼児・小学生／より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う 〉



〈 記入者の年齢／より早い時期からの薬物乱用に対する教育が必要だと思う 〉



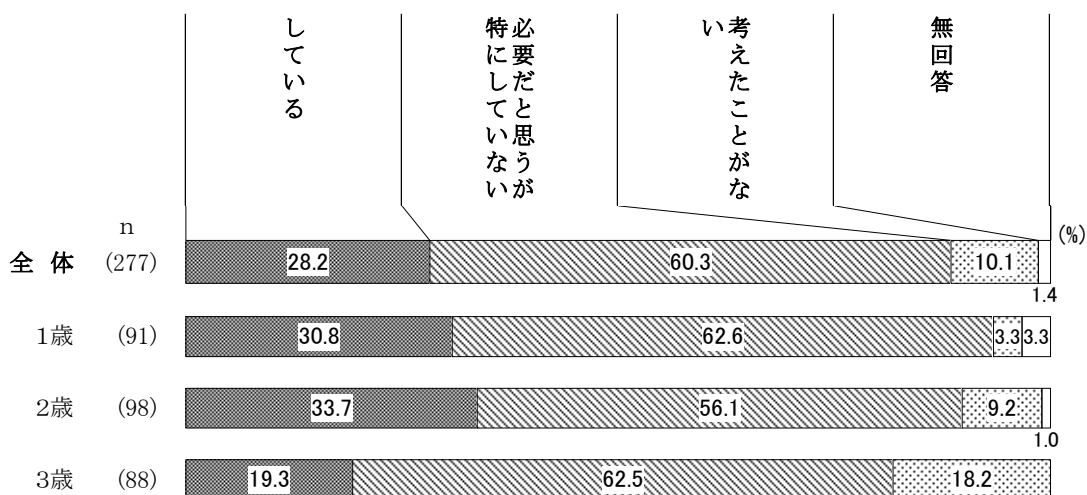
(2) 風呂場の事故防止

問19 (お子さんが幼児の場合のみ) あなたの家庭では、風呂場の事故予防のためにお子さんがドアを開けられないようにロックするなどの工夫をしていますか。(〇は1つだけ)

風呂場の事故防止のための工夫については、「必要だと思うが特にしていない」が60.3%で最も高く、次いで「している」(28.2%)となっている。一方、「考えたことがない」は10.1%となっている。

子どもの年齢別でみると、1歳、2歳では「している」が3割を超えて、3歳より高くなっている。

〈子どもの年齢／風呂場での事故防止のための工夫〉

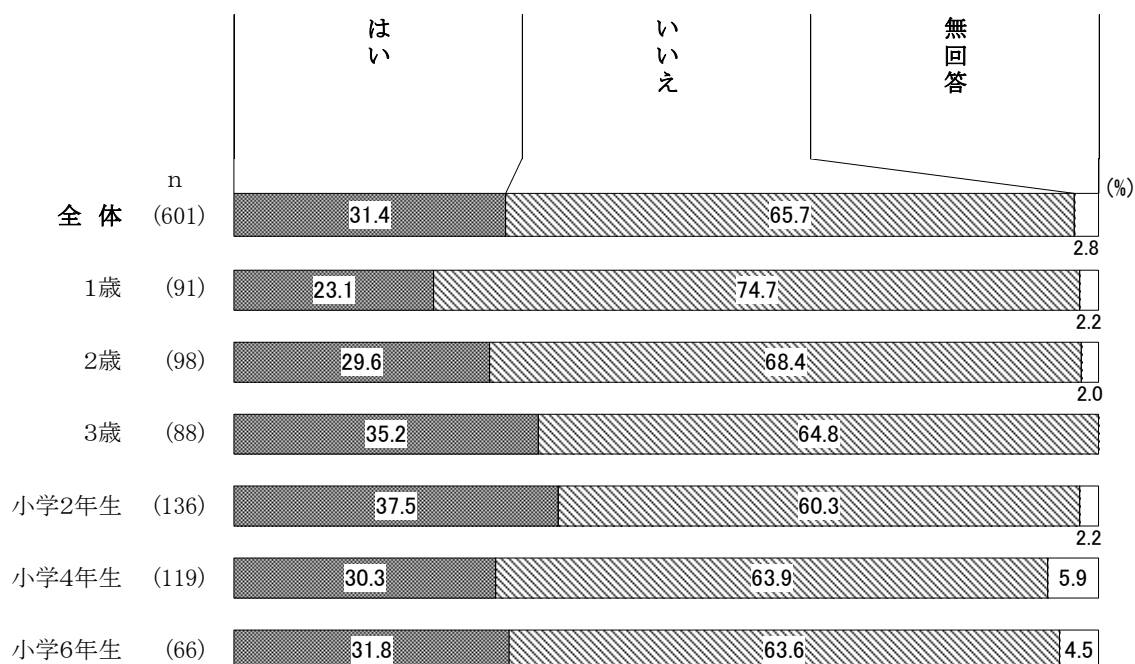


(3) 家庭内の事故

問20 お子さんは今までに、家庭内での事故やけがなどで医療機関を受診したことはありますか。(受診しても何も治療を受けなかった場合も含みます)。(〇は1つだけ)

家庭内の事故やけがによる医療機関の受診の有無については、「はい」が31.4%、「いいえ」が65.7%となっている。

〈子どもの年齢(学年)／家庭内での事故やけがなどで医療機関を受診したことがあるか〉



(4) 過去に起こった家庭内の事故

問20で「はい」と答えた方

付問20-1 過去に起こった主な家庭内での事故やけがについて教えてください。

家庭内で事故やけががあった年齢をみると、「1歳」が32.8%で最も高く、次いで「2歳」(23.3%)となっている。

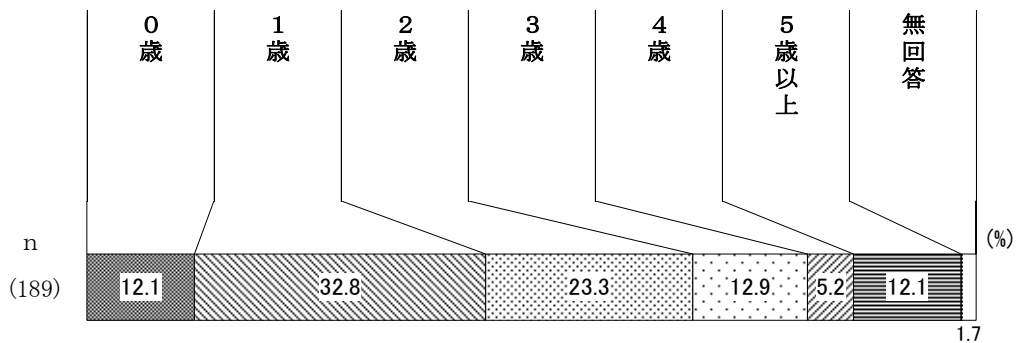
事故が起きた時間帯としては、「午前」が28.2%、「午後」が62.5%となっている。

事故が起きた場所としては、「居間」が53.4%で最も高く、次いで「階段」(14.3%)となっている。

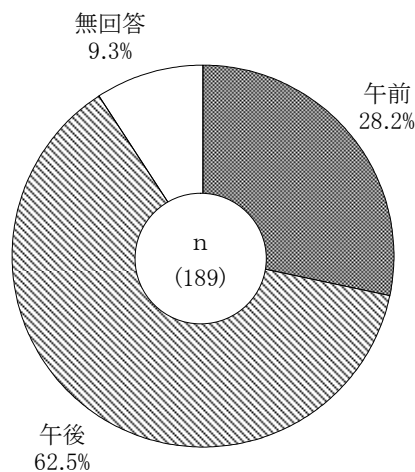
けがの内容については、「刺傷・切り傷」が38.1%で最も高く、以下「すり傷・打ち身」(28.0%)、「やけど」(20.1%)の順で続いている。

治療方法については、「その日で治療が終わった」が45.7%で最も高く、次いで「通院した」が37.9%となっている。一方、「治療をしなかった」が12.9%となっている。

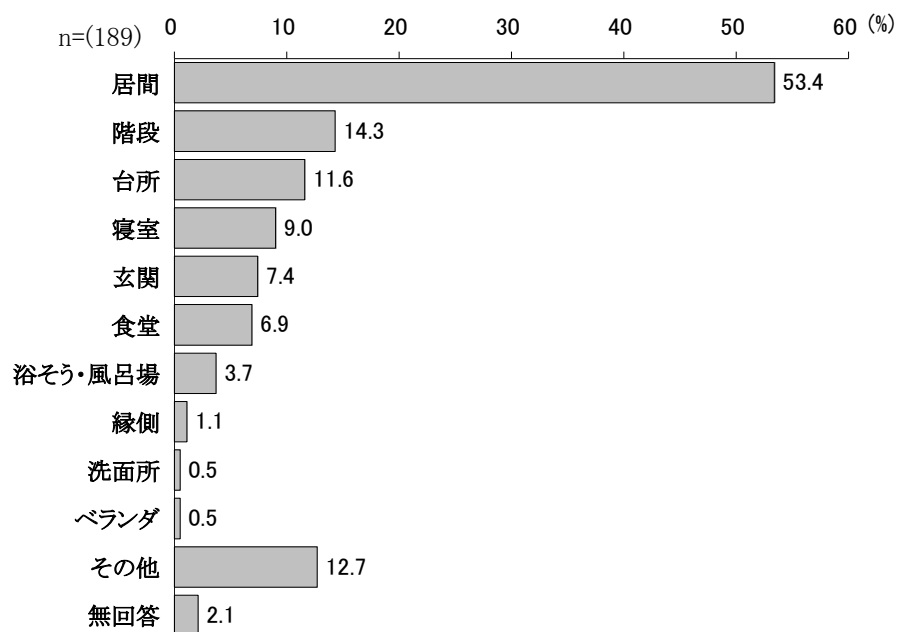
〈 事故があった年齢（件数ベース） 〉



〈 事故があった時間帯（件数ベース） 〉

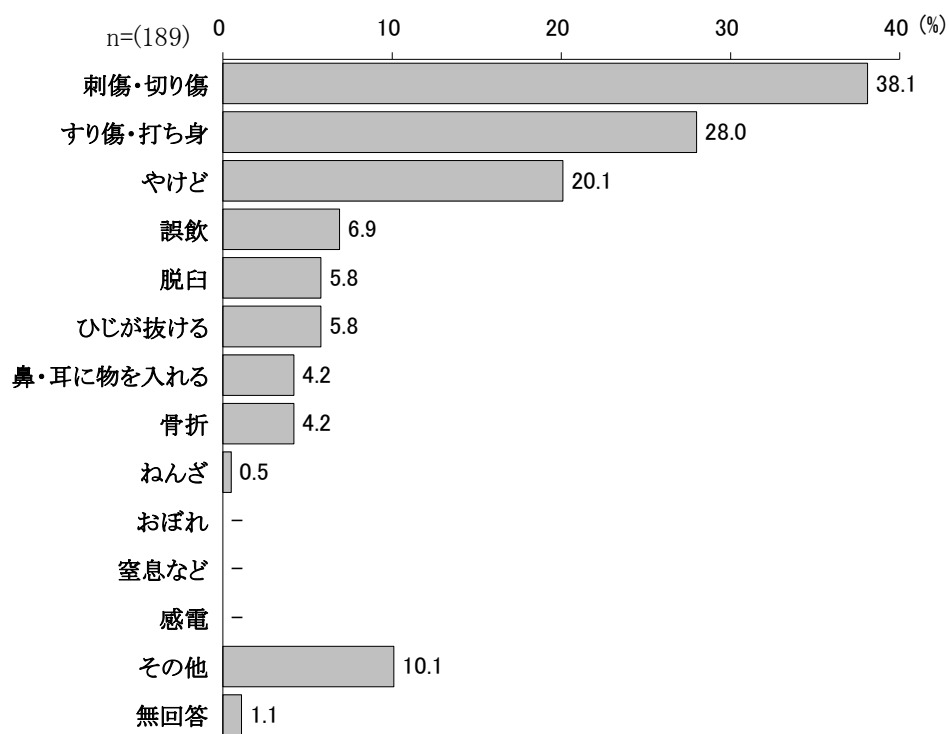


〈 事故があった年齢／事故が起きたところ（件数ベース） 〉



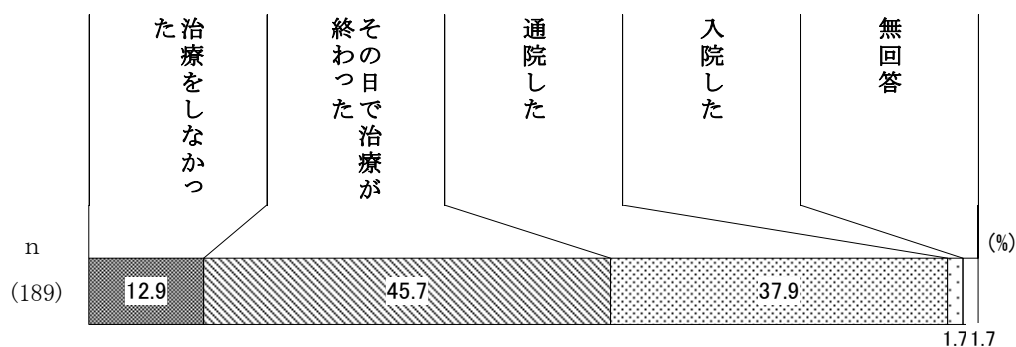
	階段	浴そう・風呂場	台所	食堂	玄関	居間	洗面所	ベランダ	寝室	縁側	その他	無回答
全 体 (n=189)	14.3	3.7	11.6	6.9	7.4	53.4	0.5	0.5	9.0	1.1	12.7	2.1
0 歳 (n=28)	10.7	10.7	7.1	10.7	3.6	75.0	-	-	17.9	-	3.6	-
1 歳 (n=76)	9.2	1.3	13.2	7.9	6.6	53.9	-	-	7.9	2.6	14.5	3.9
2 歳 (n=54)	27.8	9.3	7.4	1.9	14.8	55.6	-	-	5.6	-	20.4	1.9
3 歳 (n=30)	20.0	3.3	16.7	3.3	6.7	83.3	3.3	-	6.7	-	20.0	3.3
4 歳 (n=12)	8.3	8.3	16.7	8.3	16.7	83.3	-	-	-	-	25.0	-
5 歳以上 (n=28)	14.3	10.7	25.0	3.6	7.1	57.1	-	3.6	17.9	-	21.4	-

〈 事故があった年齢／けが等の内容（件数ベース） 〉



	刺傷・切り傷	すり傷・打ち身	やけど	鼻・耳に物を入れる	骨折	誤飲	脱臼	ねんざ	おぼれ	ひじが抜ける	窒息など	感電	その他	無回答
全 体 (n=189)	38.1	28.0	20.1	4.2	4.2	6.9	5.8	0.5	-	5.8	-	-	10.1	1.1
0 歳 (n=28)	21.4	42.9	28.6	3.6	-	14.3	7.1	-	-	3.6	-	-	17.9	-
1 歳 (n=76)	40.8	22.4	26.3	2.6	5.3	5.3	5.3	1.3	-	6.6	-	-	6.6	1.3
2 歳 (n=54)	44.4	38.9	14.8	5.6	-	11.1	9.3	-	-	9.3	-	-	14.8	1.9
3 歳 (n=30)	53.3	40.0	10.0	13.3	3.3	3.3	16.7	-	-	16.7	-	-	13.3	-
4 歳 (n=12)	66.7	16.7	16.7	16.7	16.7	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-
5 歳以上 (n=28)	53.6	25.0	21.4	3.6	14.3	10.7	3.6	3.6	-	-	-	-	21.4	-

〈 治療方法（件数ベース） 〉



(5) 保護者の気持ち

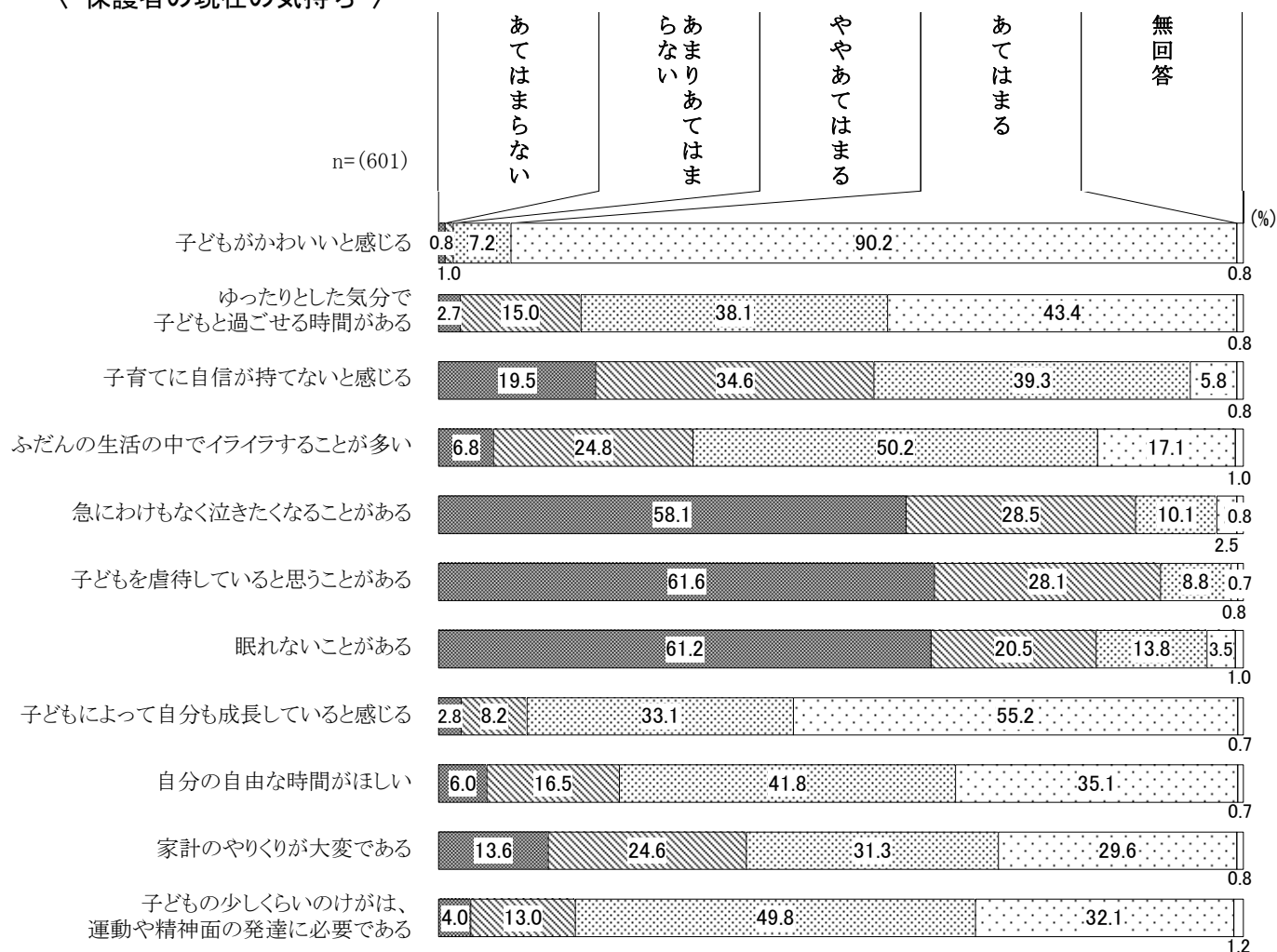
問21 今のあなたの気持ちにもっとも近い番号を選んでください。

(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

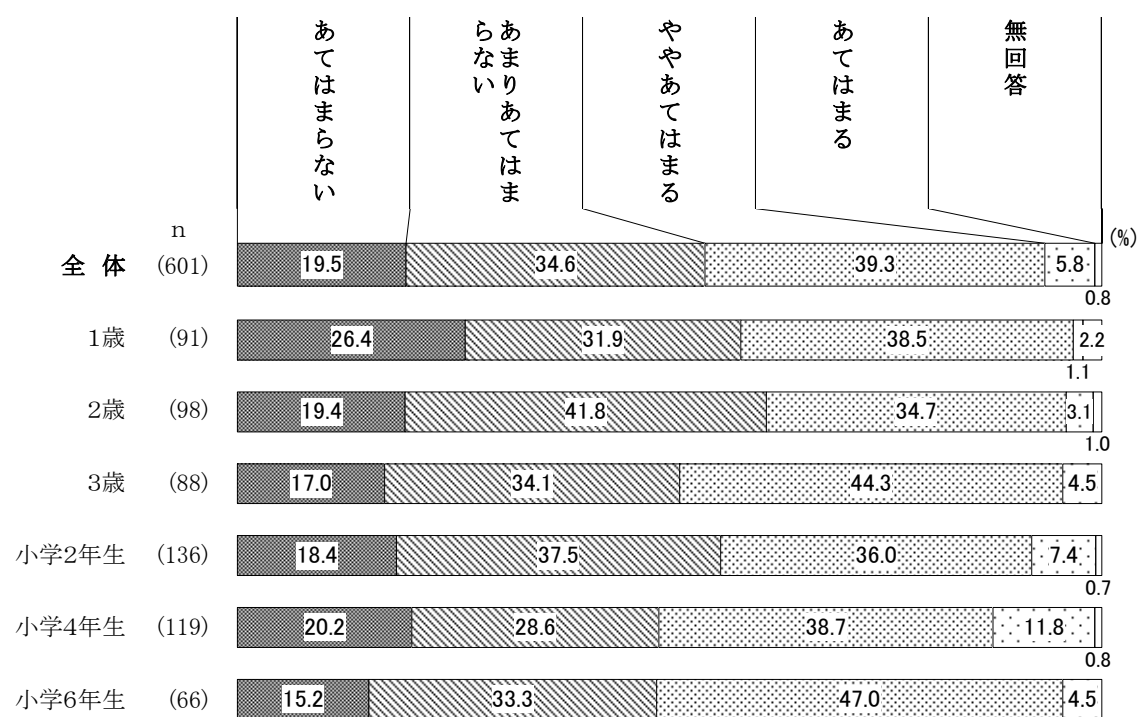
〈子育てに自信が持てないと感じる〉親は45.1% (「あてはまる」「ややあてはまる」の合計)、〈ふだんの生活の中でイライラすることが多い〉親は67.3% (「あてはまる」「ややあてはまる」の合計) となっており、育児不安を抱いている親が少なくないことがわかる。

また、〈子どもを虐待していると思うことがある〉親が9.6% (「あてはまる」「ややあてはまる」の合計) となっている。

〈保護者の現在の気持ち〉



〈 子どもの年齢（学年）／子育てに自信が持てないと感じる 〉



(6) 育児等の悩みの相談先

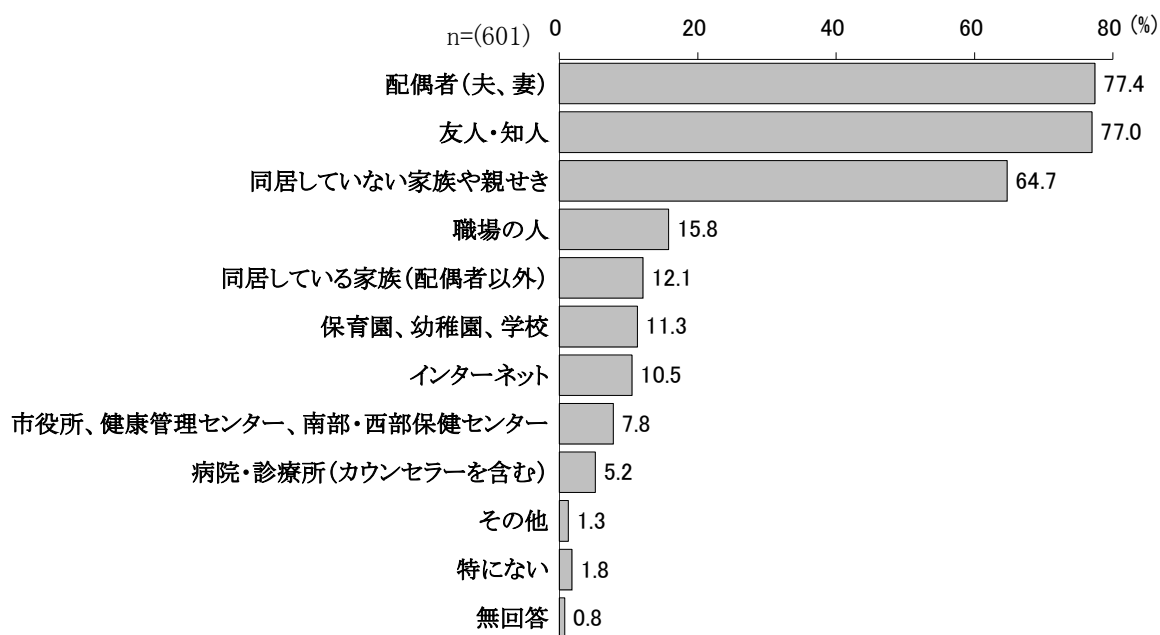
問22 上記のような、あなた自身や育児の悩みについて、誰に相談していますか。

(〇はいくつでも)

育児等の悩みの相談先としては、「配偶者（夫・妻）」(77.4%)と「友人・知人」(77.0%)が、いずれも8割近くを占めて、特に高くなっている。また、「同居していない家族や親せき」も64.7%となっている。

子どもの年齢別でみると、幼児の親では「配偶者（夫・妻）」が8割を超えている。また、1歳、2歳では「同居していない家族や親戚」が7割を超えて、他の年齢より高くなっている。

〈 子どもの年齢（学年）／育児等の悩みについての相談先 〉



	配偶者（夫、妻）	同居している家族（配偶者以外）	同居していない家族や親せき	友人・知人	市役所、健康管理センター、南部・西部保健センター	病院・診療所（カウンセラーを含む）	保育園、幼稚園、学校	職場の人	インターネット	その他	特になし	無回答
全 体 (n=601)	77.4	12.1	64.7	77.0	7.8	5.2	11.3	15.8	10.5	1.3	1.8	0.8
1 歳 (n=91)	85.7	7.7	76.9	74.7	12.1	3.3	9.9	13.2	6.6	1.1	2.2	2.2
2 歳 (n=98)	81.6	16.3	70.4	82.7	7.1	7.1	12.2	11.2	17.3	2.0	—	1.0
3 歳 (n=88)	83.0	12.5	64.8	70.5	17.0	4.5	13.6	11.4	12.5	3.4	1.1	—
小学2年生 (n=136)	76.5	10.3	66.2	79.4	5.1	5.1	11.8	14.7	10.3	—	1.5	0.7
小学4年生 (n=119)	68.9	12.6	56.3	76.5	3.4	5.9	9.2	26.9	8.4	0.8	3.4	0.8
小学6年生 (n=66)	69.7	15.2	51.5	77.3	3.0	4.5	10.6	15.2	7.6	1.5	1.5	—

(7) 父親の育児参加

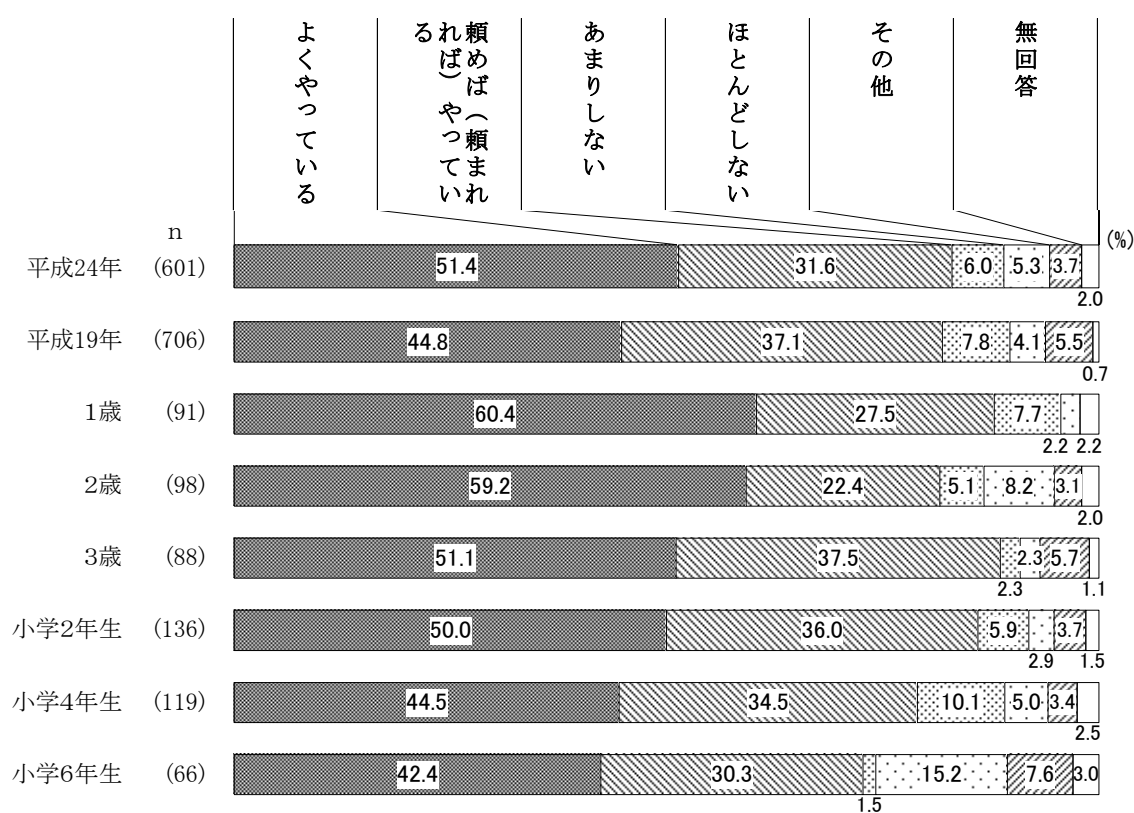
問23 父親は、育児に参加していますか。(○は1つだけ)

父親の育児参加については、「よくやっている」が51.4%で最も高く、次いで「頼めば(頼まれれば)やっている」(31.6%)となっている。一方、「あまりしない」は6.0%、「ほとんどしない」は5.3%となっている。

平成19年調査の結果と比較すると、今回「よくやっている」は51.4%と前回の44.8%より増加している。

子どもの年齢別でみると、1歳、2歳では「よくやっている」が6割前後と他の年齢より高くなっている。

〈 前回、子どもの年齢(学年)／父親の育児参加 〉

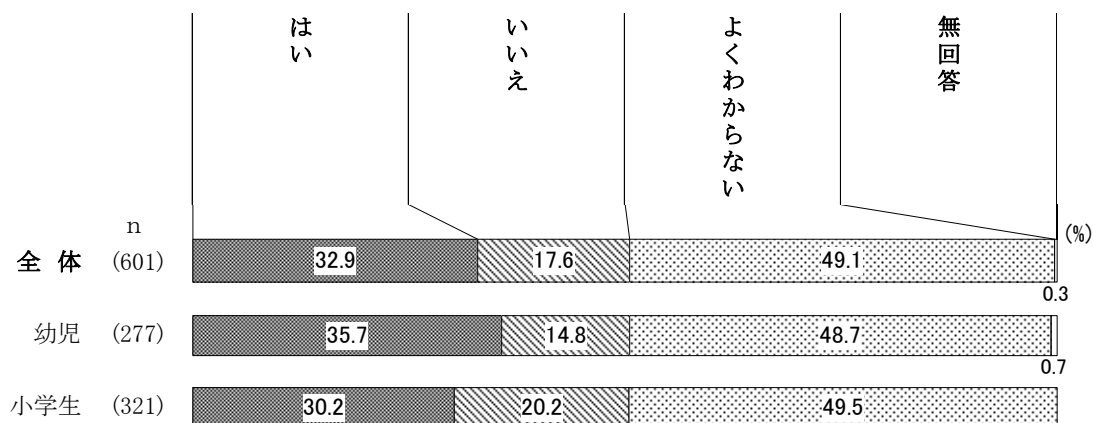


(8) 家庭での性に関する話

問24 あなたの家庭は、性に関することがらについてオープンに話せる家だと思いますか。
(○は1つだけ)

性に関してオープンに話せる家庭かについては、「はい」が32.9%、「いいえ」17.6%となっている。
幼児・小学生別でみると、幼児では「はい」が35.7%と小学生（30.2%）より高くなっている。

〈 幼児・小学生／性に関してオープンに話せる家庭か 〉

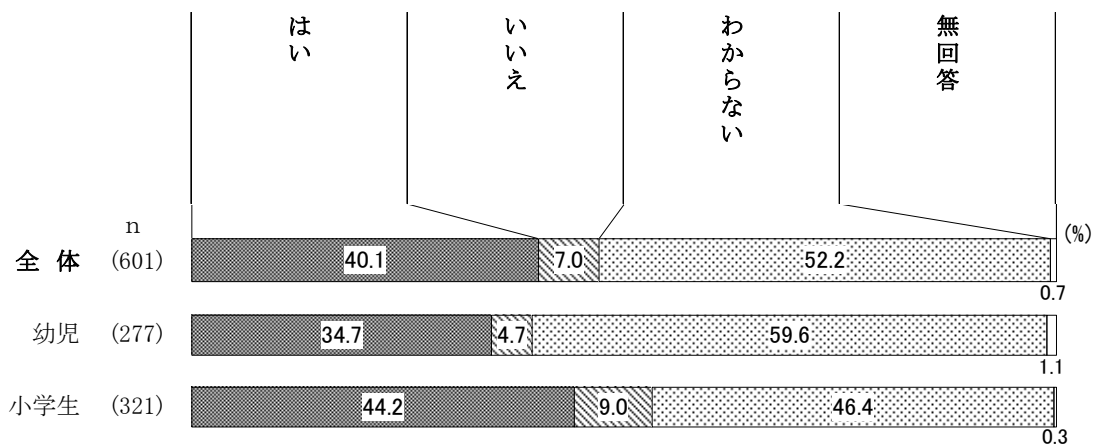


問25 あなたは、お子さんから性に関する悩みの相談や質問を受けたときにきちんと答えることができると思いますか。(○は1つだけ)

性に関する相談を受けたとき、きちんと答えられるかについては、「はい」が40.1%、「いいえ」が7.0%となっている。

幼児・小学生別でみると、小学生では「はい」が44.2%と幼児（34.7%）より高くなっている。

〈 幼児・小学生／子どもから性の悩みや相談を受けたときにきちんと答えられるか 〉



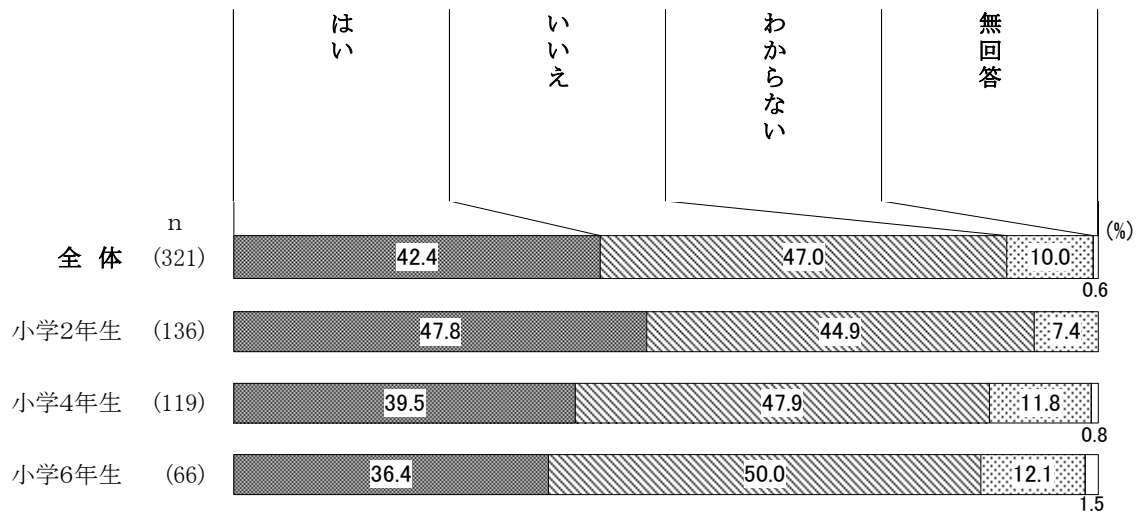
(9) 赤ちゃんに接する機会

問26 (お子さんが小学生の場合のみ) お子さんに、赤ちゃんに身近に接する機会を経験させるようにしていますか。(○は1つだけ)

子どもに赤ちゃんに接する機会を経験させているかについては「はい」が42.4%を占めている。

子どもの年齢別でみると、小学2年生では「はい」が47.8%と他の年齢より高くなっている。

〈子どもの学年／子どもに赤ちゃんに身近に接する機会を持たせているか〉



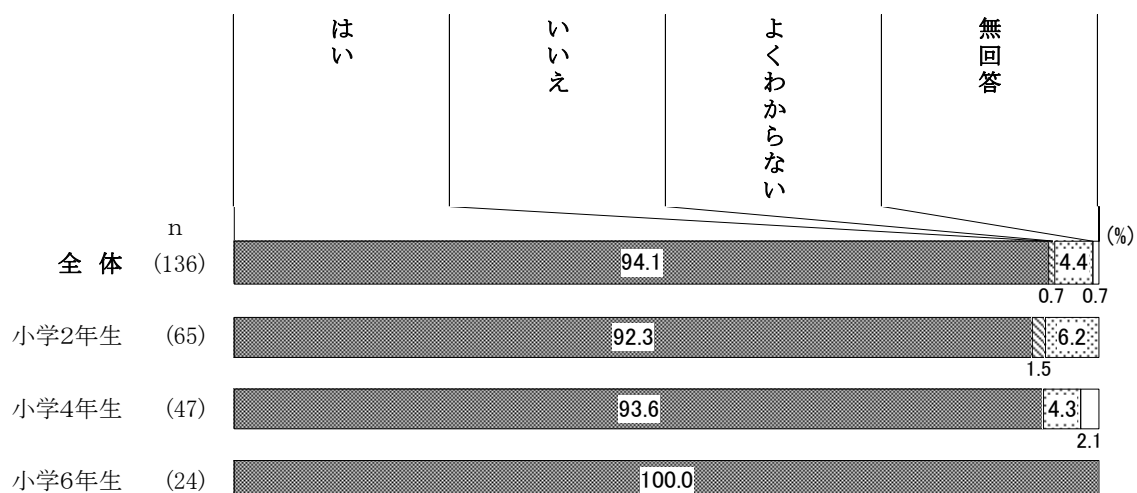
問26で「はい」と回答した人のみ

付問26-1 そのような時、お子さんは、赤ちゃんに対して興味や関心を示し、楽しそうにしていますか。(○は1つだけ)

赤ちゃんに接するときに、子どもが赤ちゃんに興味や関心を示しているかについては、「はい」が94.1%を占めている。

子どもの年齢別でみると、各学年とも「はい」が9割を超えている。

〈子どもの学年／子どもは赤ちゃんに興味や関心を示すか〉



(10) 健やかな子どものイメージ

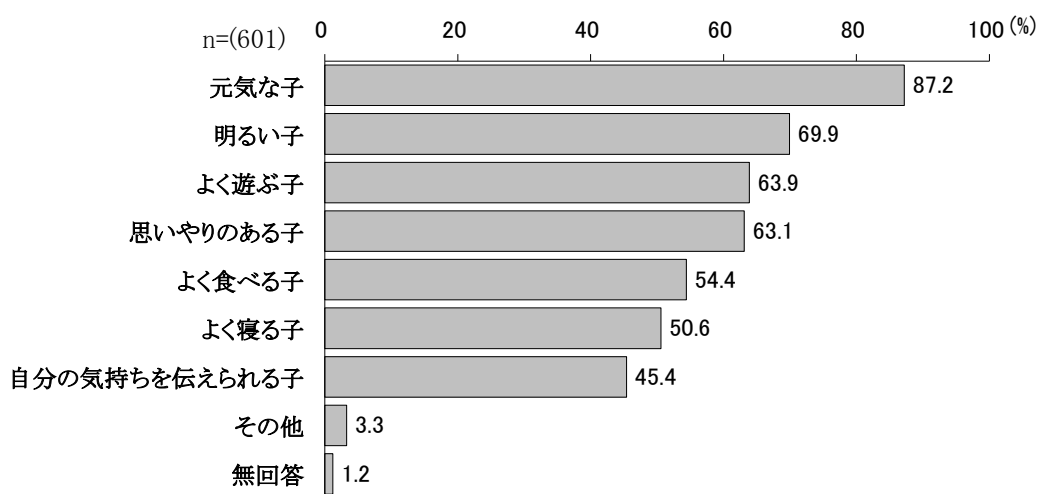
問27 あなたにとって、「健やかな子ども」とはどのようなイメージですか。

(〇はいくつでも)

健やかな子どものイメージとしては、「元気な子」が87.2%で最も高く、以下「明るい子」(69.9%)、「よく遊ぶ子」(63.9%)、「思いやりのある子」(63.1%)の順で続いている。

子どもの年齢別でみると、1歳、小学校2年生、小学4年生では「元気な子」が9割前後を占めている。3歳では「明るい子」が77.3%と、他の年齢より高くなっている。

〈 子どもの年齢（学年）／「健やかな子ども」のイメージ 〉



	元気な子	明るい子	よく遊ぶ子	自分の気持ちを伝えられる子	よく食べる子	よく寝る子	思いやりのある子	その他	無回答
全 体 (n=601)	87.2	69.9	63.9	45.4	54.4	50.6	63.1	3.3	1.2
1 歳 (n=91)	90.1	69.2	60.4	33.0	52.7	49.5	52.7	3.3	3.3
2 歳 (n=98)	84.7	62.2	65.3	44.9	60.2	50.0	62.2	4.1	3.1
3 歳 (n=88)	87.5	77.3	73.9	53.4	62.5	59.1	70.5	3.4	-
小学2年生 (n=136)	89.0	71.3	60.3	42.6	50.7	46.3	63.2	0.7	-
小学4年生 (n=119)	89.9	71.4	63.0	52.1	52.1	49.6	64.7	3.4	-
小学6年生 (n=66)	77.3	68.2	62.1	47.0	50.0	53.0	66.7	7.6	1.5

10. 生きがいづくり、まちづくり

(1) 人づきあい

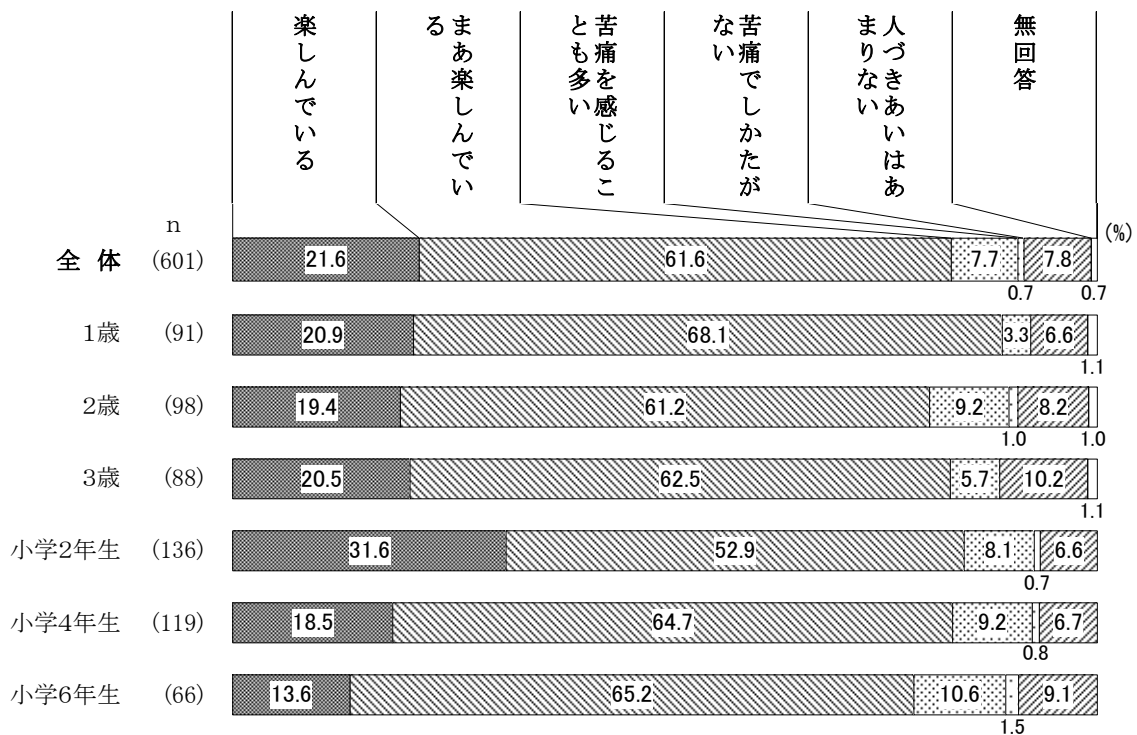
問28 あなた自身は、職場や家族、近所との人づきあいを楽しんでいますか。

(○は1つだけ)

職場や家族、近所との人づきあいについては、「まあ楽しんでいる」が61.6%で最も高く、次いで「楽しんでいる」(21.6%)となっている。

子どもの年齢別でみると、1歳では「楽しんでいる」と「まあ楽しんでいる」の合計は89.0%で、他の年代よりやや高くなっている。

〈 子どもの年齢（学年）／職場や家族・近所との人づきあい 〉



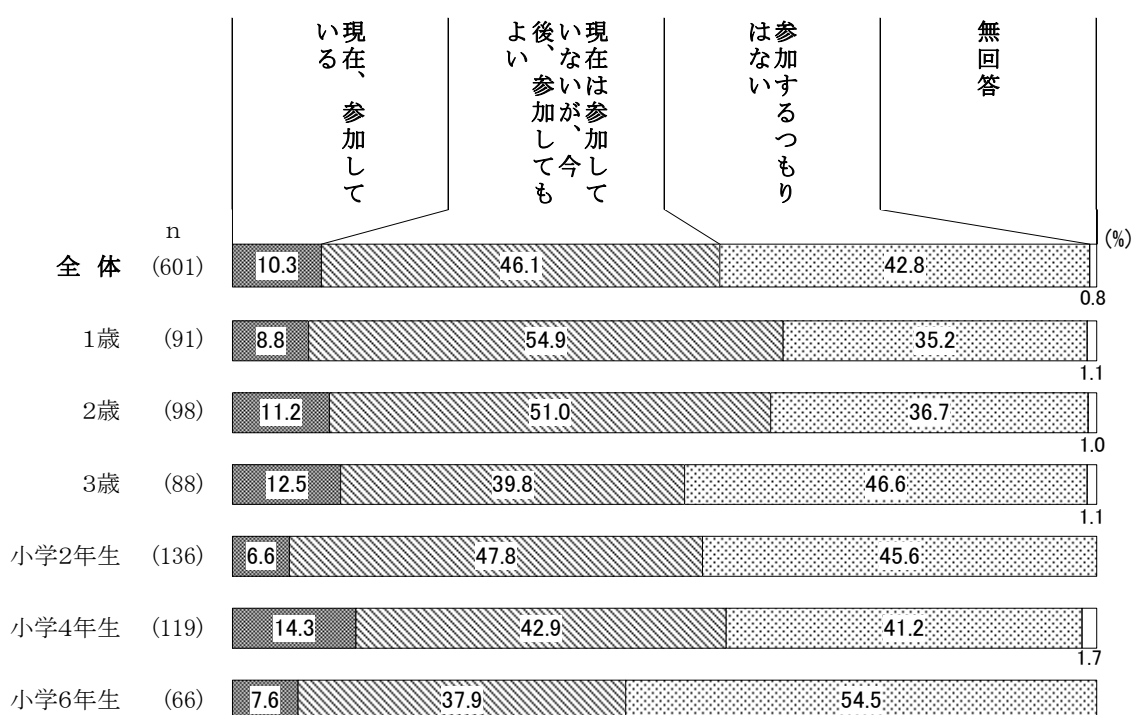
(2) 健康づくり・子育てに関する活動への参加状況・参加意向

問29 あなたは現在、健康づくりや子育てに関わる活動（市民が自主的に、あるいは市のサポートを受けて行っている、健康づくりに関する地域のグループ活動やサークル、ボランティア活動など）に参加していますか。また、今後どうしたいですか。（○は1つだけ）

健康づくりや子育てに関わる活動への参加状況・意向をみると、「現在、参加している」が10.3%、「現在は参加していないが、今後、参加してもよい」が46.1%となっている。一方、「参加するつもりはない」は42.8%となっている。

子どもの年齢別でみると、小学4年生では「現在、参加している」が他の年齢よりやや高くなっている。

〈子どもの年齢（学年）／健康づくりや子育てに関わる活動への参加〉



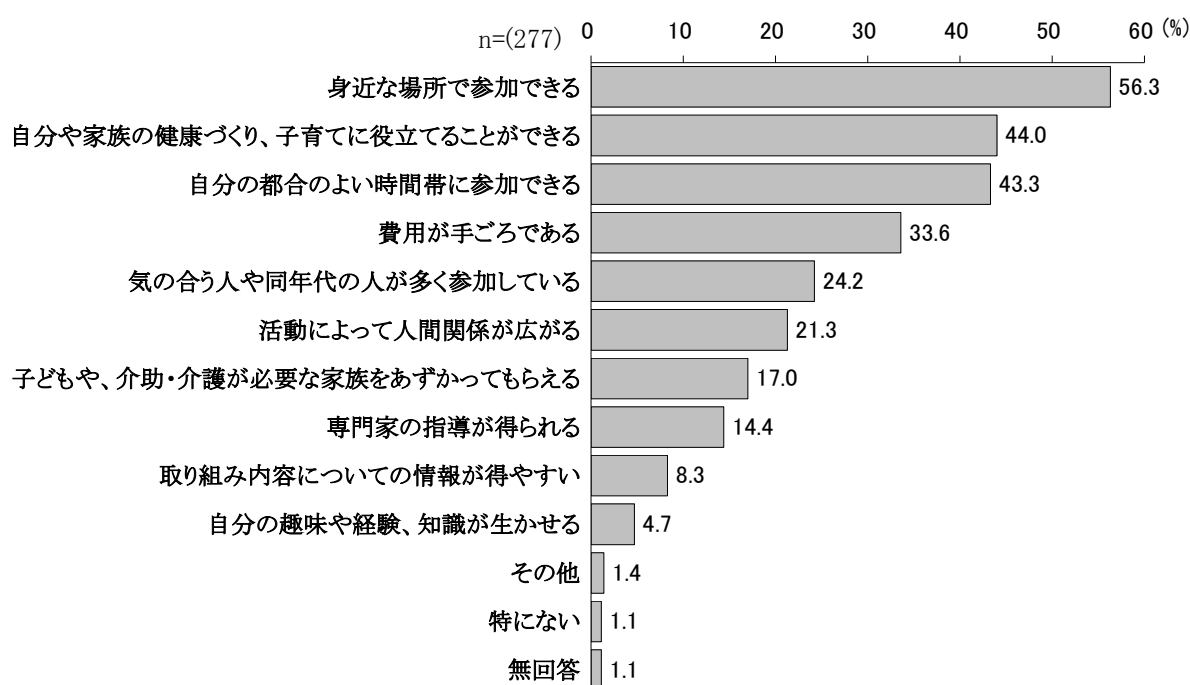
問29で「現在は参加していないが、今後、参加してもよい」と答えた人のみ

付問29-1 あなたがこういったグループ活動に参加するには、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

健康づくりや子育てに関わる活動への参加するために必要な条件としては、「身近な場所で参加できる」が56.3%で最も高く、以下「自分や家族の健康づくり、子育てに役立てることができる」(44.0%)、「自分の都合のよい時間帯に参加できる」(43.3%)、「費用が手ごろである」(33.6%)の順で続いている。

年齢別でみると、1歳、2歳では「自分や家族の健康づくり、子育てに役立てることができる」が5割を超え他の年代より高くなっている。また、小学2年生では「身近な場所で参加できる」が66.2%と高くなっている。

〈 子どもの年齢(学年)／健康づくりや子育てに関わる参加条件 〉



	自分や家族の健康づくり、子育てに役立てることができる	身近な場所で参加できる	費用が手ごろである	専門家の指導が得られる	自分の都合のよい時間帯に参加できる	活動によって人間関係が広がる	気の合う人や同年代の人が多く参加している	取り組み内容についての情報が得やすい	自分の趣味や経験、知識が生かせる	子どもや、介助・介護が必要な家族をあずかってもらえる	その他	特にない	無回答
全 体 (n=277)	44.0	56.3	33.6	14.4	43.3	21.3	24.2	8.3	4.7	17.0	1.4	1.1	1.1
1 歳 (n=50)	52.0	58.0	32.0	14.0	36.0	12.0	34.0	12.0	2.0	20.0	-	-	2.0
2 歳 (n=50)	58.0	62.0	26.0	18.0	36.0	16.0	28.0	12.0	-	18.0	-	-	-
3 歳 (n=35)	40.0	54.3	31.4	5.7	45.7	22.9	22.9	-	5.7	37.1	5.7	-	-
小学2年生 (n=65)	29.2	66.2	36.9	15.4	47.7	24.6	23.1	10.8	7.7	9.2	1.5	1.5	1.5
小学4年生 (n=51)	47.1	37.3	41.2	15.7	47.1	23.5	19.6	7.8	2.0	9.8	2.0	3.9	-
小学6年生 (n=25)	36.0	56.0	32.0	16.0	52.0	32.0	12.0	-	16.0	16.0	-	-	4.0

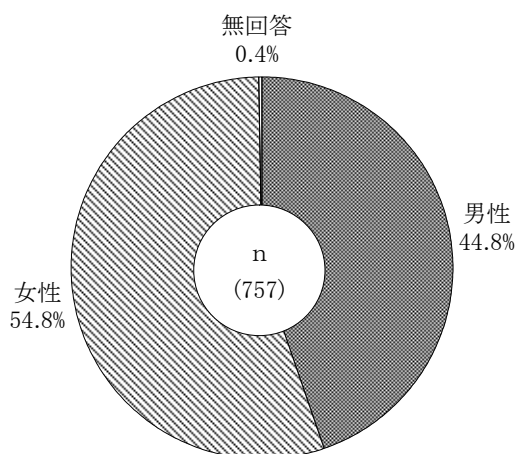
I V 中・高校生調査結果

1. 基本属性

(1) 性別

F 1 あなたの性別は。(○は1つだけ)

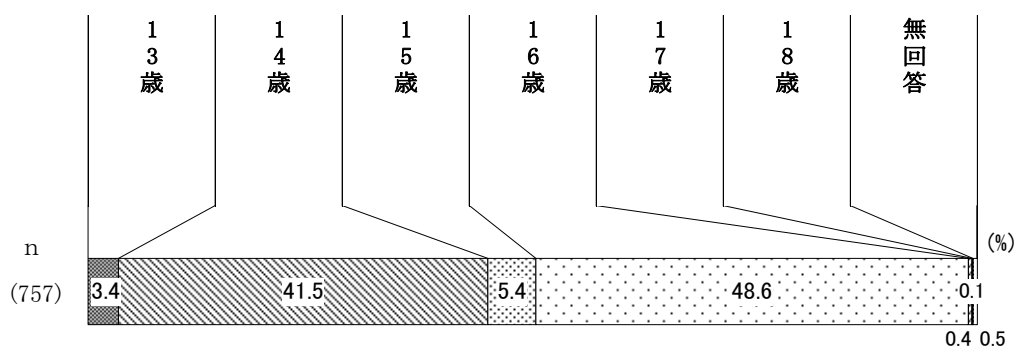
〈性別〉



(2) 年齢

F 2 あなたの年齢は。

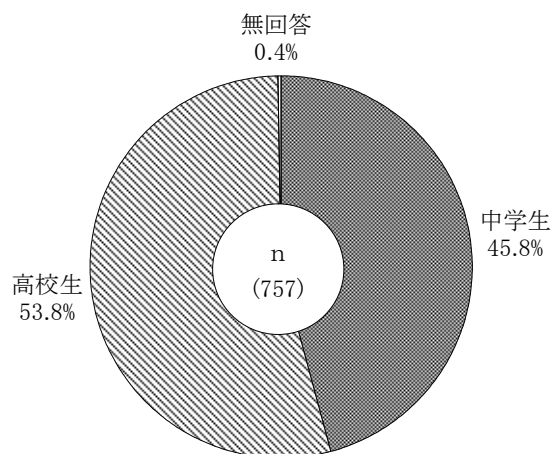
〈年齢〉



(3) 中学生・高校生

F 3 あなたの学年は。(○は1つだけ)

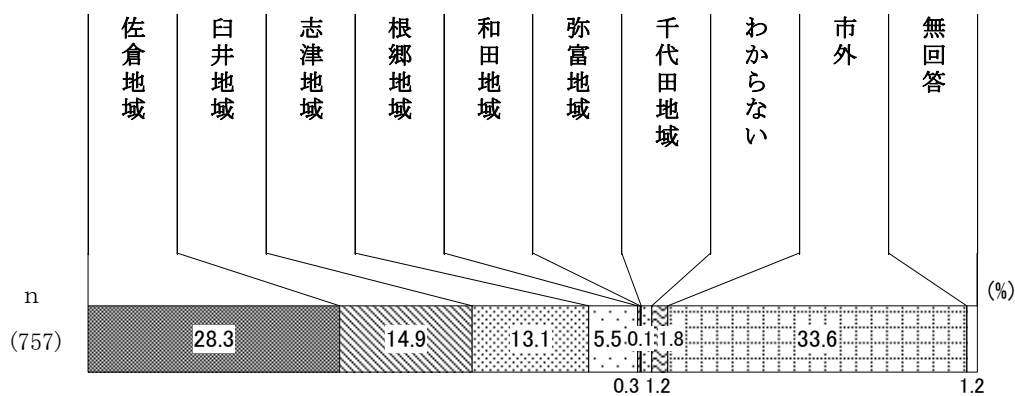
〈中学生・高校生〉



(4) 居住地域

F 4 お住まいの居住地域は。(○は1つだけ)

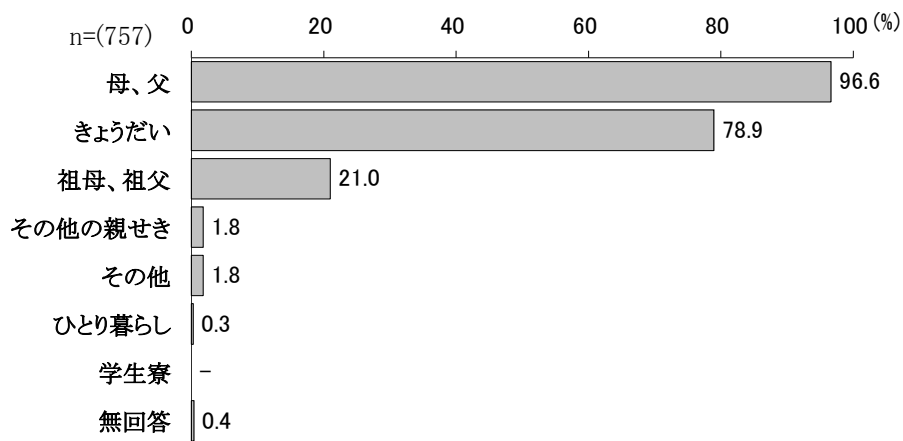
〈居住地域〉



(5) 同居者

F 5 あなたは現在、誰と暮らしていますか。(〇はいくつでも)

〈同居者〉

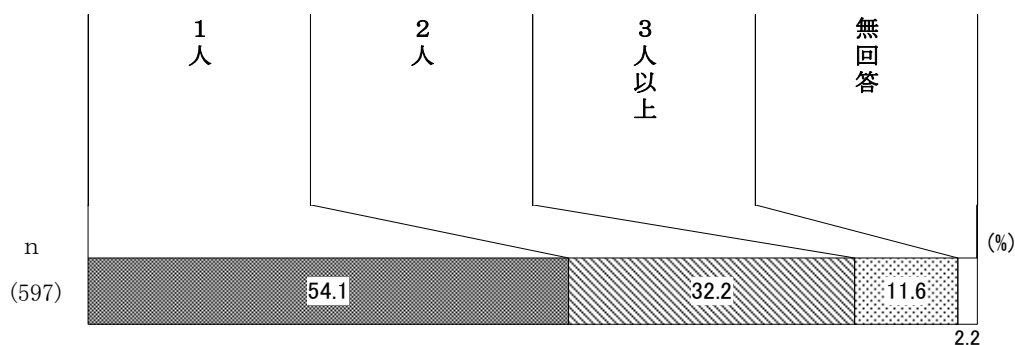


(6) 兄弟の人数

F 5 で「きょうだい」と回答した人のみ

F 5 - 1 あなたには、きょうだいが何人いますか (あなた自身を除く)。(〇は1つだけ)

〈きょうだいの人数〉



2. 健康についての考え方

(1) 主観的健康感・充実度

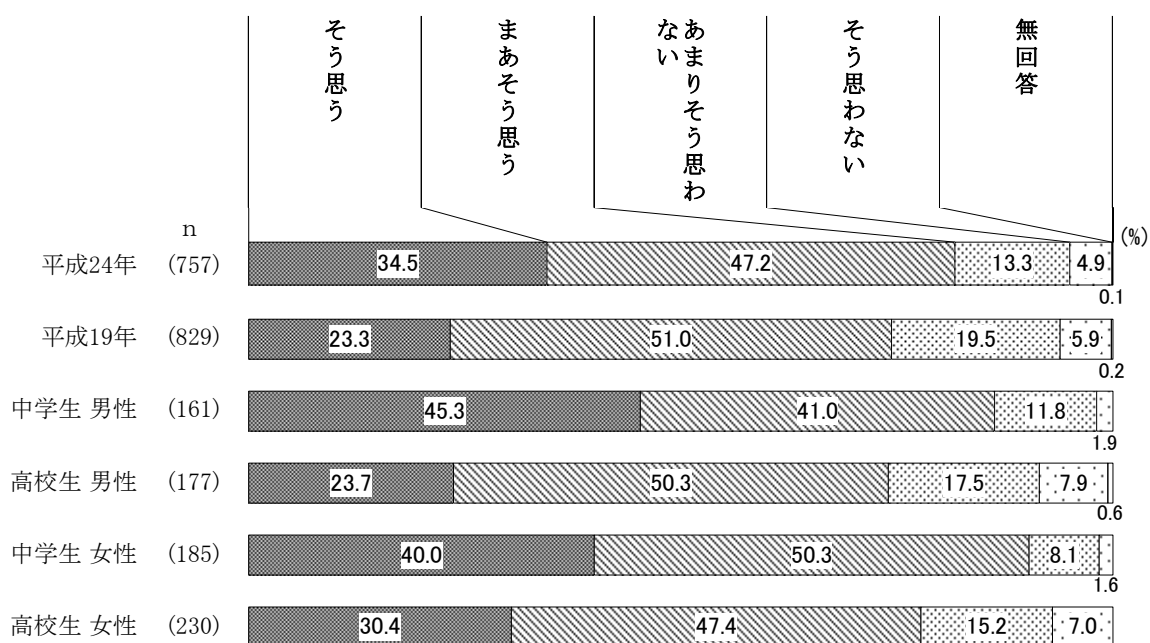
問1 あなたは、毎日を健やかに充実して暮らせていると思いますか。(○は1つだけ)

毎日を健やかに充実して暮らせているかについては、「そう思う」が34.5%で最も高く、これに「まあそう思う」(47.2%)を合わせた《思う》は81.7%となっている。一方、「あまりそう思わない」は13.3%、「そう思わない」は4.9%となっている。

平成19年の調査結果と比較すると、《思う》は今回81.7%と前回の74.3%より増加している。

中・高校生・性別でみると、中学生・女性では、《思う》が90.3%と最も高く、高校生・男性では74.0%と低くなっている。

〈 前回、中・高校生・性別／毎日を健やかに充実して暮らせているか 〉



(2) 自分の健康への関心

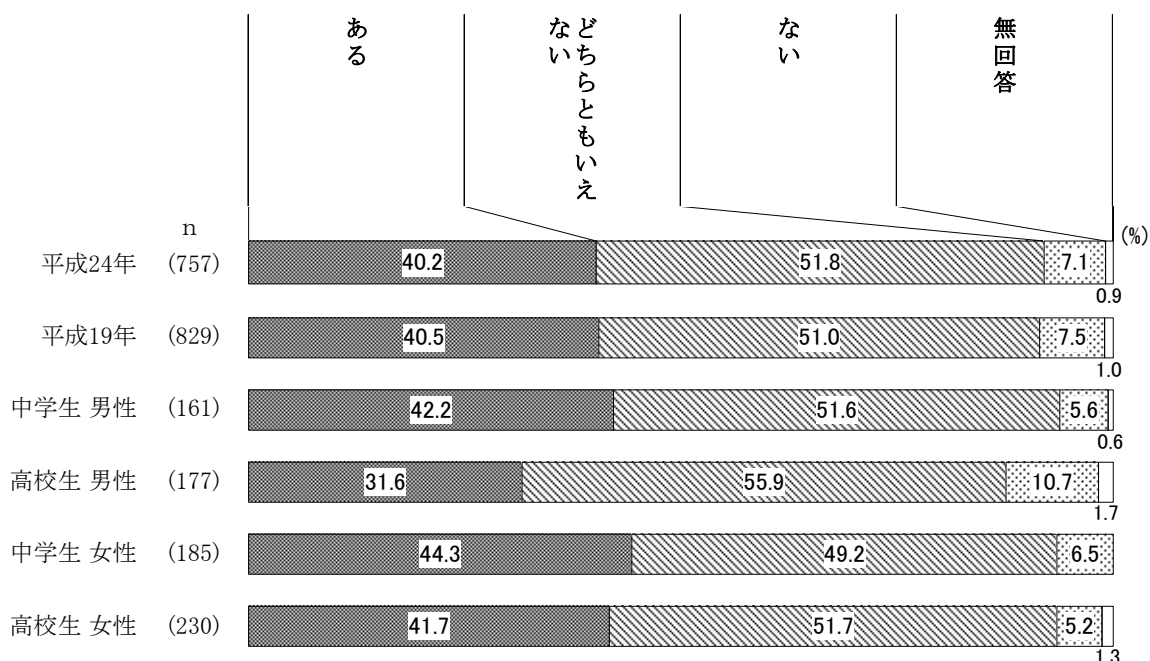
問2 自分の健康に関心がありますか。(○は1つだけ)

自分の健康への関心については、「どちらともいえない」が51.8%と最も高く、次いで「ある」(40.2%)となっている。一方、「ない」は7.1%となっている。

平成19年調査結果と比較すると、「ある」はほぼ横ばい状態にある。

中・高校生・性別でみると、高校生・男性の「ある」の割合が低くなっている。

〈 前回、中・高校生・性別／自分の健康に関心があるか 〉



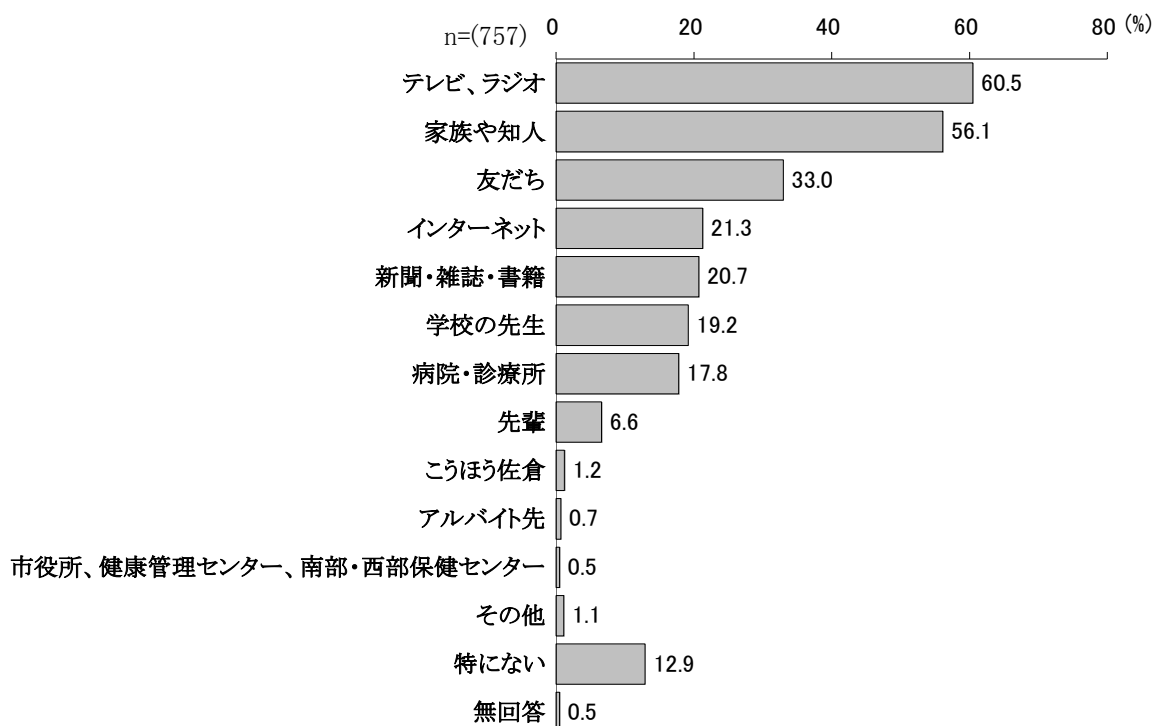
(3) 健康に関する情報源や相談先

問3 ふだん、どこ（だれ）に、健康に関する情報を聞いたり、相談をしたりしていますか。
(〇はいくつでも)

健康についての情報源や相談先については、「テレビ、ラジオ」が60.5%で最も高く、以下「家族や知人」(56.1%)、「友だち」(33.0%)の順で続いている。

中・高校生・性別でみると、高校生・男性を除くと、「テレビ、ラジオ」が6割を超えている。また、中学生・女性では「家族や知人」が81.6%と、他の層より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／健康に関する情報源・相談先 〉



	テレビ、ラジオ	新聞・雑誌・書籍	こうほう佐倉	市役所、健康管理センター、南部・西部保健センター	アルバイト先	学校の先生	家族や知人	友だち	先輩	病院・診療所	インターネット	その他	特にない	無回答
全 体 (n=757)	60.5	20.7	1.2	0.5	0.7	19.2	56.1	33.0	6.6	17.8	21.3	1.1	12.9	0.5
男性 中学生 (n=161)	61.5	20.5	1.9	1.9	1.2	26.1	47.8	25.5	6.2	23.6	21.1	1.2	17.4	0.6
高校生 (n=177)	53.7	11.3	0.6	-	-	16.9	35.0	20.9	7.9	14.1	18.6	-	20.3	0.6
女性 中学生 (n=185)	65.9	27.6	1.1	-	-	28.1	81.6	40.5	5.9	20.0	18.9	1.1	4.9	0.5
高校生 (n=230)	60.4	22.6	1.3	0.4	1.3	8.7	57.0	41.3	5.7	14.8	24.8	1.7	10.9	0.4

3. 栄養・食生活

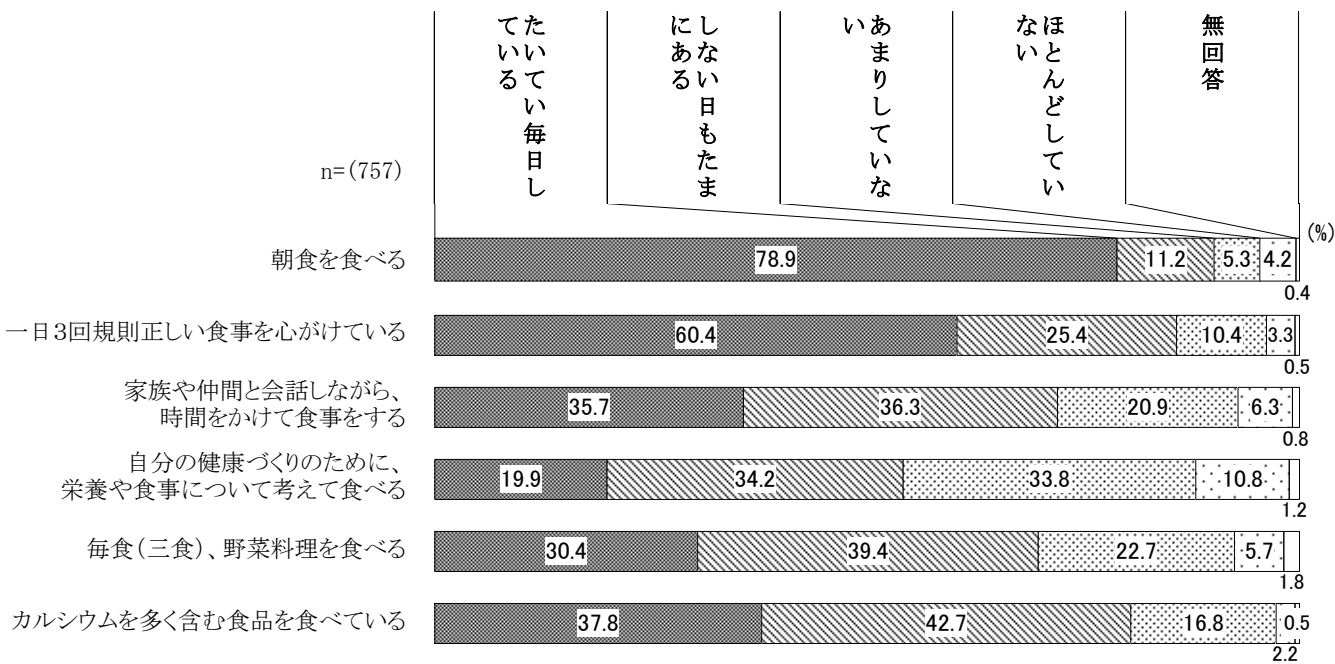
(1) 食生活

問4 あなたはふだん、次のそれぞれのことをどのくらいしていますか。
(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

食生活に関してふだんのところがけとして、各項目について質問した。

「たいてい毎日している」の高い順にみると、〈朝食を食べる〉が78.9%で最も高く、以下〈1日3回規則正しい食事を心がけている〉(60.4%)、〈カルシウムを多く含む食品を食べている〉(37.8%)、〈家族や仲間と会話しながら、時間をかけて食事をする〉(35.7%)の順で続いている。

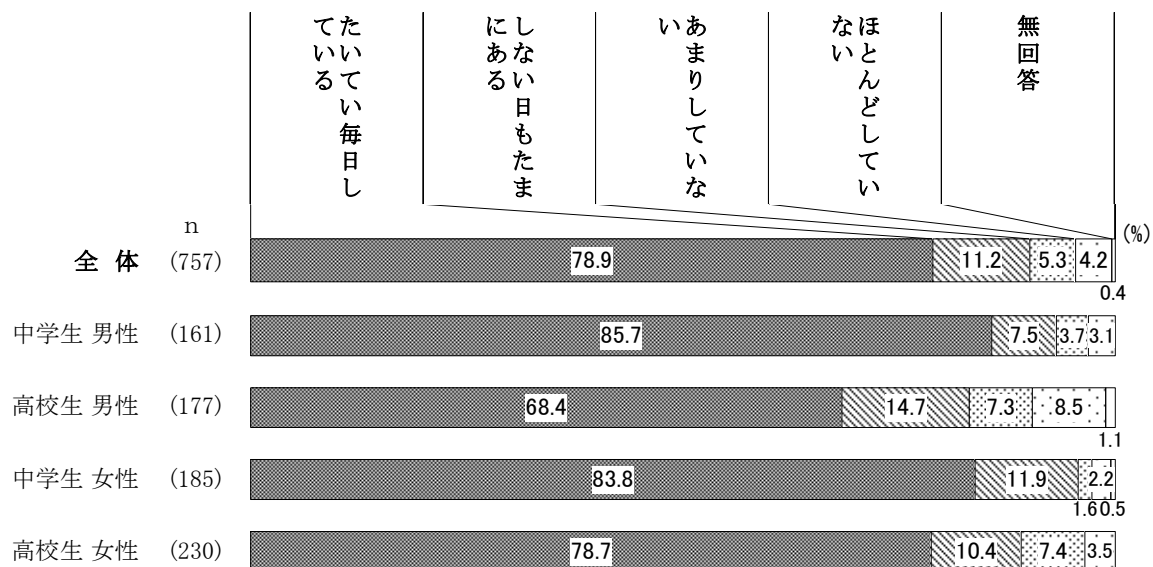
〈食生活に関するふだんのところがけ〉



朝食を食べる

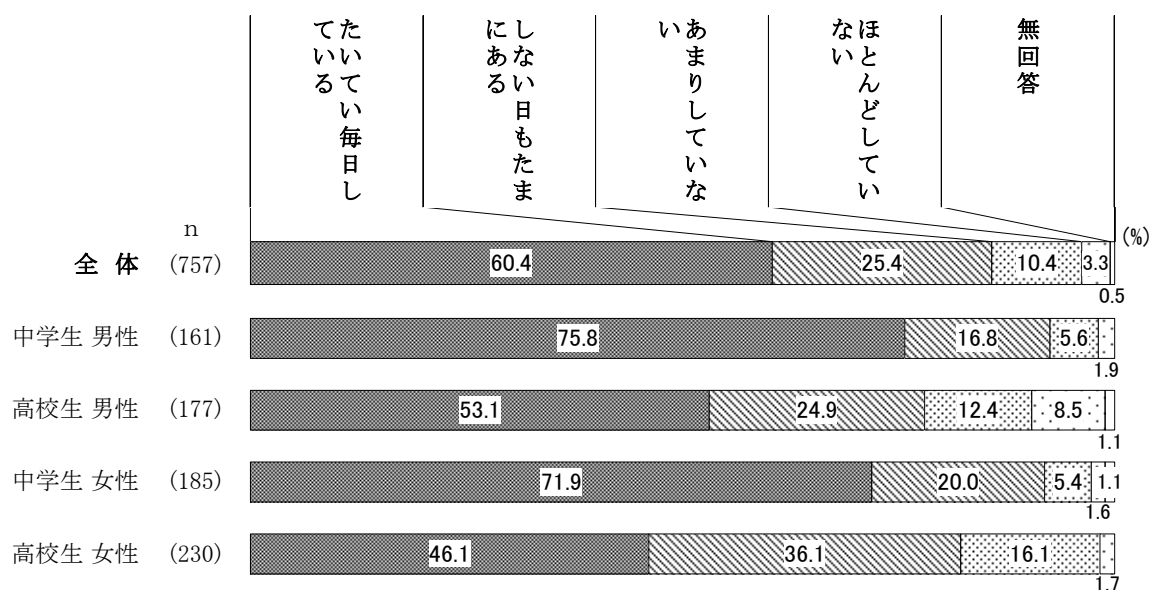
中・高校生・性別でみると、中学生・男性、中学生・女性では「たいてい毎日している」が8割を超えて高くなっている。

〈 中・高校生・性別／朝食を食べる 〉

一日3回規則正しい食事を心がけている

中・高校生・性別でみると、中学生・男性、中学生・女性では「たいてい毎日している」が7割を超え、高校生より高くなっている。

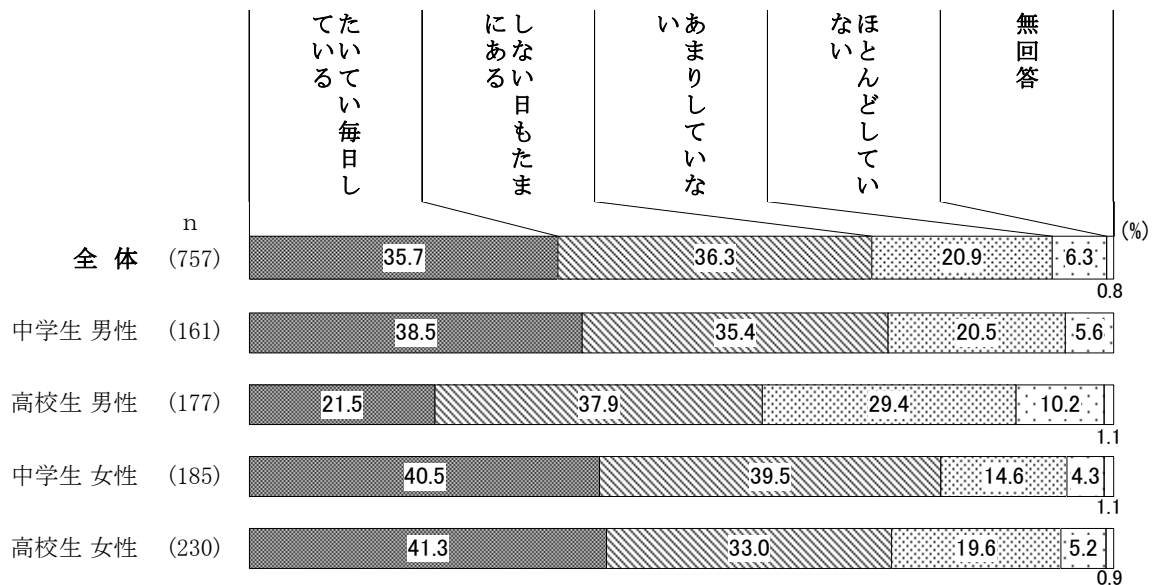
〈 中・高校生・性別／一日3回規則正しい食事を心がけている 〉



家族や仲間と会話をしながら、時間をかけて食事をする

中・高校生・性別でみると、高校生・男性を除くと、「たいてい毎日している」が4割前後を占めている。

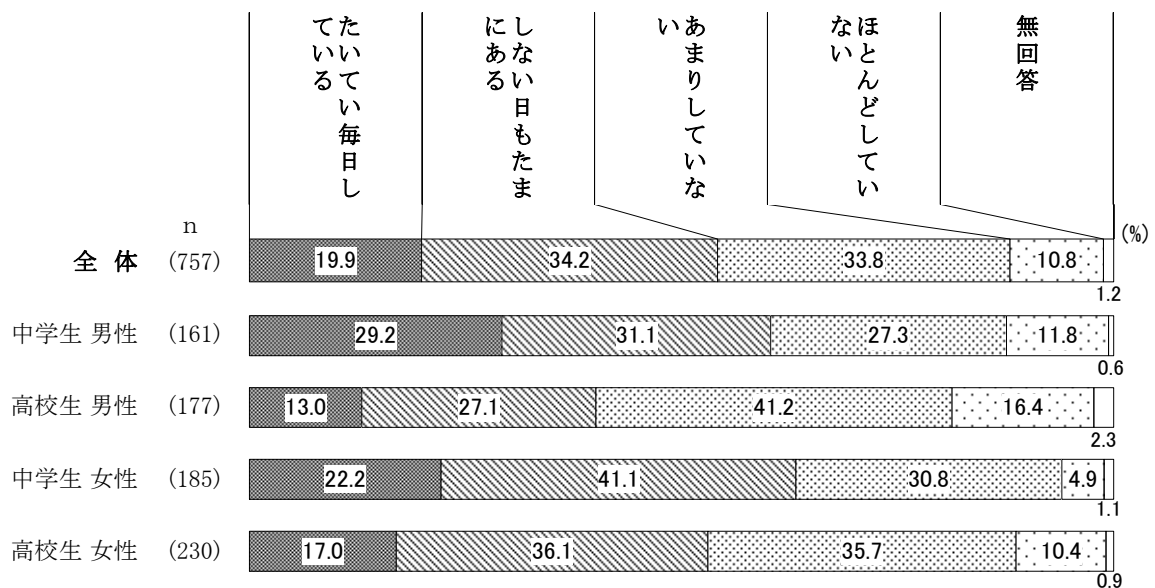
〈 中・高校生・性別／家族や仲間と会話をしながら、時間をかけて食事をする 〉



自分の健康づくりのために、栄養や食事について考えて食べる

中・高校生・性別でみると、中学生・男性では「たいてい毎日している」が29.2%と高くなっている。一方、高校生・男性では「あまりしていない」が41.2%と高くなっている。

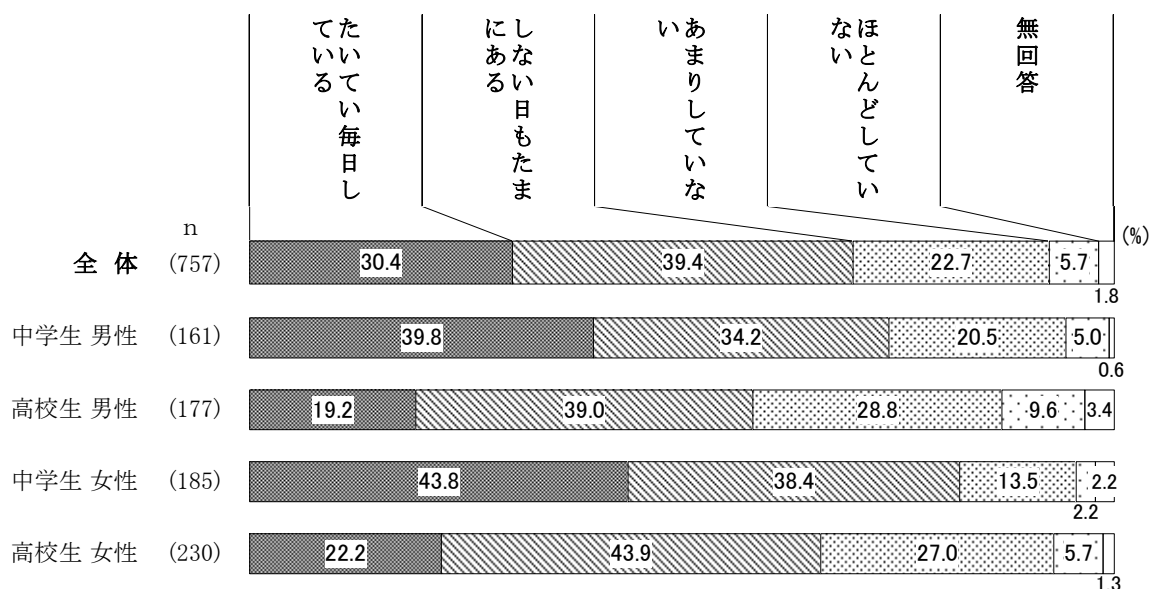
〈 中・高校生・性別／自分の健康づくりのために、栄養や食事について考えて食べる 〉



毎食（三食）、野菜料理を食べる

中・高校生別でみると、中学生・男性、中学生・女性では「たいてい毎日している」が4割前後を占めている。

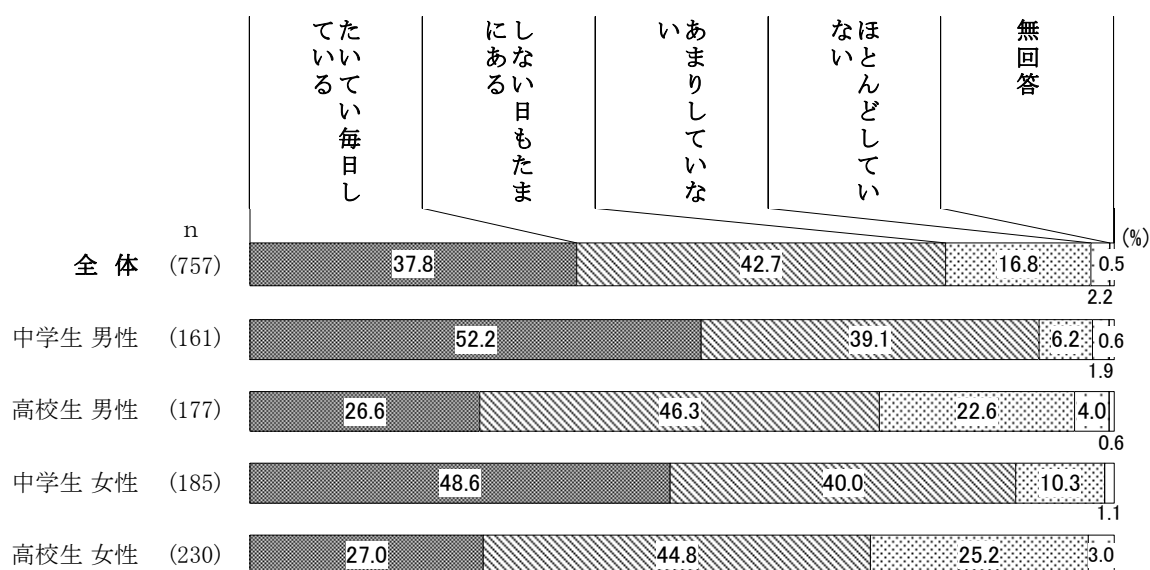
〈 中・高校生・性別／毎食（三食）、野菜料理を食べる 〉

**カルシウムを多く含む食品（乳製品・豆類・緑黄色野菜など）を食べている**

中・高校生・性別でみると、中学生・男性、中学生・女性では「たいてい毎日している」が5割前後と高校生より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／

カルシウムを多く含む食品（乳製品・豆類・緑黄色野菜など）を食べている 〉



(2) 自分の体型についての認識

問5 自分の体型についてどう思いますか。(○は1つだけ)

自分の体型については、「ふつう」が56.3%と最も高く、次いで「ふとりぎみ」(32.6%)となっている。

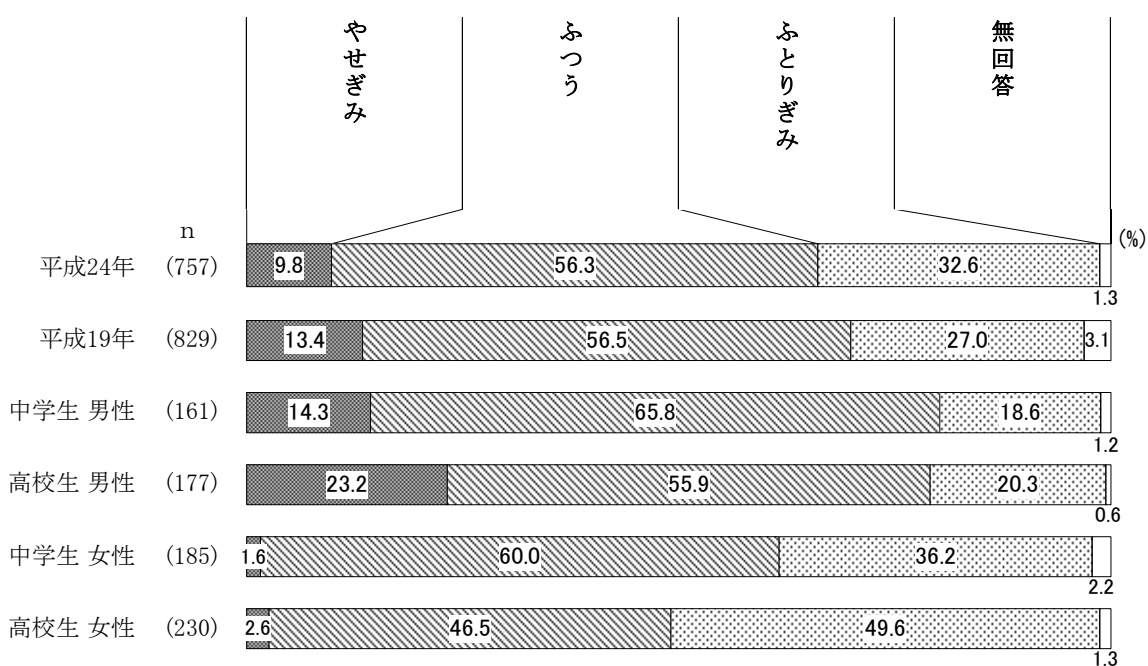
平成19年の調査結果と比較すると、「ふとりぎみ」が、今回32.6%と前回の27.0%より増加している。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性、中学生・女性では「ふつう」が6割を超えて、高校生より高くなっている。一方、高校生・女性では「ふとりぎみ」が49.6%と高くなっている。

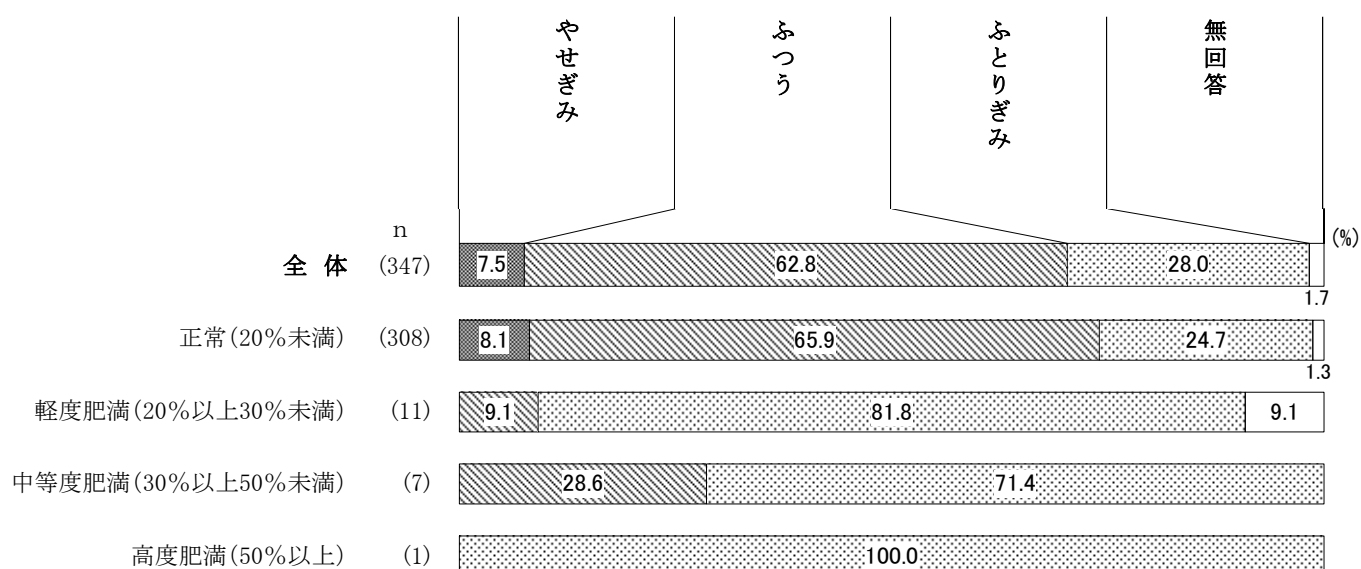
肥満度別(中学生)でみると、〈正常〉という生徒でも24.7%が「ふとりぎみ」と回答している。

BMI別(高校生)でみると、〈普通体重〉という生徒でも36.6%が「ふとりぎみ」と回答している。

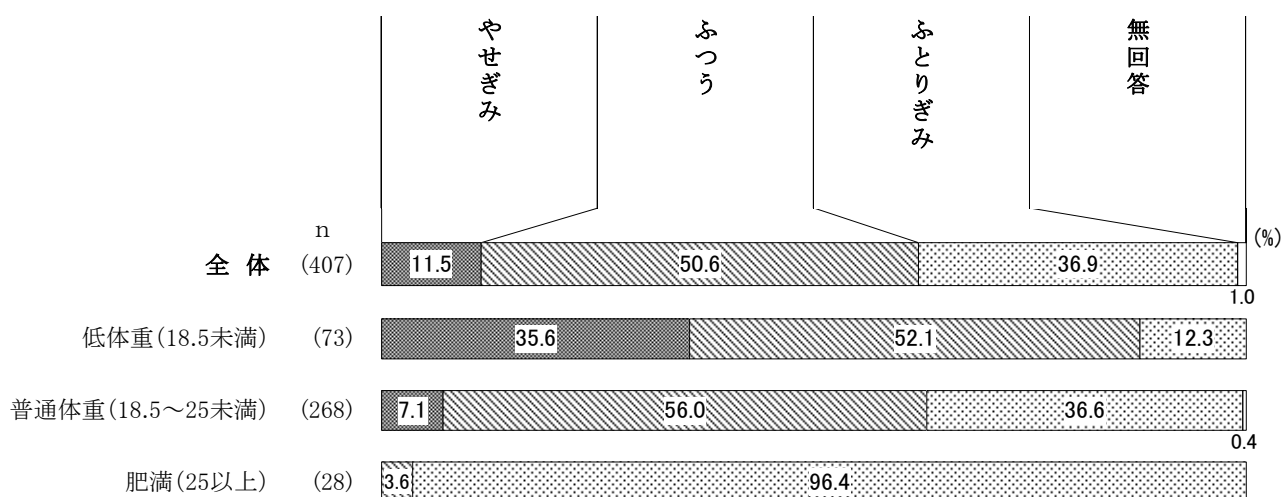
〈 前回、中・高校生・性別／自分の体型についての認識 〉



〈 肥満度(中学生)／自分の体型についての認識 〉



〈 BMI（高校生）／自分の体型についての認識 〉



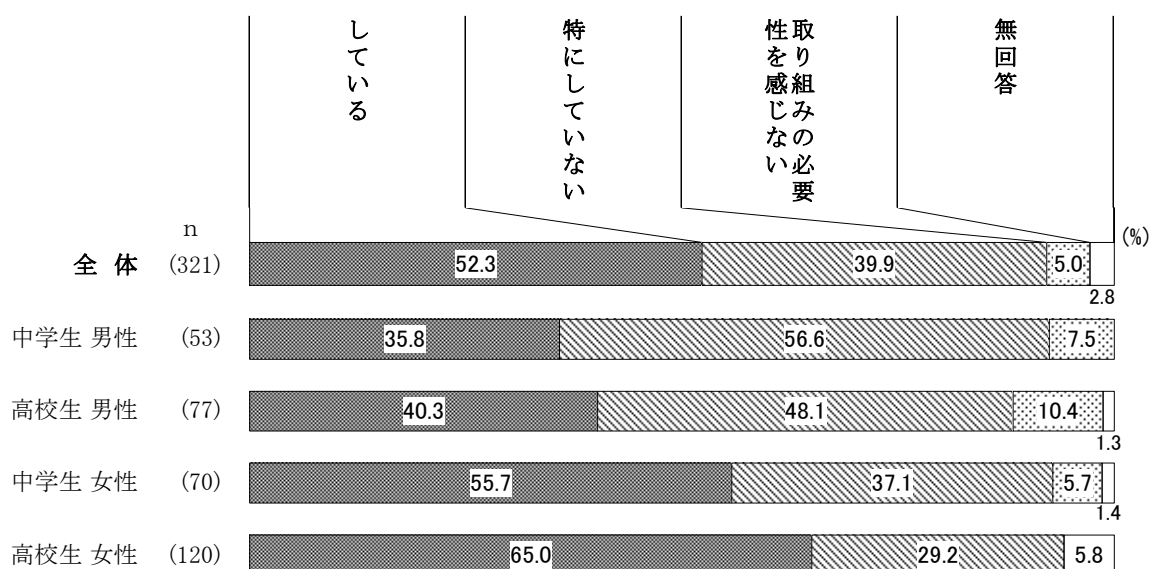
問5で「やせぎみ」「ふとりぎみ」と回答した人のみ

付問5－1 現在、体型を改善するための取り組みをしていますか。（○は1つだけ）

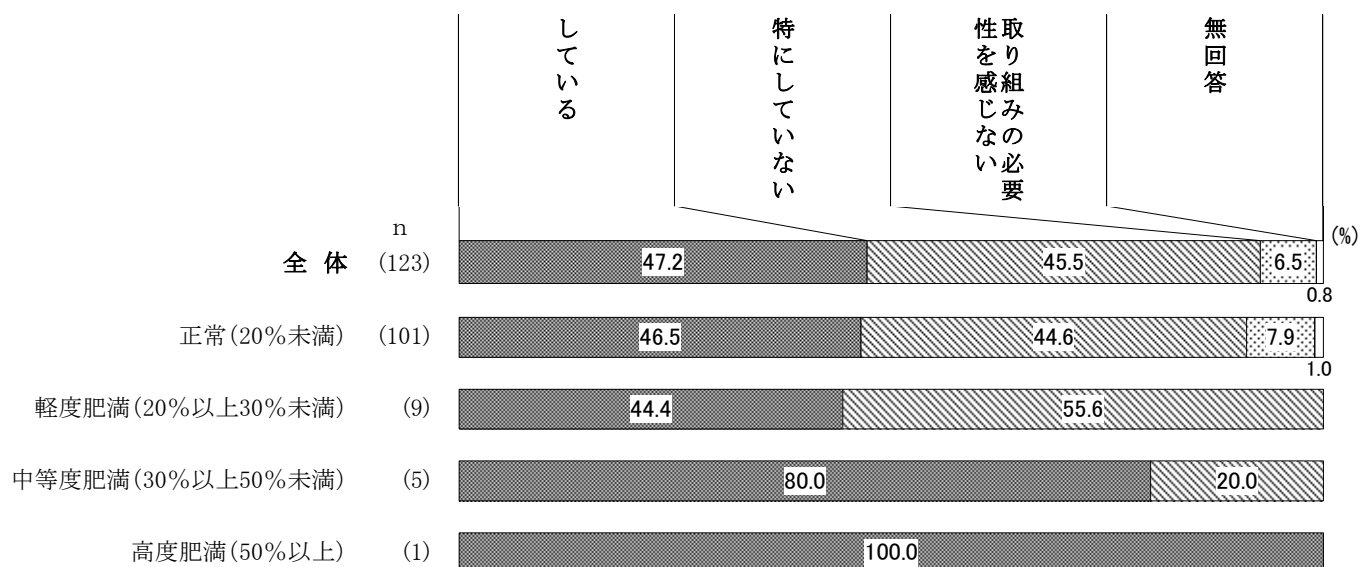
「やせぎみ」「ふとりぎみ」と回答した生徒に対して、体型改善のための取り組みについて聞いたところ、「している」が52.3%を占めている。一方、「特にしていない」は39.9%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学・高校とも、男性より女性で「している」が高く、特に、高校生・女性では65.0%となっている。

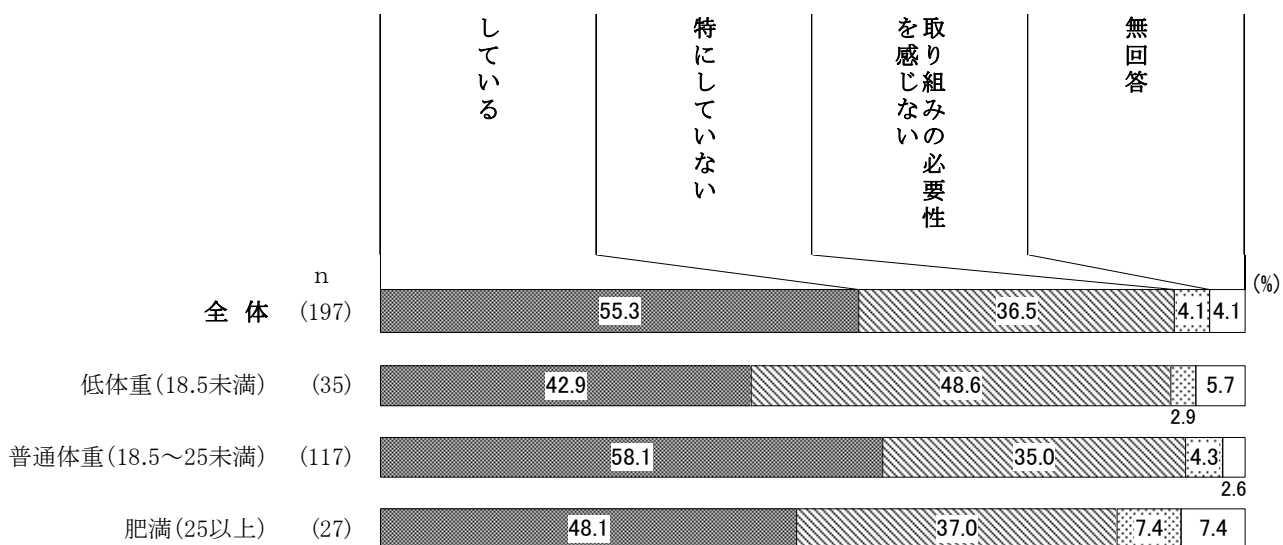
〈 中・高校生・性別／体型改善のための取り組み 〉



〈 肥満度（中学生）／体型改善のための取り組み 〉



〈 BMI（高校生）／体型改善のための取り組み 〉



(3) 肥満度・BMI

問6 あなたのおよその身長、体重を整数で教えてください。

(小数点以下は四捨五入してください)

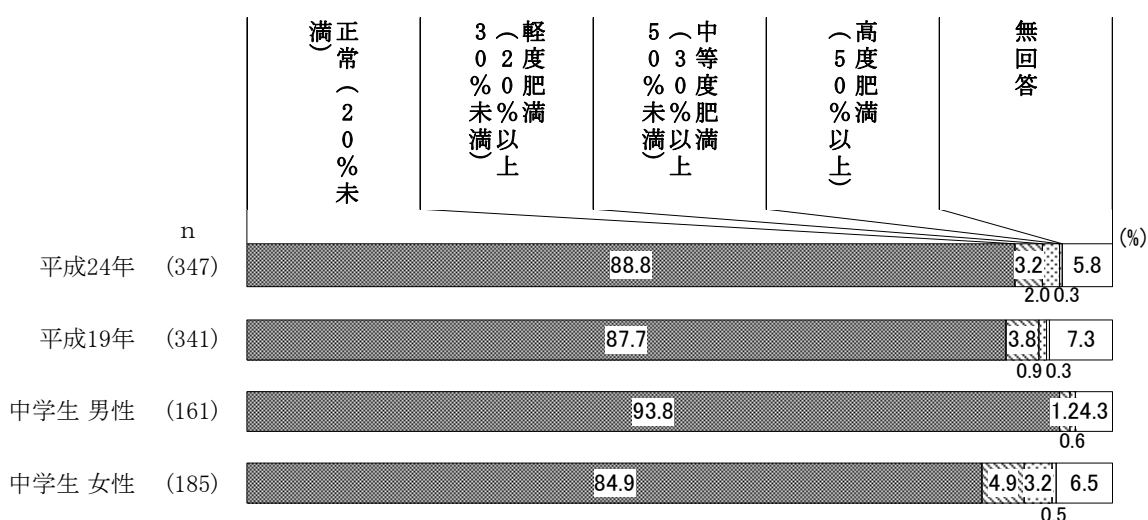
身長と体重から、中学生については肥満度、高校生についてはBMI値を算出した。

中学生では、「正常」が88.8%を占めている。一方、「軽度肥満」は3.2%、「高度肥満」は0.3%となっている。

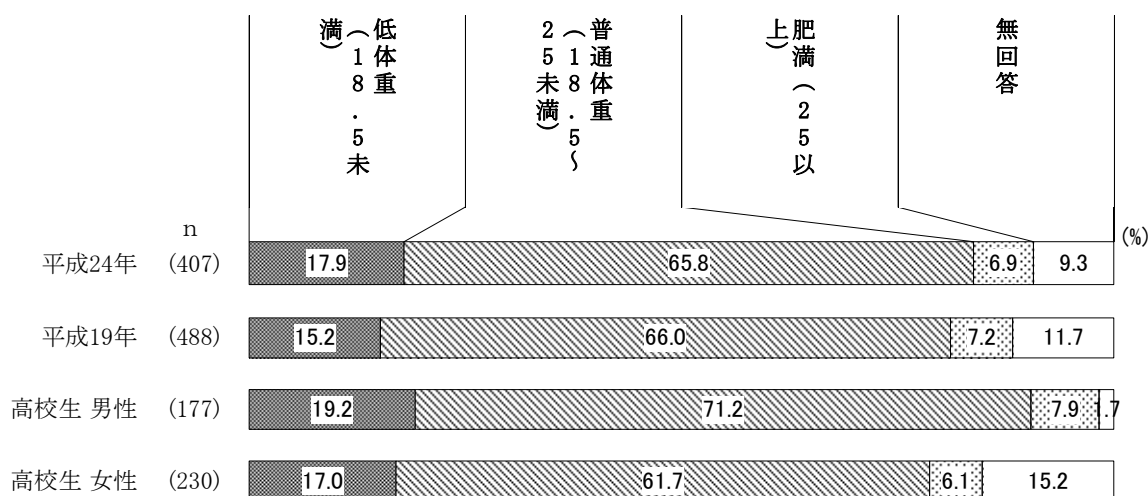
高校生では、「普通体重」が65.8%で最も高く、次いで「低体重」(17.9%)となっている。

平成19年の調査結果と比較すると、中学生の「正常」、高校生の「普通体重」には大きな変化はみられない。

〈 前回、性別／肥満度（中学生） 〉



〈 前回、性別／BMI（高校生） 〉



4. 身体活動・運動

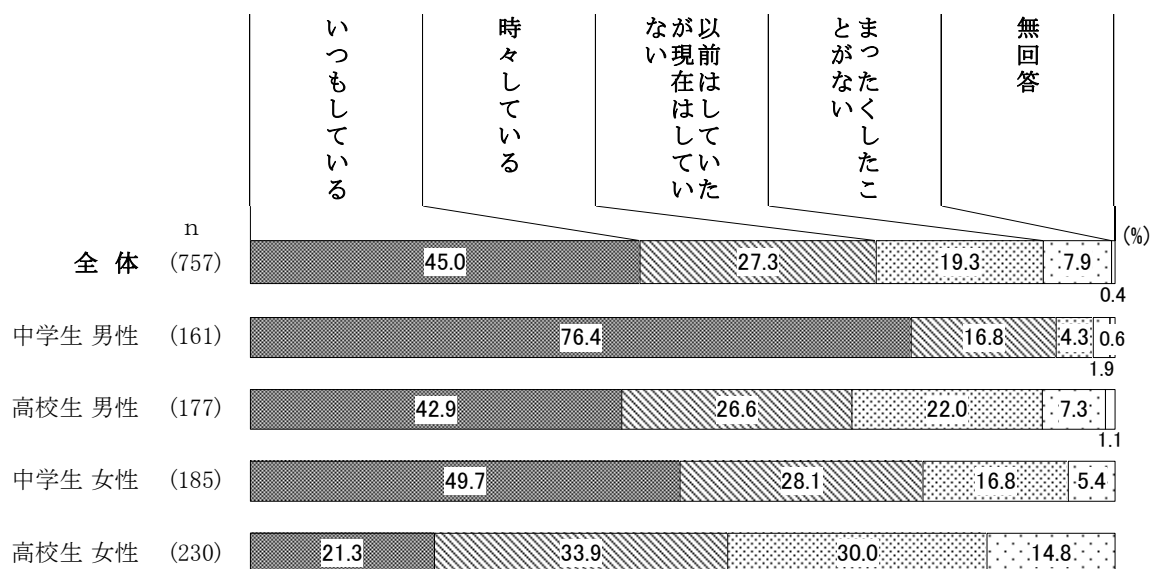
(1) 日頃の運動

問7 日頃から、学校の授業以外で、健康の維持・増進のため、意識的に身体を動かすなどの運動（部活動等を含む）をしていますか。（○は1つだけ）

授業以外の運動については、「いつもしている」が45.0%で、これに「時々している」(27.3%)を合わせた《している》は72.3%となっている。また、「以前はしていたが現在はしていない」は19.3%となっている。

中・高校生別・性別でみると、中学性・男性では「いつもしている」が76.4%と、他の層より高くなっている。一方、高校生・女性では「以前はしていたが現在はしていない」「まったくしたことがない」が高くなっている。

〈 中・高校生・性別／授業以外での身体活動・運動の有無 〉



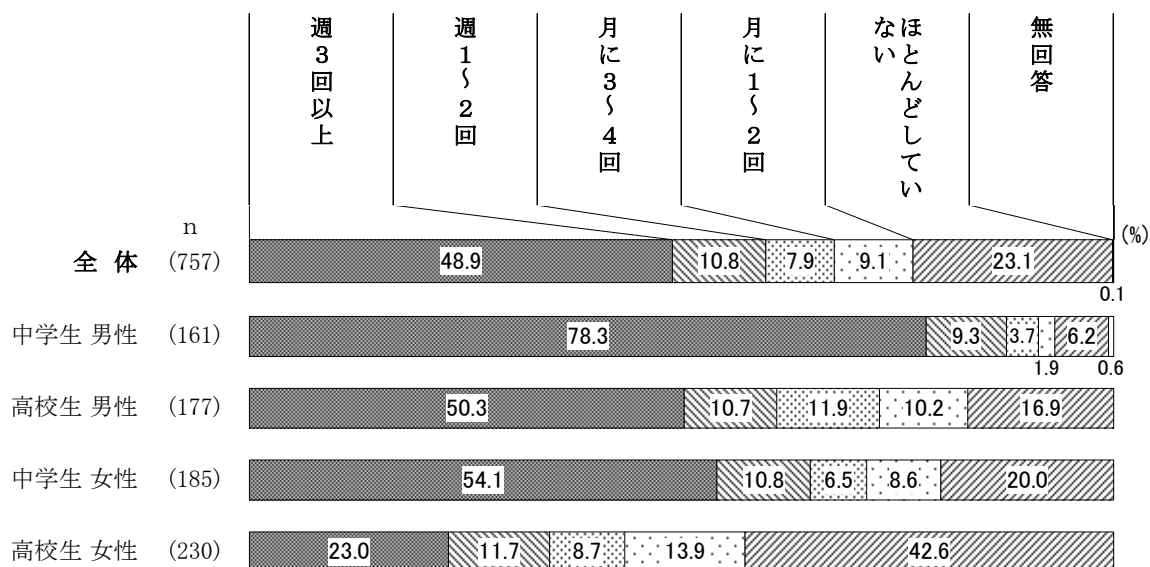
(2) 「息が少しはずむ程度」の運動

問8 学校の授業以外で、「息が少しはずむ程度」の30分以上の運動（部活動等を含む）をどのくらいしていますか。（○は1つだけ）

学校の授業以外での「息が少しはずむ程度の運動」については、《している》の層の中では、「週3回以上」が48.9%で最も高く、次いで「週1～2回」（10.8%）となっている。一方、「ほとんどしていない」は23.1%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性では「週3回以上」が78.3%と、他の層より高くなっている。一方、高校生・女性では「ほとんどしていない」が42.6%と高くなっている。

〈 中・高校生・性別／息が少しはずむ程度の運動の量 〉



5. 休養・こころの健康づくり

(1) ストレスの状況

問9 あなたは、この1か月間に、不安、悩み、苦労、ストレスなどがありましたか。

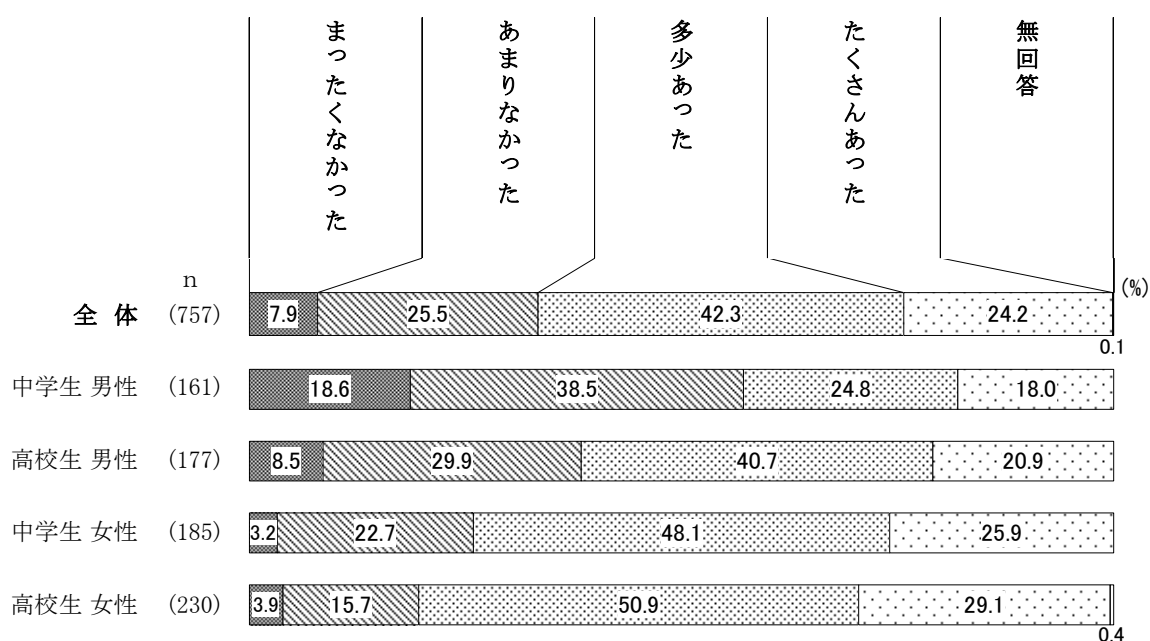
(○は1つだけ)

過去1ヶ月間の不安・悩み・苦労・ストレスなどの有無については、「たくさんあった」が24.2%で、これに「多少あった」(42.3%)を合わせた《不安あり》は66.5%となっている。

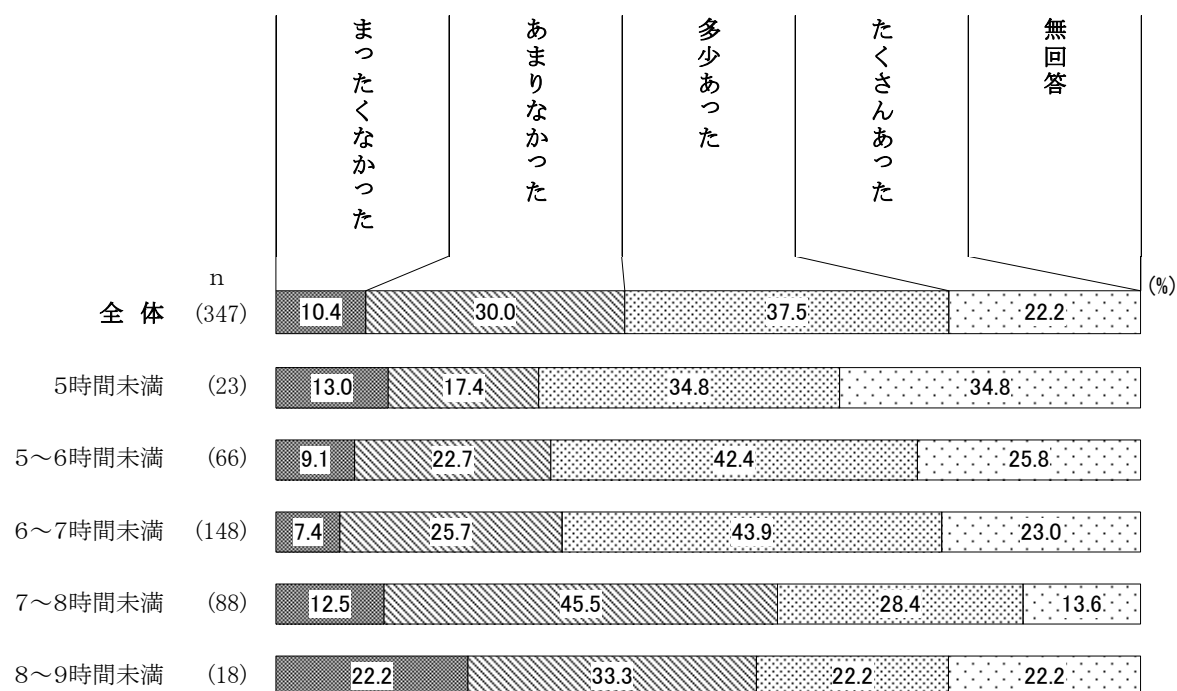
中・高校生・性別でみると、中学生・女性、高校生・女性では「多少あった」がいずれも5割前後となっており、男性より高くなっている。一方、中学生・男性では「まったくなかった」が18.6%と、他の層に比べ高くなっている。

また、睡眠時間とストレスの関係をみると、睡眠時間が長い層ほど、「まったくなかった」「あまりなかった」が高くなる傾向にある。

〈中・高校生・性別／過去1ヶ月間の不安・悩み・苦労・ストレスの有無〉



〈 睡眠時間（中学生）／過去1ヶ月間の不安・悩み・苦勞・ストレスの有無 〉



問9で「多少あった」「たくさんあった」と回答した人のみ

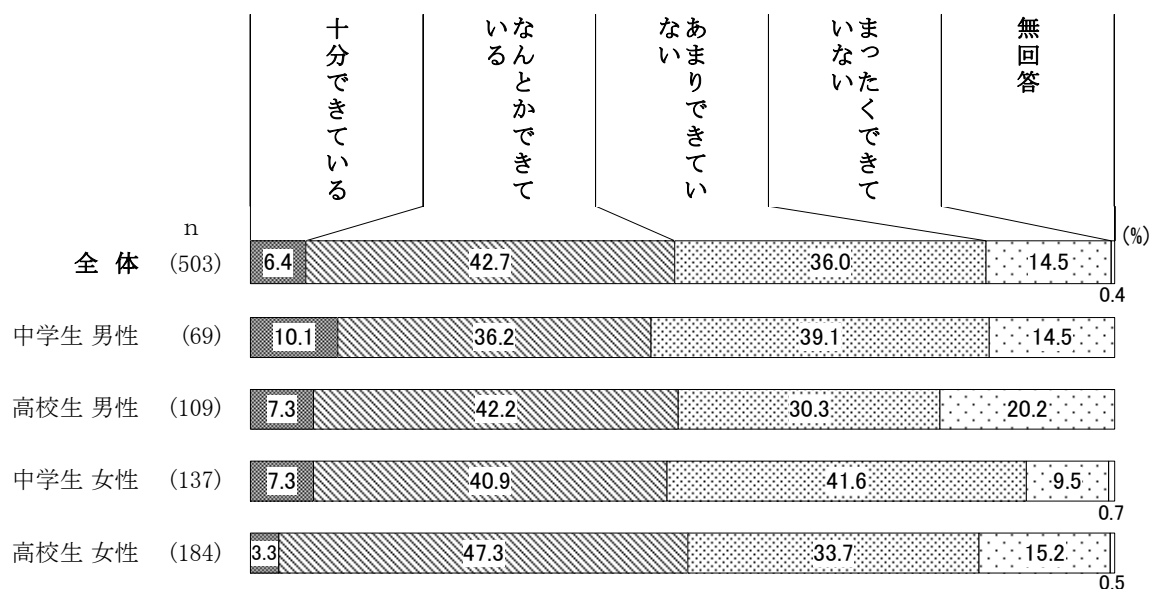
付問9－1 この1か月間を振り返り、不安、悩み、苦労、ストレスなどを解消できていると思いますか。(○は1つだけ)

過去1ヶ月間の不安、悩み、苦労、ストレスなどの解消については、「十分できている」が6.4%で、これに「なんとかできている」(42.7%)を合わせた《できている》は49.1%となっている。一方、「あまりできていない」は36.0%、「まったくできていない」は14.5%となっている。

中・高校生・性別でみると、高校生・女性では「なんとかできている」が47.3%と、他の層に比べて高くなっている。

一方、中学生・男性、中学生・女性では「あまりできていない」が4割前後を占め、高校生に比べて高くなっている。

〈 中・高校生・性別／不安・悩み・苦労・ストレスなどの解消 〉



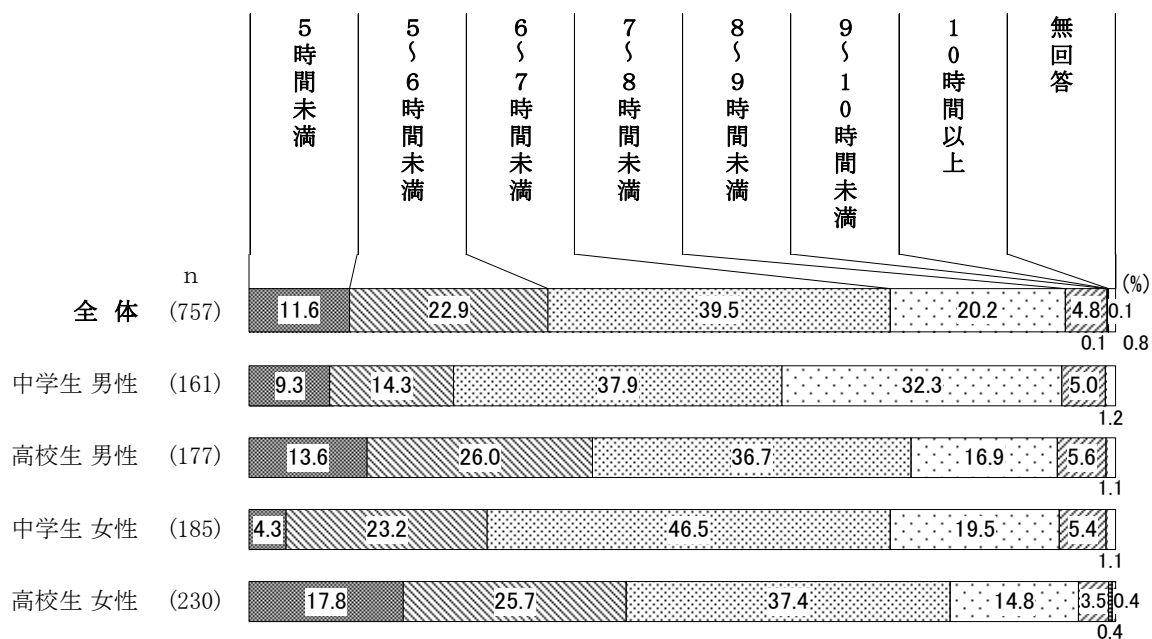
(2) 睡眠時間

問10 あなたの就寝時間と起床時間を24時間表記（例：夜11時なら23時）でお答えください。

睡眠時間の平均は、「6.8時間」となっている。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性が7.1時間で最も長く、高校生・女性が6.5時間で最も短くなっている。

〈 中・高校生・性別／睡眠時間 〉



(3) 学校に楽しく通っているか

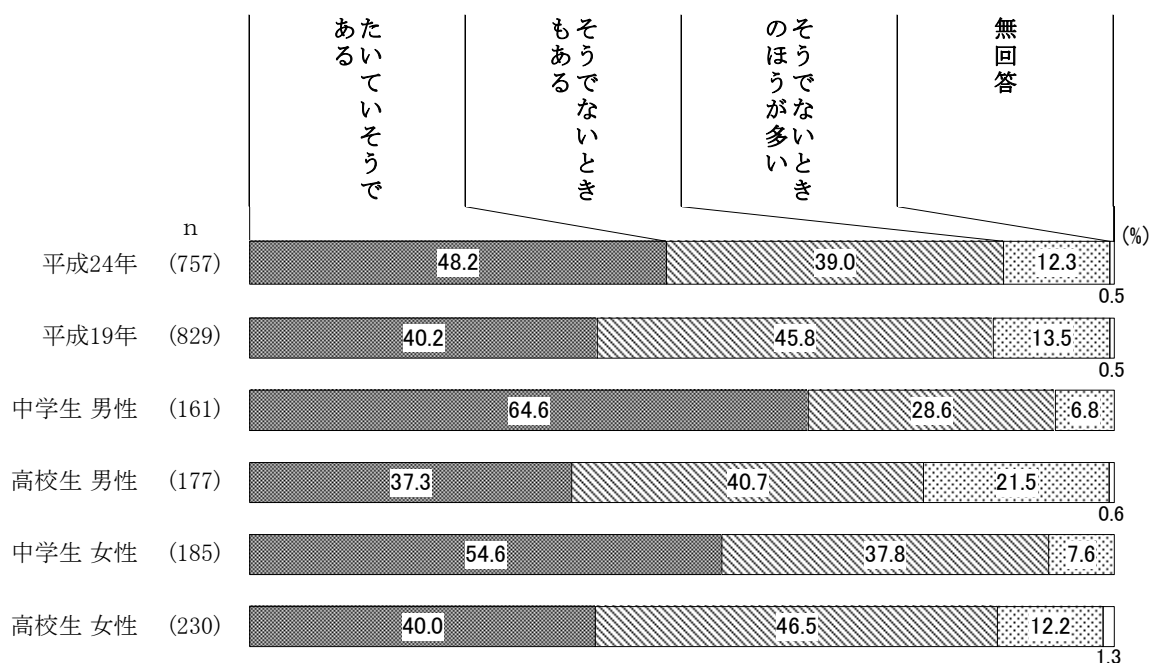
問11 あなたは学校に楽しく通っていますか。(○は1つだけ)

学校に楽しく通っているかについては、「たいていそうである」が48.2%で最も高く、次いで「そうでないときもある」が39.0%となっている。

平成19年調査の結果と比較すると、「たいていそうである」が、今回48.2%と前回の40.2%より増加している。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性では「たいていそうである」が64.6%と、他の層より高くなっている。一方、高校生・男性では、「そうでないときのほうが多い」が21.5%と高くなっている。

〈 前回、中・高校生・性別／学校に楽しく通っているか 〉



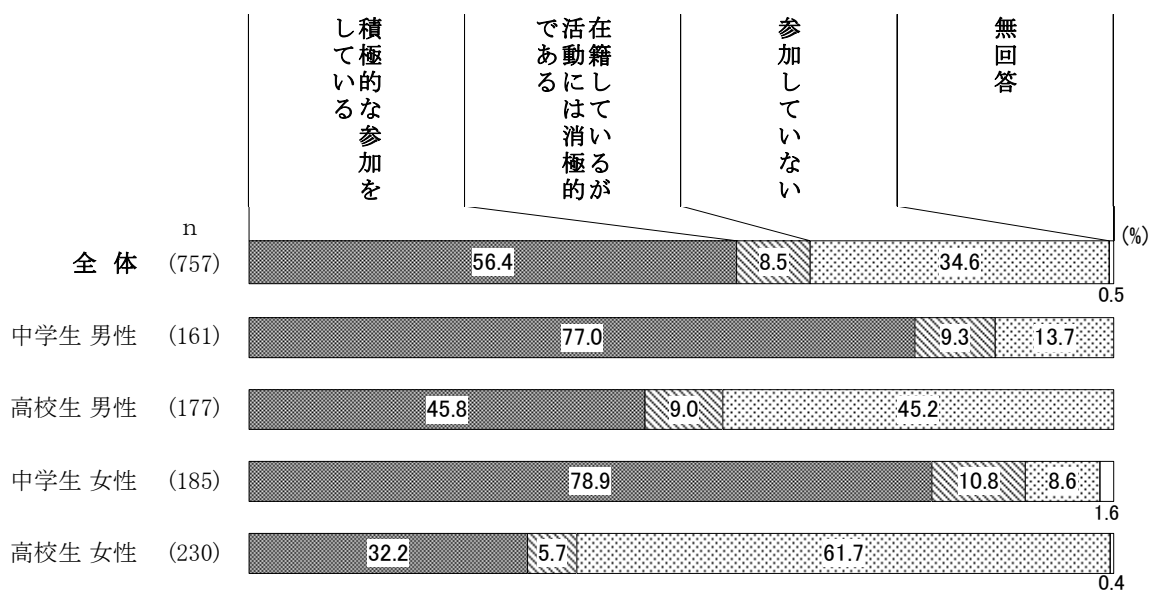
(4) クラブ活動の参加状況

問12 クラブ活動は参加していますか（○は1つだけ）

クラブ活動への参加状況については、「積極的な参加をしている」が56.4%を占めている。また、「在籍しているが活動には消極的である」は8.5%となっている。一方、「参加していない」は34.6%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性、中学生・女性では「積極的な参加をしている」が8割近くを占めて、高校生より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／クラブ活動の参加状況 〉



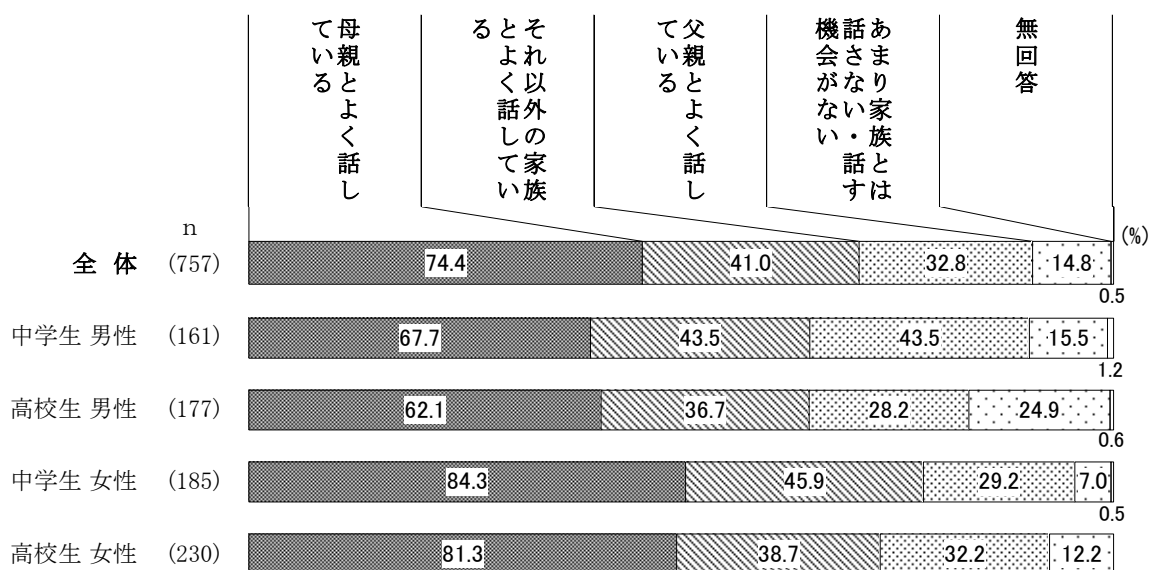
(5) 家族との会話

問13 同居している家族とよく話をしていますか。(〇はいくつでも)

同居している家族との会話については、「母親とよく話している」が74.4%で最も高く、以下「それ以外の家族とよく話している」(41.0%)、「父親とよく話している」(32.8%)の順で続いている。一方、「あまり家族とは話さない・話す機会がない」は14.8%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学生・女性、高校生・女性では「母親とよく話している」が8割を超えて、男性より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／家族との会話 〉



	母親とよく話している	それ以外の家族とよく話している	父親とよく話している	あまり家族とは話さない・話す機会がない	無回答
全 体 (n=757)	74.4	41.0	32.8	14.8	0.5
男性 中学生 (n=161)	67.7	43.5	43.5	15.5	1.2
男性 高校生 (n=177)	62.1	36.7	28.2	24.9	0.6
女性 中学生 (n=185)	84.3	45.9	29.2	7.0	0.5
女性 高校生 (n=230)	81.3	38.7	32.2	12.2	-

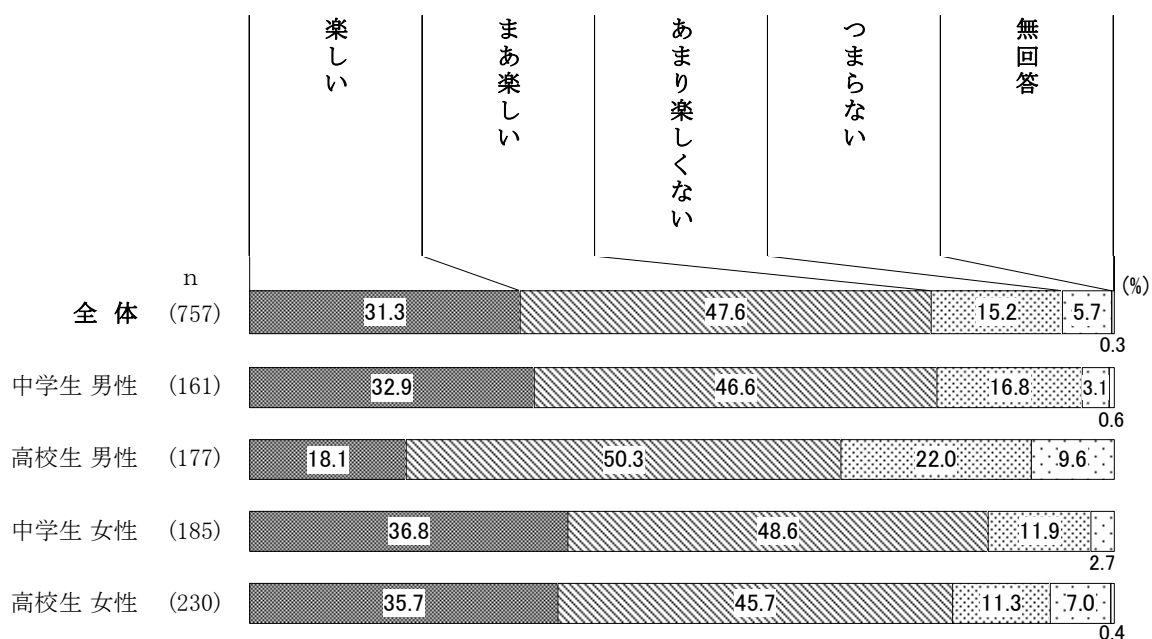
(6) 家族との関係

問14 家庭で家族と過ごすのは楽しいですか。(○は1つだけ)

家庭で家族と過ごすことについては、「楽しい」が31.3%で、これに「まあ楽しい」(47.6%)を合わせた《肯定的評価》は78.9%となっている。一方、「あまり楽しくない」は15.2%、「つまらない」は5.7%となっている。

中・高校生・性別でみると、高校生・男性を除くと、「楽しい」が3割を超えている。一方、高校生・男性では「あまり楽しくない」「つまらない」が他の層に比べ高くなっている。

〈 中・高校生・性別／家庭で家族と過ごすのは楽しいか 〉

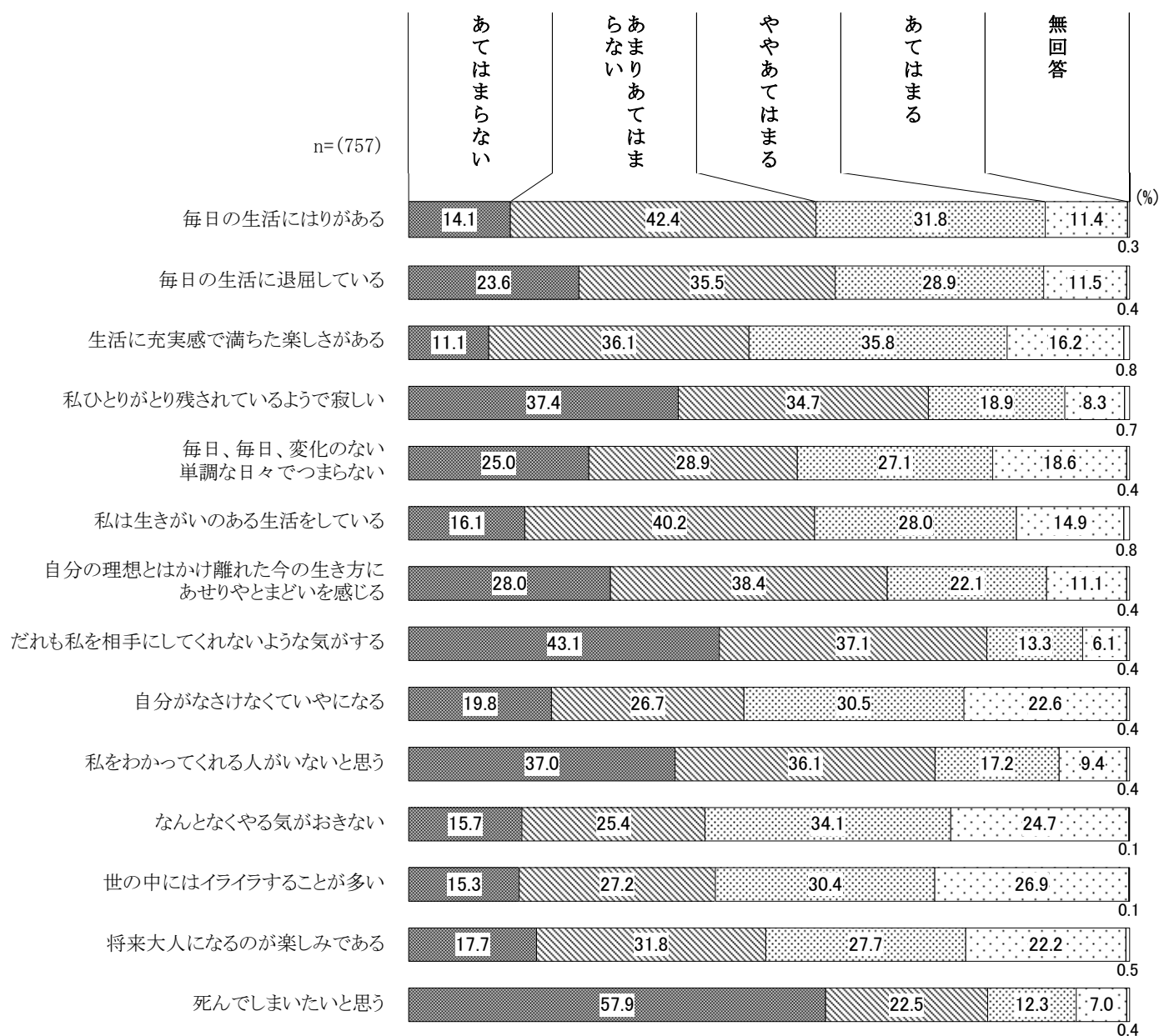


(7) 毎日の生活や気持ち

問15 次の質問について、最もあてはまる選択肢の番号に1つだけ○をつけてください。

毎日の生活や気持ちについて、「あてはまる」の高い順でみると、〈世の中にはイライラすることが多い〉が26.9%で最も高く、以下〈なんとなくやる気がおきない〉(24.7%)、〈自分がなさけなくていやになる〉(22.6%)、〈将来大人になるのが楽しみである〉(22.2%)の順で続いている。

〈毎日の生活や気持ち〉



6. たばこ

(1) 家族の喫煙

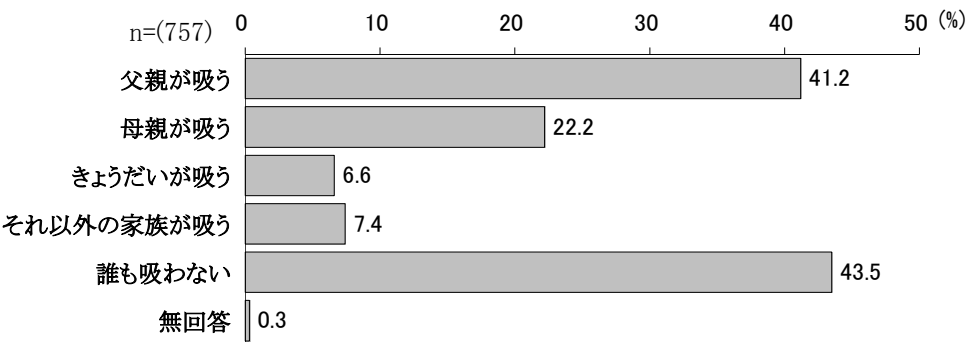
問16 同居家族はたばこを吸いますか。(〇はいくつでも)

同居家族の喫煙状況については、「誰も吸わない」が43.5%を占め、次いで「父親が吸う」(41.2%)となっている。

平成19年の調査結果と比較すると、「誰も吸わない」は今回43.5%と、前回の33.4%から大きく増加し、反対に「父親が吸う」が大幅に減少している。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性、中学生・女性では「誰も吸わない」が5割前後を占め、高校生より高くなっている。

〈 前回、中・高校生・性別／同居家族の喫煙状況 〉



	父親が吸う	きょうだいが吸う	母親が吸う	誰も吸わない	それ以外の家族が吸う	無回答
平成24年 (n=757)	41.2	6.6	22.2	43.5	7.4	0.3
平成19年 (n=829)	50.7	13.5	20.3	33.4	7.4	2.1
男性 中学生 (n=161)	37.9	3.7	16.8	49.7	5.0	0.6
高校生 (n=177)	42.4	7.3	24.3	39.0	10.7	0.6
女性 中学生 (n=185)	34.6	2.2	16.2	53.0	7.0	-
高校生 (n=230)	48.3	11.3	29.6	35.2	6.1	-

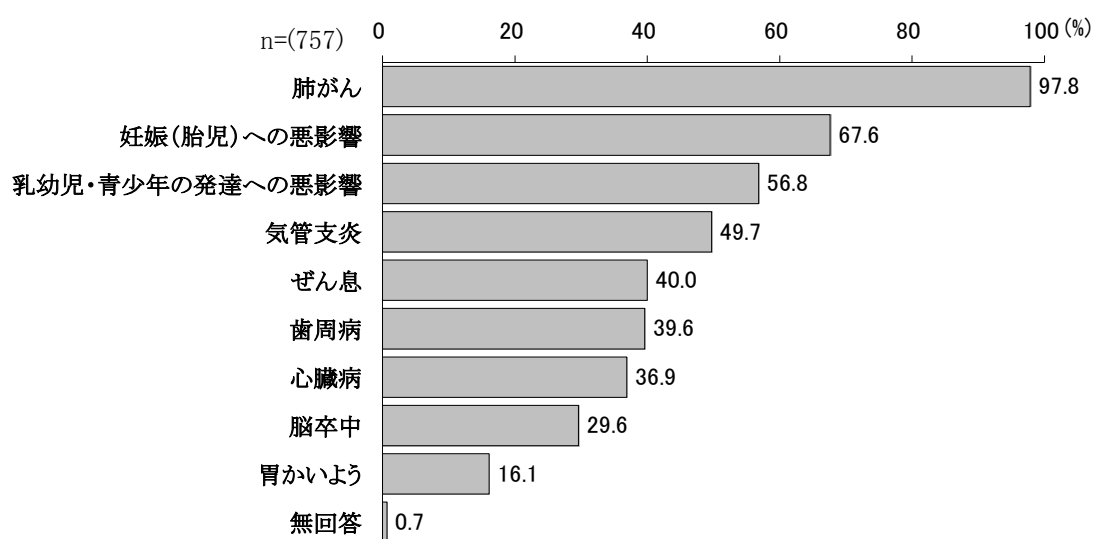
(2) 喫煙と疾病の関係

問17 次の病気のうち、たばこを吸うことでかかりやすくなると、あなたが思う病気を選んでください。(〇はいくつでも)

たばこを吸うとかかりやすくなる病気としては、「肺がん」が97.8%で最も高く、以下「妊娠（胎児）への悪影響」（67.6%）、「乳幼児・青少年の発達への悪影響」（56.8%）、「気管支炎」（49.7%）の順で続いている。

中・高校生・性別でみると、高校生・女性、高校生・男性では「妊娠（胎児）への影響」が、中学生より高くなっている。また、中学生・女性、高校生・女性では「乳幼児・青少年の発達への悪影響」が6割前後と、男性より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／たばこを吸うことでかかりやすくなると思う病気 〉



	肺がん	妊娠(胎児)への悪影響	乳幼児・青少年の発達への悪影響	気管支炎	ぜん息	歯周病	心臓病	脳卒中	胃かいよう	無回答
全 体 (n=757)	97.8	67.6	56.8	49.7	40.0	39.6	36.9	29.6	16.1	0.7
男性 中学生 (n=161)	98.1	55.9	55.3	58.4	52.2	42.9	47.8	32.3	23.6	0.6
高校生 (n=177)	95.5	61.6	52.0	42.4	40.1	32.2	35.6	29.4	16.9	1.7
女性 中学生 (n=185)	98.4	71.9	62.2	57.8	38.4	48.6	40.5	29.7	13.0	0.5
高校生 (n=230)	98.7	78.3	58.3	42.6	33.5	36.1	27.0	27.8	13.0	-

7. アルコール

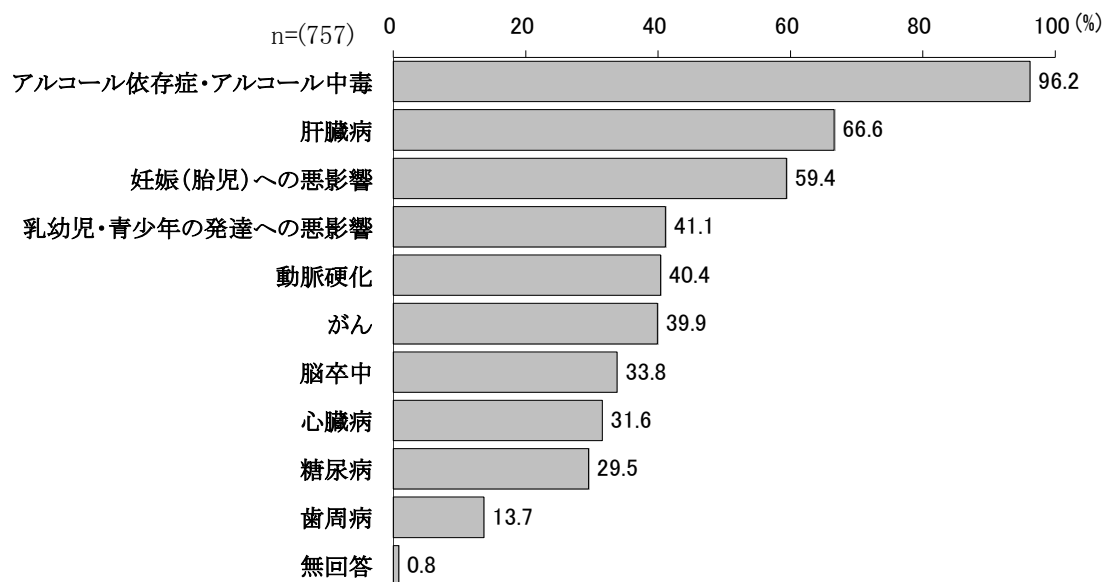
(1) 飲酒と疾病の関係

問18 次の病気のうち、多量の飲酒を長期間することでかかりやすくなると、あなたが思う病気を選んでください。(〇はいくつでも)

長期間の多量飲酒でかかりやすくなると思う病気としては、「アルコール依存症・アルコール中毒」が96.2%で最も高く、以下、「肝臓病」(66.6%)、「妊娠(胎児)への悪影響」(59.4%)、「乳幼児・青少年の発達への悪影響」(41.1%)、「動脈硬化」(40.4%)、「がん」(39.9%)の順で続いている。

中・高校生・性別でみると、中学生・女性では「肝臓病」や「がん」が他の層より高くなっている。また、中学生・女性、高校生・女性では、「妊娠(胎児)への悪影響」が7割近くを占めて、男性より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／長期間の多量飲酒でかかりやすくなると思う病気 〉



	アルコール中毒	肝臓病	妊娠(胎児)への悪影響	糖尿病	乳幼児・青少年の発達への悪影響	動脈硬化	がん	脳卒中	心臓病	歯周病	無回答
全 体 (n=757)	96.2	66.6	59.4	29.5	41.1	40.4	39.9	33.8	31.6	13.7	0.8
男性 中学生 (n=161)	96.9	67.1	49.7	33.5	40.4	43.5	46.0	35.4	39.1	19.3	0.6
高校生 (n=177)	92.7	65.0	50.8	26.6	39.5	41.8	29.4	31.6	24.9	11.9	1.7
女性 中学生 (n=185)	96.8	72.4	68.1	37.3	44.9	41.1	50.3	37.3	39.5	15.1	0.5
高校生 (n=230)	98.7	63.0	67.0	22.2	40.4	36.5	34.3	31.3	24.8	10.4	0.4

8. 歯の健康

(1) 歯の健康のための取り組み

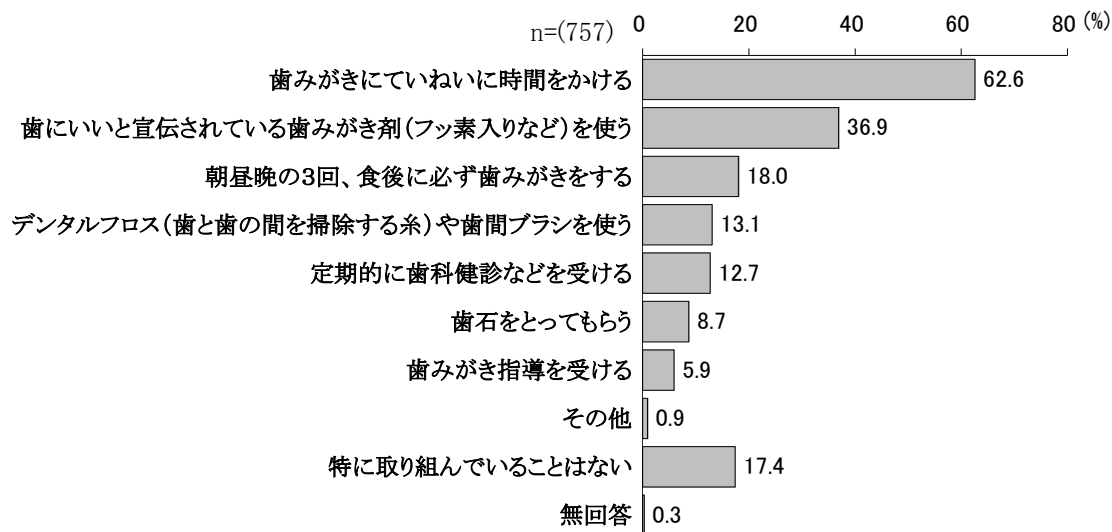
問19 ふだん、歯や歯ぐきの健康のために、どのようなことに取り組んでいますか。

(○はいくつでも)

歯や歯ぐきの健康のために取り組んでいることについては、「歯みがきにていねいに時間をかける」が62.6%で最も高く、以下「歯にいいと宣伝されている歯みがき剤(フッ素入りなど)を使う」(36.9%)、「朝昼晩の3回、食後に必ず歯みがきをする」(18.0%)の順で続いている。一方、「特に取り組んでいることはない」は17.4%となっている。

中・高校生・性別でみると、高校生・男性を除くと、「歯みがきにていねいに時間をかける」が6割を超え、特に高校生・女性では69.1%となっている。また、中学生・男性、中学生・女性では「歯にいいと宣伝されている歯みがき剤(フッ素入りなど)を使う」が4割を超えて、高校生より高くなっているなど、他の項目でも高校生の男女より歯や歯ぐきの健康に高い関心を示す傾向がみられる。

〈 中・高校生・性別／歯や歯ぐきの健康のための取り組み 〉



	歯みがきに 時間をかける	歯にいいと宣伝されて いる歯みがき剤(フッ素 入りなど)を使う	朝昼晩の3回、食後に必 ず歯みがきをする	デンタルフロス(歯と歯 の間を掃除する糸)や歯 間ブラシを使う	定期的に 歯科健診など を受ける	歯石をと ってもらう	歯みがき 指導を受ける	その他	特に取り組 んでいるこ とはない	無回答
全 体 (n=757)	62.6	36.9	18.0	13.1	12.7	8.7	5.9	0.9	17.4	0.3
男性 中学生 (n=161)	60.9	42.2	19.3	22.4	18.0	10.6	5.6	0.6	19.3	-
高校生 (n=177)	53.1	35.6	11.3	7.3	5.6	4.5	4.5	1.7	24.9	0.6
女性 中学生 (n=185)	65.4	41.1	28.6	16.8	20.0	15.7	10.3	-	10.8	-
高校生 (n=230)	69.1	30.9	13.9	7.8	8.7	5.2	3.9	1.3	15.7	-

9. 薬物や性、子育て

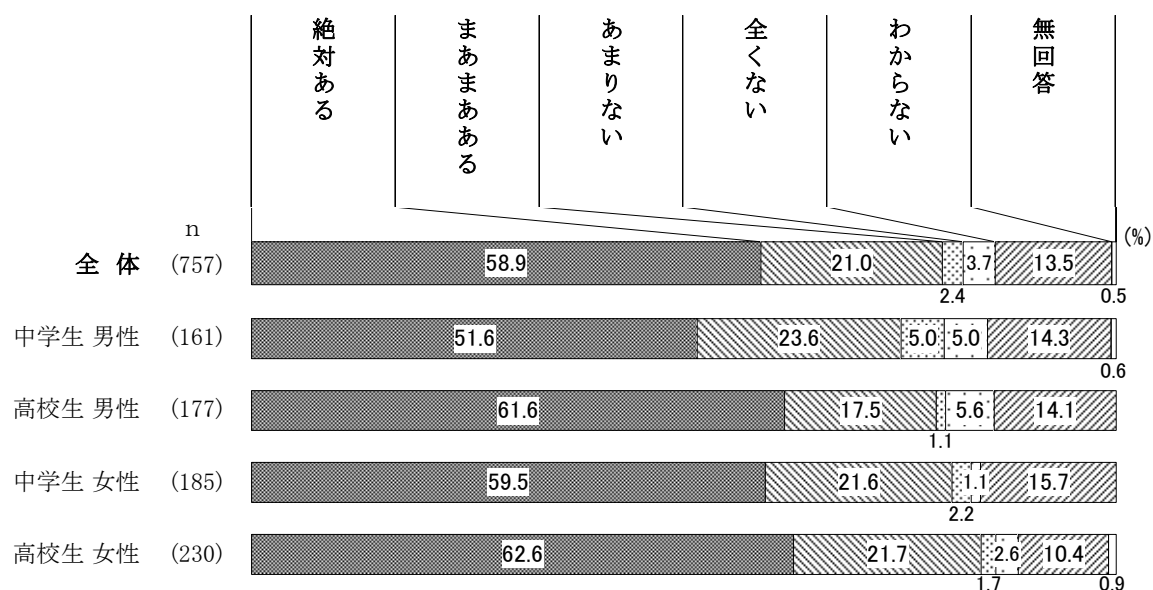
(1) 薬物使用を断ること

問20 あなたは、シンナー遊びや覚醒剤などの薬物について使用をすすめられたら、断る自信がありますか。(○は1つだけ)

シンナー遊びや覚醒剤などの薬物の使用をすすめられた場合、断る自信については、「絶対ある」が58.9%で、これに「まあまあある」(21.0%)を合わせた《ある》は79.9%となっている。

中・高校生・性別でみると、「絶対にある」が6割前後を占めているが、中学生男性のみ51.6%と前回の60%から減少している。

〈中・高校生・性別／シンナー遊びや覚醒剤などの薬物使用をすすめられたら断る自信があるか〉

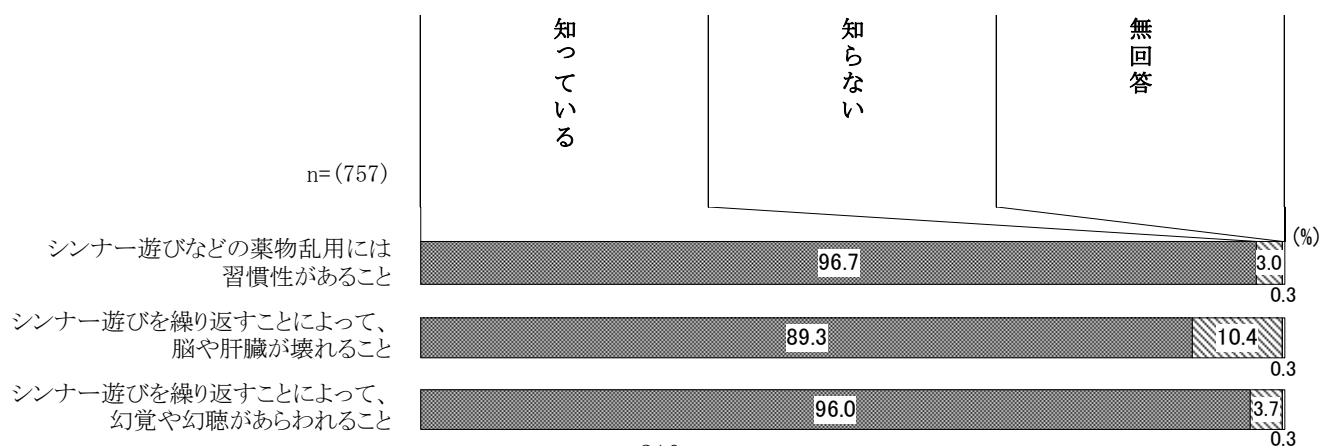


(2) 薬物等についての知識

問21 あなたは、シンナー遊びや覚醒剤などの薬物の使用について、次の内容を知っていますか。(それぞれについて、当てはまる番号1つだけに○)

シンナー遊びや覚醒剤などの薬物の使用した場合の結果について、「知っている」の高い順でみると、〈シンナー遊びなどの薬物乱用には習慣性(やめられなくなる)があること〉(96.7%)、〈シンナー遊びを繰り返すことによって、実際には見えないものが見えたり、声が聞えたりすること〉(96.0%)、〈シンナー遊びを繰り返すことによって、脳や肝臓が壊れること〉(89.3%)の順となっている。

〈シンナー遊びや覚醒剤などの薬物使用についての知識〉



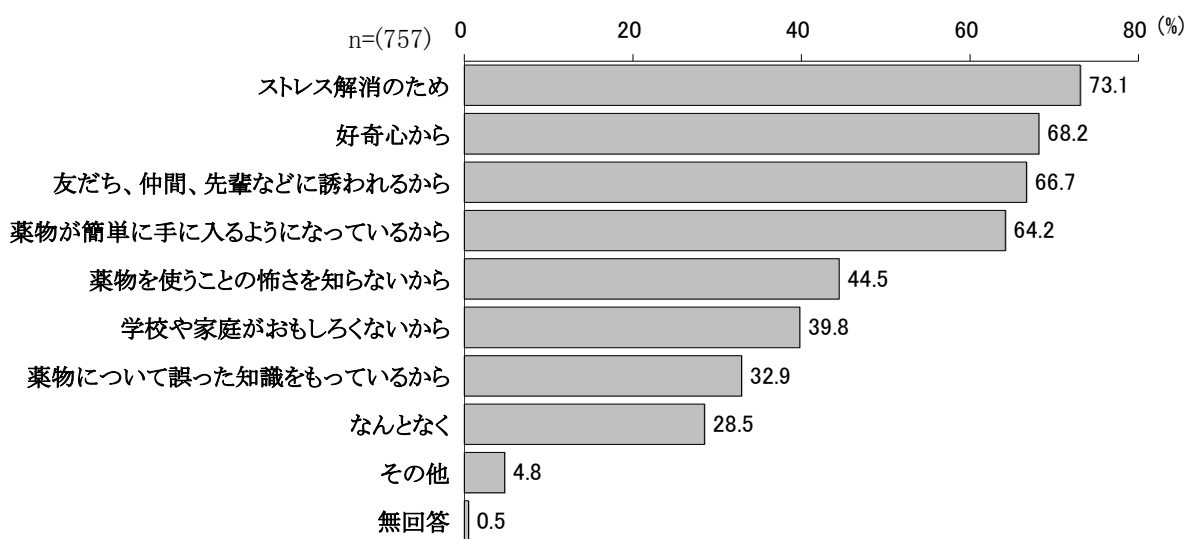
(3) 薬物を利用する若者が増えている理由

問22 あなたは、シンナー遊びや覚醒剤などの薬物を乱用する若者が増えているのは、どのような理由からだと思いますか。(〇はいくつでも)

シンナー遊びや覚醒剤などを乱用する若者が増えている理由としては、「ストレス解消のため」が73.1%で最も高く、これに「好奇心から」(68.2%)、「友だち、仲間、先輩などに誘われるから」(66.7%)、「薬物が簡単に手に入るようになってきているから」(64.2%)が、いずれも6割を超えて続いている。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性、中学生・女性では「ストレス解消のため」が、高校生より高くなっている。中学生・女性、高校生・女性では「友だち、仲間、先輩などに誘われるから」が、男性より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／シンナー遊びや覚醒剤などの薬物を乱用する若者の増加理由 〉



	薬物が簡単に手に入るから	好奇心から	ストレス解消のため	友だち、仲間、先輩などに誘われるから	薬物について誤った知識をもっているから	薬物を使うことの怖さを知らないから	学校や家庭がおもしろくないから	なんとなく	その他	無回答
全 体 (n=757)	64.2	68.2	73.1	66.7	32.9	44.5	39.8	28.5	4.8	0.5
男性 中学生 (n=161)	59.6	68.3	76.4	63.4	31.7	47.2	39.1	26.1	4.3	1.2
高校生 (n=177)	64.4	62.1	60.5	63.8	23.7	42.4	37.9	31.6	5.6	0.6
女性 中学生 (n=185)	68.6	72.4	81.1	70.8	42.2	52.4	43.8	28.6	4.3	-
高校生 (n=230)	64.3	69.6	74.3	68.3	33.5	38.3	38.7	27.4	4.3	-

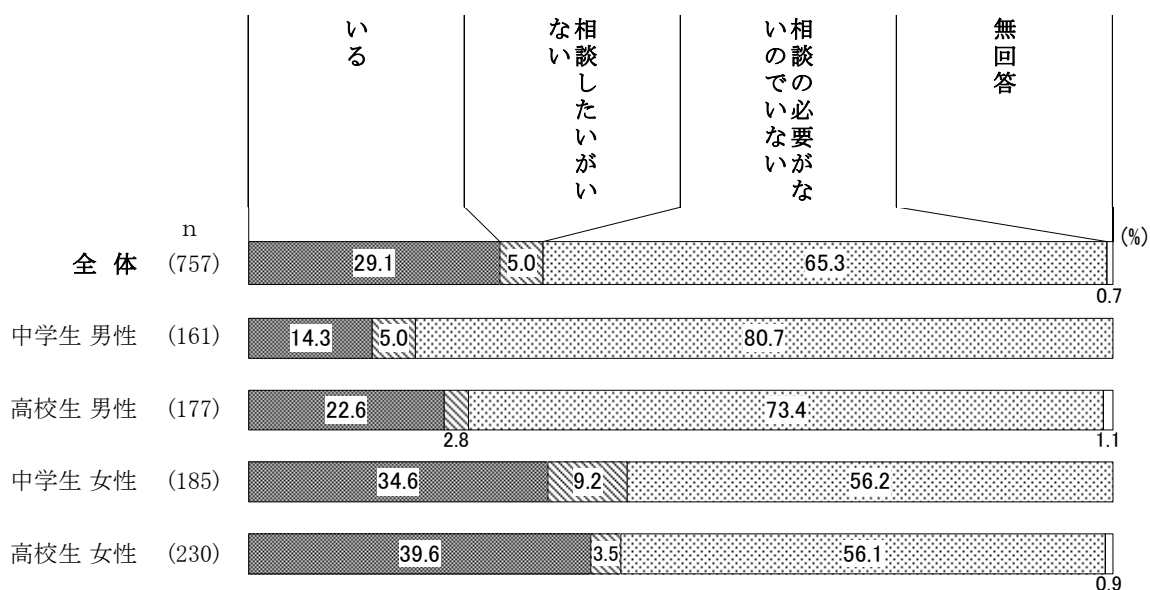
(4) 性に関する相談相手

問23 あなたは、性に関して相談できる人がいますか。(○は1つだけ)

性に関する相談相手の有無は、「いる」が29.1%となっている。一方、「相談の必要がないのでいい」は65.3%を占めている。前回の調査時は「いる」が39.9%、「相談の必要がないのでいい」が52.0%となっており、顕著な違いがみられる。

中・高校生・性別でみると、中学生・女性、高校生・女性では「いる」が3割を超え、男性より高くなっている。一方、中学生・男性、高校生・男性では、「相談の必要がないのでいい」が7割を超え、女性より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／性に関する相談相手の有無 〉



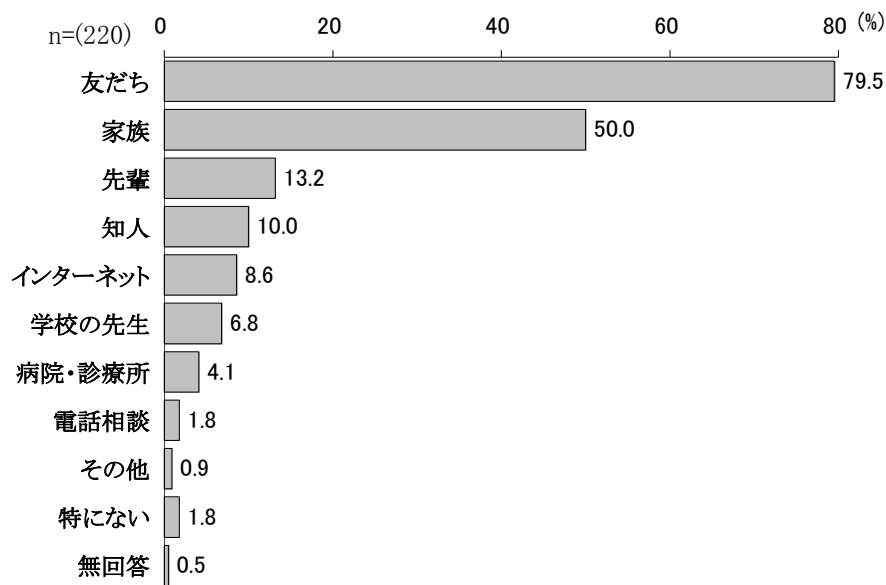
問23で「いる」と回答した人のみ

付問23-1 相談相手は誰ですか。(〇はいくつでも)

性の相談相手としては、「友だち」が79.5%で最も高く、以下「家族」(50.0%)、「先輩」(13.2%)、「知人」(10.0%)の順で続いている。

中学生・高校生・性別でみると、高校生・女性では「友だち」が87.9%と、他の層より高くなっている。また、中学生・女性では「家族」(85.9%)が際立って高くなっている。

〈 中・高校生・性別／性の相談相手 〉



	友だち	家族	先輩	学校の先生	インターネット	知人	病院・診療所	電話相談	その他	特にない	無回答
全 体 (n=220)	79.5	50.0	13.2	6.8	8.6	10.0	4.1	1.8	0.9	1.8	0.5
男性 中学生 (n=23)	78.3	34.8	30.4	21.7	21.7	21.7	17.4	8.7	4.3	-	-
高校生 (n=40)	82.5	22.5	17.5	2.5	7.5	15.0	2.5	-	-	5.0	2.5
女性 中学生 (n=64)	68.8	85.9	6.3	10.9	7.8	3.1	4.7	3.1	-	-	-
高校生 (n=91)	87.9	40.7	12.1	1.1	6.6	8.8	-	-	1.1	1.1	-

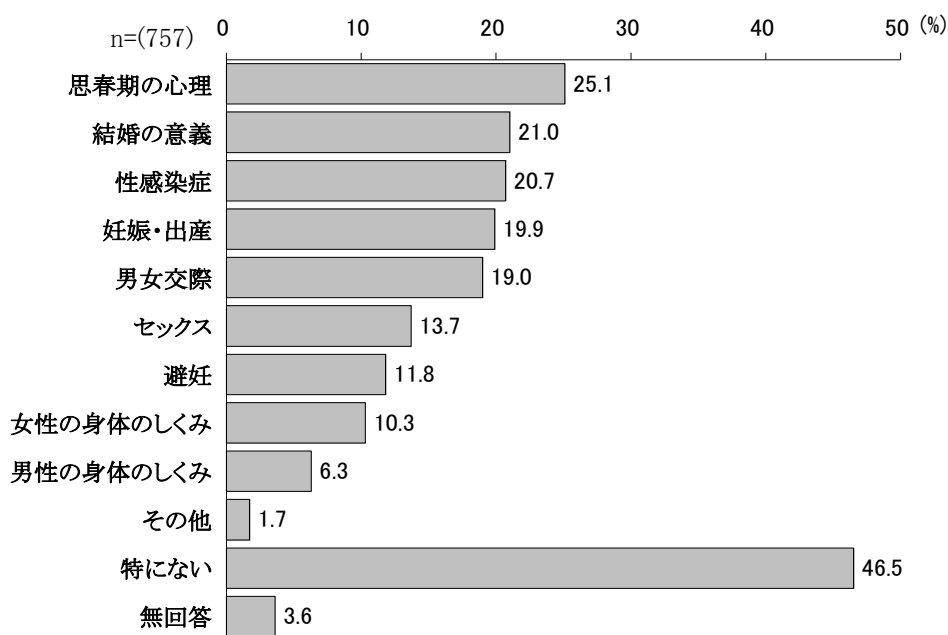
(5) 性に関して知りたいこと

問24 あなたが、性に関して知りたいと思うことは次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

性について知りたいこととしては、「思春期の心理」(25.1%)、「結婚の意義」(21.0%)、「性感染症」(20.7%)、「妊娠・出産」(19.9%)「男女交際」(19.0%)の5項目が、いずれも2割台から2割前後を占めて、特に高くなっている。

中・高校生・性別でみると、中学生・女性では「思春期の心理」が、高校生・女性では「妊娠・出産」が、他の層より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／性に関して知りたいこと 〉



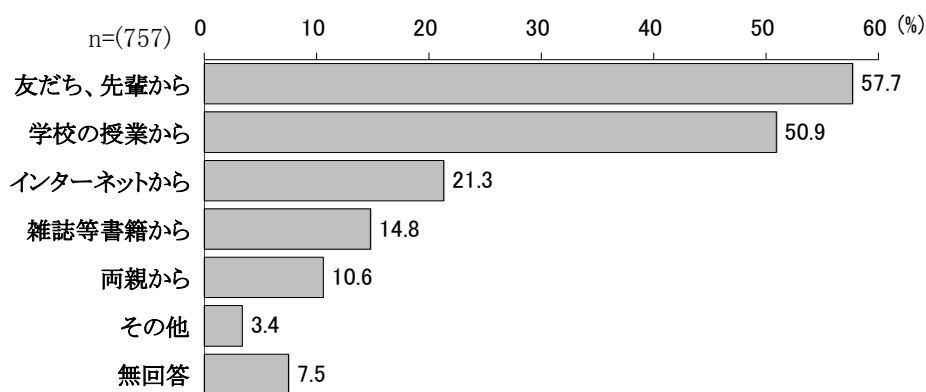
	性感染症	思春期の心理	妊娠・出産	男女交際	セックス	避妊	結婚の意義	女性の身体のしくみ	男性の身体のしくみ	その他	特にない	無回答
全 体 (n=757)	20.7	25.1	19.9	19.0	13.7	11.8	21.0	10.3	6.3	1.7	46.5	3.6
男性 中学生 (n=161)	19.9	29.2	13.0	24.2	21.7	11.8	23.6	21.1	13.0	3.7	47.2	8.1
高校生 (n=177)	21.5	22.0	13.6	16.9	16.9	9.6	19.2	6.8	5.1	2.8	51.4	2.3
女性 中学生 (n=185)	18.9	34.1	21.6	17.8	8.1	8.6	23.2	8.1	3.8	-	43.2	3.2
高校生 (n=230)	21.7	17.4	28.3	17.8	10.0	15.7	18.7	7.0	4.3	0.9	45.7	0.9

(6) 性に関する情報源

問25 性に関する情報をどこから得ましたか (○はいくつでも)

性に関する情報源としては、「友だち、先輩から」と「学校の授業から」が、それぞれ57.7%、50.9%と半数を超えており、「インターネットから」(21.3%)、「雑誌等書籍から」(14.8%)などと比較しても、高くなっていることがわかる。

〈 中・高校生・性別／性に関する情報源 〉



	両親から	学校の授業から	友だち、先輩から	インターネットから	雑誌等書籍から	その他	無回答
全 体 (n=757)	10.6	50.9	57.7	21.3	14.8	3.4	7.5
男性 中学生 (n=161)	9.3	34.2	54.0	24.8	12.4	6.2	19.9
高校生 (n=177)	4.5	51.4	54.2	28.8	8.5	1.1	4.0
女性 中学生 (n=185)	17.8	50.8	57.3	18.4	20.5	2.7	4.9
高校生 (n=230)	9.6	61.7	63.0	14.8	16.5	3.9	3.5

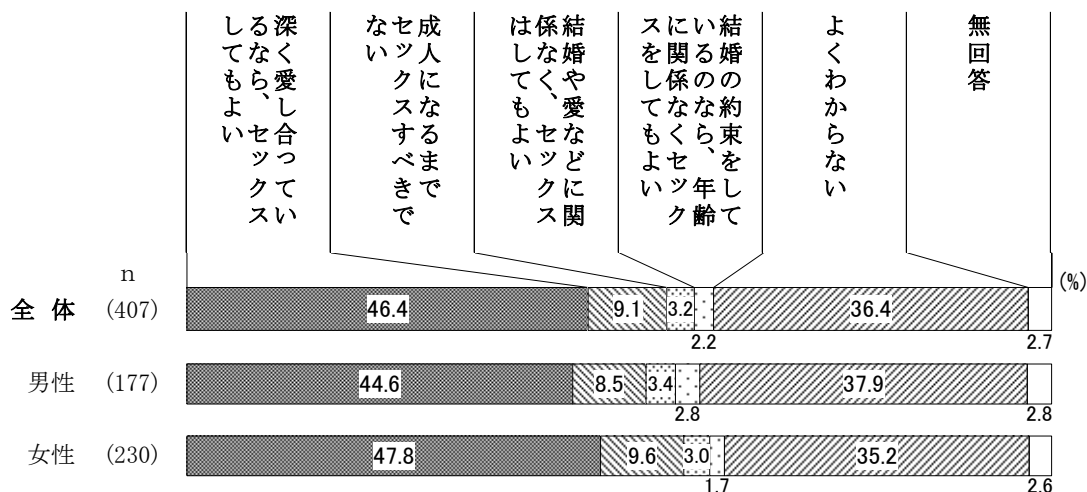
(7) セックスに関する考え

問26 あなたは、セックスすることについてどう思いますか。(○は1つだけ)

セックスに関する考え方としては、「深く愛し合っているなら、セックスしてもよい」が46.4%で最も高く、次いで「成人になるまでセックスすべきではない」(9.1%)となっている。一方、「よくわからない」という人も36.4%となっている。

性別でみると、あまり男女差はみられない。

〈性別／セックスに関する考え（高校生のみ）〉

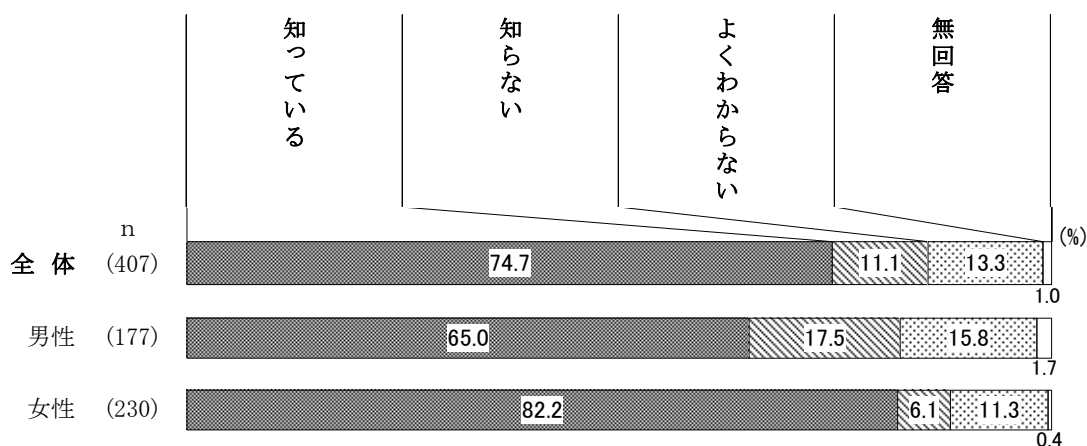


(8) 避妊法の認知

問27 あなたは、避妊法を知っていますか。(○は1つだけ)

避妊法については、「知っている」が74.7%を占めている。一方、「知らない」は11.1%となっている。性別でみると、女性では「知っている」が82.2%と、男性(65.0%)より高くなっている。

〈性別／避妊法（高校生のみ）〉



(9) 知っている避妊法

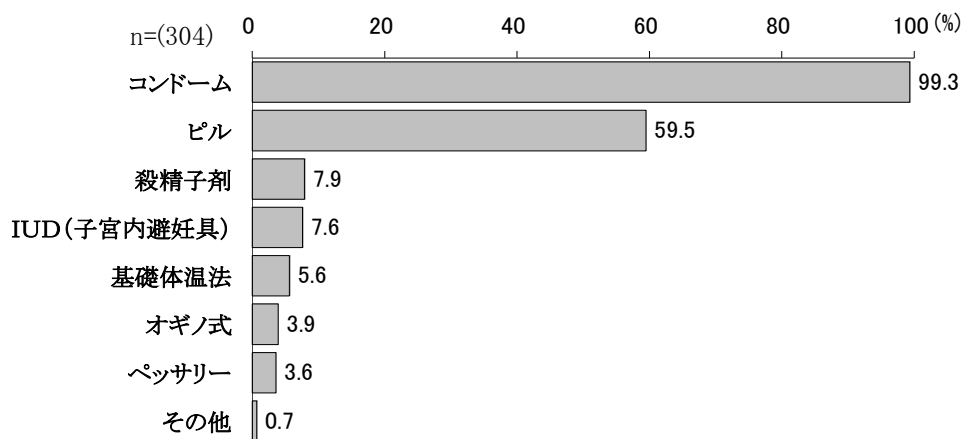
問27で「知っている」と回答した人のみ

付問27-1 どんな避妊法を知っていますか。(〇はいくつでも)

知っている避妊法としては、「コンドーム」が99.3%で最も高く、次いで「ピル」(59.5%)となっている。

性別でみると、女性では「ピル」が61.9%と、男性(55.7%)より高くなっている。

〈性別／知っている避妊法（高校生のみ）〉



	コンドーム	ピル	基礎体温法	ペッサリー	殺精子剤	IUD (子宮内避妊具)	オギノ式	その他
全 体 (n=304)	99.3	59.5	5.6	3.6	7.9	7.6	3.9	0.7
男性 高校生 (n=115)	100.0	55.7	6.1	5.2	11.3	5.2	7.8	0.9
女性 高校生 (n=189)	98.9	61.9	5.3	2.6	5.8	9.0	1.6	0.5

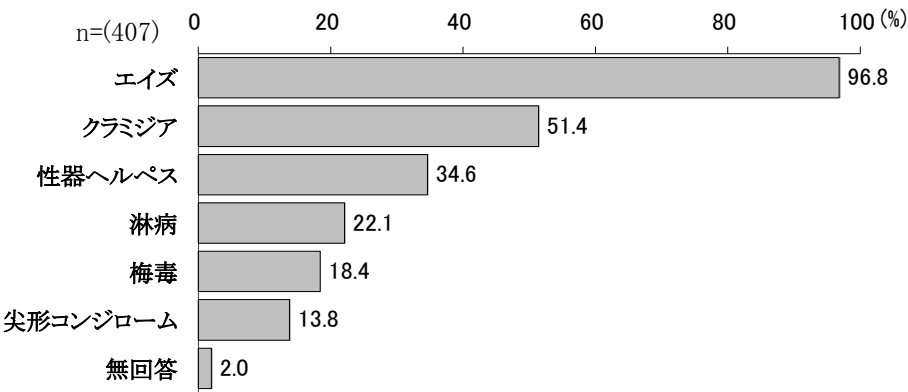
(10) 知っている性感染症

問28 性感染症で、あなたが知っているのはどれですか。(〇はいくつでも)

知っている性感染症としては、「エイズ」が96.8%で最も高く、以下「クラミジア」(51.4%)、「性器ヘルペス」(34.6%)、「淋病」(22.1%)、「梅毒」(18.4%)の順で続いている。

性別でみると、女性では「クラミジア」「性器ヘルペス」が男性より高くなっている。

〈 性別／知っている性感染症（高校生のみ） 〉



	エイズ	クラミジア	淋病	梅毒	性器ヘルペス	尖形コンジローム	無回答
全 体 (n=407)	96.8	51.4	22.1	18.4	34.6	13.8	2.0
男性 高校生 (n=177)	94.9	42.9	22.0	19.8	29.9	14.1	4.0
女性 高校生 (n=230)	98.3	57.8	22.2	17.4	38.3	13.5	0.4

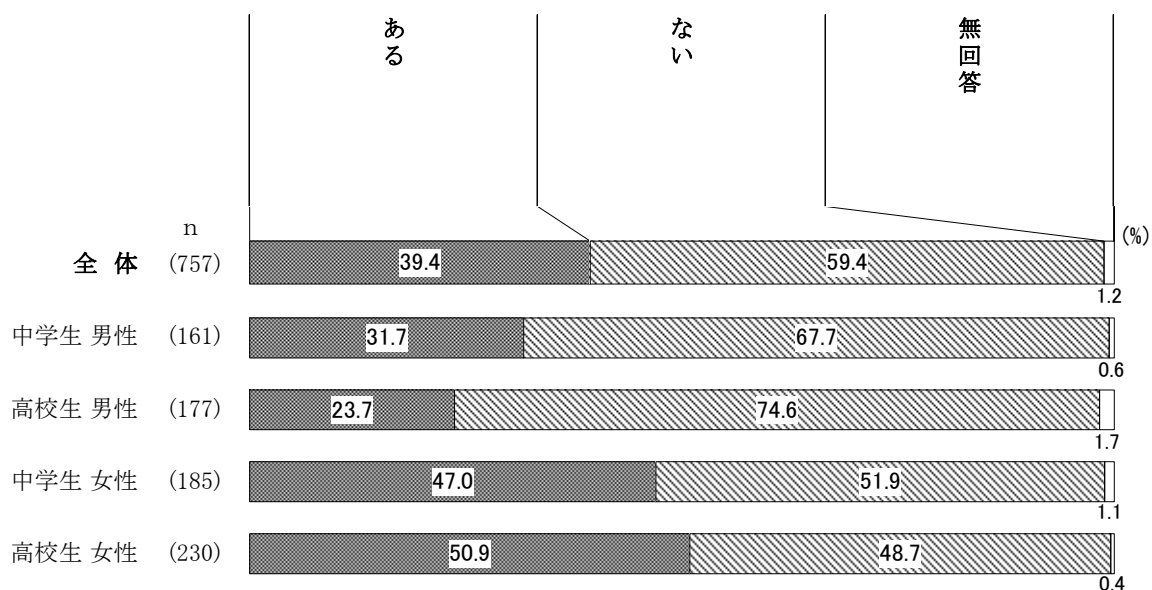
(11) 赤ちゃんを抱くこと

問29 あなたは、この1～2年の間に赤ちゃんを抱いたことがありますか。(○は1つだけ)

この1～2年間で赤ちゃんを抱いた経験が「ある」は39.4%、「ない」は59.4%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学生・女性、高校生・女性では「ある」が5割前後と男性より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／過去1～2年の間に赤ちゃんを抱いた経験 〉



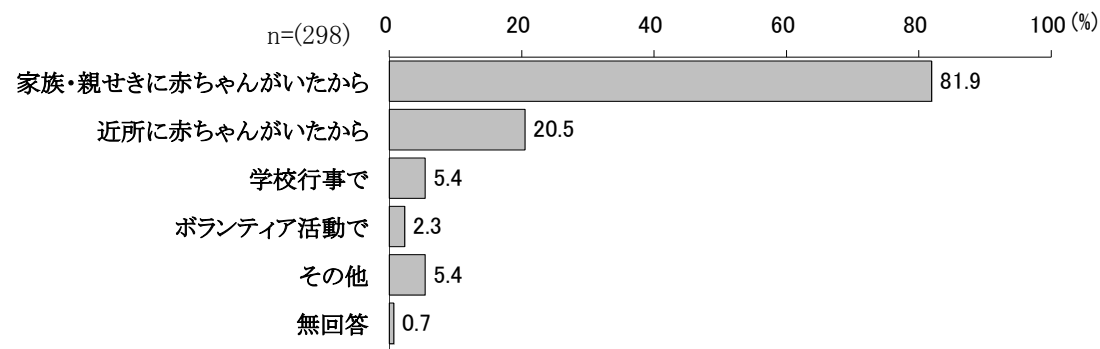
問29で「ある」と回答した人のみ

付問29－1 どんな機会に赤ちゃんを抱きましたか。（〇はいくつでも）

赤ちゃんを抱いた機会としては、「家族・親せきに赤ちゃんがいたから」が81.9%で最も高く、次いで「近所に赤ちゃんがいたから」（20.5%）となっている。

中・高校生・性別でみると、中学校・男性、中学校・女性では「家族・親せきに赤ちゃんがいたから」が高校生より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／赤ちゃんを抱いた機会 〉



	家族・親せきに赤ちゃんがいたから	近所に赤ちゃんがいたから	学校行事で	ボランティア活動で	その他	無回答
全 体 (n=298)	81.9	20.5	5.4	2.3	5.4	0.7
男性 中学生 (n=51)	90.2	13.7	5.9	7.8	—	2.0
高校生 (n=42)	76.2	23.8	7.1	—	2.4	—
女性 中学生 (n=87)	83.9	23.0	2.3	—	6.9	1.1
高校生 (n=117)	78.6	19.7	6.0	1.7	7.7	—

(12) 赤ちゃんを育てること

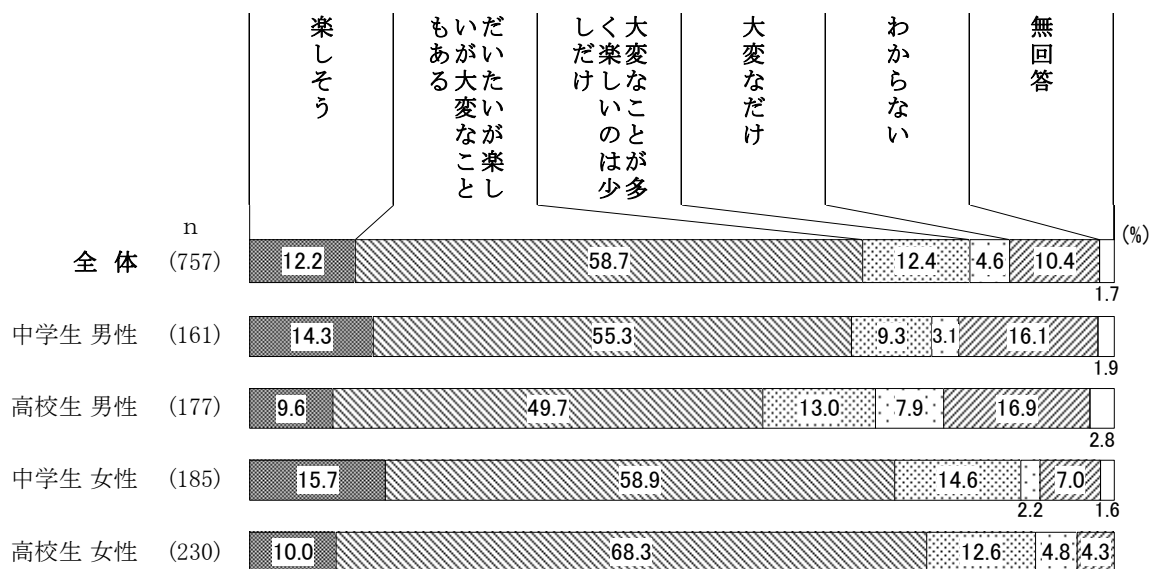
問30 あなたは、赤ちゃんを育てることについてどう思いますか。(○は1つだけ)

赤ちゃんを育てることについての考え方としては、「だいたい楽しいが大変なこともある」が58.7%で最も高く、以下、「大変なことが多く楽しいのは少しだけ」(12.4%)、「楽しそう」(12.2%)の順で続いている。

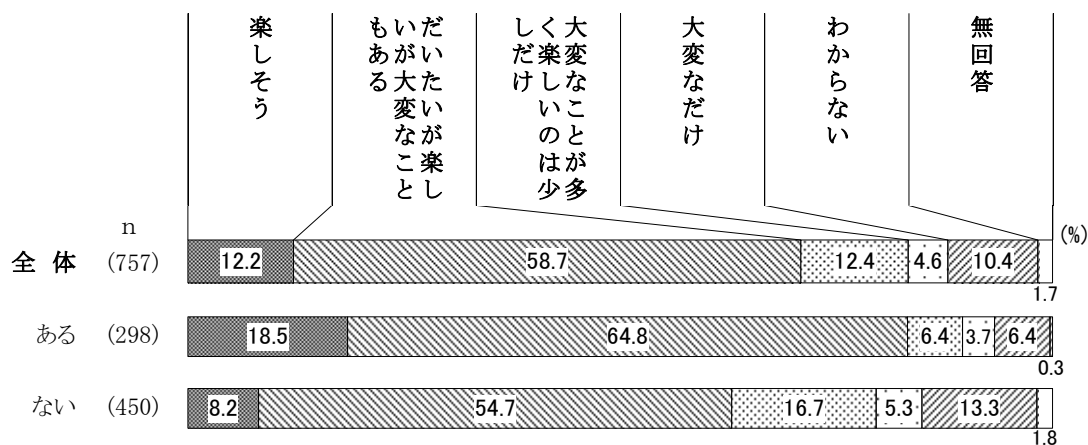
中・高校生・性別でみると、高校生・女性では「だいたい楽しいが大変なこともある」が68.3%と、他の層より高くなっている。

過去1～2年の間に赤ちゃんを抱いた経験の有無別でみると、経験のある人では「楽しそう」「だいたい楽しいが大変なこともある」が高くなっている。一方、経験のない人では「大変なことが多く楽しいのは少しだけ」が高くなっている。

〈 中・高校生・性別／赤ちゃんを育てることについてどう思うか 〉



〈 過去1～2年の間に赤ちゃんを抱いた経験／赤ちゃんを育てることについてどう思うか 〉



10. 人づきあいなど

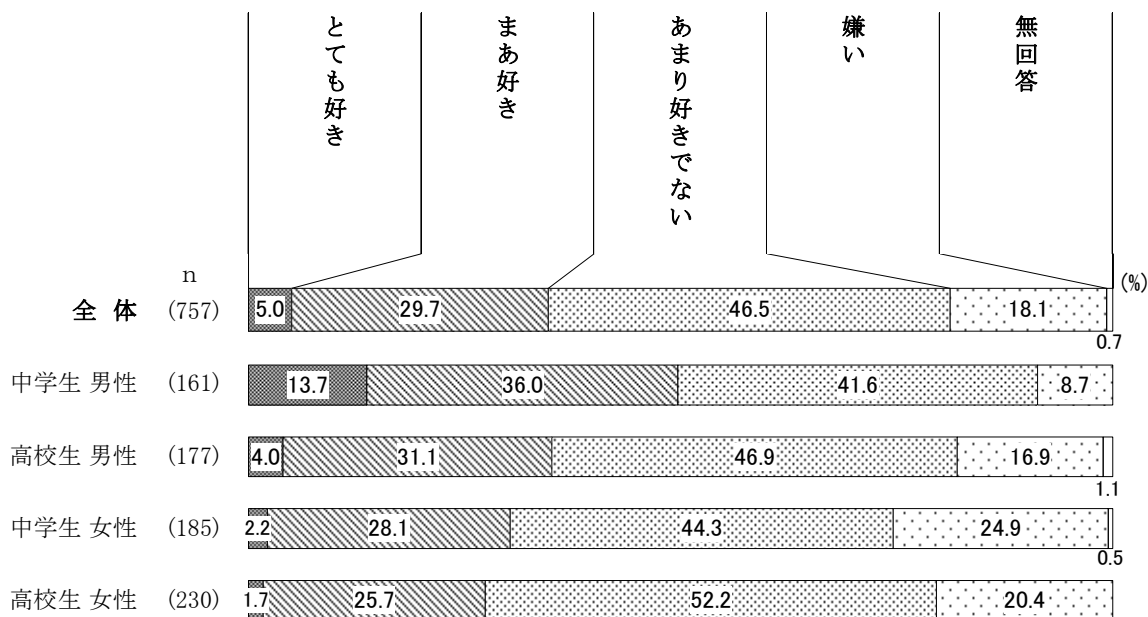
(1) 自分

問31 あなたは、自分のことが好きですか。(○は1つだけ)

自分のことを好きかということについては、「とても好き」が5.0%で、これに「まあ好き」(29.7%)を合わせた《好き》は34.7%となっている。一方、「あまり好きでない」は46.5%、「嫌い」は18.1%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性では《好き》が49.7%と、他の層より高くなっている。一方、高校生・女性では「あまり好きでない」「嫌い」が合わせて72.6%と高くなっている。

〈 中・高校生・性別／自分のことが好きか 〉



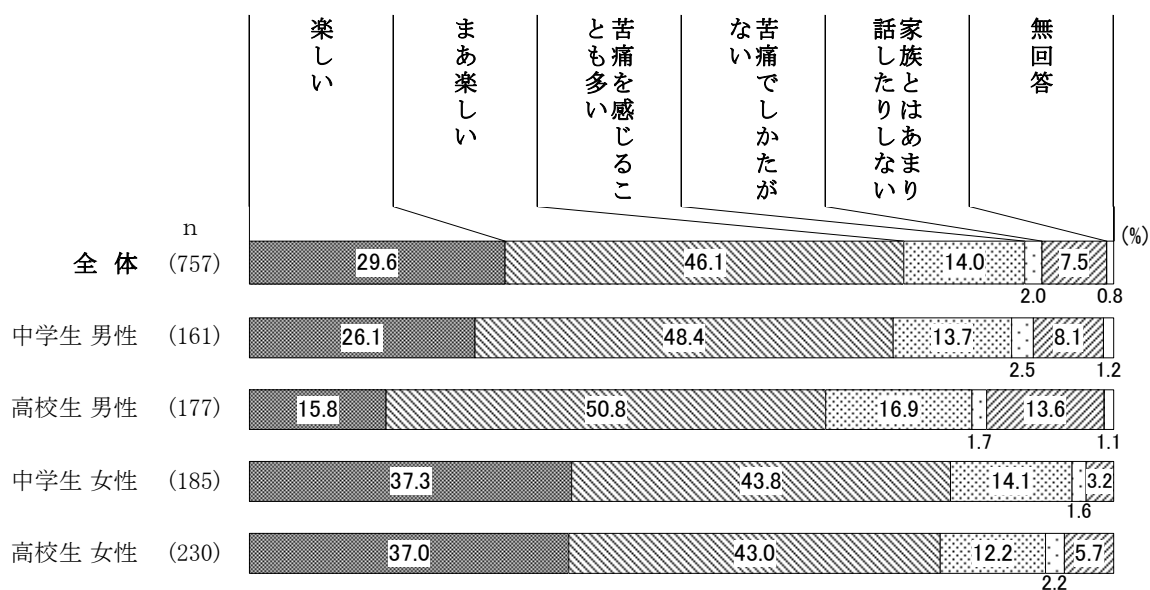
(2) 家族との会話

問32 あなたは、家にいて家族と話したりするのが楽しいですか。(○は1つだけ)

家にいて家族と話したりするのが楽しいかについては、「楽しい」が29.6%で、これに「まあ楽しい」(46.1%)を合わせた《楽しい》は75.7%となっている。一方、「苦痛を感じることも多い」は14.0%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学校・女性、高校生・女性では「楽しい」が4割近くを占め、男性より高くなっている。一方、高校生・男性では「家族とはあまり話したりしない」が13.6%と、他の層より高くなっている。また、中学生、高校生の男女とも「苦痛を感じることも多い」が1割を超えている。

〈 中・高校生・性別／家にいて家族と話したりするのが楽しいか 〉



(3) 親友

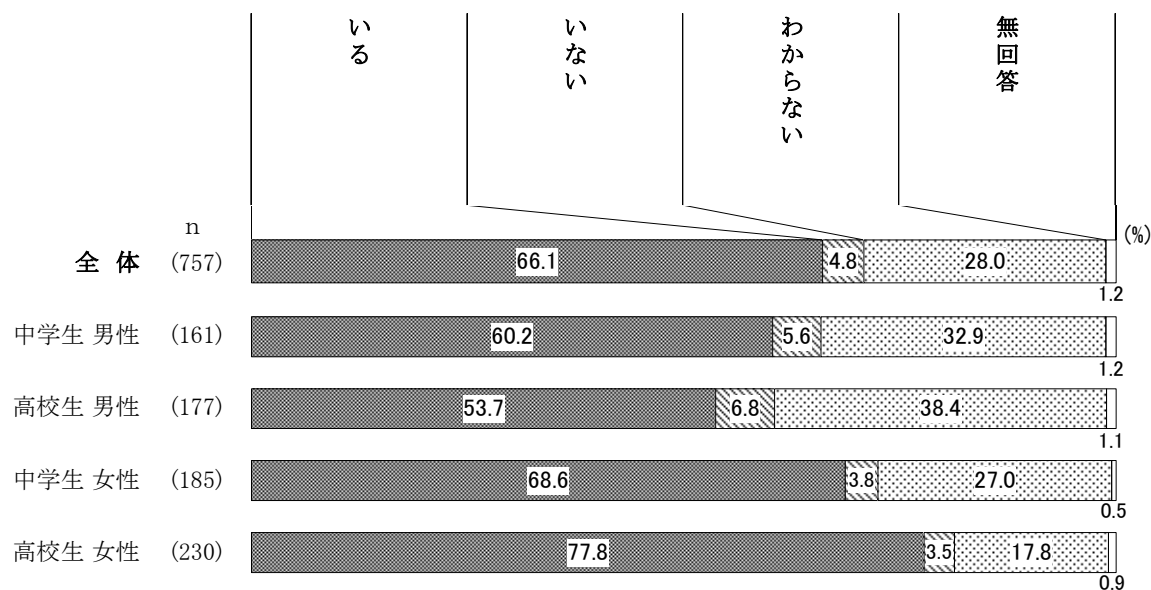
問33 あなたには、親友がいますか。いる場合には、カッコ内に親友の人数を書いてください。
(○は1つだけ)

親友については、「いる」が66.1%、「いない」が4.8%となっている。

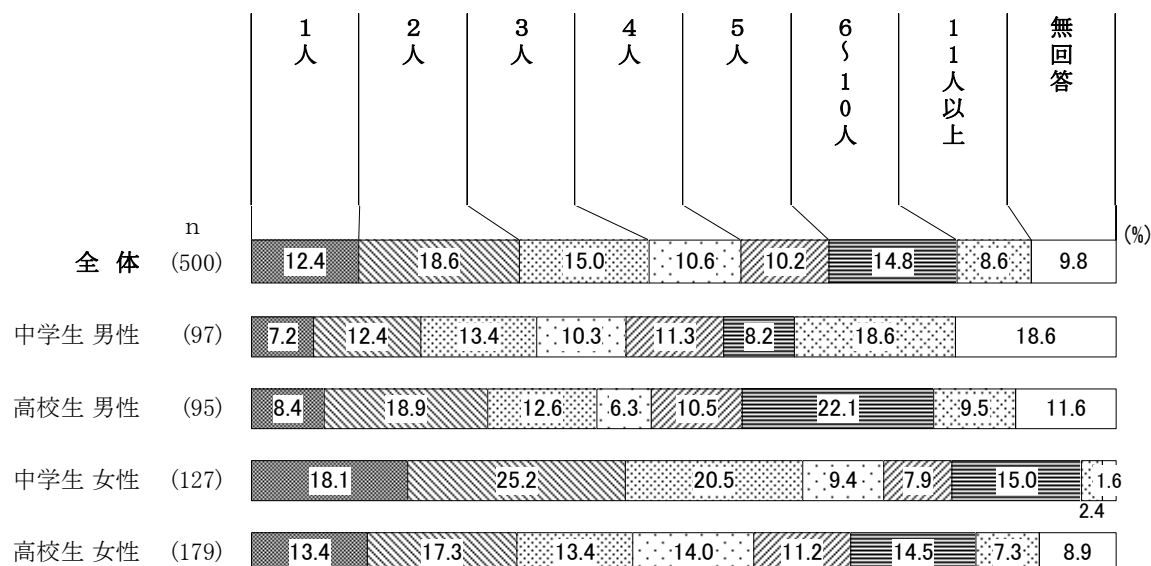
中・高校生・性別でみると、高校生・女性では「いる」が77.8%と他の層より高くなっている。

親友の数としては、「2人」が18.6%で最も多く、次いで「3人」(15.0%)となっている。

〈 中・高校生・性別／親友の有無 〉



〈 中・高校生・性別／親友の人数 〉



(4) 友人とのつきあい

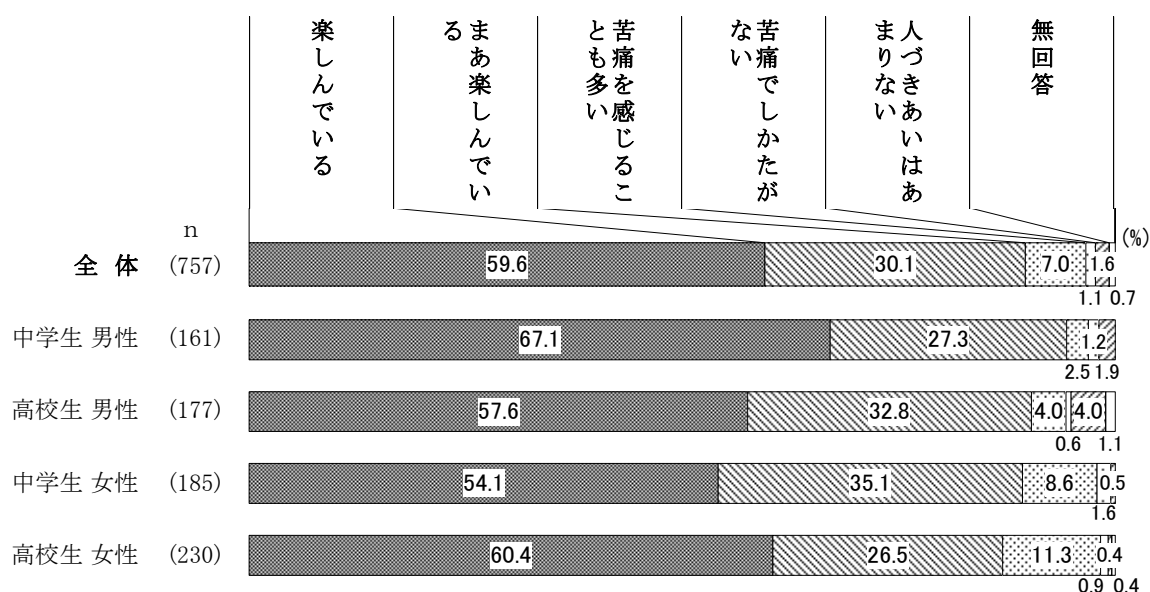
問34 あなたは、友人とのつきあいを楽しんでいますか。(○は1つだけ)

友人とのつきあいを楽しんでいるかについては、「楽しんでいる」が59.6%で、これに「まあ楽しんでいる」(30.1%)を合わせた《楽しんでいる》は89.7%となっている。一方、「苦痛を感じることも多い」は7.0%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学校・男性、高校生・女性では「楽しんでいる」が6割を超えている。ただし、高校生・女性では「苦痛を感じることも多い」も11.3%と、他の層より高くなっている。

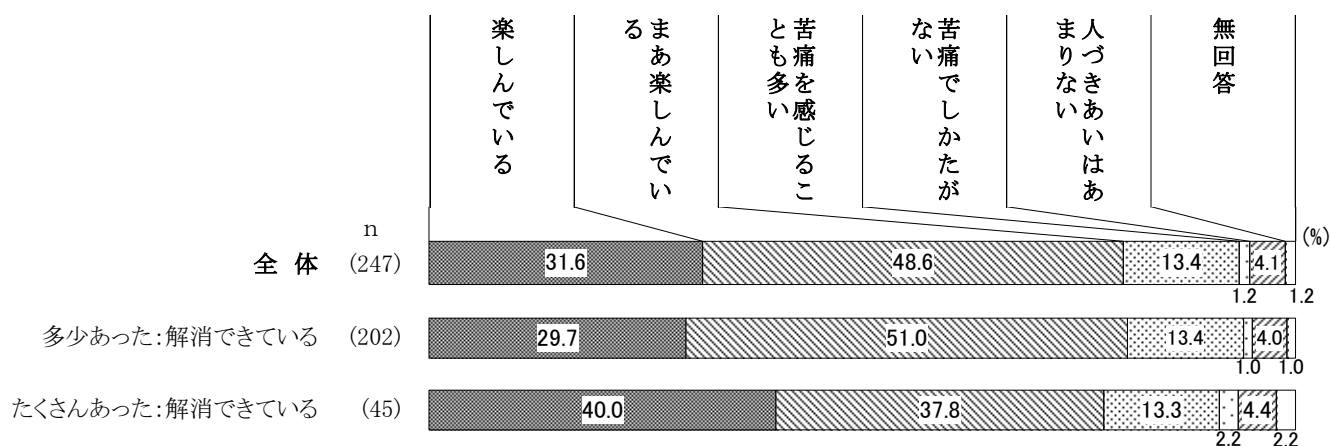
不安等の解消状況でみると、解消できている層では「楽しんでいる」「まあ楽しんでいる」の合計が80.2%となっているが、解消できていない層では62.5%にとどまっている。

〈 中・高校生・性別／友人とのつきあいを楽しんでいるか 〉

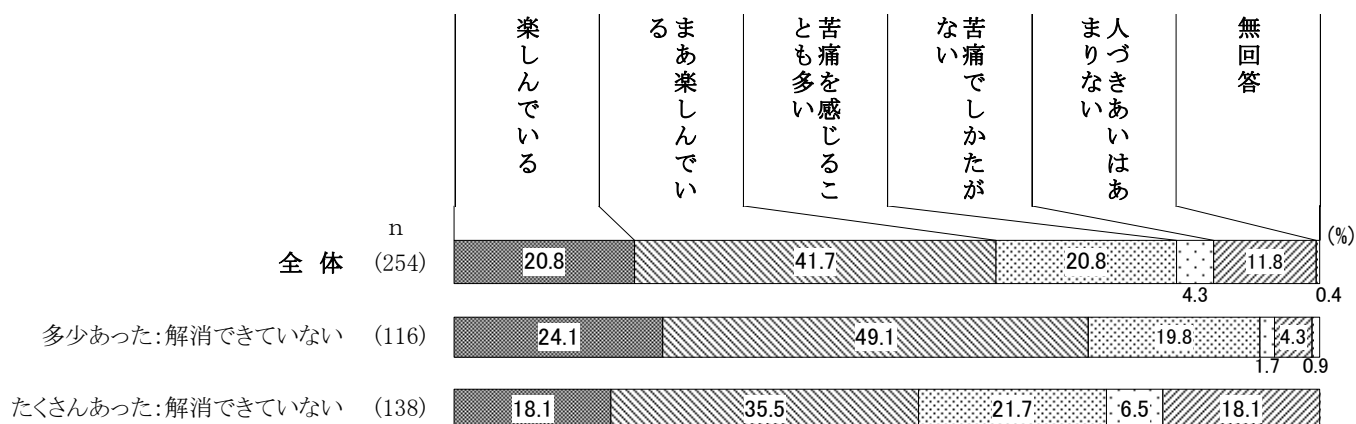


〈 過去1ヶ月に不安等が「多少あった」「たくさんあった」、

かつ解消が「十分できている」「何とかできている」／友人とのつきあいを楽しんでいるか 〉



〈 過去1ヶ月に不安等が「多少あった」「たくさんあった」、
かつ解消が「あまりできていない」「まったくできていない」／友人とのつきあいを楽しんでいるか 〉



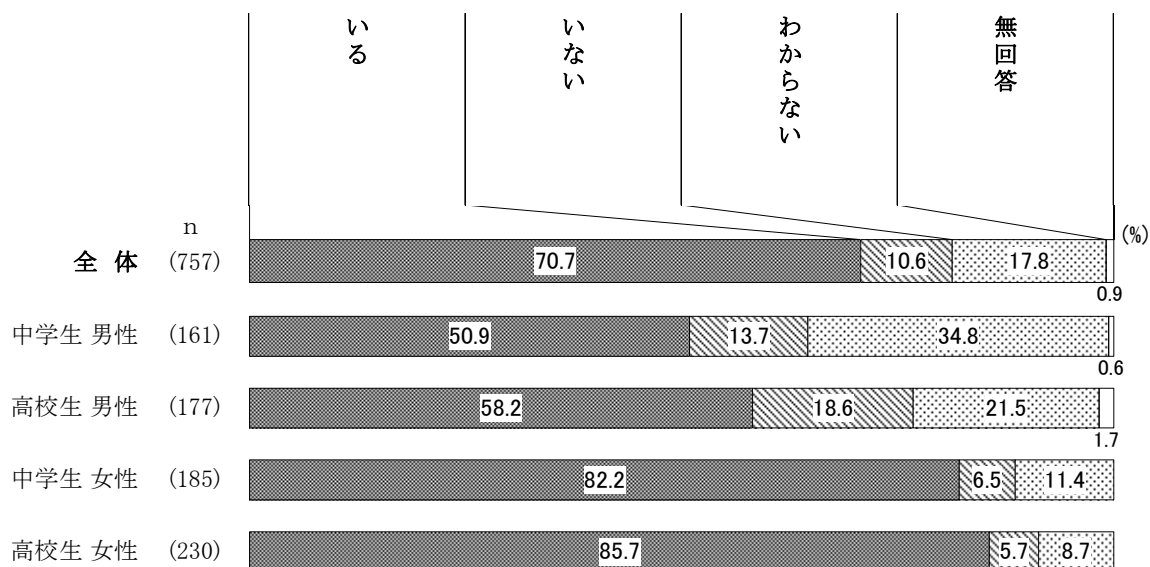
(5) 悩みの相談相手

問35 悩みを相談できる人はいますか。(○は1つだけ)

悩みを相談できる人が「いる」は70.7%、「いない」が10.6%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学生・女性、高校生・女性では「いる」が男性より高くなっている。

〈 中・高校生・性別／悩みを相談できる人はいるか 〉



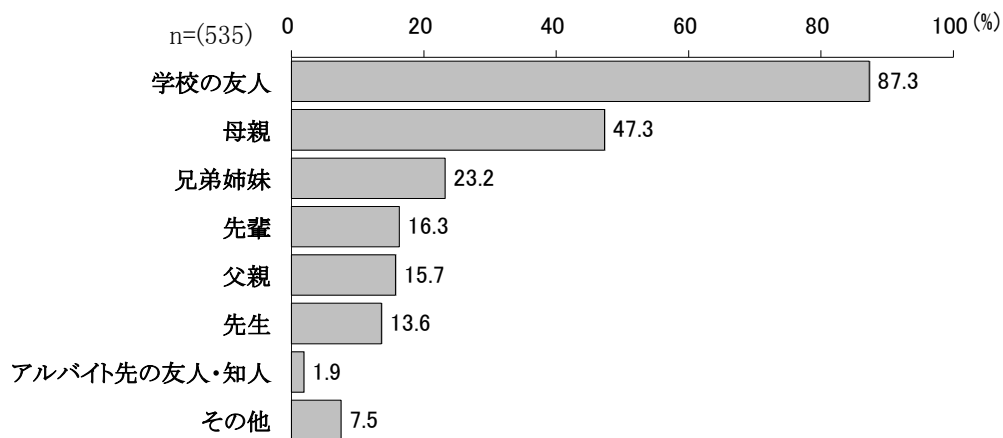
問35で「いる」と回答した方のみ

付問35－1 相談できる人とは誰ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

悩みの相談相手としては、「学校の友人」が87.3%で最も高く、以下「母親」(47.3%)、「兄弟姉妹」(23.2%)、「先輩」(16.3%)の順で続いている。

中・高校生・性別でみると、中学生・男性を除くと、「学校の友人」が8割台半ばを超えている。また、中学生・女性では「母親」が、中学生・男性では「父親」が高くなっている。

〈 中・高校生・性別／相談相手 〉



	学校の友人	母親	父親	兄弟姉妹	先生	先輩	人 アルバイト先の友人・知	その他
全 体 (n=535)	87.3	47.3	15.7	23.2	13.6	16.3	1.9	7.5
男性 中学生 (n=82)	76.8	48.8	30.5	25.6	28.0	19.5	3.7	3.7
高校生 (n=103)	86.4	27.2	13.6	13.6	10.7	13.6	1.0	11.7
女性 中学生 (n=152)	87.5	58.6	9.2	27.6	18.4	15.8	-	5.9
高校生 (n=197)	91.9	48.2	15.2	23.4	5.1	16.2	2.5	8.1

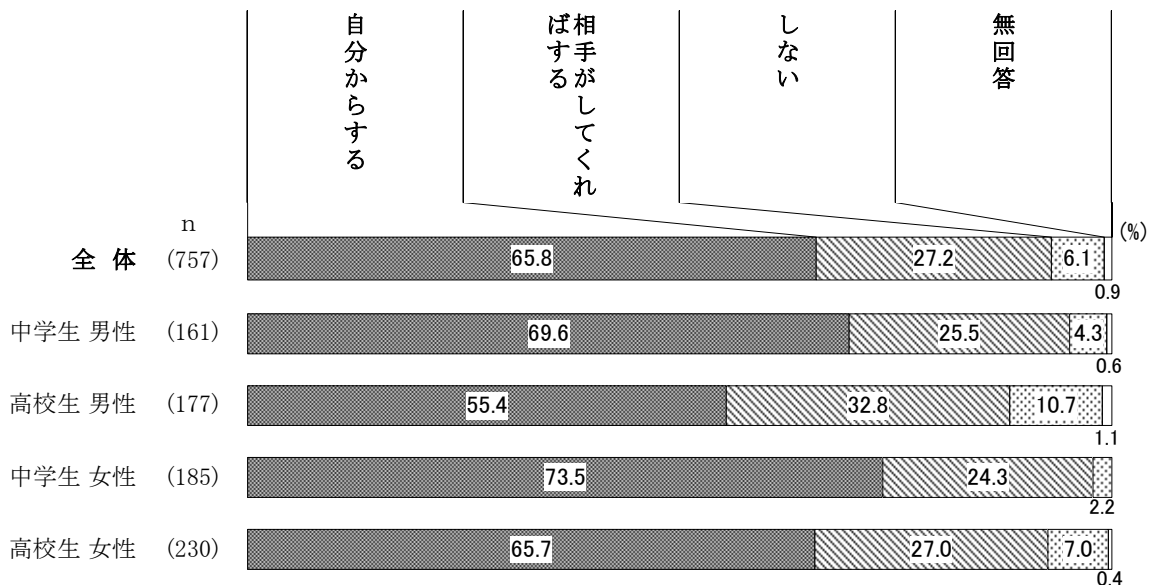
(6) 近所の人へのあいさつ

問36 あなたは、近所の人と会った時にあいさつをしていますか。(○は1つだけ)

近所の人とのあいさつについては、「自分からする」が65.8%で最も高く、次いで「相手がしてくれ
ばする」(27.2%)となっている。一方、「しない」は6.1%となっている。

中・高校生・性別でみると、中学生、高校生とも女性で「自分からする」が男性より高くなっており、
特に中学生・女性では73.5%となっている。

〈 中・高校生・性別／近所の人とのあいさつについて 〉



佐倉市健康増進計画「健康さくら21」市民健康意識調査 報告書

平成24年3月

発行：佐倉市健康こども部健康増進課

佐倉市江原台2-27

佐倉市健康管理センター

TEL 043-485-6711
